



Cisco APIC レイヤ 2 ネットワーク構成ガイド、リリース 4.0(x)

初版：2018 年 10 月 24 日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター
0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>



Trademarks

THE SPECIFICATIONS AND INFORMATION REGARDING THE PRODUCTS REFERENCED IN THIS DOCUMENTATION ARE SUBJECT TO CHANGE WITHOUT NOTICE. EXCEPT AS MAY OTHERWISE BE AGREED BY CISCO IN WRITING, ALL STATEMENTS, INFORMATION, AND RECOMMENDATIONS IN THIS DOCUMENTATION ARE PRESENTED WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED.

The Cisco End User License Agreement and any supplemental license terms govern your use of any Cisco software, including this product documentation, and are located at:

<http://www.cisco.com/go/softwareterms>. Cisco product warranty information is available at

<http://www.cisco.com/go/warranty>. US Federal Communications Commission Notices are found here

<http://www.cisco.com/c/en/us/products/us-fcc-notice.html>.

IN NO EVENT SHALL CISCO OR ITS SUPPLIERS BE LIABLE FOR ANY INDIRECT, SPECIAL, CONSEQUENTIAL, OR INCIDENTAL DAMAGES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, LOST PROFITS OR LOSS OR DAMAGE TO DATA ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THIS MANUAL, EVEN IF CISCO OR ITS SUPPLIERS HAVE BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

Any products and features described herein as in development or available at a future date remain in varying stages of development and will be offered on a when-and-if-available basis. Any such product or feature roadmaps are subject to change at the sole discretion of Cisco and Cisco will have no liability for delay in the delivery or failure to deliver any products or feature roadmap items that may be set forth in this document.

Any Internet Protocol (IP) addresses and phone numbers used in this document are not intended to be actual addresses and phone numbers. Any examples, command display output, network topology diagrams, and other figures included in the document are shown for illustrative purposes only. Any use of actual IP addresses or phone numbers in illustrative content is unintentional and coincidental.

The documentation set for this product strives to use bias-free language. For the purposes of this documentation set, bias-free is defined as language that does not imply discrimination based on age, disability, gender, racial identity, ethnic identity, sexual orientation, socioeconomic status, and intersectionality. Exceptions may be present in the documentation due to language that is hardcoded in the user interfaces of the product software, language used based on RFP documentation, or language that is used by a referenced third-party product.

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: [www.cisco.com go trademarks](http://www.cisco.com/go/trademarks). Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1721R)



目次

はじめに :	Trademarks iii
--------	-----------------------

第 1 章	新機能および変更された機能 1
	新機能および変更された機能に関する情報 1

第 2 章	Cisco ACI 転送 3
	ACI ファブリックは現代のデータ センター トラフィック フローを最適化する 3
	ACI で VXLAN 4
	サブネット間のテナント トラフィックの転送を促進するレイヤ 3 VNID 6
	スパンニング ツリー プロトコル BPDU の送信 8

第 3 章	レイヤ 2 ネットワーク設定の前提条件 11
	レイヤ 2 の前提条件 11

第 4 章	ネットワーク ドメイン 13
	ネットワーク ドメイン 13
	関連資料 14
	ブリッジ ドメイン 14
	ブリッジ ドメインについて 14
	VMM ドメイン 14
	Virtual Machine Manager ドメインの主要コンポーネント 14
	Virtual Machine Manager のドメイン 15
	物理ドメイン設定 16
	物理ドメインの設定 16

第 5 章

ブリッジング 19

- 外部ルータへのブリッジドインターフェイス 19
- ブリッジドメインとサブネット 20
 - ブリッジドメインオプション 23
- GUIを使用したテナント、VRF およびブリッジドメインの作成 27
- NX-OS CLIを使用した、テナント、VRF およびブリッジドメインの作成 29
- 適用されるブリッジドメインの設定 30
 - NX-OS スタイル CLIを使用した適用されるブリッジドメインの設定 31
- カプセル化によるすべてのプロトコルおよびプロキシ ARP のカプセル化のフラッドイングを設定する 32
 - カプセル化範囲限定のフラッドイングの設定 39
 - Cisco APIC GUIを使用したカプセル化範囲限定のフラッドイングの設定 39
 - NX-OS スタイル CLIを使用したカプセル化でのフラッドイングの設定 40

第 6 章

EPG 43

- エンドポイントグループについて 43
 - エンドポイントグループ 43
 - EPG シャットダウンでの ACI ポリシー設定 46
 - アクセスポリシーによる VLAN から EPG への自動割り当て 46
 - ポート単位の VLAN 47
 - vPC に展開された EPG の VLAN ガイドライン 49
- 特定のポートに EPG を導入する 49
 - GUIを使用して特定のノードまたはポートへ EPG を導入する 49
 - NX-OS スタイルの CLI を使用した APIC の特定のポートへの EPG の導入 51
- 特定のポートに EPG を導入するためのドメイン、接続エンティティプロファイル、および VLAN の作成 52
 - 特定のポートに EPG を導入するためのドメイン、接続エンティティプロファイル、および VLAN の作成 52
 - GUIを使用して特定のポートに EPG を展開するためのドメインおよび VLAN の作成 53
 - NX-OS スタイルの CLI を使用した、EPG を特定のポートに導入するための AEP、ドメイン、および VLAN の作成 55

重複する VLAN の検証	56
GUI を使用した重複 VLAN の検証	56
添付されているエンティティプロファイルで複数のインターフェイスに EPG を導入する	57
AEP またはインターフェイス ポリシー グループを使用したアプリケーション EPG の複数のポートへの導入	57
APIC GUI を使用した AEP による複数のインターフェイスへの EPG の導入	57
NX-OS スタイルの CLI を使用したインターフェイス ポリシー グループによる複数のインターフェイスへの EPG の導入	58
EPG 内の分離	60
EPG 内エンドポイント分離	60
ベア メタル サーバの EPG 内分離	60
ベア メタル サーバの EPG 内分離	60
GUI を使用したベア メタル サーバの EPG 内分離の設定	61
NX-OS スタイルの CLI を使用したベア メタル サーバの EPG 内分離の設定	62
VMware vDS の EPG 内分離	64
VMware VDS または Microsoft Hyper-V 仮想スイッチの EPG 分離	64
GUI を使用した VMware VDS または Microsoft Hyper-V の EPG 内分離の設定	68
NX-OS スタイル CLI を使用した VMware VDS または Microsoft Hyper-V の EPG 内分離の設定	68
Cisco ACI 仮想エッジの EPG 内分離の設定	70
Cisco ACI Virtual Edge での EPG 内分離の適用	70
GUI を使用した Cisco ACI Virtual Edge の EPG 内分離の設定	71
[Tenants] タブの下で、Cisco ACI Virtual Edge の分離されたエンドポイントの統計情報を選択する	72
[Tenents] タブの下で Cisco ACI Virtual Edge の分離されたエンドポイントの統計情報を表示する	73
[Virtual Networking] タブの下で、Cisco ACI Virtual Edge の分離されたエンドポイントの統計情報を選択する	73
[Virtual Networking] タブで Cisco ACI Virtual Edge の分離エンドポイント統計情報を表示する	74
NX-OS スタイルの CLI を使用した Cisco ACI Virtual Edge の EPG 内分離の設定	75
トラブルシューティング	75

エンドポイント接続のトラブルシューティング	75
エンドポイント ステータスの検査	76
トンネル インターフェイス ステータスの検査	77
エンドポイント 間での traceroute の実行	78
アトミック カウンタの構成	79
Cisco APIC GUI を使用したテナント SPAN セッションの設定	80
IP bエース EPG 構成の確認	81
GUI を使用した IP ベースの EPG 構成の確認	81
スイッチ コマンドを使用した IP-EPG 構成の確認	82

第 7 章

アクセス インターフェイス 85

アクセス インターフェイスについて	85
物理ポートの構成	88
リリース 5.2(7) 以降の GUI を使用したインターフェイス設定モデルを使用したリーフ スイッチ物理ポートの設定	89
セレクトアおよびプロファイルからのインターフェイスから GUI を使用したインターフェイス構成への移行	91
GUI を使用したインターフェイス構成の変更	92
GUI を使用したインターフェイス構成の表示	93
NX-OS CLI を使用したリーフ ノードおよび FEX デバイス上の物理ポートの設定	93
ポート チャネル	97
PC/vPC ホスト ロード バランシング アルゴリズム	97
GUI を使用した ACI リーフ スイッチのポート チャネルの構成	98
NX-OS CLI を使用したリーフ ノードおよび FEX デバイスのポートチャネルの設定	100
Cisco ACI の仮想ポート チャネル	107
Cisco ACI 仮想ポートチャネルのワークフロー	109
GUI を使用した vPC スイッチ ペアの定義	110
プロファイルとセレクトアを使用したリーフ ノードおよび FEX デバイスでの仮想ポートチャネルの設定	111
結合プロファイルを持ち、2 台のリーフ スイッチ間で同じリーフ スイッチ インターフェイスを持つ vPC	111

個別のプロファイルを持つ 2 台のリーフ スイッチ間で同じリーフ スイッチ インターフェイスを持つ vPC	113
GUI を使用したインターフェイス構成モデルによる ACI リーフ スイッチ仮想ポートチャンネルの構成	115
NX-OS CLI を使用したリーフ ノードおよび FEX デバイスの仮想ポート チャンネルの設定	117
第 1 世代スイッチから第 2 世代スイッチへのノードの移行	122
リフレクティブ リレー (802.1Qbg)	125
GUI を使用したリフレクティブ リレーの有効化	126
NX-OS は、CLI を使用してリフレクティブ リレーの有効化	126
FEX デバイスへのポート、PC、および vPC 接続の設定	128
ACI FEX のガイドライン	128
FEX 仮想ポート チャンネル	129
GUI を使用した ACI リーフ スイッチへの FEX 接続の構成	130
プロファイルと NX-OS スタイル CLI を使用した ACI リーフ スイッチへの FEX 接続の構成	132
ポート プロファイルの設定	133
ポート プロファイルの設定のまとめ	138
GUI を使用したアップリンクからダウンリンクまたはダウンリンクからアップリンクへの変更	145
NX-OS スタイル CLI を使用したポート プロファイルの設定	146
NX-OS スタイル CLI を使用したポート プロファイルの設定と変換の確認	147
インターフェイス構成の編集	147

第 8 章
FCoE 接続 149

Cisco ACI ファブリックでの Fibre Channel over Ethernet トラフィックのサポート	149
Fibre Channel over Ethernet のガイドラインと制限事項	152
Fibre Channel over Ethernet (FCoE) をサポートするハードウェア	152
APIC GUI を使用した FCoE の設定	153
FCoE GUI の設定	153
FCoE ポリシー、プロファイル、およびドメインの設定	153
APIC GUI を使用した FCoE vFC ポートの展開	156

APIC GUI を使用した vFC ポートへの EPG アクセスの展開	164
FCoE Initiation Protocol をサポートする EPG の導入	168
APIC GUI を使用した FCoE 接続のアンデプロイ	171
NX-OS スタイルの CLI を使用した FCoE の設定	173
FCoE NX-OS スタイル CLI 設定	173
NX-OS スタイル CLI を使用したポリシーまたはプロファイルのない FCoE 接続の設定	173
NX-OS スタイル CLI を使用したポリシーまたはプロファイルがある FCoE 接続の設定	177
NX-OS スタイル CLI を使用して FCoE オーバー FEX の設定	181
NX-OS スタイルの CLI を使用した FCoE 設定の検証	182
NX-OS スタイル CLI を使用した FCoE 要素の展開解除	183
vPC による SAN ブート	185
GUI を使用した vPC による SAN ブートの設定	187
CLI を使用した vPC による SAN ブートの設定	190

第 9 章

ファイバチャネル NPV	193
ファイバチャネル接続の概要	193
NPV トラフィック管理	196
自動アップリンク選択	196
トラフィック マップ	197
複数の NP リンクにまたがるサーバログインの破壊的自動ロード バランシング	197
FC NPV トラフィック管理のガイドライン	198
SAN A/B の分離	199
SAN ポート チャネル	199
ファイバチャネル N ポート仮想化のガイドラインと制限事項	200
ファイバチャネル N ポート仮想化でサポートされるハードウェア	202
ファイバチャネル N ポート仮想化の相互運用性	202
ファイバチャネル NPV GUI の設定	203
GUI を使用したネイティブ ファイバチャネル ポート プロファイルの設定	203
GUI を使用したネイティブ FC ポート チャネル プロファイルの設定	205
ファイバチャネル ポートの展開	207

ファイバチャネルポートのトラフィック マップの設定	209
ファイバチャネル NPV NX-OS スタイル CLI の設定	211
CLI を使用したファイバチャネル インターフェイスの設定	211
CLI を使用したファイバチャネル NPV ポリシーの設定	213
CLI を使用した NPV トラフィック マップの設定	214
ファイバチャネル NPV REST API の設定	215
REST API を使用した FC 接続の設定	215

 第 10 章

802.1q トンネリング 221

ACI 802.1q トンネルについて	221
GUI を使用した802.1Q トンネルの設定	224
APIC GUI を使用した 802.1Q トンネル インターフェイスの設定	224
NX-OS スタイルの CLI を使用した 802.1Q トンネルの設定	226
NX-OS スタイル CLI を使用した802.1Q トンネルの設定	226
例 : NX-OS スタイル CLI でポートを使用する 802.1Q トンネルを設定する	228
例 : NX-OS スタイル CLI でポート チャネルを使用する 802.1Q トンネルを設定する	228
例 : NX-OS スタイル CLI で仮想ポート チャネルを使用する 802.1Q トンネルを設定する	229

 第 11 章

Epg の Q-で-Q カプセル化のマッピング 231

Epg の Q-で-Q カプセル化のマッピング	231
GUI を使用した EPG の Q-in-Q カプセル化マッピングの設定	232
GUI を使用して、特定のリーフ スイッチ インターフェイス上で Q-in-Q カプセル化を有効にします	232
GUI を使用したファブリック インターフェイス ポリシーでリーフ インターフェイスの Q-in-Q カプセル化の有効化	234
GUI を使用して EPG から Q-in-Q カプセル化が有効なインターフェイスにマッピングする	235
NX-OS スタイル CLI を使用した Q-in-Q カプセル化リーフ インターフェイスへの EPG のマッピング	236

 第 12 章

ブレイクアウト ポート 239

ブレイクアウト ポートの設定	239
ダウンリンクのダイナミック ブレイクアウト ポートの注意事項と制約事項	240
ファブリック リンクの自動ブレイクアウト ポートの注意事項と制約事項	245
GUI を使用したプロファイルおよびセクタによるブレイクアウト ポートの構成	247
GUI を使用したプロファイルおよびセクタによるブレイクアウト ポートの構成	250
GUI を使用したインターフェイス コンフィギュレーションによるブレイクアウト ポートの設定	253
NX-OS スタイルの CLI を使用したダイナミック ブレイクアウト ポートの設定	254

第 13 章**プロキシ ARP 259**

プロキシ ARP について	259
注意事項と制約事項	266
プロキシ ARP がサポートされている組み合わせ	267
拡張 GUI を使用したプロキシ ARP の設定	267
プロキシ ARP は、Cisco NX-OS スタイル CLI を使用しての設定	268

第 14 章**トラフィック ストーム制御 271**

トラフィック ストーム制御について	271
ストーム制御の注意事項と制約事項	272
GUI を使用したトラフィック ストーム制御ポリシーの設定	275
NX-OS スタイルの CLI を使用したトラフィック ストーム制御ポリシーの設定	277
ストーム制御 SNMP トラップの設定	278
ストーム トラップ	279

第 15 章**MACsec 281**

MACsec について	281
スイッチ プロファイルの注意事項および制約事項	283
GUI を使用したファブリック リンクの MACsec の設定	286
GUI を使用したアクセス リンクの MACsec の設定	287
APIC GUI を使用した MACsec パラメータの設定	287
GUI を使用した MACsec キーチェーン ポリシーの設定	288

NX-OS スタイルの CLI を使用したMACsecの設定 289

第 16 章

ファブリック ポート トラッキング 293

ファブリック ポート トラッキングについて 293

GUI を使用したファブリック ポート トラッキングの設定 294



第 1 章

新機能および変更された機能

この章は、次の内容で構成されています。

- [新機能および変更された機能に関する情報 \(1 ページ\)](#)

新機能および変更された機能に関する情報

次の表に、本リリースに関するこのガイドでの重要な変更点の概要を示します。ただし、今リリースまでのガイドにおける変更点や新機能の一部は表に記載されていません。

表 1: Cisco APIC 6.1 (1) の新機能および変更情報

特長	説明	参照先
該当なし	このドキュメントには、以前のリリースからの変更はありません。	なし



第 2 章

Cisco ACI 転送

この章は、次の内容で構成されています。

- [ACI ファブリックは現代のデータセンタートラフィックフローを最適化する \(3 ページ\)](#)
- [ACI で VXLAN \(4 ページ\)](#)
- [サブネット間のテナントトラフィックの転送を促進するレイヤ 3 VNID \(6 ページ\)](#)
- [スパンニングツリープロトコル BPDU の送信 \(8 ページ\)](#)

ACI ファブリックは現代のデータセンタートラフィックフローを最適化する

Cisco ACI アーキテクチャは、従来のデータセンター設計から来る制限を解放して、最新のデータセンターで増大する East-West トラフィックの需要に対応します。

今日のアプリケーション設計は、データセンターのアクセスレイヤを通る、サーバ間の East-West トラフィックを増大させています。このシフトを促進しているアプリケーションには、Hadoop のようなビッグデータの分散処理の設計、VMware vMotion のようなライブの仮想マシンまたはワークロードの移行、サーバのクラスタリング、および多層アプリケーションなどが含まれます。

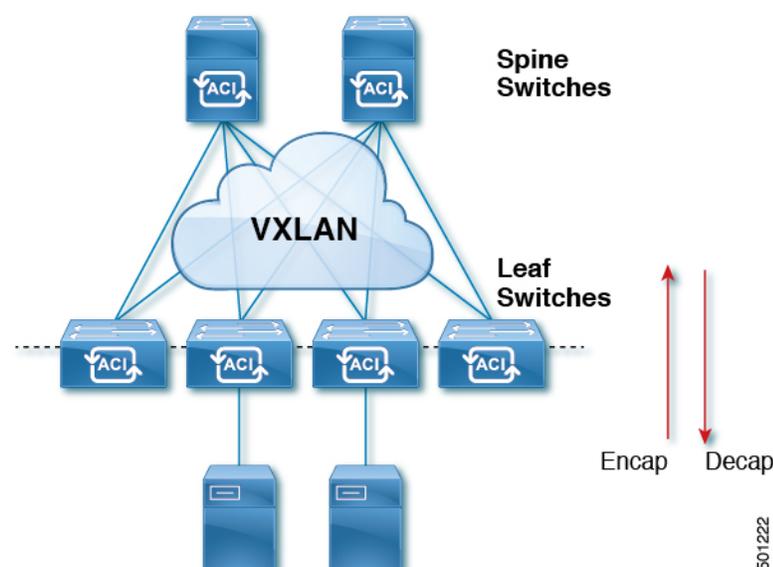
North-South トラフィックは、コア、集約、およびアクセスレイヤ、またはコラプストコアとアクセスレイヤが重要となる、従来型のデータセンター設計を推進します。クライアントデータは WAN またはインターネットで受信され、サーバの処理を受けた後、データセンターを出ます。このような方式のため、WAN またはインターネットの帯域幅の制限により、データセンターのハードウェアは過剰設備になりがちです。ただし、スパンニングツリープロトコルが、ループをブロックするために要求されます。これは、ブロックされたリンクにより利用可能な帯域幅を制限し、トラフィックが準最適なパスを通るように強制する可能性があります。

従来のデータセンター設計においては、IEEE 802.1Q VLAN がレイヤ 2 境界の論理セグメンテーションまたはブロードキャストドメインを提供します。ただし、ネットワークリンクの VLAN の使用は効率的ではありません。データセンターネットワークでデバイスの配置要件は柔軟性に欠け、VLAN の最大値である 4094 の VLAN が制限となり得ます。IT 部門と

クラウドプロバイダが大規模なマルチテナントデータセンターを構築するようになるにつれ、VLAN の制限は問題となりつつあります。

スパインリーフアーキテクチャは、これらの制限に対処します。ACI ファブリックは、外界からは、ブリッジングとルーティングが可能な単一のスイッチに見えます。レイヤ3 のルーティングをアクセスレイヤに移動すると、最新のアプリケーションが必要としている、レイヤ2 の到達可能性が制限されます。仮想マシンワークロードモビリティや一部のクラスタリングのソフトウェアのようなアプリケーションは、送信元と宛先のサーバ間がレイヤ2 で隣接していることを必要とします。アクセスレイヤでルーティングを行えば、トランクダウンされた同じVLANの同じアクセススイッチに接続したサーバだけが、レイヤ2 で隣接します。ACI では、VXLAN が、基盤となるレイヤ3 ネットワークインフラストラクチャからレイヤ2 のドメインを切り離すことにより、このジレンマを解決します。

図 1: ACI ファブリック



トラフィックがファブリックに入ると、ACI がカプセル化してポリシーを適用し、必要に応じてスパインスイッチ (最大 2 ホップ) によってファブリックを通過させ、ファブリックを出るときにカプセル化を解除します。ファブリック内では、ACI はエンドポイント間通信でのすべての転送について、Intermediate System-to-Intermediate System プロトコル (IS-IS) および Council of Oracle Protocol (COOP) を使用します。これにより、すべての ACI リンクがアクティブで、ファブリック内での等コストマルチパス (ECMP) 転送と高速再コンバージョンが可能になります。ファブリック内と、ファブリックの外部のルータ内でのソフトウェア定義ネットワーク間のルーティング情報を伝播するために、ACI はマルチプロトコル Border Gateway Protocol (MP-BGP) を使用します。

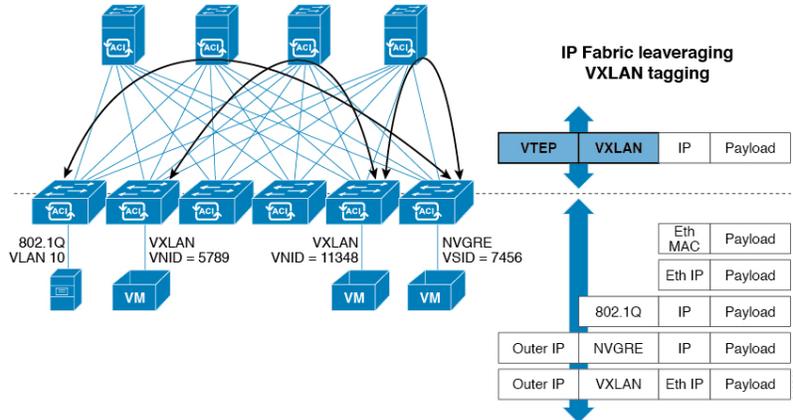
ACI で VXLAN

VXLAN は、レイヤ2 オーバーレイの論理ネットワークを構築するレイヤ3 のインフラストラクチャ上でレイヤ2 のセグメントを拡張する業界標準プロトコルです。ACI インフラストラク

チャレイヤ2 ドメインが隔離ブロードキャストと障害ブリッジ ドメインをオーバーレイ内に存在します。このアプローチは大きすぎる、障害ドメインの作成のリスクなしで大きくなるデータセンター ネットワークを使用できます。

すべてのトラフィック、ACIファブリックはVXLAN パケットとして正規化されます。入力で ACI VXLAN パケットで外部 VLAN、VXLAN、および NVGRE パケットをカプセル化します。次の図は、ACIカプセル化の正規化を示します。

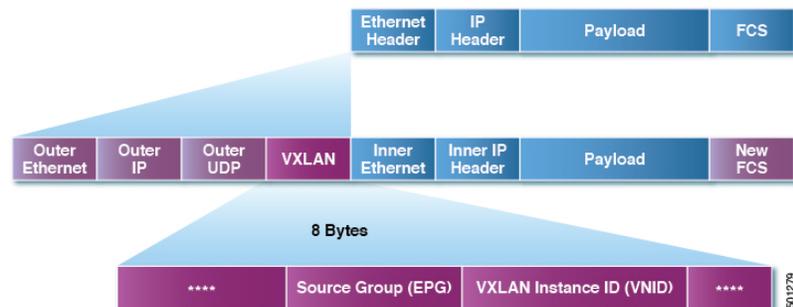
図 2: ACI カプセル化の正規化



ACI ファブリックでの転送は、カプセル化のタイプまたはカプセル化のオーバーレイ ネットワークによって制限または制約されません。ACI ブリッジ ドメインのフォワーディング ポリシーは、必要な場合に標準の VLAN 動作を提供するために定義できます。

ファブリック内のすべてのパケットに ACI ポリシー属性が含まれているため、ACI は完全に分散された方法でポリシーを一貫して適用できます。ACI により、アプリケーションポリシーの EPG ID が転送から分離されます。次の図に示すように、ACI VXLAN ヘッダーは、ファブリック内のアプリケーション ポリシーを特定します。

図 3: ACI VXLAN のパケット形式



ACI VXLAN パケットには、レイヤ 2 の MAC アドレスとレイヤ 3 IP アドレスの送信元と宛先フィールド、ファブリック内の効率的な拡張性の転送を有効にします。ACI VXLAN パケットヘッダーの送信元グループフィールドは、パケットが属するアプリケーション ポリシー エンドポイントグループ (EPG) を特定します。VXLAN インスタンス ID (VNID) は、テナントの仮想ルーティングおよび転送 (VRF) ドメインファブリック内で、パケットの転送を有効にし

まず、VXLAN ヘッダーで 24 ビット VNID フィールドでは、同じネットワークで一意識レイヤ2のセグメントを最大 16 個の拡張アドレス空間を提供します。この拡張アドレス空間は、大規模なマルチテナントデータセンターを構築する柔軟性 IT 部門とクラウドプロバイダーを提供します。

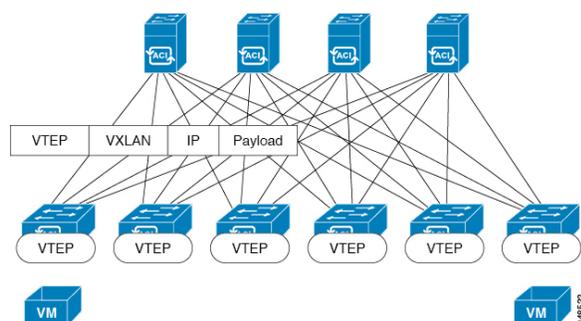
VXLAN を有効に ACI ファブリック全体にわたってスケールでの仮想ネットワーク インフラストラクチャのレイヤ3のアンダーレイ レイヤ2を展開します。アプリケーションエンドポイント ホスト柔軟に配置できます、アンダーレイ インフラストラクチャのレイヤ3 バウンダリ のリスクなしでデータセンターネットワーク間をオーバーレイ ネットワーク、VXLAN でレイヤ2の隣接関係を維持します。

サブネット間のテナントトラフィックの転送を促進するレイヤ3 VNID

ACI ファブリックは、ACI ファブリック VXLAN ネットワーク間のルーティングを実行するテナントのデフォルトゲートウェイ機能を備えています。各テナントに対して、ファブリックはテナントに割り当てられたすべてのリーフ スイッチにまたがる仮想デフォルトゲートウェイを提供します。これは、エンドポイントに接続された最初のリーフ スイッチの入力インターフェイスで提供されます。各入力インターフェイスはデフォルトゲートウェイ インターフェイスをサポートします。ファブリック全体のすべての入力インターフェイスは、特定のテナントサブネットに対して同一のルータの IP アドレスと MAC アドレスを共有します。

ACI ファブリックは、エンドポイントのロケータまたは VXLAN トンネルエンドポイント (VTEP) アドレスで定義された場所から、テナントエンドポイントアドレスとその識別子を切り離します。ファブリック内の転送はVTEP間で行われます。次の図は、ACIで切り離されたIDと場所を示します。

図 4: ACIによって切り離された ID と場所



VXLAN は VTEP デバイスを使用してテナントのエンドデバイスを VXLAN セグメントにマッピングし、VXLAN のカプセル化およびカプセル化解除を実行します。各 VTEP 機能には、次の 2 つのインターフェイスがあります。

- ブリッジングを介したローカルエンドポイント通信をサポートするローカル LAN セグメントのスイッチ インターフェイス
- 転送 IP ネットワークへの IP インターフェイス

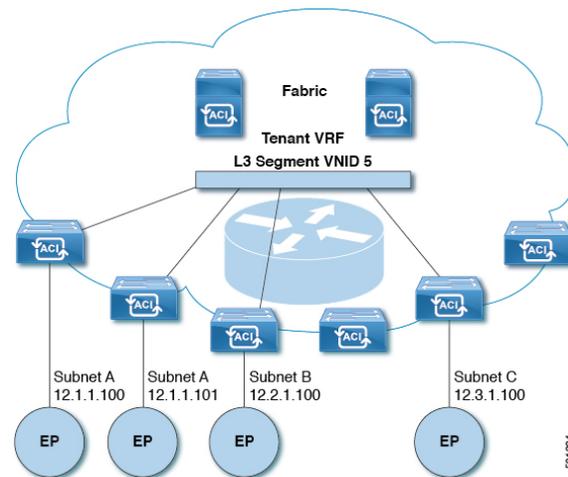
IP インターフェイスには一意の IP アドレスがあります。これは、インフラストラクチャ VLAN として知られる、転送 IP ネットワーク上の VTEP を識別します。VTEP デバイスはこの IP アドレスを使用してイーサネット フレームをカプセル化し、カプセル化されたパケットを、IP インターフェイスを介して転送ネットワークへ送信します。また、VTEP デバイスはリモート VTEP で VXLAN セグメントを検出し、IP インターフェイスを介してリモートの MAC Address-to-VTEP マッピングについて学習します。

ACI の VTEP は分散マッピング データベースを使用して、内部テナントの MAC アドレスまたは IP アドレスを特定の場所にマッピングします。VTEP はルックアップの完了後に、宛先リーフ スイッチ上の VTEP を宛先アドレスとして、VXLAN 内でカプセル化された元のデータ パケットを送信します。宛先リーフ スイッチはパケットをカプセル化解除して受信ホストに送信します。このモデルにより、ACI はスパニングツリー プロトコルを使用することなく、フルメッシュでシングル ホップのループフリー トポロジを使用してループを回避します。

VXLAN セグメントは基盤となるネットワーク トポロジに依存しません。逆に、VTEP 間の基盤となる IP ネットワークは、VXLAN オーバーレイに依存しません。これは送信元 IP アドレスとして開始 VTEP を持ち、宛先 IP アドレスとして終端 VTEP を持っており、外部 IP アドレス ヘッダーに基づいてパケットをカプセル化します。

次の図は、テナント内のルーティングがどのように行われるかを示します。

図 5: ACI のサブネット間のテナントトラフィックを転送するレイヤ3 VNID



ACI はファブリックの各テナント VRF に単一の L3 VNID を割り当てます。ACI は、L3 VNID に従ってファブリック全体にトラフィックを転送します。出力リーフ スイッチでは、ACI によって L3 VNID からのパケットが出力サブネットの VNID にルーティングされます。

ACI のファブリック デフォルト ゲートウェイに送信されてファブリック入力に到達したトラフィックは、レイヤ3 VNID にルーティングされます。これにより、テナント内でルーティングされるトラフィックはファブリックで非常に効率的に転送されます。このモデルを使用すると、たとえば同じ物理ホスト上の同じテナントに属し、サブネットが異なる 2 つの VM 間では、トラフィックが (最小パス コストを使用して) 正しい宛先にルーティングされる際に経由する必要があるは入力スイッチ インターフェイスのみです。

ACI ルート リフレクタは、ファブリック内での外部ルートの配布にマルチプロトコル BGP (MP-BGP) を使用します。ファブリック管理者は自律システム (AS) 番号を提供し、ルート リフレクタにするスパイン スイッチを指定します。



- (注) Cisco ACI は IP フラグメンテーションをサポートしていません。したがって、外部ルータへのレイヤ 3 Outside (L3Out) 接続、または Inter-Pod Network (IPN) を介したマルチポッド接続を設定する場合は、インターフェイス MTU がリンクの両端で適切に設定することを推奨します。Cisco ACI、Cisco NX-OS、および Cisco IOS などの一部のプラットフォームでは、設定可能な MTU 値はイーサネット ヘッダー (一致する IP MTU、14-18 イーサネット ヘッダー サイズを除く) を考慮していません。また、IOS XR などの他のプラットフォームには、設定された MTU 値にイーサネット ヘッダーが含まれています。設定された値が 9000 の場合、Cisco ACI、Cisco NX-OS および Cisco IOS の最大 IP パケット サイズは 9000 バイトになりますが、IOS-XR のタグなしインターフェイスの最大 IP パケット サイズは 8986 バイトになります。
- 各プラットフォームの適切な MTU 値については、それぞれの設定ガイドを参照してください。
- CLI ベースのコマンドを使用して MTU をテストすることを強く推奨します。たとえば、Cisco NX-OS CLI で、コマンド、`ping 1.1.1.1 df-bit packet-size 9000 source-interface ethernet 1/1` を使用してください。

スパニング ツリー プロトコル BPDU の送信

スパニング ツリー プロトコル (STP) を実行している 2 つ以上のスイッチが EPG の Cisco Application Centric Infrastructure (ACI) に接続されており、スタティックポートが次のように割り当てられている場合：

- EPG で静的に割り当てられたすべてのポートは、タグなしでアクセスされます。STP ブリッジ プロトコル データ ユニット (BPDU) はタグなしで送受信されます。
- スタティックに割り当てられたトランクポートとスタティックに割り当てられたアクセス タグなしポートが混在している場合：トランク ポートで受信された STP BPDU は、dot1q タグ付きのアクセス タグなしポートに送信されます。したがって、アクセス ポートは不整合状態になります。
- EPG で静的に割り当てられたトランク ポートと静的に割り当てられたアクセス ポートの組み合わせの場合、Cisco ACI は dot1q タグを使用して STP BPDU を送信し、アクセスポートは 802.1p アクセスを使用します。

この場合、タグ付き STP パケットを受信して処理するには、レイヤ 2 スイッチで 802.1p アクセスを使用する必要があります。

802.1p がレイヤ 2 スイッチで許可されていない場合は、トランク ポート アクセスを使用します。

- Cisco ACI は全二重ハブとして機能し、BPDU が受信されたカプセル化 VLAN に関連付けられた VxLAN VNID 内でスパニング ツリー BPDU をフラッドします。Cisco ACI

は全二重メディアであるため、高速スパンニングツリープロトコル (RSTP) または高速 VLAN 単位スパンニングツリー (RPVST) のバージョンを実行する外部スイッチは、デフォルトでポイントツーポイントリンクタイプになります。その結果、STP を実行し、同じカプセル化 VLAN および EPG VNID に接続する 2 つ以上の外部スイッチがある場合、コンバージェンスと不安定性の問題を回避するために、外部スイッチインターフェイスでリンクタイプを「共有」に設定する必要があります。これらの問題は、スイッチがこのカプセル化に接続されているすべてのブリッジ (または STP 対応スイッチ) から BPDU を受信するために発生する可能性があります。

スパンニングツリー BPDU は、EPG パスで定義された特定の VLAN ID 内でフラッディングされます。この VLAN は、リーフスイッチでは `FD_VLAN` と呼ばれます。リーフスイッチ間で `FD_VLAN` 内のトラフィックを転送するために、Cisco ACI は、`fabric_encap` と呼ばれる VXLAN VNID を割り当てます。`fabric_encap` は、VLAN プールに属する数値ベース識別子を取得し、VLAN プールから割り当てられた VLAN ID のインデックス値を追加することによって取得されます。たとえば、VXLAN VNID 9000 は、VLAN 範囲 10 ~ 20 を含む VLAN プール A に割り当てられます。VLAN プール A の VLAN 10 には VNID 9000 が割り当てられ、VLAN 11 には VNID 9001 が割り当てられます。

このため、2 つの異なる EPG が同じ VLAN ID を使用しており、同じ VLAN プールからその VLAN ID を割り当てている場合は、異なるファブリックスイッチ上の 2 つの EPG に対して同じ `fabric_encap` VNID を導出できます。これにより、2 つの EPG 間でスパンニングツリー BPDU が意図せずフラッディングされる可能性があります。

この動作を回避するには、物理ドメインなどの個別の VLAN プールを持つ異なるドメインを各 EPG に割り当て、特定の VLAN ID を個別の VLAN プールから割り当てます。これにより、ベース ID が異なるようになるので、`fabric_encap` VNID の重複が防止されます。

`fabric_encap` の値は、次のコマンドを使用して確認できます。また、特定の 802.1q VLAN ID のリーフスイッチの出力の「Fabric_enc」列でも確認できます。

```
vsh_lc -c "show system internal eltmc info vlan br"
```




第 3 章

レイヤ 2 ネットワーク設定の前提条件

- [レイヤ 2 の前提条件 \(11 ページ\)](#)

レイヤ 2 の前提条件

このガイドで説明するタスクを実行する前に、以下の事柄を完了しておいてください。

- ACI ファブリックをインストールして、APIC コントローラがオンラインになっており、APIC クラスタが形成されていて健全な状態であることを確認します。詳細については、『*Cisco APIC Getting Started Guide, Release 2.x*』を参照してください。
- レイヤ 2 ネットワークを設定する管理者のために、ファブリックの管理者アカウントを作成します。詳細については、『*Cisco APIC Basic Configuration Guide*』の「*User Access, Authentication, and Accounting*」および「*Management*」の章を参照してください。
- ACI ファブリックにターゲット リーフ スイッチをインストールし、登録します。詳細については、『*Cisco APIC Getting Started Guide, Release 2.x*』を参照してください。
仮想スイッチのインストールと登録の詳細については、『*Cisco ACI Virtualization Guide*』を参照してください。
- レイヤ 2 ネットワークを利用するテナント、VRF、および EPG を (アプリケーションプロファイルやコントラクトとともに) 設定します。詳細については、『*Cisco APIC Basic Configuration Guide*』の「*Basic User Tenant Configuration*」の章を参照してください。



注意 ファブリックのリーフスイッチとスパインスイッチの間に 1 ギガビットイーサネット (GE) または 10GE リンクを設置すると、帯域幅が不十分なために、パケットが転送されずにドロップされる可能性があります。これを避けるためには、リーフスイッチとスパインスイッチの間で 40GE または 100GE リンクを使用してください。



第 4 章

ネットワーク ドメイン

この章は、次の内容で構成されています。

- [ネットワーク ドメイン \(13 ページ\)](#)
- [ブリッジ ドメイン \(14 ページ\)](#)
- [VMM ドメイン \(14 ページ\)](#)
- [物理ドメイン設定 \(16 ページ\)](#)

ネットワーク ドメイン

ファブリック管理者は、ポート、プロトコル、VLAN プール、およびカプセル化を設定するドメインポリシーを作成します。これらのポリシーは、単一テナント専用にすることも、共有することもできます。ファブリック管理者が ACI ファブリック内にドメインを設定すると、テナント管理者はテナントエンドポイントグループ (EPG) をドメインに関連付けることができます。

以下のネットワーク ドメイン プロファイルを設定できます。

- VMM ドメイン プロファイル (vmmDomP) は、仮想マシンのハイパーバイザ統合のために必要です。
- 物理ドメイン プロファイル (physDomP) は、ベア メタル サーバ接続と管理アクセスに使用します。
- ブリッジド外部ネットワーク ドメイン プロファイル (l2extDomP) は通常、ACI ファブリックのリーフ スイッチにブリッジド外部ネットワーク トランク スイッチを接続するために使用されます。
- ルーテッド外部ネットワーク ドメイン プロファイル (l3extDomP) は、ACI ファブリックのリーフ スイッチにルータを接続するために使用されます。
- ファイバチャネルドメイン プロファイル (fcDomP) は、ファイバチャネルの VLAN と VSAN を接続するために使用されます。

ドメインは VLAN プールに関連付けられるように設定されます。その後、EPG は、ドメインに関連付けられている VLAN を使用するよう設定されます。



- (注) EPG ポートと VLAN の設定は、EPG が関連付けられているドメインインフラストラクチャ設定で指定されている設定に一致する必要があります。一致しない場合、APIC でエラーが発生します。そのようなエラーが発生した場合は、ドメインインフラストラクチャ設定が EPG ポートと VLAN の設定に一致していることを確認してください。

関連資料

レイヤ3のネットワークキングの詳細については、『*Cisco APIC Layer 3 Networking Configuration Guide*』を参照してください。

VMM ドメインの設定の詳細については、『*Cisco ACI Virtualization Guide*』の「*Cisco ACI Virtual Machine Networking*」を参照してください。

ブリッジドメイン

ブリッジドメインについて

ブリッジドメイン (BD) はファブリック内のレイヤ2フォワーディングの構造を表します。1つ以上のエンドポイントグループ (EPG) を1つのブリッジドメインまたはサブネットと関連付けることができます。ブリッジドメインには1つまたは複数のサブネットを関連付けることができます。1つまたは複数のブリッジドメインの組み合わせによってテナントネットワークを形成します。2つの EPG の間でのサービス機能を挿入するときには、それらの EPG は個別 BD の中になければなりません。2つの EPG の間でのサービス機能を使用するには、これらの EPG は分離している必要があります。このことは、レイヤ2およびレイヤ3に基づく、レガシー サービス 挿入に従います。

VMM ドメイン

Virtual Machine Manager ドメインの主要コンポーネント

ACI ファブリック Virtual Machine Manager (VMM) ドメインにより、管理者は仮想マシン コントローラの接続ポリシーを設定できます。ACI VMM ドメインポリシーの基本的なコンポーネントは次のとおりです。

- **Virtual Machine Manager ドメイン プロファイル**：同様のネットワークキングポリシー要件を持つ VM コントローラをグループ化します。たとえば、VM コントローラは VLAN プールとアプリケーションエンドポイントグループ (EPG) を共有できます。APIC はコントローラと通信し、のちに仮想ワークロードに適用されるポートグループなどのネットワーク

ク設定を公開します。VMM ドメインプロファイルには、次の基本コンポーネントが含まれます。

- **クレデンシャル**：有効な VM コントローラ ユーザクレデンシャルを APIC VMM ドメインと関連付けます。
- **コントローラ**：ポリシーの適用ドメインの一部である VM コントローラへの接続方法を指定します。たとえば、コントローラは VMM ドメインの一部である VMware vCenter への接続を指定します。



(注) 1つのドメインに VM コントローラの複数のインスタンスを含めることができますが、それらは同じベンダーのものである必要があります (VMware または Microsoft など)。

- **EPG の関連付け**：エンドポイント グループにより、エンドポイント間の接続と可視性が VMM ドメインポリシーの範囲内に規制されます。VMM ドメイン EPG は次のように動作します。
 - APIC は、これらの EPG をポート グループとして VM コントローラにプッシュします。
 - 1つの EPG は、複数の VMM ドメインをカバーでき、1つの VMM ドメインには複数の EPG を含めることができます。
- **接続可能エンティティプロファイルの関連付け**：VMM ドメインを物理ネットワークインフラストラクチャと関連付けます。接続可能エンティティプロファイル (AEP) は、多数のリーフスイッチポートで VM コントローラ ポリシーを展開するための、ネットワークインターフェイステンプレートです。AEP は、使用できるスイッチやポートおよびその設定方法を指定します。
- **VLAN プールの関連付け**：VLAN プールは、VMM ドメインが消費する VLAN カプセル化に使用する VLAN ID または範囲を指定します。

Virtual Machine Manager のドメイン

APIC VMM ドメインプロファイルは、VMM ドメインを定義するポリシーです。VMM ドメインポリシーは APIC で作成され、リーフスイッチにプッシュされます。

VMM ドメインは以下を提供します。

- 複数の VM コントローラ プラットフォームに対してスケーラブルな耐障害性サポートを可能にする、ACI ファブリックの共通レイヤ
- ACI ファブリック内の複数のテナントに対する VMM サポート

VMM ドメインには、VMware vCenter や Microsoft SCVMM Manager などの VM コントローラと、VM コントローラと対話するための ACI API に必要なクレデンシャルが含まれます。VMM ドメインはドメイン内の VM モビリティを実現できますが、ドメイン間では実現できません。単一の VMM ドメイン コントローラに VM コントローラの複数のインスタンスを含めることはできますが、同じタイプである必要があります。たとえば、1 つの VMM ドメインに、それぞれが複数の VM を実行する複数のコントローラを管理する多くの VMware vCenter を含めることができますが、SCVMM Manager も含めることはできません。VMM ドメインはコントローラ要素 (pNIC、vNIC、VM 名など) をインベントリに含め、コントローラにポリシーをプッシュして、ポートグループなどの必要な要素を作成します。ACI VMM ドメインは VM モビリティなどのコントローラ イベントを監視し、状況に応じて応答します。

物理ドメイン設定

物理ドメインの設定

物理ドメインは、特定の VLAN ネームスペースが使用される範囲を制御します。物理ドメインと関連付けられた VLAN のネームスペースは、仮想サーバからのポートグループのスタティック マッピングに使用できますが、非仮想サーバを対象としています。物理デバイスタイプの物理ドメインを設定できます。

始める前に

- テナントを設定します。

手順

- ステップ 1** メニューバーで [Fabric] をクリックします。
- ステップ 2** サブメニューバーで [External Access Policies] をクリックします。
- ステップ 3** [Navigation] ウィンドウで、[Physical and External Domains] を展開し、[Physical Domains] をクリックします。
- ステップ 4** [Actions] ドロップダウンリストで [Create Physical Domain] を選択します。[Create Physical Domain] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 5** 次のフィールドに入力します。

名前	説明
名前 (Name)	物理ドメイン プロファイルの名前。
Associate Attachable Entity Profiles	このドメインに関連付けられる、アタッチ可能なエンティティ プロファイルを選択します。
VLAN Pool	物理ドメインが使用する VLAN プール。VLAN プールは、APIC によってこの物理ドメインを使用しているサービスグループテンプレ

名前	説明
	レートに対して割り当てられる VLAN のプールの範囲を指定します。[Dynamic] または [Static] の割り当てをクリックします。

ステップ 6 (任意) AAA のセキュリティドメインを追加し、[Select] チェックボックスをオンにします。

ステップ 7 [Submit] をクリックします。



第 5 章

ブリッジング

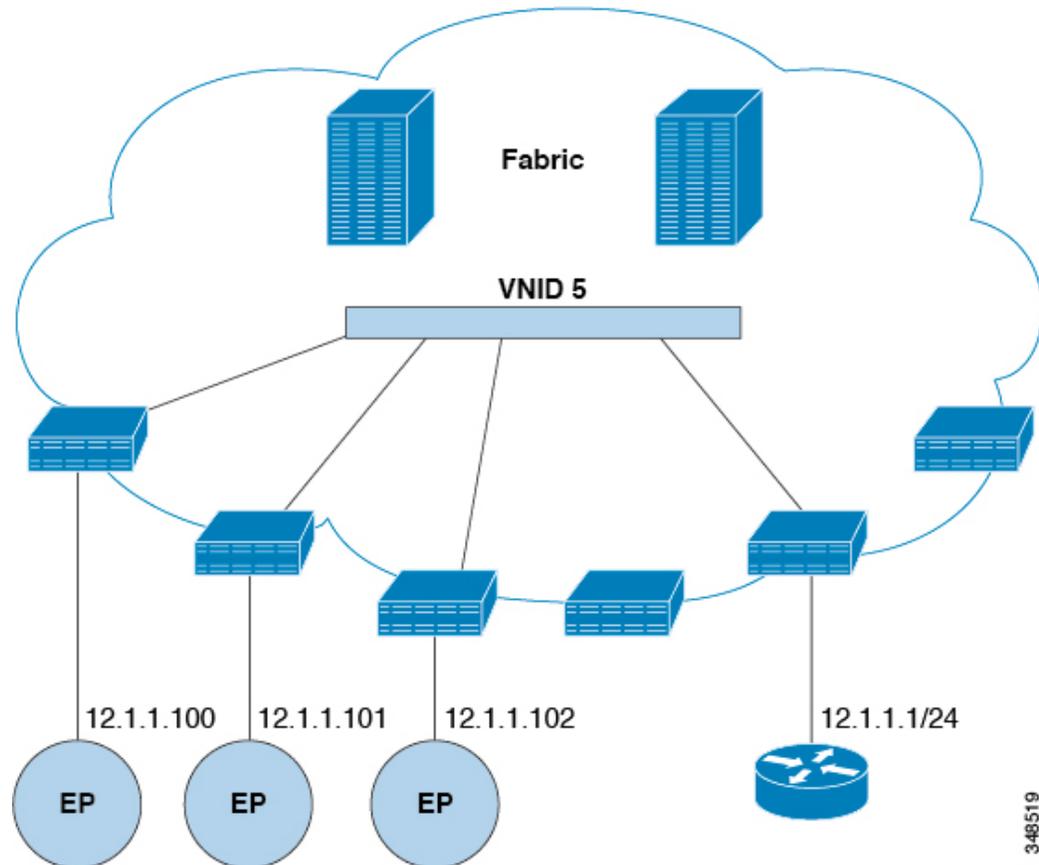
この章は、次の内容で構成されています。

- [外部ルータへのブリッジドインターフェイス \(19 ページ\)](#)
- [ブリッジドメインとサブネット \(20 ページ\)](#)
- [GUI を使用したテナント、VRF およびブリッジドメインの作成 \(27 ページ\)](#)
- [NX-OS CLI を使用した、テナント、VRF およびブリッジドメインの作成 \(29 ページ\)](#)
- [適用されるブリッジドメインの設定 \(30 ページ\)](#)
- [カプセル化によるすべてのプロトコルおよびプロキシ ARP のカプセル化のフラグメンテーションを設定する \(32 ページ\)](#)

外部ルータへのブリッジドインターフェイス

次の図に示すように、リーフスイッチのインターフェイスがブリッジドインターフェイスとして設定されている場合、テナント VNID のデフォルトゲートウェイが外部ルータとなります。

図 6: ブリッジド外部ルータ

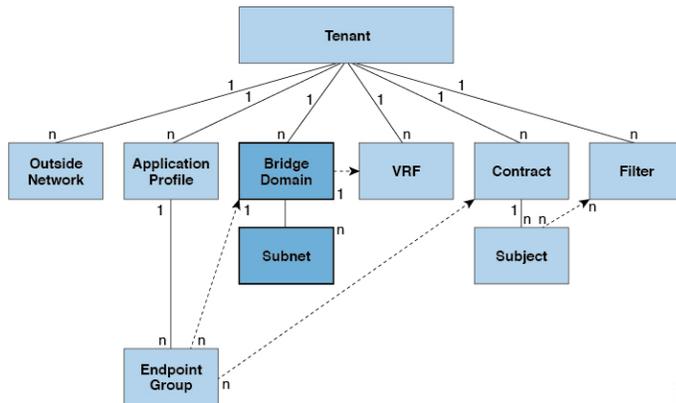


ACI ファブリックは、外部ルータの存在を認識せず、APIC はリーフ スイッチのインターフェイスを EPG に静的に割り当てます。

ブリッジドメインとサブネット

ブリッジドメイン (fvBD) は、ファブリック内のレイヤ 2 フォワーディングの構造を表します。次の図は、管理情報ツリー (MIT) 内のブリッジドメイン (BD) の場所とテナントの他のオブジェクトとの関係を示します。

図 7:ブリッジドメイン



BDは、VRF(コンテキストまたはプライベートネットワークとも呼ばれる)にリンクする必要があります。レイヤ2 VLANを除いて、少なくとも1つのサブネット (`fvSubnet`) が関連付けられている必要があります。BDは、このようなフラグディングが有効の場合に、一意のレイヤ2 MACアドレス空間およびレイヤ2フラッドドメインを定義します。VRFが一意のIPアドレス空間を定義する一方で、そのアドレス空間は複数のサブネットで構成できます。これらのサブネットは、対応するVRFを参照する1つ以上のブリッジドメインで定義されます。

BD下またはEPG下のサブネットのオプションは次のとおりです:

- **Public** : サブネットをルーテッド接続にエクスポートできます。
- **Private** : サブネットはテナント内のみ適用されます。
- **Shared** : 共有サービスの一部として、同じテナントまたは他のテナントにわたる複数のVRFに対してサブネットの共有やエクスポートを行うことができます。共有サービスの例としては、異なるテナントの別のVRFに存在するEPGへのルーテッド接続などがあります。これにより、トラフィックがVRF間で双方向に移動することが可能になります。共有サービスを提供するEPGのサブネットは(BD下ではなく)そのEPG下で設定する必要があります、そのスコープは外部的にアドバタイズされ、VRF間共有されるように設定する必要があります。



(注) 共有サブネットは、通信に含まれるVRF全体で一意でなければなりません。EPG下のサブネットがレイヤ3外部ネットワーク共有サービスを提供する場合、このようなサブネットは、ACIファブリック内全体でグローバルに一意である必要があります。

BDパケットの動作は次の方法で制御できます:

パケットタイプ	モード
ARP	<p>ARPフラッディングは有効または無効にできます。フラッディングを行わない場合、ARPパケットはユニキャストで送信されます。</p> <p>(注) <code>limitIpLearnToSubnets</code> を <code>fvBD</code> で設定すると、BD の設定済みサブネット内または共有サービスプロバイダーである EPG サブネット内に IP アドレスが存在する場合のみ、エンドポイントの学習が BD に限定されます。</p>
未知のユニキャスト	<p>L2 Unknown Unicast は、Flood または Hardware Proxy になり得ます。</p> <p>(注) BD が L2 Unknown Unicast を持っており、それが Flood に設定されている場合、エンドポイントが削除されると、システムはそれを両方のローカルリーフスイッチから削除します。そして、Clear Remote MAC Entries を選択すると、BD が展開されているリモートのリーフスイッチからも削除されます。この機能を使用しない場合、リモートリーフは、タイマーが時間切れになるまで、学習したこのエンドポイントの情報を保持します。</p> <p>L2 Unknown Unicast の設定を変更すると、このブリッジドメインに関連付けられた EPG にアタッチされているデバイスのインターフェイス上で、トラフィックがバウンスします(アップダウンします)。</p>

パケットタイプ	モード
未知の IP マルチキャスト	<p>L3 の不明なマルチキャスト フラッディング</p> <p>Flood — パケットは入力および境界リーフ スイッチノードでのみフラッディングされます。N9K-93180YC-EX では、パケットは、ブリッジドメインが導入されているすべてのノードでフラッディングされます。</p> <p>Optimized — 1 リーフあたり 50 のブリッジドメインのみサポートされます。この制限は N9K-93180YC-EX には該当しません。</p>
L2 マルチキャスト、ブロードキャスト、ユニキャスト	<p>マルチ宛先フラッディング、次のいずれかになり得ます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Flood in BD — ブリッジドメインにフラッドします。 • Flood in Encapsulation — カプセル化でフラッドします。 • Drop — パケットをドロップします。



- (注) Cisco APIC リリース 3.1(1) 以降では、Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチで (EX と FX で終わる名前を持つものとそれ以降)、次のプロトコルのカプセル化のフラッディングまたはブリッジドメインにフラッディングが可能です。OSPF/OSPFv3、BGP、EIGRP、CDP、LACP、LLDP、ISIS、IGMP、PIM、ST-BPDU、ARP/GARP、RARP、ND。

ブリッジドメインは複数のスイッチにまたがることができます。ブリッジドメインには複数のサブネットを含めることができますが、サブネットは単一のブリッジドメイン内に含まれません。ブリッジドメイン (fvBD) の `limitIPLearnToSubnets` プロパティが `yes` に設定されていると、ブリッジドメインの設定済みサブネットのいずれかの中に IP アドレスがあるとき、または EPG が共有サービス プロバイダーである場合には EPG サブネット内に IP アドレスがあるときのみ、ブリッジドメイン内でエンドポイントの学習が行われます。サブネットは複数の EPG にまたがることができ、1 つ以上の EPG を 1 つのブリッジドメインまたはサブネットに関連付けることができます。ハードウェアのプロキシモードでは、異なるブリッジドメインのエンドポイントがレイヤ3のルックアップ動作の一部として学習されると、そのエンドポイントに ARP トラフィックが転送されます。

ブリッジドメインオプション

ブリッジドメインは、不明なユニキャスト フレームのフラッドモードで、またはこれらのフレームのフラッディングを排除する最適化されたモードで動作するように設定できます。フ

ラッディングモードで使用する場合、レイヤ2の不明なユニキャストトラフィックはブリッジドメイン（GIP）のマルチキャストツリーでフラッディングされます。最適化されたモードでブリッジドメインを動作するようにするには、ハードウェアプロキシに設定する必要があります。この状況では、レイヤ2の不明なユニキャストフレームはスパインプロキシエニーキャストVTEPアドレスに送信されます。



注意 不明なユニキャストフラッディングモードからhwプロキシモードに変更すると、ブリッジドメイン内のトラフィックが停止します。

ブリッジドメインでIPルーティングが有効になっている場合、マッピングデータベースは、MACアドレスだけでなく、エンドポイントのIPアドレスを学習します。

レイヤ3の設定 ブリッジドメイン(0)パネルのタブには次のパラメータを設定するには、管理者が使用できます。

- **ユニキャストルーティング**：この設定が有効になっているサブネットアドレスが設定されている場合は、ファブリックはデフォルトゲートウェイの機能を提供して、トラフィックをルーティングします。ユニキャストルーティングを有効にすると、マッピングデータベースがこのブリッジドメインのエンドポイントに付与されたIPアドレスとVTEPの対応関係を学習します。IP学習は、ブリッジドメイン内にサブネットが構成されているかどうかにかかわらず行われます。
- **サブネットアドレス**：このオプションは、ブリッジドメインのSVI IPアドレス（デフォルトゲートウェイ）を設定します。
- **制限のサブネットIPラーニング**：このオプションは、ユニキャストリバーブ転送パスチェックに似ています。このオプションを選択すると、ファブリックはブリッジドメインに設定されている1以外のサブネットからIPアドレスを学習されません。



注意 有効化サブネットに制限IPラーニングがブリッジドメイン内のトラフィックを停止します。

拡張L2専用モード：レガシーモード

Cisco ACIでは、VLANが異なるリーフノードに展開されている限り、任意の目的で同じVLAN IDを再利用できます。これにより、Cisco ACIファブリックは、ファブリックとしてのVLANの理論上の最大数、4094を超えることができます。ただし、これを実現するため、および基盤となるVxLAN実装の複雑さを隠すために、個々のリーフノードに含めることのできるVLANの数は少なくなります。このことは、リーフノードあたりのVLANの密度が必要な場合に問題の原因となる可能性があります。このようなシナリオでは、ブリッジドメインで以前はレガシーモードと呼ばれていた、拡張L2専用モードを有効にできます。拡張L2専用モードのブリッジドメインでは、リーフノードごとに多数のVLANを使用できます。ただし、このようなブリッジドメインにはいくつかの制限があります。

拡張 L2 専用モードとそれ以外のモードで、リーフ ノードごとにサポートされる VLAN またはブリッジドメインの数については、ご使用のリリースの [Verified Scalability Guide](#) を参照してください。

拡張 L2 専用モードの制限事項

レガシー モードまたは拡張 L2 専用モードの制限は次のとおりです。

- ブリッジドメインには、1 つの EPG と 1 つの VLAN のみを含めることができます。
- ユニキャスト ルーティングはサポートされていません。
- コントラクトはサポートされていません。
- VMM 統合のダイナミック VLAN 割り当てはサポートされていません。
- サービス グラフはサポートされていません。
- QoS ポリシーはサポートされていません。
- ブリッジドメインは、スタンドアロン Cisco NX-OS では基本的に VLAN として動作しません。

拡張 L2 専用モードの設定

次に、拡張 L2 専用モードでブリッジドメインを設定する際の考慮事項を示します。

- VLAN ID はブリッジドメインで設定されます。
- EPG で設定された VLAN ID は上書きされます。
- 既存のブリッジドメインで拡張 L2 専用モードの有効と無効を切り替えると、サービスに影響します。

VLAN API が変更前に使用されていたものと異なる場合、Cisco APIC は自動的にブリッジドメインの展開解除と再展開を行います。

モード変更の前後で同じ VLAN ID が使用された場合、Cisco APIC はブリッジドメインの自動的な展開解除と再展開は行いません。手動でブリッジドメインを展開解除して再展開する必要があります。これは、EPG で静的ポート設定を削除して再作成することで実行できます。

- 拡張 L2 専用モードの VLAN ID を変更する場合は、まずモードを無効にしてから、新しい VLAN ID で拡張 L2 専用モードを有効にする必要があります。

ブリッジドメインごとの IP 学習の無効化

2 つのホストが Cisco ACI スイッチにアクティブおよびスタンバイのホストとして接続されている場合、ブリッジドメインごとの IP 学習は無効になります。MAC 学習は引き続きハードウェアで発生しますが、IP 学習は ARP/GARP/ND プロセスからのみ発生します。この機能は、ファイアウォールまたはローカル ゲートウェイのような、柔軟な導入を可能にします。

ブリッジドメインごとに IP 学習を無効化するには、次の注意事項と制限事項を参照してください。

- remote top-of-rack (ToR) スイッチで送信元 IP アドレスが S,G 情報を入力するように学習していないため、レイヤ 3 マルチキャストはサポートされていません。
- DL ビットが iVXLAN ヘッダーで設定されているため、MAC アドレスはリモート TOR のデータパスから学習されません。BD が展開されているファブリックで、リモート TOR からすべての TOR に不明なユニキャストトラフィックをフラッディングします。エンドポイントデータプレーンラーニングが無効になっている場合は、この状況を克服するようにプロキシモードで BD を設定することをお勧めします。
- ARP がフラッドモードであり、GARP ベースの検出を有効にする必要があります。
- IP ラーニングを無効にすると、対応する VRF でレイヤ 3 エンドポイントがフラッシュされません。同じ TOR を永遠に指すエンドポイントになる可能性があります。この問題を解決するには、すべての TOR のこの VRF 内ですべてのリモート IP エンドポイントをフラッシュします。

BD の設定を変更して、データプレーン学習を無効にしても、以前にローカルに学習したエンドポイントはフラッシュされません。これにより、既存のトラフィックフロー中断の影響は限られます。Cisco ACI リーフが特定の送信元 MAC を持つトラフィックをエンドポイント保持ポリシーよりも長く見ない場合、MAC が学習したエンドポイントは通常どおりエージングします。



(注) IP データプレーンラーニングを無効にすると、トラフィック転送の結果としてエンドポイント IP 情報が更新されることはなくなりますが、Cisco ACI は ARP/ND を使用してエンドポイント IP 情報を更新できます。つまり、ローカルエンドポイントのエージング（設定変更前に学習されたか、設定変更後に学習されたか）は、通常のエージングとは若干異なり、[システム (System)] > [システム設定 (System Settings)] > [エンドポイント制御 (Endpoint Controls)] > [IP エージング (IP Aging)] にも依存します。

IP エージングが無効の場合、すでに学習されたエンドポイント MAC と一致する送信元 MAC からのトラフィックは、エンドポイントテーブルの MAC アドレス情報を更新し、その結果、IP 情報も更新します（これは IP データプレーンの学習が有効になっている場合と同じです）。

IP エージングが有効の場合、ACI はエンドポイント IP アドレスを個別にエージングアウトします（これは IP データプレーンラーニングが有効になっている場合と同じです）が、すでに学習したエンドポイントとマッチする既知の送信元 MAC および IP からのトラフィックにより、エンドポイントテーブルの MAC アドレス情報は更新されるのに対し、IP 情報は更新されないという点で、IP データプレーンラーニングを有効にした設定とは異なります。

GUI を使用したテナント、VRF およびブリッジドメインの作成

外部ルーテッドを設定するときにパブリック サブネットがある場合は、ブリッジドメインを外部設定と関連付ける必要があります。

手順

ステップ 1 メニューバーで、[テナント (Tenants)] > [テナントの追加 (Add Tenant)] を選択します。

ステップ 2 [Create Tenant] ダイアログボックスで、次のタスクを実行します。

- a) [Name] フィールドに、名前を入力します。
- b) [セキュリティドメイン (Security Domains)] セクションで、[+] をクリックして、[セキュリティドメインの作成 (Create Security Domain)] ダイアログボックスを開きます。
- c) [名前 (Name)] フィールドに、セキュリティドメインの名前を入力し、[送信 (Submit)] をクリックします。
- d) [テナントの作成 (Create Tenant)] ダイアログボックスで、作成したセキュリティドメインの [更新 (Update)] をクリックします。
- e) 必要に応じて他のフィールドに入力します。
- f) [送信 (Submit)] をクリックします。

テナント名 > [ネットワークング (Networking)] 画面が表示されます。

ステップ 3 [作業 (Work)] ペインで、[VRF] アイコンをキャンバスにドラッグして [Create VRF] ダイアログボックスを開き、次の操作を実行します。

- a) [Name] フィールドに、名前を入力します。
- b) 必要に応じて他のフィールドに入力します。
- c) [送信 (Submit)] をクリックして VRF インスタンスの設定を完了します。

ステップ 4 [作業 (Work)] ペインで、VRF インスタンスを囲む円内のキャンバスに [ブリッジドメイン (Bridge Domain)] アイコンをドラッグして、2つを接続します。[Create Bridge Domain] ダイアログボックスが表示されたら、次のタスクを実行します。

- a) [Name] フィールドに、名前を入力します。
- b) 必要に応じて他のフィールドに入力します。
- c) [次へ (Next)] をクリックします。
- d) [サブネット (Subnets)] セクションで、[+] をクリックして、[サブネットの作成 (Create Subnet)] ダイアログボックスを開きます。
- e) [ゲートウェイ IP (Gateway IP)] フィールドに、IP アドレスとサブネットマスクを入力します。
- f) 必要に応じて他のフィールドに入力します。
- g) [OK] をクリックします。

- h) [ブリッジ ドメインの作成 (Create Bridge Domain)] ダイアログ ボックスに戻り、必要に応じて他のフィールドに入力します。
- i) [次へ (Next)] をクリックします。
- j) 必要に応じてフィールドに入力します。
- k) [OK] をクリックしてブリッジ ドメインの設定を完了します。

ステップ 5 [作業 (Work)] ペインで、VRF インスタンスを囲む円内のキャンパスに [L3] アイコンをドラッグして、2つを接続します。[Create Routed Outside] ダイアログボックスが表示されたら、次のタスクを実行します。

- a) [Name] フィールドに、名前を入力します。
- b) [ノードとインターフェイス プロトコル プロファイル (Nodes And Interfaces Protocol Profiles)] セクションで、[+] をクリックして [ノード プロファイルの作成 (Create Node Profile)] ダイアログ ボックスを開きます。
- c) [Name] フィールドに、名前を入力します。
- d) [ノード (Nodes)] セクションで、[+] をクリックして [ノードの選択 (Select Node)] ダイアログ ボックスを開きます。
- e) [ノード ID (Node ID)] ドロップダウン リストから、ノードを選択します。
- f) [Router ID] フィールドに、ルータ ID を入力します。
- g) [スタティック ルート (Static Routes)] セクションで、[+] をクリックして [スタティック ルートの作成 (Create Static Routes)] ダイアログ ボックスを開きます。
- h) [Prefix] フィールドに、IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスを入力します。
- i) [ネクスト ホップ アドレス (Next Hop Addresses)] セクションで、[+] をクリックして [ネクスト ホップの作成 (Create Next Hop)] ダイアログ ボックスを開きます。
- j) [ネクスト ホップ アドレス (Next Hop Addresses)] フィールドを展開し、IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスを入力します。
- k) [設定 (Preference)] フィールドに、数値を入力します。
- l) 必要に応じて他のフィールドに入力します。
- m) [OK] をクリックします。
- n) [静的ルートの作成 (Create Static Route)] ダイアログ ボックスで、必要に応じて他のフィールドに入力します。
- o) [OK] をクリックします。
- p) [ノードの選択 (Select Node)] ダイアログ ボックスで、必要に応じて他のフィールドに入力します。
- q) [OK] をクリックします。
- r) [ノード プロファイルの作成 (Create Node Profile)] ダイアログ ボックスで、必要に応じて他のフィールドに入力します。
- s) [OK] をクリックします。
- t) 必要に応じて [BGP]、[OSPF]、または [EIGRP] チェックボックスをオンにします。
- u) 必要に応じて他のフィールドに入力します。
- v) [次へ (Next)] をクリックします。
- w) 必要に応じてフィールドに入力します。
- x) [OK] をクリックしてレイヤ 3 の設定を完了します。

レイヤ3の設定を確認するには、[ナビゲーション (Navigation)] ペインで、[ネットワークング (Networking)] > [VRF]の順に展開します。

NX-OS CLI を使用した、テナント、VRF およびブリッジドメインの作成

ここでは、テナント、VRF およびブリッジドメインを作成する方法を説明します。



(注) テナントの設定を作成する前に、`vlan-domain` コマンドを使用して VLAN ドメインを作成し、ポートを割り当てる必要があります。

手順

ステップ 1 次のように、VLAN ドメイン（一連のポートで許可される一連の VLAN を含む）を作成し、VLAN の入力を割り当てます。

例：

次の例（exampleCorp）では、VLAN 50～500 が割り当てられることに注意してください。

```
apicl# configure
apicl(config)# vlan-domain dom_exampleCorp
apicl(config-vlan)# vlan 50-500
apicl(config-vlan)# exit
```

ステップ 2 VLAN が割り当てられたら、これらの VLAN を使用できるリーフ（スイッチ）およびインターフェイスを指定します。次に、「vlan-domain member」と入力し、その後に作成したドメインの名前を入力します。

例：

次の例では、これらの VLAN（50～500）は、インターフェイスイーサネット 1/2～4（1/2、1/3、1/4 を含む 3 つのポート）上の leaf101 で有効になっています。これは、このインターフェイスを使用すると、VLAN を使用できるあらゆるアプリケーションにこのポートの VLAN 50～500 を使用できることを意味します。

```
apicl(config-vlan)# leaf 101
apicl(config-vlan)# interface ethernet 1/2-4
apicl(config-leaf-if)# vlan-domain member dom_exampleCorp
apicl(config-leaf-if)# exit
apicl(config-leaf)# exit
```

ステップ 3 次の例に示すように、グローバル コンフィギュレーション モードでテナントを作成します。

例：

```
apic1(config)# tenant exampleCorp
```

ステップ4 次の例に示すように、テナント コンフィギュレーション モードでプライベート ネットワーク (VRF と呼ばれます) を作成します。

例：

```
apic1(config)# tenant exampleCorp
apic1(config-tenant)# vrf context exampleCorp_v1
apic1(config-tenant-vrf)# exit
```

ステップ5 次の例に示すように、テナントの下にブリッジドメイン (BD) を作成します。

例：

```
apic1(config-tenant)# bridge-domain exampleCorp_b1
apic1(config-tenant-bd)# vrf member exampleCorp_v1
apic1(config-tenant-bd)# exit
```

(注) この場合、VRF は「exampleCorp_v1」です。

ステップ6 次の例に示すように、BD の IP アドレス (IP および ipv6) を割り当てます。

例：

```
apic1(config-tenant)# interface bridge-domain exampleCorp_b1
apic1(config-tenant-interface)# ip address 172.1.1.1/24
apic1(config-tenant-interface)# ipv6 address 2001:1:1::1/64
apic1(config-tenant-interface)# exit
```

次のタスク

次の項では、アプリケーション プロファイルを追加し、アプリケーション エンドポイント グループ (EPG) を作成し、EPG をブリッジドメインに関連付ける方法について説明します。

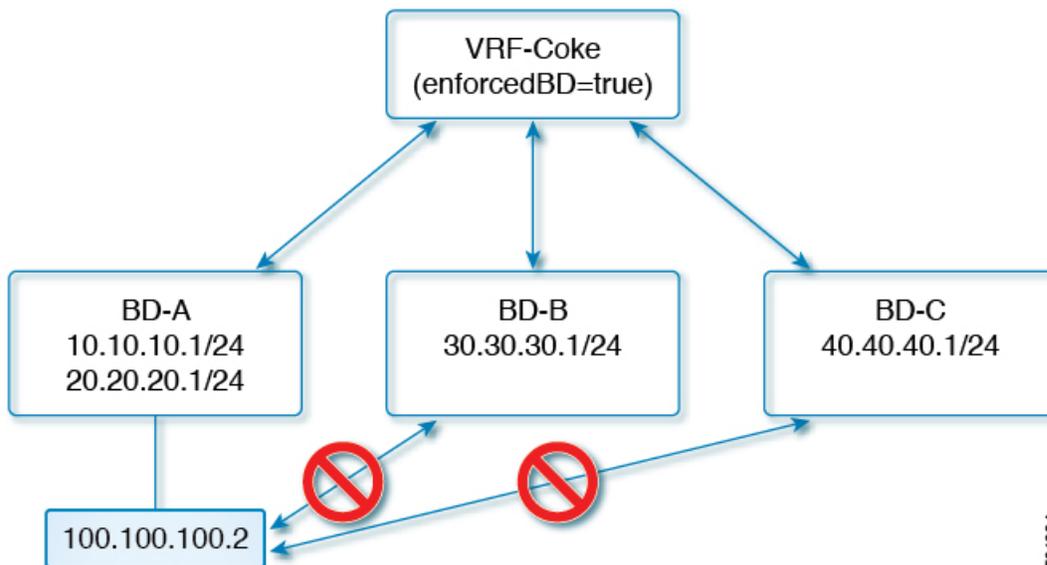
関連トピック

[NX-OS スタイルの CLI を使用した VLAN ドメインの設定](#)

適用されるブリッジドメインの設定

適用ブリッジドメインでは、関連付けられたブリッジドメイン内のサブネット ゲートウェイにしか ping を送信できない、対象のエンドポイントグループ (EPG) 内に、1つのエンドポイントが作成されます。この設定を使用すると、任意のサブネットゲートウェイに ping を送信できる IP アドレスのグローバル例外リストを作成できます。

図 8: 適用されるブリッジドメイン



501384

(注)

- 例外 IP アドレスは、すべての VRF インスタンスのすべてのブリッジドメインゲートウェイに ping を送信できます。
- L3Out 用に設定されたループバックインターフェイスでは、対象のループバックインターフェイスに合わせて設定された IP アドレスへの到達可能性は適用されません。
- eBGP ピアとなる IP アドレスが、L3Out インターフェイスのサブネットとは異なるサブネットに存在している場合には、許容例外サブネットにピアサブネットを追加する必要があります。そうしないと、送信元 IP アドレスが L3Out インターフェイスのサブネットとは異なるサブネットに存在するため、eBGP トラフィックがブロックされます。
- BGP プレフィックススペースピアの場合は、許容例外サブネットのリストにピアサブネットを追加する必要があります。たとえば、20.1.1.0/24 が BGP プレフィックススペースピアとして構成されている場合は、許容例外サブネットのリストに 20.1.1.0/24 を追加する必要があります。
- 適用ブリッジドメインは、VRF インスタンスがインバンドまたはアウトオブバンドであるかどうかにかかわらず、管理テナントではサポートされません。これらの VRF インスタンスへのトラフィックを制御するルールは、通常のコントラクトを使用して設定する必要があります。

NX-OS スタイル CLI を使用した適用されるブリッジドメインの設定

このセクションでは、NX-OS スタイル コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用して、適用されるブリッジドメインを設定する方法について説明します。

手順

ステップ1 テナントを作成し有効にします。

例：

次の例 (「cokeVrf」) が作成され有効になっています。

```
apic1(config-tenant)# vrf context cokeVrf
apic1(config-tenant-vrf)# bd-enforce enable
apic1(config-tenant-vrf)# exit
apic1(config-tenant)#exit
```

ステップ2 例外リストに、サブネットを追加します。

例：

```
apic1(config)#bd-enf-exp-ip add1.2.3.4/24
apic1(config)#exit
```

適用されるブリッジドメインは次のようなコマンドを使用して動作可能かどうかを確認できます。

```
apic1# show running-config all | grep bd-enf
bd-enforce enable
bd-enf-exp-ip add 1.2.3.4/24
```

例

次のコマンドでは、除外リストからサブネットを削除します。

```
apic1(config)# no bd-enf-exp-ip 1.2.3.4/24
apic1(config)#tenant coke
apic1(config-tenant)#vrf context cokeVrf
```

次のタスク

適用されるブリッジドメインを無効にするには、次のコマンドを実行します。

```
apic1(config-tenant-vrf)# no bd-enforce enable
```

カプセル化によるすべてのプロトコルおよびプロキシ ARP のカプセル化のフラッディングを設定する

Cisco Application Centric Infrastructure (ACI) は、ブリッジドメインをレイヤ2ブロードキャスト境界として使用します。各ブリッジドメインには複数のエンドポイントグループ (EPG)

を含めることができ、各 EPG は複数の仮想ドメインまたは物理ドメインにマッピングできます。各 EPG は、ドメインごとに異なる VLAN カプセル化プールを使用することもできます。各 EPG は、ドメインごとに異なる VLAN または VXLAN カプセル化プールを使用することもできます。

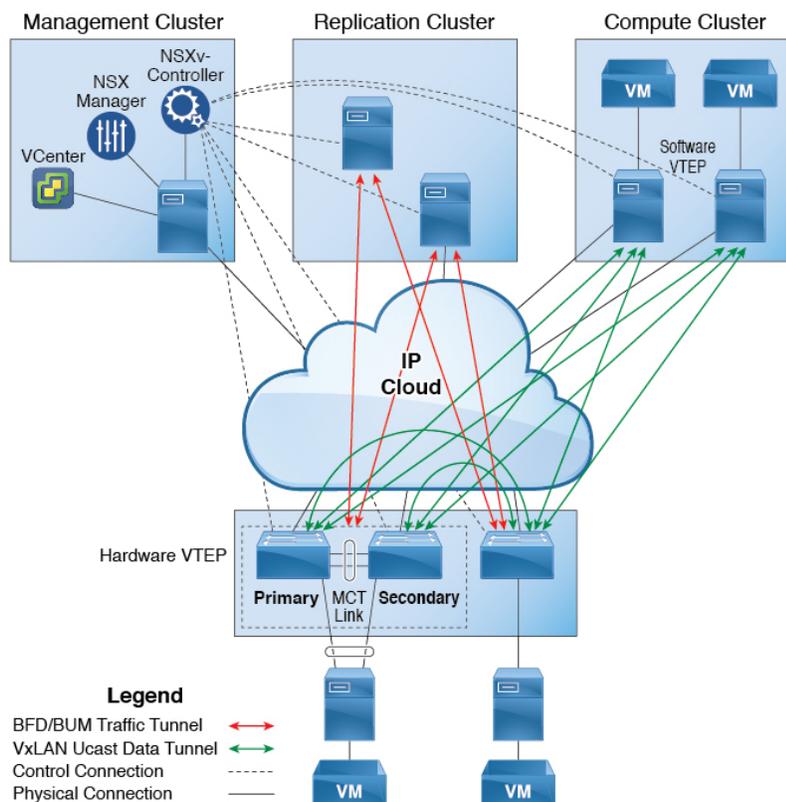
通常、ブリッジドメイン内に複数の EPG を配置すると、ブロードキャストフラッドイングはブリッジドメイン内のすべての EPG にトラフィックを送信します。EPG はエンドポイントをグループ化し、特定の機能を実行するためにトラフィックを管理するために使用されるものなので、ブリッジドメイン内のすべての EPG に同じトラフィックを送信することは必ずしも実用的ではありません。

カプセル化でのフラッドイングは、ネットワーク内のブリッジドメインを統合するのに役立ちます。この機能は、EPG が関連付けられている仮想ドメインまたは物理ドメインのカプセル化に基づいて、ブリッジドメイン内のエンドポイントへのブロードキャストフラッドイングを制御できるようにするからです。

カプセル化でのフラッドイングでは、同じブリッジドメインにおける異なる EPG のエンドポイント間の通信を許可するために、ブリッジドメインにサブネットと IP ルーティングを構成する必要があります。Cisco ACI がプロキシ ARP の役割を果たします。

トンネルモードで複数の VLAN を使用すると、いくつかの課題を導入できます。次の図に示すように、単一のトンネルで Cisco ACI を使用する一般的な導入では、1つのブリッジドメインの下に複数の EPG があります。この場合、特定のトラフィックがブリッジドメイン内（つまりすべての EPG 内）でフラッドイングし、MAC アドレス学習があいまいになって転送エラーが発生するリスクがあります。

図 9: VLANトンネルモードのCisco ACIの課題



このトポロジでは、ファブリックに、1つのアップリンクを使用してCisco ACIリーフノードに接続する単一のトンネルネットワークが定義されます。このリンクでは、2人のユーザのVLAN、VLAN 10とVLAN 11が行われます。サーバーのゲートウェイがCisco ACIクラウドの外部にあるため、ブリッジドメインはフラッディングモードに設定されます。次のプロセスでARP交渉が発生します。

- サーバは、VLAN 10ネットワーク経由で1つのARPブロードキャスト要求を送信します。
- ARPパケットは、外部のサーバに向かってトンネルネットワークを通過し、そのダウンリンクから学習した送信元MACアドレスを記録します。
- その後、サーバーはアップリンクからCisco ACIリーフスイッチにパケットを転送します。
- Cisco ACIファブリックは、アクセスポートVLAN 10に着信するARPブロードキャストパケットを確認し、EPG1にマッピングします。
- ブリッジドメインはARPパケットをフラッディングするように設定されているため、パケットはブリッジドメイン内でフラッディングされます。したがって、両方のEPGが同じブリッジドメイン内にあるため、これらのポートにフラッディングされます。
- 同じARPブロードキャストパケットは、同じアップリンクで復帰します。
- 外部サーバは、このアップリンクから元の送信元MACアドレスを確認できます。

結果：外部デバイスは、単一 MAC 転送表内のダウンリンク ポートおよびアップリンク ポートの両方から同じ MAC デバイスを入手し、トラフィックの中断の原因となります。

推奨される解決策

カプセル化内フラッディングは、ブリッジ ドメイン内のフラッディング トラフィックを単一のカプセル化に制限するために使用されます。2つの EPG が同じブリッジ ドメインを共有し、**カプセル化内フラッディング**が有効になっている場合、EPG のフラッディング トラフィックは他の EPG に到達しません。

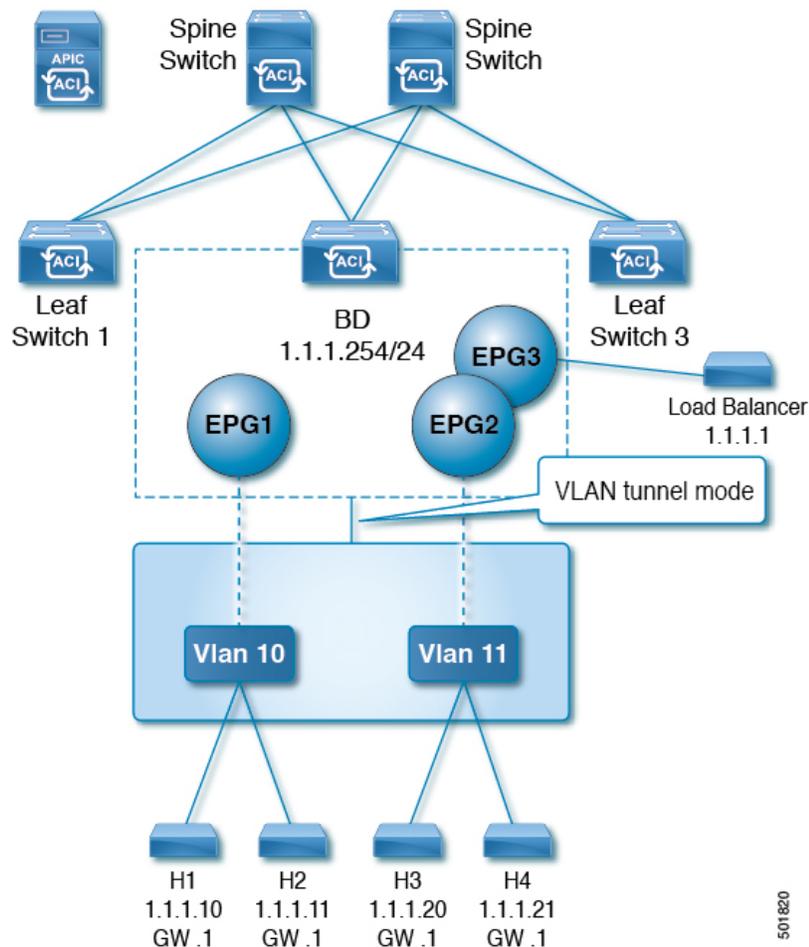
Cisco Application Policy Infrastructure Controller (APIC) リリース 3.1(1) 以降、Cisco Nexus 9000 シリーズスイッチ（名前の末尾が EX および FX 以降）では、すべてのプロトコルがカプセル化されます。VLAN 内部トラフィックに [Flood in Encapsulation] を有効にすると、プロキシ ARP で MAC フラップの問題が発生しておらず、カプセル化に対してすべてのフラッディング (ARP、GARP、BUM) を制限します。これが有効になっていると、ブリッジ ドメインの下のすべての EPG に適用されます。



- (注) Cisco APIC APIC リリース 3.1 (1) より前のリリースでは、これらの機能はサポートされていません（カプセル内でフラッディングするとき含まれるプロキシ ARP およびすべてのプロトコル）。Cisco APIC リリース以前の世代のスイッチ（名前に EX または FX が付かないもの）では、**カプセル化内フラッディング**を有効にしても機能せず、情報上の障害は発生しませんが、Cisco APIC は正常性スコアを 1 減らします。

推奨される解決策は、外部スイッチを追加して、1つのブリッジ ドメインで複数の EPG をサポートすることです。外部のスイッチがある1つのブリッジ ドメイン下で複数の EPG を持つこの設計は、次の図に示されています。

図 10: 外部のスイッチがある 1つのブリッジドメイン下で複数の EPG を持つ設計



同じブリッジドメイン内では、一部の EPG をサービス ノードにすることができ、他の EPG にはカプセル化でのフラッディングを設定できます。ロードバランサは、別の EPG 上にあります。ロードバランサは EPG からパケットを受信し、その他の EPG に送信します（プロキシ ARP はなく、カプセル化内フラッディングは発生しません）。

NX-OS スタイル CLI を使用して選択した EPG のみに対してカプセル化内フラッディングを追加する場合は、EPG 下で **flood-on-encapsulation enable** コマンドを入力します。

すべての EPG に対してカプセル化内フラッディングを追加する場合、ブリッジドメイン下で **multi-destination encap-flood** CLI コマンドを使用できます。

CLI を使用して、EPG に設定されるカプセルのフラッドが、ブリッジドメインに設定されているカプセルのフラッディングより優先されるようにします。

ブリッジドメインと EPG の両方が構成されている場合の動作は次のとおりです。

表 2: ブリッジドメインと EPG の両方が構成されている場合の動作

設定	動作
EPG でのカプセルのフラッディングとブリッジドメインでのカプセルのフラッディング	カプセルのフラッディングは、ブリッジドメイン内のすべての VLAN のトラフィックに行われます。
EPG でのカプセルのフラッディングが発生せずブリッジドメインでのカプセルのフラッディングが発生する	カプセルのフラッディングは、ブリッジドメイン内のすべての VLAN のトラフィックに行われます。
EPG でのカプセルのフラッディングが発生しブリッジドメインでのカプセルのフラッディングが発生しない	カプセルのフラッディングは、ブリッジドメインの EPG 内のすべての VLAN のトラフィックに行われます。
EPG でのカプセルのフラッディングが発生せずブリッジドメインでのカプセルのフラッディングも発生しない	ブリッジドメイン全体でフラッディングします。

マルチ宛先プロトコルトラフィック

EPG/ブリッジドメインレベルのブロードキャストセグメンテーションは、次のネットワーク制御プロトコルでサポートされます。

- OSPF
- EIGRP
- CDP
- LACP
- LLDP
- IS-IS
- BGP
- IGMP
- PIM
- STP BPDU (EPG 内フラッディング)
- ARP/GARP (ARP プロキシによって制御)
- ND

カプセル化でのフラッディングの制限事項

すべてのプロトコルのカプセル化でのフラッディングには、次の制限が適用されます。

- カプセルのフラッディングは、ARP ユニキャストモードでは機能しません。

- ネイバー要請 (NS/ND) は、このリリースではサポートされていません。
- カプセルのフラッディングでポートごとに CoPP を有効にする必要があります。
- カプセル化でのフラッディングは、フラッドモードのブリッジドメインおよびフラッドモードの ARP でのみサポートされます。ブリッジドメイン スパイン プロキシ モードはサポートされていません。
- IPv4 レイヤ 3 マルチキャストはサポートされていません。
- IPv6 はサポートされていません。
- 別の VLAN への仮想マシンの移行には、時間的な問題 (60 秒) があります。
- たとえば、ゲートウェイとして機能するロードバランサは、仮想マシンと非プロキシモードのロードバランサ間の 1 対 1 通信でサポートされます。レイヤ 3 通信はサポートされません。仮想マシンとロードバランサ間のトラフィックは、レイヤ 2 です。ただし、内部 EPG 通信がロードバランサを通過する場合、ロードバランサが SIP および SMPC を変更します。さもなければ、MAC フラップが発生する可能性があります。したがって、ダイナミック ソース ルーティング (DSR) モードは、ロードバランサでサポートされていません。
- 仮想マシンの IP アドレスを、ファイアウォールの IP アドレスではなく、ゲートウェイの IP アドレスに変更した場合、ファイアウォールはバイパスされたため、ファイアウォールをゲートウェイにする仮想マシン間の通信設定は推奨されません。
- 以前のリリースではサポートされていません (以前と現在のリリース間の相互運用もサポートされていません)。
- 3.2(5) より前のリリースでは、プロキシ ARP およびカプセル化内フラッディング機能は、VXLAN カプセル化でサポートされません。
- アプリケーションリーフエンジン (ALE) とアプリケーションスパインエンジン (ASE) で混合モードのトポロジは推奨されておらず、カプセル化でフラッディングではサポートされていません。同時に有効にすると、QoS の優先順位が適用されるのを防ぐことができます。
- カプセル化のフラッディングは、リモートリーフスイッチと Cisco ACI マルチサイトではサポートされていません。
- カプセルのフラッディングは、一般的な拡散型ゲートウェイ (CPGW) ではサポートされていません。
- マイクロセグメンテーションが設定されている EPG では、カプセル化でのフラッディングはサポートされません。
- ブリッジドメインのすべての EPG でカプセル化でのフラッディングを設定する場合は、ブリッジドメインでもカプセル化でのフラッディングを設定してください。
- IGMP スヌーピングは、カプセル化でのフラッディングではサポートされません。

- Cisco ACIにおいては、カプセル化でのフラッディングのために設定された EPG で受信されるパケットのフラッディングを、（カプセル化ではなく）ブリッジドメインで生じさせる条件が存在します。これは、管理者がカプセル化でのフラッディングを EPG で直接設定したか、ブリッジドメインで設定したかに関係なく発生します。この転送動作の条件は、入力リーフノードに宛先MACアドレスのリモートエンドポイントがあり、出力リーフノードに対応するローカルエンドポイントがない場合です。これは、インターフェイスのフラッピング、STP TCNによるエンドポイントフラッシュ、過剰な移動のためにブリッジドメインで学習が無効になっているなどの理由で発生する可能性があります。
- レイヤ3 ゲートウェイは Cisco ACI ファブリック内にある必要があります。

カプセル化範囲限定のフラッディングの設定

NX-OS スタイルの CLI、REST API、または Cisco Application Policy Infrastructure Controller (APIC) GUI を使用して、カプセル化でフラッディングを設定します。

EPG に設定されたカプセル化のフラッディングは、ブリッジドメイン (BD) に設定されたカプセル化のフラッディングよりも優先されます。BD と EPG の両方を設定すると、動作は次に説明したようになります。

表 3: BD と EPG の両方が設定されているときの動作

設定	動作
EPG でのカプセルのフラッディングとブリッジドメインでのカプセルのフラッディング	カプセル化のフラッディングは、ブリッジドメインのすべての VLAN および VXLAN 上のトラフィックに対して発生します。
EPG でのカプセルのフラッディングが発生せずブリッジドメインでのカプセルのフラッディングが発生する	カプセル化のフラッディングは、ブリッジドメイン内のすべての VLAN および VXLAN のトラフィックに対して発生します。
EPG でのカプセルのフラッディングが発生しブリッジドメインでのカプセルのフラッディングが発生しない	カプセル化のフラッディングは、ブリッジドメインの EPG 内のその VLAN または VXLAN のトラフィックに対して発生します。
EPG でのカプセルのフラッディングが発生せずブリッジドメインでのカプセルのフラッディングも発生しない	ブリッジドメイン全体でフラッディングします。

Cisco APIC GUI を使用したカプセル化範囲限定のフラッディングの設定

ブリッジドメイン (BD) またはエンドポイントグループ (EPG) を作成または変更する場合は、Cisco Application Policy Infrastructure Controller (APIC) GUI を使用してカプセル化でフラッディングを設定します。

手順

ステップ 1 BD の作成時にカプセル化でフラッディングを設定するには、次の手順を実行します。

- a) Cisco APIC にログインします。
- b) [Tenants] > [tenant] > [Networking] > [Bridge Domains] を選択します。
- c) Bridge Domains を右クリックして、Create Bridge Domain を選択します。
- d) 手順 1 の [Create Bridge Domain] ダイアログ ボックスで、[Multi Destination Flooding] ドロップダウン リストから、[Flood in Encapsulation] を選択します。
- e) 設定に応じてダイアログボックスの他のフィールドに入力し、[Finish] をクリックします。

ステップ 2 BD の変更時にカプセル化でフラッディングを設定するには、次の手順を実行します。

- a) Cisco APIC にログインします。
- b) [Tenants] > <tenant> > [Networking] > [Bridge Domains] > <bridge domain> を選択します。
- c) BD の作業ウィンドウで、[Policy] タブを選択し、[General] タブを選択します。
- d) [Multi Destination Flooding] 領域で、[Flood in Encapsulation] を選択します。
- e) [送信 (Submit)] をクリックします。

ステップ 3 EPG の作成時にカプセル化でフラッディングを設定するには、次の手順を実行します。

- a) Cisco APIC にログインします。
- b) [Tenants] > <tenant> > [Application Profiles] に移動します。
- c) [Application Profiles] を右クリックし、[Create Application EPG] を選択します。
- d) [Create Application EPG] ダイアログボックスの [Flood in Encapsulation] 領域で、[Enabled] を選択します。

カプセル化のフラッディングはデフォルトで無効になっています。

- e) 設定に応じてダイアログボックスの他のフィールドに入力し、[Finish] をクリックします。

ステップ 4 EPG の変更時にカプセル化でフラッディングを設定するには、次の手順を実行します。

- a) [Tenants] > <tenant> > [Application Profiles] > [Application EPG] > <application EPG> に移動します。
- b) EPG の作業ウィンドウで、[Policy] タブを選択し、[General] タブを選択します。
- c) [Flood in Encapsulation] 領域で、[Enabled] を選択します。
- d) [Submit] をクリックします。

NX-OS スタイル CLI を使用したカプセル化でのフラッディングの設定

NX-OS スタイル CLI を使用して選択したエンドポイント グループ (EPG) のみに対してカプセル化でフラッディングを追加する場合は、EPG 下で **flood-on-encapsulation enable** コマンドを入力します。

すべての EPG に対してカプセル化でフラッディングを追加する場合、ブリッジドメインに対して **multi-destination encap-flood** CLI コマンドを使用します。

手順

ステップ 1 ブリッジドメイン (BD) のカプセル化でフラッディングを設定します。

例 :

```
APIC1#configure
APIC1(config)# tenant tenant
APIC1(config-tenant)# bridge-domain BD-name
APIC1(config-tenant-bd)# multi-destination encap-flood
APIC1(config-tenant)#exit
APIC1(config)#
```

ステップ 2 EPG のカプセル化でフラッディングを設定します。

例 :

```
APIC1(config)# tenant tenant
APIC1(config-tenant)# application AP1
APIC1(config-tenant-app)# epg EPG-name
APIC1(config-tenant-app-epg)# flood-on-encapsulation
APIC1(config-tenant-app-epg)#no flood-on-encapsulation
```



第 6 章

EPG

この章は、次の内容で構成されています。

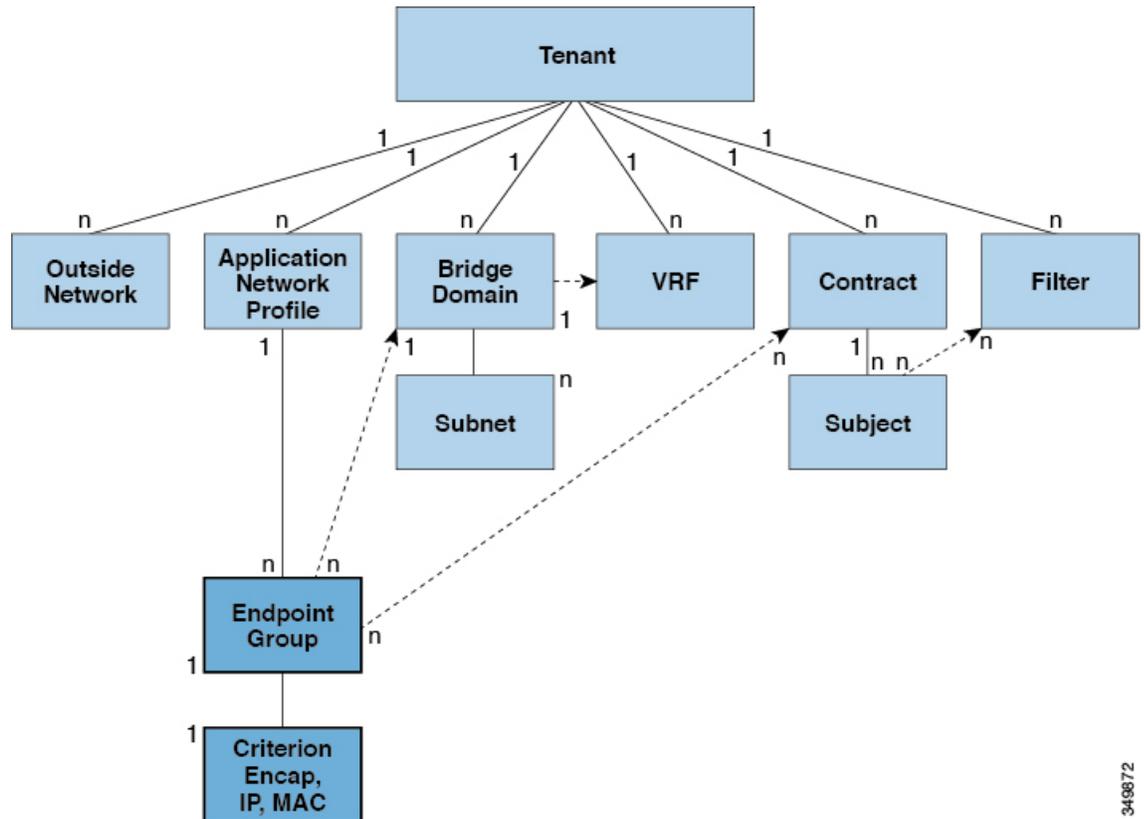
- エンドポイントグループについて (43 ページ)
- 特定のポートに EPG を導入する (49 ページ)
- 特定のポートに EPG を導入するためのドメイン、接続エンティティプロファイル、および VLAN の作成 (52 ページ)
- 添付されているエンティティプロファイルで複数のインターフェイスに EPG を導入する (57 ページ)
- EPG 内の分離 (60 ページ)
- Cisco ACI 仮想エッジの EPG 内分離の設定 (70 ページ)
- トラブルシューティング (75 ページ)
- エンドポイント接続のトラブルシューティング (75 ページ)
- IP bエース EPG 構成の確認 (81 ページ)

エンドポイントグループについて

エンドポイントグループ

エンドポイントグループ (EPG) は、ポリシーモデルの最も重要なオブジェクトです。次の図は、管理情報ツリー (MIT) 内のアプリケーション EPG の場所とテナント内の他のオブジェクトとの関係を示します。

図 11: エンドポイントグループ



349872

EPGは、エンドポイントの集合を含む名前付き論理エンティティである管理対象オブジェクトです。エンドポイントは、ネットワークに直接的または間接的に接続されるデバイスです。エンドポイントには、アドレス（ID）、ロケーション、属性（バージョンやパッチレベルなど）があり、物理または仮想にできます。エンドポイントのアドレスを知ることによって、他のすべてのIDの詳細にアクセスすることもできます。EPGは、物理および論理トポロジから完全に分離されます。エンドポイントの例には、インターネット上のサーバ、仮想マシン、ネットワーク接続ストレージ、またはクライアントが含まれます。EPG内のエンドポイントメンバシップは、ダイナミックまたはスタティックにできます。

ACI ファブリックには、次のタイプの EPG を含めることができます。

- アプリケーション エンドポイント グループ (fvAEPg)
- レイヤ 2 外部外側ネットワーク インスタンスのエンドポイント グループ (l2extInstP)
- レイヤ 3 外部外側ネットワーク インスタンスのエンドポイント グループ (l3extInstP)
- アウトオブバンド (mgmtOoB) またはインバンド (mgmtInB) アクセス用の管理エンドポイント グループ。

EPGには、セキュリティ、仮想マシンのモビリティ（VMM）、QoS、レイヤ4～レイヤ7サービスなどの共通のポリシー要件を持つエンドポイントが含まれます。エンドポイントは個別に設定および管理されるのではなく、EPG内に配置され、グループとして管理されます。

ポリシーはEPGに適用されます。個々のエンドポイントに適用されることは絶対にありません。EPGは、APICにおいて管理者により静的に設定されるか、vCenterまたはOpenStackなどの自動システムによって動的に設定されます。



- (注) EPGがスタティックバインディングパスを使用する場合、このEPGに関連付けられるカプセル化VLANはスタティックVLANプールの一部である必要があります。IPv4/IPv6デュアルスタック設定の場合、IPアドレスのプロパティはfvStCEp MOのfvStIp子プロパティに含まれます。IPv4およびIPv6アドレスをサポートする複数のfvStIpを1つのfvStCEpオブジェクト下に追加できます。ACIを、IPv4のみのファームウェアから、IPv6をサポートするバージョンのファームウェアにアップグレードすると、既存のIPプロパティがfvStIp MOにコピーされます。

EPGの設定内容にかかわらず、含まれるエンドポイントにEPGポリシーが適用されます。

ファブリックへのWANルータ接続は、スタティックEPGを使用する設定の1つの例です。ファブリックへのWANルータ接続を設定するには、関連付けられているWANサブネット内のエンドポイントを含むl3extInstP EPGを管理者が設定します。ファブリックは、エンドポイントの接続ライフサイクルが経過する間に、検出プロセスを通してEPGのエンドポイントについて学習します。エンドポイントを学習すると、ファブリックは、それに基づいてl3extInstP EPGポリシーを適用します。たとえば、WAN接続クライアントがアプリケーション（fvAEPg）EPG内でサーバとのTCPセッションを開始すると、l3extInstP EPGは、fvAEPg EPG Webサーバとの通信が始まる前に、そのクライアントエンドポイントにポリシーを適用します。クライアントサーバTCPセッションが終わり、クライアントとサーバの間の通信が終了すると、そのエンドポイントはもうファブリック内に存在しません。



- (注) リーフスイッチがEPG下のstatic binding (leaf switches)用に設定されている場合は、次の制限が適用されます。
- スタティックバインディングをスタティックパスで上書きすることはできません。
 - そのスイッチのインターフェイスをルーテッド外部ネットワーク（L3out）設定に使用することはできません。
 - そのスイッチのインターフェイスにIPアドレスを割り当てることはできません。

VMware vCenterへの仮想マシン管理接続は、ダイナミックEPGを使用する設定の1つの例です。ファブリックで仮想マシン管理ドメインが設定されると、vCenterは、必要に応じて仮想マシンエンドポイントを開始、移動、シャットダウンさせることのできるEPGの動的設定をトリガーします。

EPG シャットダウンでの ACI ポリシー設定

EPG がシャットダウン モードの場合、EPG に関連する ACI ポリシー設定はすべてのスイッチから削除されます。EPG はすべてのスイッチから削除されます。EPG が ACI データストアに存在している間は、非アクティブ モードになります。APIC GUI で、EPG をサービスから削除するチェックボックスをオンにすることができます。



(注) シャットダウン モードの EPG に接続されているホストは、EPG との間で送受信できません。

アクセスポリシーによる VLAN から EPG への自動割り当て

テナントネットワークポリシーがファブリックのアクセスポリシーと別に設定される一方で、テナントポリシーの基盤となるアクセスポリシーが整わないとテナントポリシーはアクティブ化されません。ファブリックアクセス外向きインターフェイスは、仮想マシンコントローラなどの外部デバイス、ハイパーバイザ、ホスト、ルータ、またはファブリックエクステンダ (FEX) と接続します。アクセスポリシーにより、管理者はポートチャネルおよび仮想ポートチャネル、LLDP、CDP、LACPなどのプロトコル、モニタリングや診断などの機能を設定することができます。

図 12: アクセスポリシーとエンドポイントグループの関連付け



ポリシーモデルでは、vlan の Epg 緊密に結合されています。トラフィックが流れるようにするには、物理、VMM、L2out、L3out、またはファイバチャネルドメイン内に VLAN を持つリーフポートに EPG を展開する必要があります。詳細については、[ネットワークドメイン \(13 ページ\)](#) を参照してください。

ポリシーモデルでは、EPG に関連付けられているドメインプロファイルには、VLAN インスタンスプロファイルが含まれています。ドメインプロファイルには、両方の VLAN インスタンスプロファイル (VLAN プール) および `attachable` アクセスエンティティプロファイル (AEP) アプリケーション Epg に直接に関連付けられているが含まれています。AEP は、すべてのポートの [接続されている、および Vlan の割り当てのタスクを自動化するに関連付けられているアプリケーション Epg を展開します。大規模なデータセンター数千の Vlan の数百のプロビジョニング仮想マシンのアクティブなは簡単に、中に ACI ファブリックは VLAN プールから、VLAN Id を自動的に割り当てることができます。これは、膨大な従来データセンターで Vlan をトランキングと比較して、時間を節約できます。

VLAN の注意事項

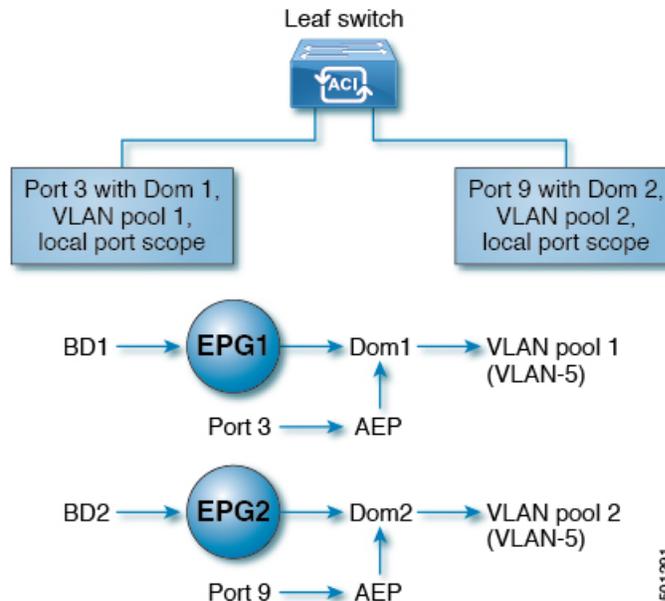
EPG トラフィックがフローは、Vlan の設定には次のガイドラインを使用します。

- 複数のドメインは、VLAN プールを共有できますが、1つのドメインは、1つの VLAN プールにのみ使用できます。
- 1つのリーフスイッチで同じ VLAN のカプセル化を複数の Epg を展開するを参照してください。 [ポート単位の VLAN \(47 ページ\)](#) 。

ポート単位の VLAN

v1.1 リリースより前の ACI バージョンでは、特定の VLAN カプセル化はリーフ スイッチ上の単一の EPG だけにマッピングされます。同じリーフ スイッチ上に同じ VLAN カプセル化を持つ第 2 の EPG があると、ACI でエラーが発生します。

v1.1 リリース以降では、次の図と同様、ポート単位の VLAN 設定で、特定のリーフ スイッチ (または FEX) 上に複数の EPG を同じ VLAN カプセル化で展開することができます。



単一のリーフ スイッチ上で、同じカプセル化番号を使用する複数の EPG の展開を有効にするには、次の注意事項に従ってください。

- EPG は、さまざまなブリッジ ドメインに関連付けられている必要があります。
- EPG は、さまざまなポートに展開する必要があります。
- ポートと EPG の両方が、VLAN 番号が含まれている VLAN プールに関連付けられている同じドメインに関連付けられている必要があります。
- ポートは `portLocal` VLAN スコープで設定されている必要があります。

たとえば、上の図のポート 3 と 9 上に展開されている EPG のポート単位の VLAN で、両方が VLAN-5 を使用していれば、ポート 3 と EPG1 は Dom1 (プール 1) に、ポート 9 と EPG2 は Dom2 (プール 2) に関連付けられます。

ポート 3 からのトラフィックは EPG1 に関連付けられ、ポート 9 からのトラフィックは EPG2 に関連付けられます。

これは、外部レイヤ 3 外部接続用に設定されたポートには適用されません。

EPG に複数の物理ドメインがあり、VLAN プールが重複している場合は、EPG をポートに展開するために使用される AEP に複数のドメインを追加しないでください。これにより、トラフィック転送の問題が回避されます。

EPG に重複する VLAN プールを持つ物理ドメインが 1 つしかない場合、複数のドメインを単一の AEP に関連付けることができます。

入力および出力の両方向で個別の（ポート、VLAN）変換エントリの割り当てが可能なのは、vlanScope が portLocal に設定されているポートだけです。特定のポートで vlanScope が portGlobal（デフォルト）に設定されている場合には、EPG で使用される各 VLAN は、特定のリーフスイッチ上で一意のものである必要があります。



-
- (注) マルチスパンニングツリー (MST) で設定されているインターフェイス上では、ポート単位の VLAN はサポートされていません。このツリーでは、VLAN ID が 1 つのリーフスイッチ上で一意であること、そして VLAN の範囲がグローバルであることを必要とするからです。
-

同じリーフスイッチで EPG に使用されていた VLAN 番号の再利用

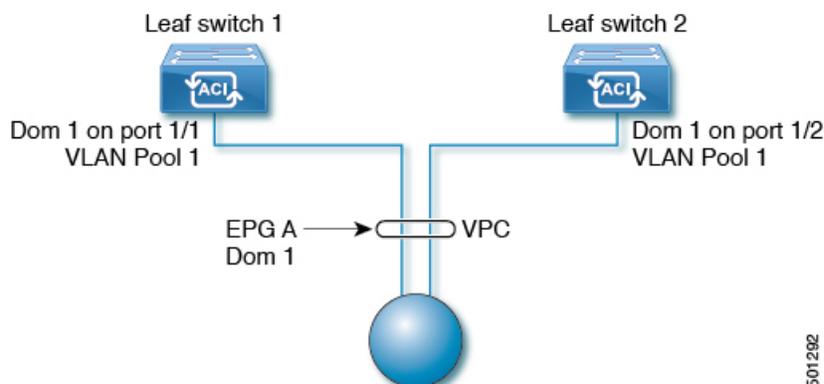
以前に、リーフスイッチのポートに展開されている EPG 用に VLAN を設定していて、同じ VLAN 番号を同じリーフスイッチの異なるポートの異なる EPG で再利用する場合には、中断なしでセットアップできるようにするため、次の例に示すようなプロセスに従ってください。

この例では、EPG は以前、9 ~ 100 の範囲の VLAN プールを含むドメインに関連付けられていたポートに展開されていました。ここで、9 ~ 20 からの VLAN カプセル化を使用する EPG を設定したいとします。

1. 異なるポート（たとえば、9 ~ 20 の範囲）で新しい VLAN プールを設定します。
2. ファイアウォールに接続されているリーフポートを含む新しい物理的なドメインを設定します。
3. ステップ 1 で設定した VLAN プールに物理的なドメインを関連付けます。
4. リーフポートの VLAN の範囲を portLocal として設定します。
5. 新しい EPG（この例ではファイアウォールが使用するもの）を、ステップ 2 で作成した物理ドメインに関連付けます。
6. リーフポートで EPG を展開します。

vPC に展開された EPG の VLAN ガイドライン

図 13: vPC の 2つのレッグの VLAN



EPG を vPC に展開する場合は、vPC の 2つのレッグのリーフ スイッチ ポートに割り当てられた同じドメイン（同じ VLAN プール）に関連付ける必要があります。

この図では、EPG A は、リーフ スイッチ 1 およびリーフ スイッチ 2 のポートに展開されている vPC に展開されています。2本のリーフ スイッチ ポートおよび EPG は、すべて同じ VLAN プールが含まれている同じドメインに関連付けられています。

501292

特定のポートに EPG を導入する

GUI を使用して特定のノードまたはポートへ EPG を導入する

始める前に

EPG を導入するテナントがすでに作成されていること。

特定のノードまたはノードの特定のポートで、EPG を作成することができます。

手順

-
- ステップ 1 Cisco APIC にログインします。
 - ステップ 2 [Tenants] > [tenant] を選択します。
 - ステップ 3 左側のナビゲーション ウィンドウで、**tenant**、**Application Profiles**、および **application profile** を展開します。
 - ステップ 4 **Application EPGs** を右クリックし、**Create Application EPG** を選択します。
 - ステップ 5 **Create Application EPG STEP 1 > Identity** ダイアログボックスで、次の操作を実行します:
 - a) **Name** フィールドに、EPG の名前を入力します。
 - b) **Bridge Domain** ドロップダウンリストから、ブリッジ ドメインを選択します。

- c) [Statically Link with Leaves/Paths] チェックボックスをオンにします。
このチェック ボックスを使用して、どのポートに EPG を導入するかを指定できます。
- d) [Next] をクリックします。
- e) [Path] ドロップダウンリストから、宛先 EPG への静的パスを選択します。

ステップ 6 **Create Application EPG STEP 2 > Leaves/Paths** ダイアログボックスで、**Physical Domain** ドロップダウンリストから物理ドメインを選択します。

ステップ 7 次のいずれかの手順を実行します。

オプション	説明
次のものに EPG を展開する場合、	次を実行します。
ノード	<ol style="list-style-type: none"> Leaves エリアを展開します。 [Node] ドロップダウンリストから、ノードを選択します。 Encap フィールドで、適切な VLAN を入力します。 (オプション)Deployment Immediacy ドロップダウンリストで、デフォルトの On Demand のままにするか、Immediate を選択します。 (オプション) [Mode] ドロップダウンリストで、デフォルトの [Trunk] のままにするか、別のモードを選択します。
ノード上のポート	<ol style="list-style-type: none"> Paths エリアを展開します。 Path ドロップダウンリストから、適切なノードおよびポートを選択します。 (オプション) Deployment Immediacy フィールドのドロップダウンリストで、デフォルトの On Demand のままにするか、Immediate を選択します。 (オプション) [Mode] ドロップダウンリストで、デフォルトの [Trunk] のままにするか、別のモードを選択します。 Port Encap フィールドに、導入するセカンダリ VLAN を入力します。 (オプション) Primary Encap フィールドで、展開するプライマリ VLAN を入力します。

ステップ 8 **Update** をクリックし、**Finish** をクリックします。

ステップ 9 左側のナビゲーション ウィンドウで、作成した EPG を展開します。

ステップ 10 次のいずれかの操作を実行します:

- ノードで EPG を作成した場合は、**Static Leafs** をクリックし、作業ウィンドウで、静的バインドパスの詳細を表示します。

- ノードのポートで EPG を作成した場合は、**Static Ports** をクリックし、作業ウィンドウで、静的バインドパスの詳細を表示します。

NX-OS スタイルの CLI を使用した APIC の特定のポートへの EPG の導入

手順

ステップ 1 VLAN ドメインを設定します。

例：

```
apicl(config)# vlan-domain dom1
apicl(config-vlan)# vlan 10-100
```

ステップ 2 テナントを作成します。

例：

```
apicl# configure
apicl(config)# tenant t1
```

ステップ 3 プライベート ネットワーク/VRF を作成します。

例：

```
apicl(config-tenant)# vrf context ctx1
apicl(config-tenant-vrf)# exit
```

ステップ 4 ブリッジ ドメインを作成します。

例：

```
apicl(config-tenant)# bridge-domain bd1
apicl(config-tenant-bd)# vrf member ctx1
apicl(config-tenant-bd)# exit
```

ステップ 5 アプリケーション プロファイルおよびアプリケーション EPG を作成します。

例：

```
apicl(config-tenant)# application AP1
apicl(config-tenant-app)# epg EPG1
apicl(config-tenant-app-epg)# bridge-domain member bd1
apicl(config-tenant-app-epg)# exit
apicl(config-tenant-app)# exit
apicl(config-tenant)# exit
```

ステップ 6 EPG を特定のポートに関連付けます。

例：

```
apicl(config)# leaf 1017
```

```

apic1(config-leaf)# interface ethernet 1/13
apic1(config-leaf-if)# vlan-domain member dom1
apic1(config-leaf-if)# switchport trunk allowed vlan 20 tenant t1 application AP1 epg
EPG1

```

(注) 上の例に示した `vlan-domain` コマンドと `vlan-domain member` コマンドは、ポートに EPG を導入するための前提条件です。

特定のポートに EPG を導入するためのドメイン、接続エンティティプロファイル、および VLAN の作成

特定のポートに EPG を導入するためのドメイン、接続エンティティプロファイル、および VLAN の作成

このトピックでは、特定のポートに EPG を導入する場合に必須である物理ドメイン、接続エンティティプロファイル (AEP)、および VLAN を作成する方法の典型的な例を示します。

すべてのエンドポイントグループ (EPG) にドメインが必要です。また、インターフェイスポリシーグループを接続エンティティプロファイル (AEP) に関連付ける必要があります。AEP と EPG が同じドメインに存在する必要がある場合は、AEP をドメインに関連付ける必要があります。EPG とドメイン、およびインターフェイスポリシーグループとドメインの関連付けに基づいて、EPG が使用するポートと VLAN が検証されます。以下のドメインタイプが EPG に関連付けられます。

- アプリケーション EPG
- レイヤ 3 Outside 外部ネットワーク インスタンス EPG
- レイヤ 2 Outside 外部ネットワーク インスタンス EPG
- アウトオブバンドおよびインバンドアクセスの管理 EPG

APIC は、これらのドメインタイプのうち 1 つまたは複数に EPG が関連付けられているかどうかを確認します。EPG が関連付けられていない場合、システムは設定を受け入れますが、エラーが発生します。ドメインの関連付けが有効でない場合、導入された設定が正しく機能しない可能性があります。たとえば、VLAN のカプセル化を EPG で使用することが有効でない場合、導入された設定が正しく機能しない可能性があります。



- (注) スタティック バインディングを使用しない AEP との EPG アソシエーションは、一方のエンドポイントが同じ EPG の下でタグgingをサポートし、もう一方のエンドポイントが同じ EPG 内で VLAN タグgingをサポートしないような AEP の下では、EPG をトランクとして設定するシナリオで機能させることはできません。EPG で AEP を関連付ける際には、トランク、アクセス (タグ付き)、またはアクセス (タグなし) として設定できます。

GUI を使用して特定のポートに EPG を展開するためのドメインおよび VLAN の作成

始める前に

- EPG を導入するテナントがすでに作成されていること。
- EPG は特定のポートに静的に導入されます。

手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[ファブリック (FABRIC)] > [アクセス ポリシー (Access Policies)] の順に選択します。
- ステップ 2 [ナビゲーション (Navigation)] ペインで、[クイックスタート (Quick Start)] をクリックします。
- ステップ 3 [作業 (Work)] ペインで、[インターフェイスの設定 (Configure Interfaces)] をクリックします。
- ステップ 4 [インターフェイスの設定 (Configure Interfaces)] ダイアログで、以下のアクションを実行します。
 - a) [ノードタイプ (Node Type)] で、[リーフ (Leaf)] をクリックします。
 - b) [ポートタイプ (Port Type)] で、[アクセス (Access)] をクリックします。
 - c) [インターフェイスタイプ (Interface Type)] で、目的のタイプを選択します。
 - d) [インターフェイス集約タイプ (Interface Aggregation Type)] で、[個別 (Individual)] を選択します。
 - e) [ノード (Node)] で、[ノードの選択 (Select Node)] をクリックし、目的のノードのボックスにチェックを入れて、[OK] をクリックします。複数のノードを選択できます。
 - f) [すべてのスイッチのインターフェイス (Interfaces For All Switches)] で、目的のインターフェイスの範囲を入力します。
 - g) [リーフアクセスポートポリシーグループ (Leaf Access Port Policy Group)] の場合は、[リーフアクセスポートポリシーグループの選択 (Select Leaf Access Port Policy Group)] をクリックします。

- h) [リーフアクセスポートポリシーグループの選択 (Select Leaf Access Port Policy Group)] ダイアログで、[リーフアクセスポートポリシーグループの作成 (Create Leaf Access Port Policy Group)] をクリックします。
- i) [リーフアクセスポートポリシーグループの作成 (Create Leaf Access Port Policy Group)] ダイアログの [リンクレベルポリシー (Link Level Policy)] で、[リンクレベルポリシーの選択 (Select Link Level Policy)] をクリックします。
- j) リンクレベルポリシーを選択して [選択 (Select)] を選択するか、[リンクレベルポリシーの作成 (Create Link Level Policy)] をクリックし、必要に応じてフィールドに入力して、[保存 (Save)] をクリックします。
- k) [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 5 以下のアクションを実行して、ドメインと VLAN プールを作成します。

- a) [ナビゲーション (Navigation)] ペインで、[物理ドメインと外部ドメイン (Physical and External Domains)] を展開します。
- b) [物理ドメイン (Physical Domains)] を右クリックし、適切な [物理ドメインの作成 (Create Physical Domain)] を選択します。
- c) [名前 (Name)] に、ドメインの名前を入力します。
- d) [VLAN プール (VLAN Pool)] で、[VLAN プールの作成 (Create VLAN Pool)] を選択し、必要に応じてフィールドに入力して、[送信 (Submit)] をクリックします。
- e) 目的に応じて、残りのフィールドに入力します。
- f) [送信 (Submit)] をクリックします。

ステップ 6 メニューバーで、[テナント (Tenants)] >> [すべてのテナント (ALL Tenants)] の順に選択します。

ステップ 7 [作業 (Work)] ペインで、目的のテナントをダブルクリックします。

ステップ 8 [ナビゲーション (Navigation)] ペインで、テナント名 > [アプリケーション プロファイル (Application Profiles)] > プロファイル名 > [アプリケーション EPG (Application EPGs)] > EPG 名を展開し、以下の操作を実行します。

- a) [ドメイン (Domains) (VM またはベアメタル)] を右クリックし、[物理ドメインの関連付けの追加 (Add Physical Domain Association)] をクリックします。
- b) [物理ドメインの関連付けの追加 (Add Physical Domain Association)] ダイアログで、[物理ドメインのプロファイル (Physical Domain Profile)] ドロップダウンリストから、前に作成したドメインを選択します。
- c) [Submit] をクリックします。
AEP は、ノード上の特定のポート、およびドメインに関連付けられます。物理ドメインは VLAN プールに関連付けられ、テナントはこの物理ドメインに関連付けられます。

スイッチ プロファイルとインターフェイス プロファイルが作成されます。インターフェイス プロファイルのポート ブロックにポリシー グループが作成されます。AEP が自動的に作成され、ポート ブロックおよびドメインに関連付けられます。ドメインは VLAN プールに関連付けられ、テナントはドメインに関連付けられます。

NX-OS スタイルの CLI を使用した、EPG を特定のポートに導入するための AEP、ドメイン、および VLAN の作成

始める前に

- EPG を導入するテナントがすでに作成されていること。
- EPG は特定のポートに静的に導入されます。

手順

ステップ 1 VLAN ドメインを作成し、VLAN 範囲を割り当てます。

例：

```
apicl(config)# vlan-domain domP
apicl(config-vlan)# vlan 10
apicl(config-vlan)# vlan 25
apicl(config-vlan)# vlan 50-60
apicl(config-vlan)# exit
```

ステップ 2 インターフェイス ポリシー グループを作成し、そのポリシー グループに VLAN ドメインを割り当てます。

例：

```
apicl(config)# template policy-group PortGroup
apicl(config-pol-grp-if)# vlan-domain member domP
```

ステップ 3 リーフ インターフェイス プロファイルを作成し、そのプロファイルにインターフェイス ポリシー グループを割り当てて、そのプロファイルを適用するインターフェイス ID を割り当てます。

例：

```
apicl(config)# leaf-interface-profile InterfaceProfile1
apicl(config-leaf-if-profile)# leaf-interface-group range
apicl(config-leaf-if-group)# policy-group PortGroup
apicl(config-leaf-if-group)# interface ethernet 1/11-13
apicl(config-leaf-if-profile)# exit
```

ステップ 4 リーフ プロファイルを作成し、そのリーフ プロファイルにリーフ インターフェイス プロファイル を割り当てて、そのプロファイルを適用するリーフ ID を割り当てます。

例：

```
apicl(config)# leaf-profile SwitchProfile-1019
apicl(config-leaf-profile)# leaf-interface-profile InterfaceProfile1
apicl(config-leaf-profile)# leaf-group range
```

```
apic1(config-leaf-group)# leaf 1019
apic1(config-leaf-group)#
```

重複する VLAN の検証

このグローバル機能は、単一の EPG での重複する VLAN プールの関連付けを防止します。APIC のいずれかの EPG で重複するプールが割り当てられている場合、この機能は有効にできません（有効にしようとするエラーが表示されます）。既存の重複プールが存在しない場合は、この機能を有効にできます。有効にすると、EPG にドメインを割り当てることを試行し、そのドメインに、EPG にすでに関連付けられている別のドメインと重複する VLAN プールが含まれていた場合、設定はブロックされます。

重複する VLAN プールが EPG の下に存在する場合、各スイッチによって EPG に割り当てられる FDNID は非確定的になり、異なるスイッチが異なる VNID を割り当てる場合があります。これにより、vPC ドメイン内のリーフ間で EPM 同期が失敗する可能性が生じます（EPG 内のすべてのエンドポイントの接続が断続的になります）。また、ユーザーが EPG 間で STP を拡張している場合、FDVNID の不一致によりスイッチ間で BPDU がドロップされるため、ブリッジングループが発生する可能性もあります。

GUI を使用した重複 VLAN の検証

この手順では、APIC GUI を使用して VLAN のオーバーラップの検証を設定する例を示します。

手順

- ステップ 1 メニューバーで、[システム (System)] > [システム設定 (System Settings)] を選択します。
- ステップ 2 ナビゲーション ペインで、[ファブリック ワイドの設定 (Fabric Wide Setting)] を選択します。
- ステップ 3 作業ウィンドウで、[EPG VLAN 検証の適用 (Enforce EPG VLAN Validation)] を見つけてオンにします。

(注) 重複する VLAN プールがすでに存在し、このパラメータがオンになっている場合、システムはエラーを返します。この機能を選択する前に、EPG に重複しない VLAN プールを割り当てる必要があります。

このパラメータをオンにして、重複する VLAN プールを EPG に追加しようとすると、エラーが返されます。

- ステップ 4 [Submit] をクリックします。

添付されているエンティティ プロファイルで複数のインターフェイスに EPG を導入する

AEP または インターフェイス ポリシー グループ を使用した アプリケーション EPG の複数のポートへの導入

APIC の拡張 GUI と REST API を使用して、接続エンティティ プロファイルをアプリケーション EPG に直接関連付けることができます。これにより、単一の構成の接続エンティティ プロファイルに関連付けられたすべてのポートに、関連付けられたアプリケーション EPG を導入します。

APIC REST API または NX-OS スタイルの CLI を使用し、インターフェイス ポリシー グループ を介して複数のポートにアプリケーション EPG を導入できます。

APIC GUI を使用した AEP による複数のインターフェイスへの EPG の導入

短時間でアプリケーションを接続エンティティ プロファイルに関連付けて、その接続エンティティ プロファイルに関連付けられたすべてのポートに EPG を迅速に導入することができます。

始める前に

- ターゲット アプリケーション EPG が作成されている。
- AEP での EPG 導入に使用する VLAN の範囲が含まれている VLAN プールが作成されている。
- 物理ドメインが作成され、VLAN プールと AEP にリンクされている。
- ターゲットの接続エンティティ プロファイルが作成され、アプリケーション EPG を導入するポートに関連付けられている。

手順

ステップ 1 ターゲットの接続エンティティ プロファイルに移動します。

- a) 使用する接続エンティティ プロファイルのページを開きます。[ファブリック (Fabric)] > [アクセス ポリシー (Access Policies)] > [ポリシー (Policies)] > [グローバル (Global)] > [アタッチ可能なアクセス エンティティ プロファイル (Attachable Access Entity Profiles)] に移動します。
- b) ターゲットの接続エンティティ プロファイルをクリックして、[Attachable Access Entity Profile] ウィンドウを開きます。

ステップ 2 [Show Usage] ボタンをクリックして、この接続エンティティ プロファイルに関連付けられたリーフ スイッチとインターフェイスを表示します。

この接続エンティティ プロファイルに関連付けられたアプリケーション EPG が、この接続エンティティ プロファイルに関連付けられたすべてのスイッチ上のすべてのポートに導入されます。

ステップ 3 [Application EPGs] テーブルを使用して、この接続エンティティ プロファイルにターゲット アプリケーション EPG を関連付けます。アプリケーション EPG エントリを追加するには、[+] をクリックします。各エントリに次のフィールドがあります。

フィールド	アクション (Action)
Application EPG	ドロップダウンを使用して、関連付けられたテナント、アプリケーション プロファイル、およびターゲット アプリケーション EPG を選択します。
Encap	ターゲット アプリケーション EPG の通信に使用される VLAN の名前を入力します。
Primary Encap	アプリケーション EPG にプライマリ VLAN が必要な場合は、プライマリ VLAN の名前を入力します。
モード	ドロップダウンを使用して、データを送信するモードを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • [Trunk] : ホストからのトラフィックに VLAN ID がタグ付けされている場合に選択します。 • [Access] : ホストからのトラフィックに 802.1p タグがタグ付けされている場合に選択します。 • [Access Untagged] : ホストからのトラフィックがタグ付けされていない場合に選択します。

ステップ 4 [Submit] をクリックします。

この接続エンティティ プロファイルに関連付けられたアプリケーション EPG が、この接続エンティティ プロファイルに関連付けられたすべてのスイッチ上のすべてのポートに導入されます。

NX-OS スタイルの CLI を使用したインターフェイス ポリシー グループによる複数のインターフェイスへの EPG の導入

NX-OS CLI では、接続エンティティ プロファイルを EPG に関連付けることによる迅速な導入が明示的に定義されていません。代わりにインターフェイス ポリシー グループが定義されてドメインが割り当てられます。このポリシー グループは、VLAN に関連付けられたすべての

ポートに適用され、その VLAN を介して導入されるアプリケーション EPG を含むように設定されます。

始める前に

- ターゲット アプリケーション EPG が作成されている。
- AEP での EPG 導入に使用する VLAN の範囲が含まれている VLAN プールが作成されている。
- 物理ドメインが作成され、VLAN プールと AEP にリンクされている。
- ターゲットの接続エンティティ プロファイルが作成され、アプリケーション EPG を導入するポートに関連付けられている。

手順

ステップ 1 ターゲット EPG をインターフェイス ポリシー グループに関連付けます。

このコマンド シーケンスの例では、VLAN ドメイン **domain1** と VLAN **1261** に関連付けられたインターフェイス ポリシー グループ **pg3** を指定します。このポリシー グループに関連付けられたすべてのインターフェイスに、アプリケーション EPG **epg47** が導入されます。

例：

```
apic1# configure terminal
apic1(config)# template policy-group pg3
apic1(config-pol-grp-if)# vlan-domain member domain1
apic1(config-pol-grp-if)# switchport trunk allowed vlan 1261 tenant tn10 application
pod1-AP
    epg epg47
```

ステップ 2 ターゲット ポートで、アプリケーション EPG に関連付けられたインターフェイス ポリシー グループのポリシーが導入されたことを確認します。

次の **show** コマンド シーケンスの出力例は、ポリシー グループ **pg3** がリーフ スイッチ **1017** 上のイーサネット ポート **1/20** に導入されていることを示しています。

例：

```
apic1# show run leaf 1017 int eth 1/20
# Command: show running-config leaf 1017 int eth 1/20
# Time: Mon Jun 27 22:12:10 2016
leaf 1017
    interface ethernet 1/20
        policy-group pg3
    exit
exit
ifav28-ifc1#
```

EPG 内の分離

EPG 内エンドポイント分離

EPG内エンドポイント分離ポリシーにより、仮想エンドポイントまたは物理エンドポイントが完全に分離されます。分離を適用した状態で稼働している EPG 内のエンドポイント間の通信は許可されません。分離を適用した EPG では、多くのクライアントが共通サービスにアクセスするときに必要な EPG カプセル化の数は低減しますが、相互間の通信は許可されません。

EPG の分離は、すべての Cisco Application Centric Infrastructure (ACI) ネットワーク ドメインに適用されるか、どれにも適用されないかの、どちらかになります。Cisco ACI ファブリックは接続エンドポイントに直接分離を実装しますが、ファブリックに接続されているスイッチはプライマリ VLAN (PVLAN) タグに従って分離規則を認識します。



(注) EPG 内エンドポイント分離を適用して EPG を設定した場合は、次の制限が適用されます。

- 分離を適用した EPG 全体のすべてのレイヤ 2 エンドポイント通信がブリッジ ドメイン内にドロップされます。
- 分離を適用した EPG 全体のすべてのレイヤ 3 エンドポイント通信が同じサブネット内にドロップされます。
- トラフィックが、分離が適用されている EPG から分離が適用されていない EPG に流れている場合、QoS CoS の優先順位設定の保持はサポートされません。

BPDU は、EPG 内分離が有効になっている EPG を介して転送されません。したがって、Cisco ACI 上の独立した EPG にマッピングされている VLAN でスパニング ツリーを実行する外部レイヤ 2 ネットワークを接続すると、Cisco ACI は外部ネットワークのスパニング ツリーがレイヤ 2 ループを検出できなくなる可能性があります。この問題を回避するには、これらの VLAN 内の Cisco ACI と外部ネットワーク間に単一の論理リンクのみを設定します。

ベア メタル サーバの EPG 内分離

ベア メタル サーバの EPG 内分離

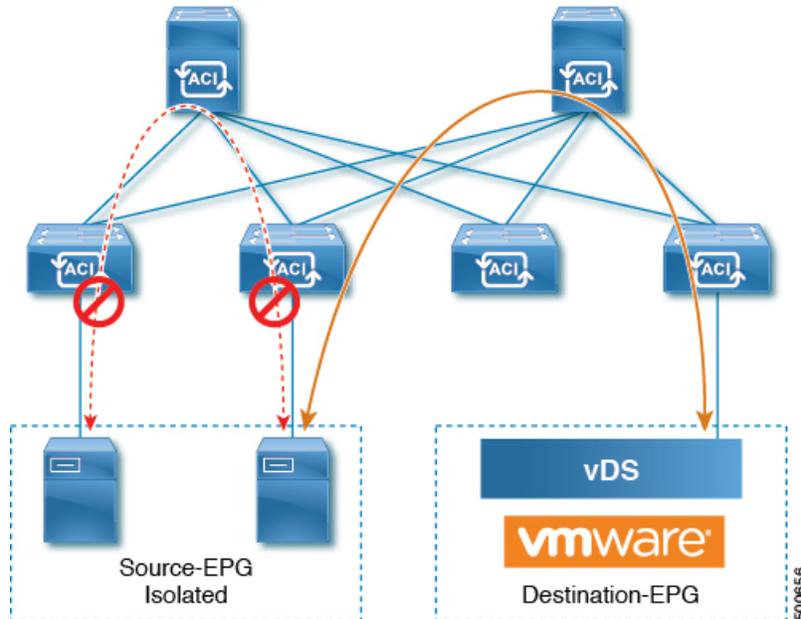
EPG 内エンドポイント分離のポリシーは、ベア メタル サーバなどの直接接続されているエンドポイントに適用できます。

次のような使用例があります。

- バックアップ クライアントは、バックアップ サービスにアクセスするための通信要件は同じですが、相互に通信する必要はありません。

- ロードバランサの背後にあるサーバの通信要件は同じですが、それらのサーバを相互に分離すると、不正アクセスや感染のあるサーバに対して保護されます。

図 14: ベアメタルサーバの EPG 内分離



ベアメタルの EPG 分離はリーフスイッチで適用されます。ベアメタルサーバは VLAN カプセル化を使用します。ユニキャスト、マルチキャスト、およびブロードキャストのすべてのトラフィックが、分離が適用された EPG 内でドロップ（拒否）されます。ACI ブリッジドメインには、分離された EPG と通常の EPG を混在させることができます。分離された EPG それぞれには、VLAN 間トラフィックを拒否する複数の VLAN を指定できます。

GUI を使用したベアメタルサーバの EPG 内分離の設定

EPG が使用するポートは、リーフスイッチにベアメタルサーバを直接接続するために使用する物理ドメイン内のベアメタルサーバと関連付ける必要があります。

手順

- ステップ 1** テナントで、[Application Profile] を右クリックし、[Create Application EPG] ダイアログボックスを開いて次の操作を実行します。
- [Name] フィールドに、EPG の名前 (intra_EPG-deny) を追加します。
 - [Intra EPG Isolation] で、[Enforced] をクリックします。
 - [Bridge Domain] フィールドで、ドロップダウンリストからブリッジドメイン (bd1) を選択します。
 - [Statically Link with Leaves/Paths] チェックボックスをオンにします。
 - [Next] をクリックします。

ステップ 2 [Leaves/Paths] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。

- a) [Path] セクションで、ドロップダウンリストからトランクモードでのパス (Node-107/eth1/16) を選択します。

セカンダリ VLAN の [Port Encap] (vlan-102) を指定します。

(注) ベアメタルサーバがリーフスイッチに直接接続されている場合、Port Encap のセカンダリ VLAN のみが指定されます。

プライマリ VLAN の [Primary Encap] (vlan-103) を指定します。

- b) [Update] をクリックします。
c) [完了 (Finish)] をクリックします。

NX-OS スタイルの CLI を使用したベアメタルサーバの EPG 内分離の設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>CLI で、EPG 内分離 EPG を作成します。</p> <p>例 :</p> <p>以下に、VMM ケースを示します。</p> <pre> ifav19-ifc1(config)# tenant Test_Isolation ifav19-ifc1(config-tenant)# application PVLAN ifav19-ifc1(config-tenant-app)# epg EPG1 ifav19-ifc1(config-tenant-app-epg)# show running-config # Command: show running-config tenant Test_Isolation application PVLAN epg EPG1 tenant Test_Isolation application PVLAN epg EPG1 bridge-domain member BD1 contract consumer bare-metal contract consumer default contract provider Isolate_EPG isolation enforce <---- This enables EPG isolation mode. exit exit ifav19-ifc1(config)# leaf ifav19-leaf3 ifav19-ifc1(config-leaf)# interface ethernet 1/16 ifav19-ifc1(config-leaf-if)# show running-config ifav19-ifc1(config-leaf-if)# switchport trunk native vlan 101 tenant </pre>	

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre>Static Endpoints: Node Interface Encap End Point MAC End Point IP Address Modification Time ----- ----- ----- ----- -----</pre>	

VMware vDS の EPG 内分離

VMware VDS または Microsoft Hyper-V 仮想スイッチの EPG 分離

EPG 内分離は、同じベース EPG またはマイクロセグメント (uSeg) EPG にある物理または仮想エンドポイントデバイスが相互に通信しないようにするオプションです。デフォルトでは、同じ EPG に含まれるエンドポイントデバイスは互いに通信することができます。しかし、EPG 内のエンドポイントデバイスの別のエンドポイント デバイスからの完全な分離が望ましい状況が存在します。たとえば、同じ EPG 内のエンドポイント VM が複数のテナントに属している場合、またはウイルスが広がるのを防ぐために、EPG 内の分離を実行することができます。

Cisco Application Centric Infrastructure (ACI) 仮想マシンマネージャ (VMM) ドメインは、EPG 内分離が有効になっている EPG ごとに、VMware VDS または Microsoft Hyper-V 仮想スイッチで分離 PVLAN ポート グループを作成します。ファブリック管理者がプライマリ カプセル化を指定するか、または EPG と VMM ドメインの関連付け時にファブリックが動的にプライマリ カプセル化を指定します。ファブリック管理者が VLAN pri 値と VLAN-sec 値を静的に選択すると、VMM ドメインによって VLAN-pri と VLAN-sec がドメインプール内のスタティック ブロックの一部であることが検証されます。

プライマリ カプセル化は、EPG VLAN ごとに定義されます。EPG 内分離にプライマリ カプセル化を使用するには、次のいずれかの方法で展開する必要があります。

- プライマリ VLAN とセカンダリ VLAN で定義されたポートを異なるスイッチに分離します。EPG VLAN はスイッチごとに作成されます。ポートカプセル化があり、EPG のスイッチ上のスタティック ポートのみの場合、プライマリ カプセル化は関連付けられません。
- ポートカプセル化のみを使用するスタティック ポートには別のカプセル化を使用します。これにより、プライマリカプセル化が関連付けられていない2番目の EPG VLAN が作成されます。

次の例では、プライマリ VLAN-1103 を持つ 2 つのインターフェイス (Eth1/1、Eth1/3) の出力トラフィックを考慮します。Eth1/1 ポート カプセル化が VLAN-1132 に (VLAN-1130 から) 変更されたため、Eth1/3 とセカンダリ VLAN を共有しません。

Port encap with VLAN-1130 on Eth1/1

Eth1/1: Port Encap only VLAN-1130

Eth1/6: Primary VLAN-1103 and Secondary VLAN-1130

fab2-leaf3# show vlan id 53 ext

VLAN Name	Encap	Ports
53 JT:jt-ap:EPG1-1	vlan-1130	Eth1/1, Eth1/3

module-1# show sys int eltmc info vlan access_encap_vlan 1130

```

vlan_id:          53  :::      isEpg:          1
bd_vlan_id:       52  :::      hwEpgId:         11278
srcpolicyincom:   0   :::      data_mode:       0
accencaptype:     0   :::      fabencaptype:    2
accencapval:    1130 :::      fabencapval:     12192
sclass:           49154 :::      sglabel:         12
sclassprio:       1   :::      floodmetptr:     13
maclearnen:       1   :::      iplearnen:       1
sclasslrnen:      1   :::      bypselfwdchk:    0
qosusetc:         0   :::      qosuseexp:       0
isolated:         1   :::      primary_encap: 1103
proxy_arp:        0   :::      qinq_core:       0
ivxlan_dl:        0   :::      dtag_mode:       0
is_service_epg:   0

```

Port encap changed to VLAN-1132 on Eth1/1

fab2-leaf3# show vlan id 62 ext

VLAN Name	Encap	Ports
62 JT:jt-ap:EPG1-1	vlan-1132	Eth1/1

module-1# show sys int eltmc info vlan access_encap_vlan 1132

```

[SDK Info]:
vlan_id:          62  :::      isEpg:          1
bd_vlan_id:       52  :::      hwEpgId:         11289
srcpolicyincom:   0   :::      data_mode:       0
accencaptype:     0   :::      fabencaptype:    2
accencapval:    1132 :::      fabencapval:     11224
sclass:           49154 :::      sglabel:         12
sclassprio:       1   :::      floodmetptr:     13
maclearnen:       1   :::      iplearnen:       1
sclasslrnen:      1   :::      bypselfwdchk:    0
qosusetc:         0   :::      qosuseexp:       0
isolated:         1   :::      primary_encap: 0
proxy_arp:        0   :::      qinq_core:       0
ivxlan_dl:        0   :::      dtag_mode:       0
is_service_epg:   0

```

fab2-leaf3# show vlan id 53 ext

VLAN Name	Encap	Ports
53 JT:jt-ap:EPG1-1	vlan-1130	Eth1/3

module-1# show sys int eltmc info vlan access_encap_vlan 1130

```

[SDK Info]:
vlan_id:          53  :::      isEpg:          1
bd_vlan_id:       52  :::      hwEpgId:         11278
srcpolicyincom:   0   :::      data_mode:       0
accencaptype:     0   :::      fabencaptype:    2

```

```

accencapval:          1130  :::  fabencapval:          12192
  sclass:             49154 :::  sglabel:              12
  sclassprio:         1     :::  floodmetptr:         13
  maclearnen:         1     :::  iplearnen:           1
  sclasslrnen:        1     :::  bypselffwdchk:       0
  qosusetc:           0     :::  qosuseexp:           0
  isolated:           1     :::  primary_encap:     1103
  proxy_arp:          0     :::  qinq core:           0
  ivxlan_dl:          0     :::  dtag_mode:           0

```



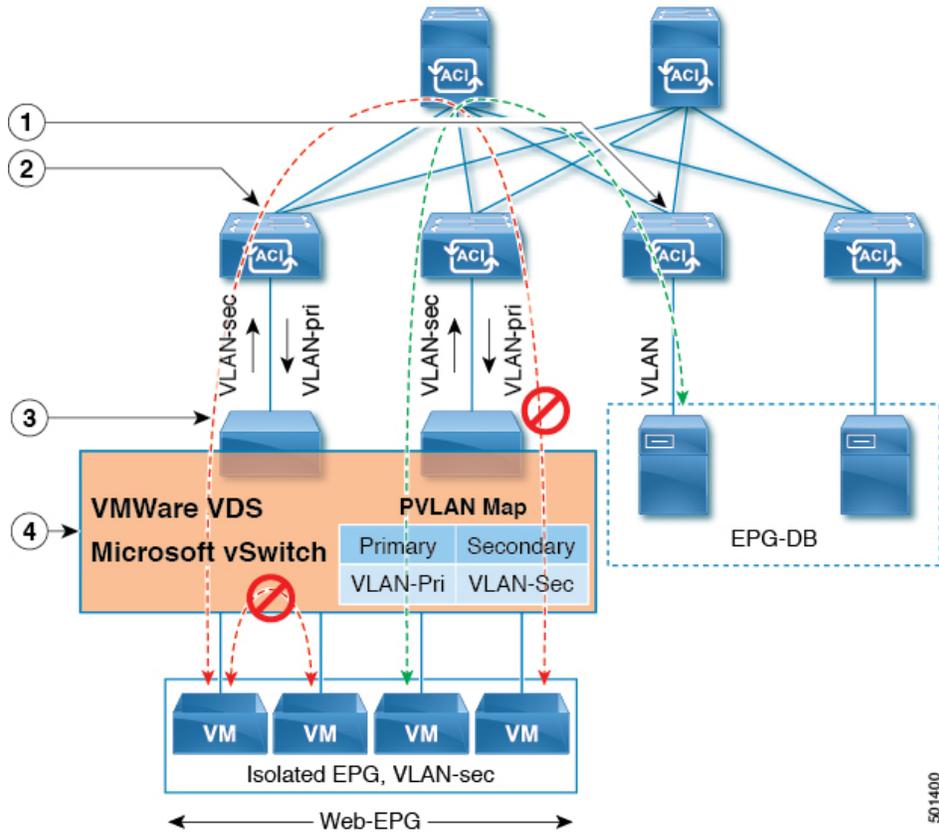
- (注)
- イントラ EPG 隔離が強制されない場合、設定で指定されていても VLAN-pri 値は無視されます。
 - EDM UCSM 統合を使用した VMware 分散仮想スイッチ (DVS) ドメインが失敗することがあります。ドメインに接続されているエンドポイント グループ (EPG) で EPG 内分離を設定し、プライベート VLAN をサポートしない UCSM Mini 6324 を使用すると、ドメインに障害が発生します。

BPDU は、EPG 内分離が有効になっている EPG を介して転送されません。したがって、Cisco ACI 上の独立した EPG にマッピングされている VLAN でスパニング ツリーを実行する外部レイヤ 2 ネットワークを接続すると、Cisco ACI は外部ネットワークのスパニング ツリーがレイヤ 2 ループを検出できなくなる可能性があります。この問題を回避するには、これらの VLAN 内の Cisco ACI と外部ネットワーク間に単一の論理リンクのみを設定します。

VMware VDS または Microsoft Hyper-V 仮想スイッチの VLAN-pri/VLAN-sec ペアは、EPG とドメインの関連付け中に VMM ドメインごとに選択されます。EPG 内隔離 EPG に作成されたポート グループは PVLAN に設定されたタイプでタグ付けされた VLAN-sec を使用します。VMware VDS または Microsoft Hyper-V 仮想スイッチおよびファブリックは、VLAN-pri/VLAN-sec カプセル化をスワップします。

- Cisco ACI ファブリックから VMware VDS または Microsoft Hyper-V 仮想スイッチへの通信は VLAN-pri を使用します。
- VMware VDS または Microsoft Hyper-V 仮想スイッチから Cisco ACI ファブリックへの通信は VLAN-sec を使用します。

図 15: VMware VDS または Microsoft Hyper-V 仮想スイッチの EPG 分離



501400

この図に関する次の詳細に注意してください。

1. EPG-DB は Cisco ACI リーフスイッチに VLAN トラフィックを送信します。Cisco ACI 出力リーフスイッチは、プライマリ VLAN (PVLAN) タグを使用してトラフィックをカプセル化し、Web-EPG エンドポイントに転送します。
2. VMware VDS または Microsoft Hyper-V 仮想スイッチは、VLAN-sec を使用して Cisco ACI リーフスイッチにトラフィックを送信します。Web-EPG 内のすべての VLAN 内トラフィックに対して分離が適用されるため、Cisco ACI リーフスイッチはすべての EPG 内トラフィックをドロップします。
3. Cisco ACI リーフスイッチへの VMware VDS または Microsoft Hyper-V 仮想スイッチ VLAN-sec アップリンクが分離トランクモードです。Cisco ACI リーフスイッチは、VMware VDS または Microsoft Hyper-V 仮想スイッチへのダウンリンクトラフィックに VLAN-pri を使用します。
4. PVLAN マップは、VMware VDS または Microsoft Hyper-V 仮想スイッチおよび Cisco ACI リーフスイッチで設定されます。Web-EPG からの VM トラフィックは VLAN-sec 内でカプセル化されます。VMware VDS または Microsoft Hyper-V 仮想スイッチは PVLAN タグに従ってローカルの Web 内 EPG VM トラフィックを拒否します。すべての内部 ESXi ホストまたは Microsoft Hyper-V ホスト VM トラフィックは、VLAN-Sec を使用して Cisco ACI リーフスイッチに送信されます。

GUI を使用した VMware VDS または Microsoft Hyper-V の EPG 内分離の設定

手順

ステップ 1 Cisco APIC にログインします。

ステップ 2 **Tenants** > *tenant* を選択します。

ステップ 3 左側のナビゲーション ウィンドウで、[アプリケーション プロファイル] フォルダと適切なアプリケーション プロファイルを展開します。

ステップ 4 **Application EPGs** フォルダを右クリックし、**Create Application EPG** を選択します。

ステップ 5 **Create Application EPG** ダイアログ ボックスで、次の手順を実行します:

- a) **Name** フィールドに EPG 名を追加します。
- b) **Intra EPG Isolation** エリアで、**Enforced** をクリックします。
- c) **Bridge Domain** フィールドで、ドロップダウン リストからブリッジ ドメインを選択します。
- d) EPG をベア メタル/物理ドメイン インターフェイスまたは VM ドメインに関連付けます。
 - VM ドメインの場合、[Associate to VM Domain Profiles] チェックボックスをオンにします。
 - ベア メタルの場合、[Statically Link with Leaves/Paths] チェックボックスをオンにします。
- e) [Next] をクリックします。
- f) **Associated VM Domain Profiles** エリアで、+ アイコンをクリックします。
- g) **Domain Profile** プロファイルのドロップダウン リストから、適切な VMM ドメインを選択します。

スタティックの場合、**Port Encap (or Secondary VLAN for Micro-Seg)** フィールドでセカンダリ VLAN を指定し、**Primary VLAN for Micro-Seg** フィールドで、プライマリ VLAN を指定します。Encap フィールドを空白のままにすると、値が動的に割り当てられます。

(注) スタティックの場合、スタティック VLAN を VLAN プールで使用できる必要があります。

ステップ 6 **Update** をクリックし、**Finish** をクリックします。

NX-OS スタイル CLI を使用した VMware VDS または Microsoft Hyper-V の EPG 内分離の設定

手順

ステップ 1 CLI で、EPG 内分離 EPG を作成します。

例：

次の例は VMware VDS の場合です：

```

apicl(config)# tenant Test_Isolation
apicl(config-tenant)# application PVLAN
apicl(config-tenant-app)# epg EPG1
apicl(config-tenant-app-epg)# show running-config
# Command: show running-config tenant Tenant_VMM application Web epg intraEPGDeny
tenant Tenant_VMM
  application Web
    epg intraEPGDeny
      bridge-domain member VMM_BD
      vmware-domain member PVLAN encap vlan-2001 primary-encap vlan-2002 push on-demand

      vmware-domain member mininet
    exit
  isolation enforce
  exit
exit
apicl(config-tenant-app-epg)#

```

例：

次の例は、Microsoft Hyper-V 仮想スイッチを示します。

```

apicl(config)# tenant Test_Isolation
apicl(config-tenant)# application PVLAN
apicl(config-tenant-app)# epg EPG1
apicl(config-tenant-app-epg)# show running-config
# Command: show running-config tenant Tenant_VMM application Web epg intraEPGDeny
tenant Tenant_VMM
  application Web
    epg intraEPGDeny
      bridge-domain member VMM_BD
      microsoft-domain member domain1 encap vlan-2003 primary-encap vlan-2004
      microsoft-domain member domain2
    exit
  isolation enforce
  exit
exit
apicl(config-tenant-app-epg)#

```

ステップ 2 設定を確認します。

例：

```

show epg StaticEPG detail
Application EPG Data:
Tenant                : Test_Isolation
Application           : PVLAN
AEPg                  : StaticEPG
BD                    : VMM_BD
uSeg EPG              : no
Intra EPG Isolation  : enforced
Vlan Domains         : VMM
Consumed Contracts    : VMware_vDS-Ext
Provided Contracts    : default, Isolate_EPG
Denied Contracts      :
Qos Class             : unspecified
Tag List              :
VMM Domains:

```

```

Domain          Type          Deployment Immediacy Resolution Immediacy State
  Encap          Primary
-----
DVS1            VMware      On Demand          immediate          formed
  auto          auto

Static Leaves:
Node           Encap          Deployment Immediacy Mode          Modification
Time
-----
Static Paths:
Node           Interface          Encap          Modification Time
-----
1018          eth101/1/1          vlan-100
2016-02-11T18:39:02.337-08:00
1019          eth1/16            vlan-101
2016-02-11T18:39:02.337-08:00

Static Endpoints:
Node           Interface          Encap          End Point MAC          End Point IP Address
Modification Time
-----
Dynamic Endpoints:
Encap: (P):Primary VLAN, (S):Secondary VLAN
Node           Interface          Encap          End Point MAC          End Point IP
Address          Modification Time
-----
1017          eth1/3            vlan-943 (P)          00:50:56:B3:64:C4    ---
                2016-02-17T18:35:32.224-08:00
                vlan-944 (S)

```

Cisco ACI 仮想エッジの EPG 内分離の設定

Cisco ACI Virtual Edge での EPG 内分離の適用

デフォルトでは、EPGに属するエンドポイントは契約が設定されていなくても相互に通信できます。ただし、相互に、EPG内のエンドポイントを特定できます。たとえば、EPG内でウイルスや他の問題を持つVMがEPGの他のVMに影響を及ぼすことがないように、エンドポイント分離を適用するのが望ましい場合があります。

アプリケーション内のすべてのエンドポイントに分離を設定することも、いずれにも設定しないこともできます。一部のエンドポイントに分離を設定し、他のエンドポイントに設定しない方法は使用できません。

EPG 内のエンドポイントを分離しても、エンドポイントが別の EPG 内のエンドポイントと通信できるようにするコントラクトには影響しません。



- (注) VLAN モードで Cisco ACI Virtual Edge ドメインと関連付けられている EPG での EPG 内分離の適用はサポートされていません。このような EPG で EPG 内の分離を適用しようとすると、エラーがトリガーされます。



- (注) Cisco ACI Virtual Edge マイクロセグメント (uSeg) EPG で EPG 内分離を使用することは現在のところサポートされていません。



- (注) VXLAN カプセル化を使用し、EPG 内分離が適用されている Cisco ACI Virtual Edge EPG では、プロキシ ARP はサポートされていません。従って、Cisco ACI Virtual Edge EPG 間で契約が設定されていても、EPG 内分離された EPG 間でサブネット間通信を行うことはできません。(VXLAN)。

GUI を使用した Cisco ACI Virtual Edge の EPG 内分離の設定

この手順に従って、EPG のエンドポイントが相互に分離されている EPG を作成します。

EPG が使用するポートは VM マネージャ (VMM) のいずれかに属している必要があります。



- (注) この手順は、EPG の作成時に EPG 内のエンドポイントを分離することを前提としています。既存の EPG 内のエンドポイントを分離するには、Cisco APIC 内の EPG を選択し、[Properties] ペインの [Intra EPG Isolation] 領域で [Enforced] を選択して [SUBMIT] をクリックします。

始める前に

VXLAN 関連の設定が Cisco ACI Virtual Edge VMM ドメインに存在すること、特に Cisco ACI Virtual Edge ファブリック全体のマルチキャストアドレスとマルチキャストアドレスのプール (EPG ごとに 1 つ) が存在することを確認します。

手順

ステップ 1 Cisco APIC にログインします。

ステップ 2 [Tenants] を選択してテナントのフォルダを展開し、[Application Profiles] フォルダを展開します。

ステップ 3 アプリケーションプロファイルを右クリックし、[Create Application EPG] を選択します。

ステップ 4 [Create Application EPG] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。

- a) [Name] フィールドに EPG 名を入力します。
- b) [Intra EPG Isolation] 領域で、[Enforced] をクリックします。
- c) [Bridge Domain] ドロップダウンリストから、ブリッジドメインを選択します。
- d) [Associate to VM Domain Profiles] チェックボックスをオンにします。
- e) [Next] をクリックします。
- f) **Associate VM Domain Profiles** エリアで、次の手順に従います:
 - + (プラス) アイコンをクリックし、**Domain Profile** ドロップダウンリストから、対象とする Cisco ACI Virtual Edge VMM ドメインを選択します。
 - **Switching Mode** ドロップダウンリストから、**AVE** を選択します。
 - **Encap Mode** ドロップダウンリストから **VXLAN** または **Auto** を選択します。
Auto を選択したら、Cisco ACI Virtual Edge VMM ドメインのカプセル化モードが VXLAN になっていることを確認します。
 - (オプション) セットアップに適した他の設定オプションを選択します。
- g) [Update] をクリックし、[Finish] をクリックします。

次のタスク

統計情報を選択して表示すると、エンドポイントが関与する問題の診断に役立ちます。このガイドの [\[Tenants\] タブの下で、Cisco ACI Virtual Edge の分離されたエンドポイントの統計情報を選択する \(72 ページ\)](#) と [\[Tenants\] タブの下で Cisco ACI Virtual Edge の分離されたエンドポイントの統計情報を表示する \(73 ページ\)](#) を参照してください。

[Tenants] タブの下で、Cisco ACI Virtual Edge の分離されたエンドポイントの統計情報を選択する

Cisco ACI Virtual Edge で EPG 内分離を設定した場合、拒否された接続数、受信パケット数、送信済みマルチキャストパケット数などのエンドポイントの統計情報を表示する前に、それらを選択する必要があります。その後、統計情報を表示できます。

手順

- ステップ 1 Cisco APIC にログインします。
- ステップ 2 [Tenants] > [tenant] の順に選択します。
- ステップ 3 テナントのナビゲーション ウィンドウで、**Application Profiles**、*profile*、および **Application EPGs** フォルダを展開し、表示するエンドポイント統計情報を含む EPG を選択します。
- ステップ 4 EPG の [Properties] 作業ペインで、[Operational] タブをクリックして EPG 内のエンドポイントを表示します。

- ステップ5 エンドポイントをダブルクリックします。
- ステップ6 エンドポイントの [Properties] ダイアログボックスで、[Stats] タブをクリックし、チェックアイコンをクリックします。
- ステップ7 **Select Stats** ダイアログボックスの **Available** ペインで、エンドポイントについて表示する統計情報を選択し、右向き矢印を使用してそれらの情報を **Selected** ペインに移動します。
- ステップ8 [Submit] をクリックします。

[Tenants] タブの下で Cisco ACI Virtual Edge の分離されたエンドポイントの統計情報を表示する

Cisco ACI Virtual Edge で EPG 内分離を設定していた場合には、エンドポイントの統計情報を選択すると、確認することができるようになります。

始める前に

分離エンドポイントについて表示する統計情報を選択しておく必要があります。手順については、このガイドの [\[Tenants\] タブの下で、Cisco ACI Virtual Edge の分離されたエンドポイントの統計情報を選択する \(72 ページ\)](#) を参照してください。

手順

- ステップ1 Cisco APIC にログインします。
- ステップ2 [Tenants] > [tenant] の順に選択します。
- ステップ3 テナントのナビゲーションウィンドウで、**Application Profiles**、*profile*、および **Application EPGs** フォルダを展開し、表示の必要な統計情報があるエンドポイントを含んでいる EPG を選択します。
- ステップ4 EPG の [Properties] 作業ペインで、[Operational] タブをクリックして EPG 内のエンドポイントを表示します。
- ステップ5 統計情報を表示するエンドポイントをダブルクリックします。
- ステップ6 エンドポイントの **Properties** 作業ウィンドウで、**Stats** タブをクリックします。

作業ウィンドウに、先ほど選択した統計情報が表示されます。作業ウィンドウの左上で、テーブルビューアイコンやチャートビューアイコンをクリックして、ビューを変更できます。

[Virtual Networking] タブの下で、Cisco ACI Virtual Edge の分離されたエンドポイントの統計情報を選択する

Cisco ACI Virtual Edge で EPG 内分離を設定した場合、拒否された接続数、受信パケット数、送信済みマルチキャストパケット数などのエンドポイントの統計情報を表示する前に、それらを選択する必要があります。その後、統計情報を表示できます。

手順

- ステップ 1 Cisco APIC にログインします。
 - ステップ 2 **Virtual Networking > Inventory > VMM Domains > VMware > VMM domain > Controllers > controller instance name > DVS-VMM name > Portgroups > EPG name > Learned Point MAC address (node) >** を選択します。
 - ステップ 3 [Stats] タブをクリックします。
 - ステップ 4 チェック マークが付いたタブをクリックします。
 - ステップ 5 **Select Stats** ダイアログボックスで、表示する統計情報を **Available** ペインでクリックし、右向き矢印をクリックして、それらを **Selected** ペインに移動します。
 - ステップ 6 (オプション) サンプルング間隔を選択します。
 - ステップ 7 [Submit] をクリックします。
-

[Virtual Networking] タブで Cisco ACI Virtual Edge の分離エンドポイント統計情報を表示する

Cisco ACI Virtual Edge で EPG 内分離を設定していた場合には、エンドポイントの統計情報を選択すると、確認することができるようになります。

始める前に

分離エンドポイントについて表示する統計情報を選択しておく必要があります。手順については、このガイドの [\[Tenants\] タブの下で、Cisco ACI Virtual Edge の分離されたエンドポイントの統計情報を選択する \(72 ページ\)](#) を参照してください。

手順

- ステップ 1 Cisco APIC にログインします。
 - ステップ 2 **Virtual Networking > Inventory > VMM Domains > VMware > VMM name > Controllers > controller instance name > DVS-VMM name > Portgroups > EPG name > Learned Point MAC address (node)** を選択します。
 - ステップ 3 [Stats] タブをクリックします。
中央のウィンドウに、先ほど選択した統計情報を表示します。作業ウィンドウの左上で、テーブルビュー アイコンやチャート ビュー アイコンをクリックして、ビューを変更できます。
-

NX-OS スタイルの CLI を使用した Cisco ACI Virtual Edge の EPG 内分離の設定

始める前に

VXLAN に関連する設定に存在するかどうかを確認します Cisco ACI Virtual Edge VMM ドメイン、特に、Cisco ACI Virtual Edge ファブリック全体のマルチキャストアドレスと (EPG ごとに 1 つ) のマルチキャストアドレスのプール。

手順

CLI で、EPG 内分離 EPG を作成します。

例：

```
# Command: show running-config tenant Tenant2 application AP-1 epg EPG-61
tenant Tenant2
  application AP-1
    epg EPG-61
      bridge-domain member BD-61
      vmware-domain member D-AVE-SITE-2-3
      switching-mode AVE
      encap-mode vxlan
      exit
    isolation enforce # This enables EPG into isolation mode.
  exit
exit
exit
exit
```

次のタスク

統計情報を選択して表示すると、エンドポイントが関与する問題の診断に役立ちます。このガイドの [\[Tenants\] タブの下で、Cisco ACI Virtual Edge の分離されたエンドポイントの統計情報を選択する \(72 ページ\)](#) と [\[Tenants\] タブの下で Cisco ACI Virtual Edge の分離されたエンドポイントの統計情報を表示する \(73 ページ\)](#) を参照してください。

トラブルシューティング

エンドポイント接続のトラブルシューティング

手順

ステップ 1 各エンドポイントの動作ステータスを調べます。

動作ステータスにはエンドポイントのエラーや設定ミスが示されます。詳細は、

[エンドポイントステータスの検査 \(76 ページ\)](#) を

ステップ2 トンネル インターフェイスのステータスを調べます。

動作ステータスにはトンネルのエラーや設定ミスが示されます。「[トンネルインターフェイスステータスの検査 \(77 ページ\)](#)」を参照してください。

ステップ3 エンドポイント グループ (EPG) 間で `traceroute` を実行します。

トレースルートでは、スパインノードなどの中間ノード、およびエンドポイント間の問題が明らかになります。「[エンドポイント間での traceroute の実行 \(78 ページ\)](#)」を参照してください。

ステップ4 エンドポイントのアトミック カウンタを構成します。

アトミック カウンタは、発信元エンドポイントがパケットを送信しているか、また送信先エンドポイントがパケットを受信しているか、そして受信されたパケット数が送信されたパケット数に等しいかどうかを確認します。「[アトミック カウンタの構成 \(79 ページ\)](#)」を参照してください。

ステップ5 各 EPG でコントラクトを調べます。

各 EPG でのコントラクトを調べ、EPG 間でのトラフィックの流れが許可されているかを確認します。テストとして一時的にコントラクトを開き、無制限のトラフィックを許可することができます。

ステップ6 発信元パケットをモニタリング ノードに転送するようにスパン ポリシーを構成します。

モニタリング ノードのパケット アナライザが誤ったアドレスやプロトコルなどのパケットの問題を示します。「[Cisco APIC GUI を使用したテナント SPAN セッションの設定 \(80 ページ\)](#)」を参照してください。

エンドポイント ステータスの検査

手順

ステップ1 メニュー バーで、[Tenants] をクリックします。

ステップ2 サブメニュー バーで、送信元エンドポイントを含むテナントをクリックします。

ステップ3 [ナビゲーション (Navigation)] ペインでテナントを拡張し、[アプリケーション プロファイル (Application Profiles)] を拡張して、エンドポイントが含まれるアプリケーション プロファイルを拡張します。

ステップ4 [アプリケーション EPG (Application EPGs)] を展開し、確認する EPG をクリックします。

ステップ5 [作業 (Work)] ペインで、[エンドポイント (Endpoint)] テーブルのエンドポイントのリストから送信元エンドポイントをダブルクリックし、[クライアント エンドポイント (Client End Point)] ダイアログボックスを開きます。

- ステップ 6** [クライアント エンド ポイント (Client End Point)] ダイアログボックスで、エンドポイントのプロパティを確認し、[操作性 (Operational)] タブをクリックします。
- ステップ 7** [操作性 (Operational)] タブで、健全性、ステータスおよび障害情報を表示します。
[ステータス (Status)] テーブルで、変更、イベント、またはエラーなどのエントリがある項目をクリックします。
- ステップ 8** [クライアント エンド ポイント (Client End Point)] ダイアログボックスを閉じます。
- ステップ 9** [エンドポイント (Endpoint)] テーブルでエンドポイントの [インターフェイス (Interface)] エントリを表示し、ノードとトンネル ID をメモに記録します。
- ステップ 10** 送信先エンドポイントでこの手順を繰り返します。

(注) ファブリック内の2つのリーフスイッチの背後に展開された2つのマイクロセグメント EPG の IP アドレス間で、双方向のトラフィックが中断されることがあります。これは、マイクロセグメント EPG からベース EPG への構成変更により、IP アドレスが移行しているときに発生する可能性があります。または逆に、双方向トラフィックの実行中に2つの異なるリーフスイッチで同時に発生する可能性があります。この場合、各リモート エンドポイントのポリシー タグは引き続き以前の EPG を指します。

回避策：スイッチのリモート エンドポイントを手動でクリアするか、リモート エンドポイントが期限切れになるのを待ちます。エンドポイントをクリアするには、各スイッチの CLI にログオンし、適切なオプションを指定して **clear system internal epm endpoint** コマンドを入力します。たとえば、エンドポイントが IP アドレスに基づいている場合は、**clear system internal epm endpoint key vrf vrf_name {ip | ipv6} ip-address** と入力します。その後、エンドポイントは正しいポリシー タグで再学習されます。

トンネル インターフェイス ステータスの検査

この手順では、トンネル インターフェイスの動作ステータスを調べる方法を示します。

手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[Fabric] をクリックします。
- ステップ 2** サブメニュー バーで、[Inventory] をクリックします。
- ステップ 3** [ナビゲーション (Navigation)] ペインでポッドを拡張し、発信元エンドポイント インターフェイスのノード ID を拡張します。
- ステップ 4** ノードの下で [インターフェイス (Interfaces)] を拡張し、[トンネル インターフェイス (Tunnel Interfaces)] を拡張して、発信元エンドポイント インターフェイス のトンネル ID をクリックします。
- ステップ 5** [作業 (Work)] ペインで、トンネル インターフェイスのプロパティを確認し、[操作 (Operational)] タブをクリックします。

- ステップ6 [操作性 (Operational)] タブで、健全性、ステータスおよび障害情報を表示します。
[ステータス (Status)] テーブルで、変更、イベント、またはエラーなどのエントリがある項目をクリックします。
- ステップ7 送信先エンドポイント インターフェイスでこの手順を繰り返します。

エンドポイント間での traceroute の実行

手順

- ステップ1 メニューバーで、[Tenants] をクリックします。
- ステップ2 サブメニューバーで、送信元エンドポイントを含むテナントをクリックします。
- ステップ3 [ナビゲーション] ペインでテナントを展開し、[ポリシー]>[トラブルシューティング] を展開します。
- ステップ4 [Troubleshoot] で次のトレースルート ポリシーのいずれかを右クリックします。
- [Endpoint-to-Endpoint Traceroute Policies] を右クリックして [Create Endpoint-to-Endpoint Traceroute Policy] を選択する
 - [Endpoint-to-External-IP Traceroute Policies] を右クリックして [Create Endpoint-to-External-IP Traceroute Policy] を選択する
 - [External-IP-to-Endpoint Traceroute Policies] を右クリックして [Create External-IP-to-Endpoint Traceroute Policy] を選択する
 - [External-IP-to-External-IP Traceroute Policies] を右クリックして [Create External-IP-to-External-IP Traceroute Policy] を選択する
- ステップ5 ダイアログボックスのフィールドに適切な値を入力し、[Submit] をクリックします。
- (注) フィールドの説明については、ダイアログボックスの右上隅にあるヘルプアイコン ([?]) をクリックしてください。
- ステップ6 [Navigation] ペインまたは [Traceroute Policies] テーブルで、traceroute ポリシーをクリックします。
トレースルート ポリシーが [Work] ペインに表示されます。
- ステップ7 [Work] ペインで [Operational] タブをクリックし、[Source Endpoints] タブ、[Results] タブの順にクリックします。
- ステップ8 [Traceroute Results] テーブルで、追跡に使用された単数または複数のパスを確認します。

- (注)
- 複数のパスが、送信元ノードから宛先ノードへの移動に使用されている場合があります。
 - **[Name]** 列など、1 つまたは複数の列の幅を広げると確認しやすくなります。

アトミックカウンタの構成

手順

- ステップ 1** メニューバーで、**[Tenants]** をクリックします。
- ステップ 2** サブメニューバーで、必要なテナントをクリックします。
- ステップ 3** **Navigation** ウィンドウで、テナントを展開し、**Policies** を展開し、それから **Troubleshoot** を展開します。
- ステップ 4** **Troubleshoot** の下で、**Atomic Counter Policy** を展開し、トラフィック トポロジを選択します。エンドポイントの組み合わせ、エンドポイント グループ、外部インターフェイスおよび IP アドレス間のトラフィックを測定できます。
- ステップ 5** 必要なトポロジを右クリックして、**Add topology Policy** を選択し、**Add Policy** ダイアログボックスを開きます。
- ステップ 6** **[Add Policy]** ダイアログボックスで、次の操作を実行します。
- a) **[Name]** フィールドにポリシーの名前を入力します。
 - b) トラフィックの送信元の識別情報を選択するか、入力します。
必要な識別情報のソース（エンドポイント、エンドポイントのグループ、外部インターフェイス、または IP アドレス）によって異なります。
 - c) トラフィックの宛先の識別情報を選択するか、入力します。
 - d) （任意）（任意）**[Filters]** テーブルで+アイコンをクリックし、カウントするトラフィックのフィルタリングを指定します。
表示される **[Create Atomic Counter Filter]** ダイアログボックスで、IP プロトコル番号（たとえば TCP=6）によるフィルタリング、および送信元と宛先の IP ポート番号によるフィルタリングを指定できます。
 - e) **[Submit]** をクリックし、アトミックカウンタ ポリシーを保存します。
- ステップ 7** **[Navigation]** ペインで、選択したトポロジの下の新しいアトミックカウンタ ポリシーを選択します。
ポリシー設定が **[Work]** ペインに表示されます。
- ステップ 8** **[Work]** ペインで **[Operational]** タブをクリックし、**[Traffic]** サブタブをクリックして、アトミックカウンタの統計情報を表示します。

Cisco APIC GUI を使用したテナント SPAN セッションの設定

SPAN は、スイッチまたはテナントで設定できます。このセクションでは、Cisco APIC GUI を使用して、複製された送信元パケットをリモートトラフィックアナライザに転送するようにテナントの SPAN ポリシーを設定する方法について説明します。設定手順では、1 つ以上の GUI ダイアログボックスのフィールドに値を入力する必要があります。フィールドを理解し、有効な値を決定するには、ダイアログボックスの右上隅にあるヘルプアイコン (?) をクリックしてヘルプファイルを表示します。

手順

-
- ステップ 1 メニューバーで、[Tenants] をクリックします。
 - ステップ 2 サブメニューバーで、送信元エンドポイントを含むテナントをクリックします。
 - ステップ 3 [ナビゲーション (Navigation)] ペインでテナントを展開し、[ポリシー (Policies)] > [トラブルシューティング (Troubleshooting)] を展開して、> [SPAN] を展開します。
[SPAN] に表示される 2 つのノード: [SPAN 宛先グループ (SPAN Destination Groups)] と [SPAN 送信元グループ (SPAN Source Groups)]。
 - ステップ 4 [ナビゲーション (Navigation)] の下で [SPAN 送信元グループ (SPAN Source Groups)] を右クリックし、[SPAN 送信元グループの作成 (Create SPAN Source Group)] を選択します。
[Create SPAN Source Group] ダイアログが表示されます。
 - ステップ 5 [SPAN 送信元グループの作成 (Create SPAN Source Group)] ダイアログボックスの必須フィールドに適切な値を入力します。
 - ステップ 6 [送信元の作成 (Create Sources)] テーブルを展開し、[SPAN 送信元の作成] ダイアログボックスを開きます。
 - ステップ 7 [SPAN 送信元の作成 (Create SPAN Source)] ダイアログボックスのフィールドに適切な値を入力します。
 - ステップ 8 SPAN 送信元の作成が完了したら、[OK] をクリックします。
[SPAN 送信元グループの作成 (Create VRF)] ダイアログボックスに戻ります。
 - ステップ 9 [リモート場所の作成 (Create Remote Location)] ダイアログのフィールドに値を入力したら、[送信 (Submit)] をクリックします。
-

次のタスク

SPAN 送信先のトラフィックアナライザを使用して、SPAN 送信元 EPG からのデータパケットを観察し、パケット形式、アドレス、プロトコルおよびその他の情報を確認できます。

IP bエース EPG 構成の確認

作成できるエンドポイントグループ (EPG) には、アプリケーション EPG と IP ベースの EPG の 2 種類があります。IP ベースの EPG は、マイクロセグメント EPG であるという点で通常のアプリケーション EPG とは異なります。この章では、GUI またはスイッチ コマンドを使用して、IP ベースの EPG 構成が IP ベースとして正しく分類されていることを確認する方法について説明します。

この章は、次の項で構成されています。

GUI を使用した IP ベースの EPG 構成の確認

この手順では、GUI および Visore ツールを使用して IP ベースの EPG が正しく構成されていることを確認する方法について説明します。

手順

- ステップ 1** 作成した IP ベースの EPG が GUI の **uSeg EPGs** フォルダの下に表示されていることを確認します (次のスクリーンキャプチャを参照)。
REST API を使用して作成された「IP」という名前の uSeg EPG の下にリストされている 1 つの IP ベースの EPG があることに注意してください。
- ステップ 2** 各 EPG IP (IP ベースの EPG) の EPG - IP プロパティ画面 (右側のウィンドウ ペイン) で情報が正しいことを確認します。
画面の下部に表示される IP ベースの EPG と IP アドレスのリストに注意してください。
- ステップ 3** Web ブラウザから、APIC の IP アドレスに続けて「/visore.html」を入力します。Visore は、EPG など、システム内のすべてのオブジェクトを表示できるツールです。Visore を使用して、IP ベースの EPG が正しく構成されていることを確認できます。Visore の詳細については、『アプリケーション ポリシー インフラストラクチャ コントローラ Visore ツールの紹介』を参照してください。
- ステップ 4** ユーザー名とパスワードを入力し、[ログイン (Login)] をクリックします。
- ステップ 5** クラスまたは DN の隣のフィールド (たとえば、「fvAEPg」) にクラスの名前を入力して、GUI で確認した IP ベースの EPG のクエリを実行します。

(注) これは、APIC の観点からのビューです。上記の「示されるオブジェクトの総数 (Total objects shown)」が「3」であることがわかります。これは、スイッチにダウンロードされた 3 つの EPG があることを意味します。以前 GUI に「IP」としてリストされていた IP ベースの EPG が、「dn」の隣に表示されていることがわかります。また、「isAttrBasedEPg」の横に「yes」と表示されていることにも注意してください。これは、これが IP ベースの EPG として適切に構成されたことを意味します。アプリケーション EPG と IP ベースの EPG の両方を含む、すべてのオブジェクトが Visore を使用して正常に設定されていることを確認できます。

- ステップ 6** スイッチ側から見た図です。スイッチで、fvEpP クラスのクエリを実行して EPG を表示し、「crtrmEnabled」属性を確認できます。IP ベースの EPG の場合は「yes」に設定されます。この EPG の下で、EPG の子が IP アドレスとともに表示されていることを確認して、適切な構成を確保します。構成された IP アドレスごとに、スイッチがトラフィックの分類に使用する 1 つのオブジェクト（「I3IpCktEp」という名前）があります。構成が完了すると、パケットが到着すると、スイッチはこれらのオブジェクトを使用して分類します。
- ステップ 7** 構成したすべてのエンドポイントと IP アドレスの pcTag が一致することを確認します。すべての EPG には pcTag があります。構成した IP アドレスと一致するすべてのエンドポイントは、この pcTag に分類されます。すべてのエンドポイントには、クラス クエリを実行できる IP アドレスがあります。トラブルシューティングを行うときは、これらのエンドポイント（サーバー）がこの IP ベースの EPG に正しく分類されているかどうかを確認する必要があります。（pcTags は IP ベースの EPG に一致する必要があります。）

スイッチ コマンドを使用した IP-EPG 構成の確認

この手順では、スイッチ コマンドを使用して IP-EPG (「IpCkt」) 構成定を確認する方法について説明します。

手順

- ステップ 1** リーフにログインします。
- ステップ 2** /mit/sys ディレクトリに移動します。
- ステップ 3** /mit/sys ディレクトリで、ctx (vrf コンテキスト ディレクトリ) を見つけます。
- ステップ 4** VRF cts ディレクトリで、IpCkt が構成されている特定の BD ディレクトリに移動します。IpCkt が表示されます。
- (注) 「IpCkt」と「IP-EPG」は、このドキュメントでは同じ意味で使用されます。
- ステップ 5** ディレクトリに移動すると、「猫の概要」に IpCkt に関する情報が表示されます。
- ステップ 6** サマリーの「operSt」に「サポートされていない」と表示されていないことを確認してください。
- ステップ 7** IpCkt が構成されている BD に対応する VLAN ID を見つけます。
- (注) VLAN ID は、**show vlan internal bd-info** コマンドのいずれか、または **show system internal epm vlan all** コマンドで見つけることができます。
- ステップ 8** BD の VLAN ID を見つけたら、**show system internal epm <vlan-id> detail** を発行します。ここで、特定の sclass で構成されたすべての IpCkts を表示できるはずですが、(/mit/sys ディレクトリに表示されるものと一致する必要があります。)
- ステップ 9** vsh で実行した手順を vsh_lc に対して繰り返します。

- ステップ 10** BD の IpCtk に一致する IP を使用して、**show system internal epm endp ip <a.b.c.d>** を介してトラフィックを送信します。学習した IP に「sclass」の IP フラグと特定の sclass 値があることを確認できます。
- ステップ 11** vsh で実行した手順を vsh_lc に対して繰り返します。

この手順で使用するスイッチ トラブルシューティング コマンドのリスト:

```
Cd /mits/sys/ctx-vxlan.../bd-vxlan...
  - cat summary
Vsh -c "show system internal epm vlan all" or
Vsh -c "show vlan internal bd-info"
Vsh -c "show system internal epm vlan <vlan-id> detail"
Vsh -c "show system internal epm endp ip <a.b.c.d>"
Vsh_lc -c "show system internal epm vlan all" or
Vsh_lc -c "show vlan internal bd-info"
Vsh_lc -c "show system internal epm vlan <vlan-id> detail"
vsh_lc -c "show system internal epm endp ip <a.b.c.d>"
vsh_lc -c "show system internal epm epq"
```




第 7 章

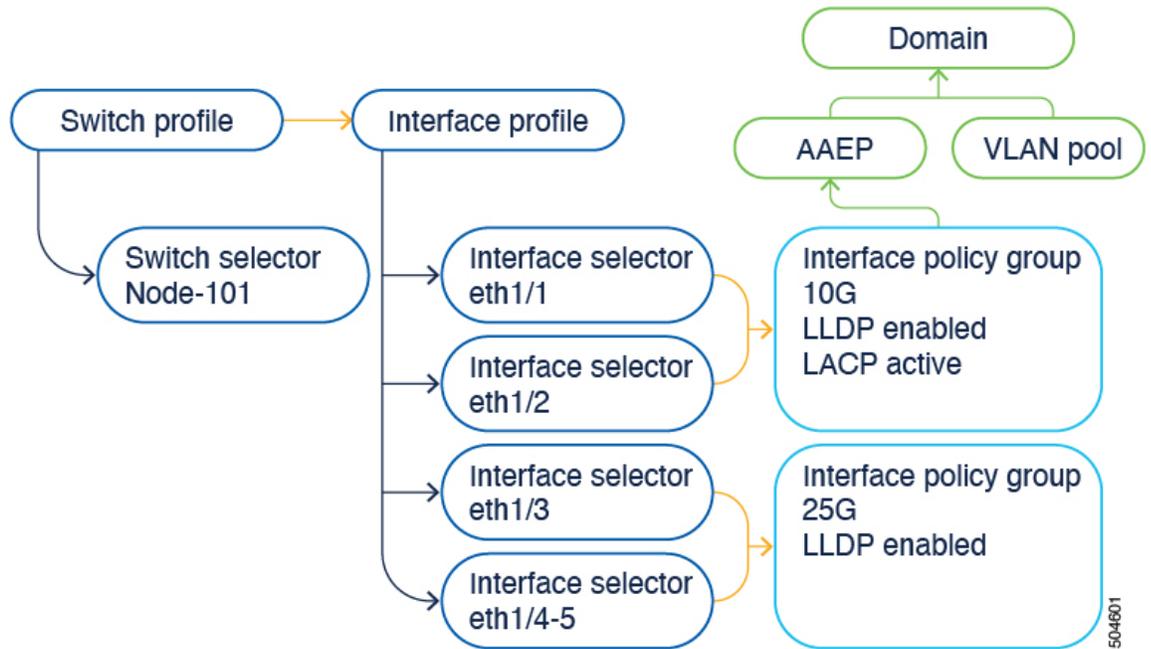
アクセス インターフェイス

- [アクセス インターフェイスについて \(85 ページ\)](#)
- [物理ポートの構成 \(88 ページ\)](#)
- [ポート チャネル \(97 ページ\)](#)
- [Cisco ACI の仮想ポート チャネル \(107 ページ\)](#)
- [リフレクティブ リレー \(802.1Qbg\) \(125 ページ\)](#)
- [FEX デバイスへのポート、PC、および vPC 接続の設定 \(128 ページ\)](#)
- [ポート プロファイルの設定 \(133 ページ\)](#)
- [インターフェイス構成の編集 \(147 ページ\)](#)

アクセス インターフェイスについて

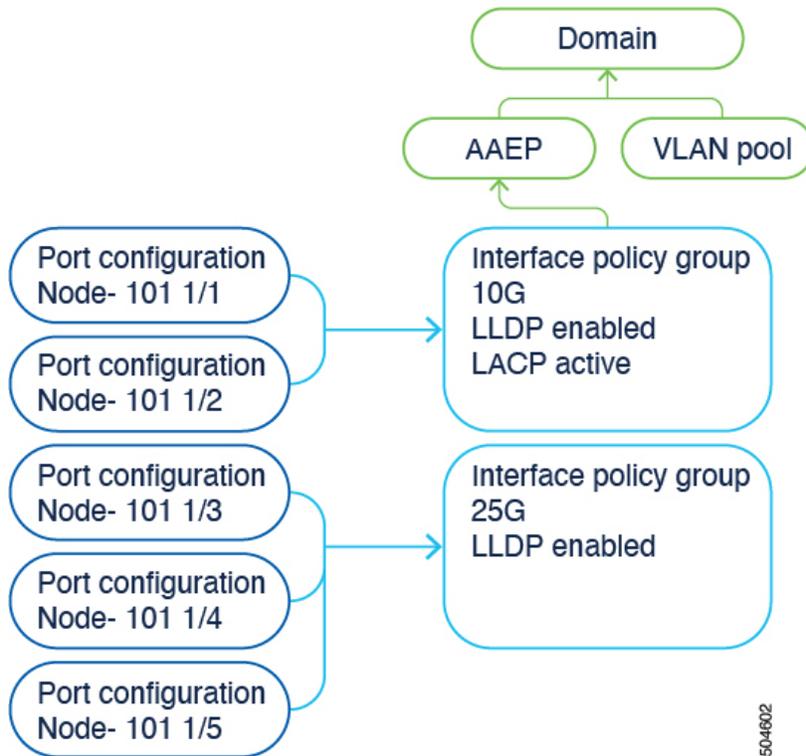
Cisco Application Centric Infrastructure (ACI) では、インターフェイス ポリシー グループ (インターフェイス速度やリンク層検出プロトコル (LLDP) などのインターフェイス ポリシーのグループ) をスイッチ ノード上のインターフェイスに関連付けることによって、インターフェイス構成を実行します。Cisco ACI は、4つのオブジェクト (スイッチ プロファイル、スイッチ セレクタ、インターフェイス プロファイル、およびインターフェイス セレクタ) を使用して、特定のスイッチ ノード上の特定のインターフェイスを選択します。本書では、この動作モードを「プロファイルとセレクタの構成」と呼びます。次の図で、この構成について説明します：

図 16: プロファイルとセレクタに基づくインターフェイス構成



Cisco ACI 6.0 (1) リリースでは、インターフェイス構成を簡素化する「ポート単位の構成」構成オプション（「インターフェイス構成」または `infraPortConfig` とも呼ばれます。後者がこの構成のオブジェクト名です）が追加されています。このオプションは、4つのオブジェクトを1つのオブジェクトとして表示し、このオブジェクトでスイッチノード上のインターフェイスを指定します。その結果、スイッチプロファイル、スイッチセレクタ、インターフェイスプロファイル、およびインターフェイスセレクタを個別に使用したり、維持したりする必要はありません。

図 17: ポート単位の構成



Cisco Application Policy Infrastructure Controller (APIC) GUI で次の方法でポート単位の設定にアクセスできます。

- [ファブリック (Fabric)] > [アクセスポリシー (Access Policies)] > [インターフェイスの構成 (Interfaces Configuration)]
- [ファブリック (Fabric)] > [アクセスポリシー (Access Policies)] > [クイック スタート (Quick Start)] > [インターフェイスの構成 (Interfaces Configuration)]
- [ファブリック (Fabric)] > [インベントリ (Inventory)] > [pod_ID] > [switch_name] > [インターフェイス (Interface)] タブ > [インターフェイスの構成 (Configure Interfaces)]

Cisco APIC GUI の以前と同じ場所で、スイッチプロファイルとセレクタ、およびインターフェイスプロファイルとセレクタを使用してスイッチを構成できます：

- [ファブリック (Fabric)] > [アクセス ポリシー (Access Policies)] > [スイッチ (Switches)] > [リーフスイッチ (Leaf Switches)] > [プロファイル (Profiles)]
- [ファブリック (Fabric)] > [アクセス ポリシー (Access Policies)] > [スイッチ (Switches)] > [スパインスイッチ (Spine Switches)] > [プロファイル (Profiles)]
- [ファブリック (Fabric)] > [アクセス ポリシー (Access Policies)] > [インターフェイス (Interfaces)] > [リーフインターフェイス (Leaf Interfaces)] > [プロファイル (Profiles)]
- [ファブリック (Fabric)] > [アクセス ポリシー (Access Policies)] > [インターフェイス (Interfaces)] > [スパインインターフェイス (Spine Interfaces)] > [プロファイル (Profiles)]

ただし、ポート単位の構成を使用することを推奨します。

インターフェイス構成オプションを使用する場合、Cisco APICは、できるだけ少ない読み取り専用のオブジェクトで済ませられるような方法で、スイッチプロファイルとセクタ、およびインターフェイスプロファイルとセクタを作成して維持します。たとえば、2つの連続するポートを同じように構成すると、Cisco APICは構成内に範囲を自動的に作成します。ポートは個別に構成するため、これらの最適化について心配する必要はありません。Cisco APICが適切に処理します。Cisco APICが自動的に作成するこれらのオブジェクトは「システム生成プロファイル」と呼ばれます。ユーザーが管理する必要はありません。

システムによって生成されたプロファイルは、GUIの[ファブリック (Fabric)]>[アクセスポリシー (Access Policies)]>[インターフェイス (Interfaces)]>[{リーフ|スパイン}{スイッチ|インターフェイス}]>[{Leaf|Spine}{Switches|Interfaces}]>[Profiles (プロファイル)]の下に、ユーザー定義プロファイルとともに表示されます。

インターフェイス構成オプションを使用してインターフェイスを構成するとき、以前にプロファイルとセクタを使用してインターフェイスを設定していた場合には、Cisco APICは既存のプロファイルからインターフェイスを自動的に削除し、インターフェイスをシステム生成プロファイルにシームレスに移動します。既存のスイッチおよびインターフェイスプロファイルに他のインターフェイスが含まれている場合、Cisco APICはそれらを削除しません。従来の方法でそれらを使用し続けることができます。既存のプロファイルにインターフェイスが含まれていない場合、Cisco APICは不要になったプロファイルを自動的に削除します。

マルチノードセクタを使用してインターフェイスをすでに構成していた場合、つまり、複数のリーフスイッチを持つプロファイルにポートセクタを割り当てていた場合は、Cisco APICのマルチノードセクタに属する各ノードに同じインターフェイスを同時に構成して、それらのノードを既存のプロファイルから自動的に削除する必要があります。そうしないと、検証の失敗によって移行がブロックされます。

物理ポートの構成

Cisco Application Centric Infrastructure (ACI) リーフスイッチインターフェイスを構成するには、複数の方法があります：

- セクタとプロファイルベースの構成モデルを使用します。[ファブリック (Fabric)]>[アクセスポリシー (Access Policies)]>[スイッチ (Switches)]>[リーフスイッチ (Leaf Switches)]>[プロファイル (Profiles)]から、リーフノードを選択するためのリーフセクタおよび関連付けられたインターフェイスプロファイルを構成できます。これにより、インターフェイスプロファイル ([ファブリック (Fabric)]>[アクセスポリシー (Access Policies)]>[インターフェイス (Interfaces)]>[リーフインターフェイス (Leaf Interfaces)]>[プロファイル (Profiles)]) を選択します。そしてこれは、1つ以上のインターフェイスを選択して、インターフェイスポリシーグループに関連付けます。
- Cisco Application Policy Infrastructure Controller (APIC) 5.2(7) リリース以降のインターフェイス構成を使用して行います。[ファブリック (Fabric)]>[アクセスポリシー (Access Policies)]>[インターフェイスの構成 (Interfaces Configuration)]に移動します。この構

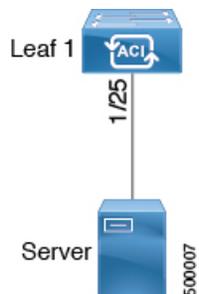
成オプションは、構成手順の数を 4 回から 1 回に減らすことで、構成ワークフローを簡素化します。

- [ファブリック (Fabric)]>[インベントリ (Inventory)]>[*pod_ID*]>[*switch_name*]からのインベントリ ビューを用いて行います。Cisco APIC 5.2(7) リリース以降、インベントリ ビューの構成でもインターフェイスの構成を使用します。
- [ファブリック (Fabric)]>[アクセス ポリシー (Access Policies)]>[クイック スタート (Quick Start)]ウィザードを用いて行います。Cisco APIC 5.2(7) リリース以降、インベントリ ビューの構成でもインターフェイスの構成を使用します。

リリース 5.2(7) 以降の GUI を使用したインターフェイス設定モデルを使用したリーフ スイッチ物理ポートの設定

リリース 5.2(7) 以降において、[ファブリック (Fabric)]>[アクセス ポリシー (Access Policies)]>[クイック スタート (Quick Start)]>[インターフェイスの構成 (Configure Interfaces)]または[ファブリック (Fabric)]>[アクセス ポリシー (Access Policies)]>[インターフェイスの構成 (Interface Configuration)]ページのいずれかで、サーバーを、ポートチャネルを持つCisco Application Centric Infrastructure (ACI) リーフ スイッチ インターフェイスに接続します。手順は、Cisco ACI リーフ スイッチ インターフェイスに他の種類のデバイスを接続する場合と同じになります。

図 18: ベア メタル サーバのスイッチ インターフェイス設定



始める前に

- Cisco ACI ファブリックが設置され、Cisco Application Policy Infrastructure Controller (APIC) がオンラインになっており、Cisco APIC クラスタが形成されて正常に動作していること。
- 必要なファブリック インフラストラクチャ構成を作成できる Cisco APIC ファブリック 管理者アカウントが使用可能であること。
- ターゲットリーフ スイッチが Cisco ACI ファブリックに登録され、使用可能であること。

手順

-
- ステップ 1** メニューバーで、[ファブリック (FABRIC)] > [アクセス ポリシー (Access Policies)] の順に選択します。
- ステップ 2** ナビゲーション ペインで [クイック スタート (Quick Start)] [インターフェイスの構成 (Interface Configuration)] を選択します。
- ステップ 3** 作業ペインで、[クイックスタート (Quick Start)] ウィザードの [インターフェイスの構成 (Configure Interfaces)] をクリックし、[インターフェイスの構成 (Configure Interfaces)] をクリックするか、または [インターフェイス構成 (Interface Configuration)] の 作業ペインで、[アクション (Actions)] > [インターフェイスの構成 (Configure Interfaces)] をクリックします。
- ステップ 4** [インターフェイスの設定 (Configure Interfaces)] ダイアログで、以下のアクションを実行します。
- [ノードタイプ (Node Type)] で、[リーフ (Leaf)] をクリックします。
 - [ポートタイプ (Port Type)] で、[アクセス (Access)] をクリックします。
 - [インターフェイスタイプ (Interface Type)] で、目的のタイプを選択します。
 - [インターフェイス集約タイプ (Interface Aggregation Type)] で、[個別 (Individual)] を選択します。
 - [ノード (Node)] で、[ノードの選択 (Select Node)] をクリックし、目的のスイッチ (ノード) のボックスにチェックを入れ、[OK] をクリックします。複数のスイッチを選択できます。
 - [すべてのスイッチのインターフェイス (Interfaces For All Switches)] で、目的のインターフェイスの範囲を入力します。
 - [リーフアクセスポートポリシーグループ (Leaf Access Port Policy Group)] の場合は、[リーフアクセスポートポリシーグループの選択 (Select Leaf Access Port Policy Group)] をクリックします。
 - [リーフアクセスポートポリシーグループの選択 (Select Leaf Access Port Policy Group)] ダイアログで、[リーフアクセスポートポリシーグループの作成 (Create Leaf Access Port Policy Group)] をクリックします。
- インターフェイスポリシーグループは、選択したスイッチのインターフェイスに適用するインターフェイス ポリシーのグループを指定する名前付きポリシーです。インターフェイス ポリシーの例は、リンクレベルのポリシー (たとえば、1 gbit のポート速度)、ストーム制御インターフェイス ポリシーなどです。
- [リーフアクセスポートポリシーグループの作成 (Create Leaf Access Port Policy Group)] ダイアログで、目的のポリシーを選択または作成します。
 - [保存 (Save)] をクリックします。
-

次のタスク

これで、基本リーフ スイッチ インターフェイスの設定手順は完了しました。



- (注) この設定はハードウェア接続を有効にしますが、このハードウェア設定に関連付けられた有効なアプリケーションプロファイル、EPG、およびコントラクトがないと、データトラフィックはフローできません。

セレクトタおよびプロファイルからのインターフェイスから GUI を使用したインターフェイス構成への移行

この手順を使用して、既存のインターフェイスの構成を、セレクトタベースおよびプロファイルベースのモデルから、インターフェイス構成モデルに変換できます。



- (注) Cisco Application Policy Infrastructure Controller (APIC) は、アクティブなポリシーグループオーバーライドの設定されたインターフェイスを自動的に移行しません。これらのポートは手動で移行する必要があります。

手順

- ステップ 1** メニューバーで、[ファブリック (FABRIC)] > [アクセス ポリシー (Access Policies)] の順に選択します。
- ステップ 2** ナビゲーションペインで[インターフェイスの設定 (Interface Configuration)]を選択します。
- ステップ 3** テーブルで、移行するインターフェイスを選択し、右側にある3つのドットをクリックします。
- ステップ 4** ポップアップメニューで、[インターフェイス構成の編集 (Edit Interface Configuration)]を選択します。

次のメッセージが表示されます。

このインターフェイスは、インターフェイス セレクトタを使用して構成されています。インターフェイスを構成する新しい方法に移行することをお勧めします。[保存 (Save)] をクリックすると、このインターフェイスは移行されます。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。

Cisco APIC は、インターフェイスを新しい構成モデルに変換します。
- ステップ 6** Cisco APIC のリリースと目的に応じて、次のサブステップのセットのいずれかを実行します。
単一のインターフェイスを移行するには、次の手順を実行します。
 - a) テーブルで、移行するインターフェイスを選択し、右側にある3つのドットをクリックします。
 - b) ポップアップメニューで、[インターフェイス構成の編集 (Edit Interface Configuration)]を選択します。

次のメッセージが表示されます。

このインターフェイスは、インターフェイス セレクタを使用して構成されています。インターフェイスを構成する新しい方法に移行することをお勧めします。[保存 (Save)] をクリックすると、このインターフェイスは移行されます。

- c) [保存 (Save)] をクリックします。

Cisco APIC は、インターフェイスを新しい構成モデルに変換します。

6.0(2) 以降のリリースでは、は、セレクタベースおよびプロファイルベースのモデルに基づく既存の設定をインターフェイス設定モデルに移行するタスクを簡素化します。Cisco APIC 複数のノードを選択することで、ノードのすべてのポートのセレクタベースの構成を移行できます。この機能は、セレクタが複数のノードにまたがる場合に役立ちます。複数のインターフェイスを移行するには、次の手順を実行します。

- a) テーブルで、移行するインターフェイスを選択します。
b) [アクション (Actions)] > [インターフェイスの構成 (Configure Interfaces)] をクリックします。

次のメッセージが表示されます。

このインターフェイスは、インターフェイス セレクタを使用して構成されています。インターフェイスを構成する新しい方法に移行することをお勧めします。[保存 (Save)] をクリックすると、このインターフェイスは移行されます。

- c) [保存 (Save)] をクリックします。

Cisco APIC は、インターフェイスを新しい構成モデルに変換します。

GUI を使用したインターフェイス構成の変更

インターフェイスの構成は、次のように変更できます。

手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[ファブリック (FABRIC)] > [アクセス ポリシー (Access Policies)] の順に選択します。
- ステップ 2 ナビゲーション ペインで [インターフェイスの設定 (Interface Configuration)] を選択します。
- ステップ 3 テーブルで、移行するインターフェイスを選択し、右側にある 3 つのドットをクリックします。
- ステップ 4 ポップアップ メニューで、[インターフェイス構成の編集 (Edit Interface Configuration)] を選択します。

このインターフェイスに関連付けられているポリシーグループを示すウィンドウが表示されます。

- ステップ5 既存のポリシーグループがある場合は、グループの横にある **x** をクリックして削除できます。
- ステップ6 [リーフ アクセス ポート ポリシー グループの選択 (Select Leaf Access Port Policy Group)] をクリックして、新しいポリシーグループを割り当てます。
- ステップ7 既存のポリシーグループを選択するか、[リーフ アクセス ポート ポリシー グループの作成 (Create Leaf Access Port Policy Group)] をクリックして新しいポリシーグループを作成します。
- ステップ8 [保存 (Save)] をクリックします。

GUIを使用したインターフェイス構成の表示

Cisco Application Policy Infrastructure Controller (APIC) GUI は、インターフェイスがセレクトタとプロファイルモデルを使用して構成されているか、インターフェイス構成モデルを使用して構成されているかに関係なく、インターフェイス構成の統合ビューを表示します。

[ファブリック (Fabric)] > [アクセス ポリシー (Access Policies)] > [インターフェイス構成 (Interface Configuration)] を選択し、右側のテーブルに移動して、すべてのリーフ ノードとインターフェイスを表示します。

リーフ ノードをクリックすると、管理状態、TEP の IP アドレス、ID 番号、ハードウェア モデル、シリアル番号、ソフトウェア バージョンなどのリーフ ノードの情報が表示されます。

インターフェイスをクリックすると、インターフェイスの情報が表示されます。このビューは「インフラ ポート サマリー」と呼ばれます。右上の中央のアイコンをクリックすると、インターフェイスの情報が全画面表示されます。全画面表示には、[概要 (Overview)]、[操作 (Operational)]、[展開済み EPG (Deployed EPGs)]、[VLAN (VLANs)]、[統計 (Statistics)]、[QoS 統計 (QoS stats)]、および [イベント分析 (Event Analytics)] という追加情報を表示するタブが含まれています。この全画面表示を閉じるには、右上の **[x]** をクリックします。

特定のインターフェイスのポリシーグループ名をクリックすると、802.1X 構成、アタッチ可能なエンティティ プロファイル、CDP 構成、LLDP 構成などのポリシーグループに関する情報が表示されます。

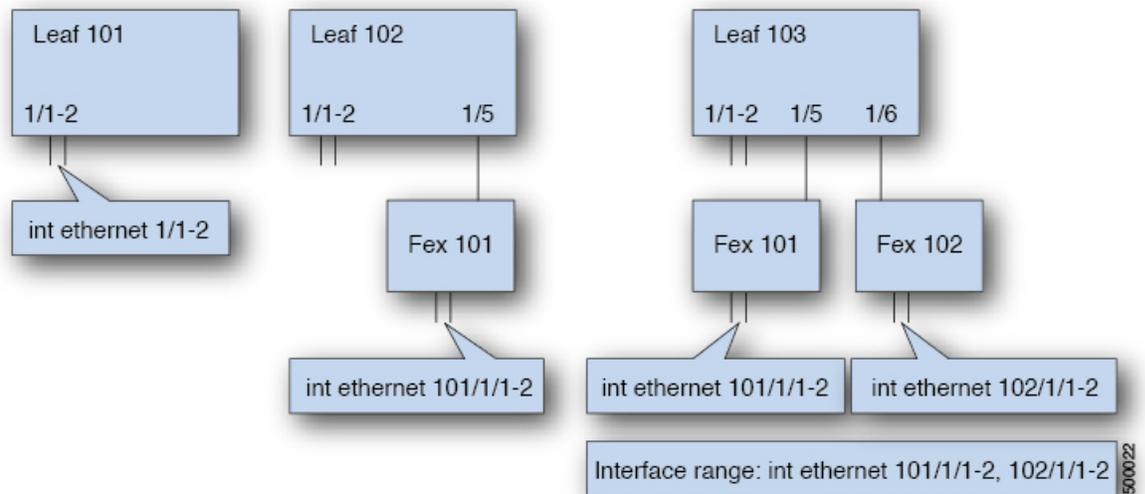
NX-OS CLI を使用したリーフ ノードおよび FEX デバイス上の物理ポートの設定

次の例のコマンドは、REST API/SDK および GUI と完全な互換性がある Cisco Application Centric Infrastructure (ACI) ポリシー モデルで、多数の管理対象オブジェクトを作成します。いずれにせよ、CLI ユーザーは Cisco ACI モデル内部ではなく、意図したネットワーク設定に注力できます。

図 19: Cisco ACI のリーフ ノードポートと FEX ポートの例 (94 ページ) に、リーフ ノードに直接接続されたイーサネットポート、またはリーフ ノードに接続された FEX モジュールの例と、CLI でそれぞれがどのように表示されるのかを示します。FEX ポートでは、*fex-id* はポート自体の名前に **ethernet 101/1/1** として含まれます。インターフェイス範囲を記述する際は、

ethernet キーワードを NX-OS で繰り返す必要はありません。例：**interface ethernet 101/1/1-2, 102/1/1-2**。

図 19: Cisco ACI のリーフノードポートと FEX ポートの例



- リーフノードの ID 番号はグローバルです。
- *fex-id* 番号は各リーフノードでローカルです。
- キーワード **ethernet** の後のスペースに注意してください。

手順

ステップ 1 **configure**

グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。

例：

```
apic1# configure
```

ステップ 2 **leaf node-id**

構成するリーフノードを指定します。*node-id* には、設定の適用対象となる単一のノード ID、または ID の範囲を *node-id1-node-id2* という形式で指定できます。

例：

```
apic1(config)# leaf 102
```

ステップ 3 **interface type**

設定するインターフェイスを指定します。インターフェイスタイプと ID を指定できます。イーサネットポートの場合は、「ethernet slot / port」を使用します。

例：

```
apicl(config-leaf)# interface ethernet 1/2
```

ステップ 4 (任意) `fex associate node-id`

設定するインターフェイスが FEX インターフェイスの場合、このコマンドを使用して、設定前に FEX モジュールをリーフノードに接続する必要があります。

(注) この手順は、FEX ポートを使用してポートチャネルを作成する前に行う必要があります。

例：

```
apicl(config-leaf-if)# fex associate 101
```

ステップ 5 `speed speed`

ここでの速度設定は一例です。ここでは、以下の表に示す任意のインターフェイス設定を設定できます。

例：

```
apicl(config-leaf-if)# speed 10G
```

次の表に、この時点で構成できるインターフェイス設定を示します。

コマンド	目的
[no] shut	物理インターフェイスをシャットダウンします
[no] speed <i>speedValue</i>	物理インターフェイスの速度を設定します
[no] link debounce time <i>time</i>	リンク でバウンスを設定します
[no] negotiate auto	ネゴシエートを設定します
[no] cdp enable	Cisco Discovery Protocol (CDP) を無効または有効にします
[no] mcp enable	Mis-Cabling Protocol (MCP) を無効または有効にします
[no] lldp transmit	物理インターフェイスの送信を設定します
[no] lldp receive	物理インターフェイスの LLDP 受信を設定します
spanning-tree {bpduguard bpdufilter} {enable disable}	スパンニング ツリー BPDU を設定します
[no] storm-control level <i>percentage</i> [burst-rate <i>percentage</i>]	ストーム制御 (パーセント) を設定します

コマンド	目的
<code>[no] storm-control pps <i>packets-per-second</i> burst-rate <i>packets-per-second</i></code>	ストーム制御（秒当たりのパケット）を設定します

例

リーフ ノードに 1 つのポートを設定します。次に、プロパティ `speed`、`cdp`、および `admin state` についてリーフ 101 のインターフェイス `eth1/2` を設定する例を示します。

```
apic1# configure
apic1(config)# leaf 101
apic1(config-leaf)# interface ethernet 1/2
apic1(config-leaf-if)# speed 10G
apic1(config-leaf-if)# cdp enable
apic1(config-leaf-if)# no shut
```

複数のリーフ ノードの複数のポートを設定します。次に、リーフ ノード 101 ~ 103 のそれぞれのインターフェイス `eth1/1-10` での速度設定の例を示します。

```
apic1(config)# leaf 101-103
apic1(config-leaf)# interface eth 1/1-10
apic1(config-leaf-if)# speed 10G
```

リーフ ノードに FEX を接続します。次に、リーフ ノードに FEX モジュールを接続する例を示します。NX-OS とは異なり、リーフ ノードポート `Eth1/5` は暗黙的にファブリック ポートとして構成され、FEX ファブリック ポートチャンネルは FEX アップリンク ポートで内部的に作成されます。Cisco ACI では、FEX ファブリック ポートチャンネルはデフォルト構成を使用します。ユーザー構成は使用できません。



(注) 次の例に示すように、この手順は FEX ポートを使用してポートチャンネルを作成する前に行う必要があります。

```
apic1(config)# leaf 102
apic1(config-leaf)# interface eth 1/5
apic1(config-leaf-if)# fex associate 101
```

リーフ ノードに接続した FEX ポートを設定します。次に、リーフ ノード 102 ~ 103 のそれぞれに接続した FEX モジュール 101 のインターフェイス `eth1/1-10` での速度設定の例を示します。FEX ID 101 はポート ID に含まれています。FEX ID は 101 から始まり、リーフ ノードに対してローカルです。

```
apic1(config)# leaf 102-103
apic1(config-leaf)# interface eth 101/1/1-10
apic1(config-leaf-if)# speed 1G
```

ポートチャネル

PC/vPC ホストロードバランシングアルゴリズム

次の表に、Cisco Application Centric Infrastructure (ACI) リーフノードダウンリンクにわたるポートチャネルロードバランシングで使用されるデフォルトのハッシュアルゴリズムと対称ハッシュアルゴリズムオプションを示します。対称ハッシュアルゴリズムオプションは、Cisco Application Policy Infrastructure Controller (APIC) リリース 2.3(1e) で導入されました。

表 4: PC/vPC ホストロードバランシングアルゴリズム

Traffic Type	データポイントのハッシュ
エンドホスト PC/vPC (デフォルト)	<p>レイヤ2トラフィック用：</p> <ul style="list-style-type: none"> 送信元 MAC アドレス 宛先 MAC アドレス セグメント ID (VXLAN VNID) または VLAN ID <p>IP トラフィックの場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> 送信元 MAC アドレス 宛先 MAC アドレス 送信元 IP アドレス 宛先 IP アドレス プロトコルタイプ 送信元レイヤ4ポート 宛先レイヤ4ポート セグメント ID (VXLAN VNID) または VLAN ID
PC 対称ハッシュ (構成可能)	<p>オプションを選択する：</p> <ul style="list-style-type: none"> 送信元 IP アドレス 宛先 IP アドレス 送信元レイヤ4ポート 宛先レイヤ4ポート



(注) 同じリーフ ノードで SIP/DIP/L4-src-port/L4-dest-port タイプを混在させないでください。次に例を示します。

以下はサポートされています。

- Po1 : SIP のみで対称ハッシュを有効にします。
- Po2 : 対称ハッシュを有効にしません。デフォルトのハッシュを使用します。

以下はサポートされていません。

- Po1 : SIP のみで対称ハッシュを有効にします。
- Po2 : DIP のみで対称ハッシュを有効にします。

対称ハッシュは、次のスイッチではサポートされていません。

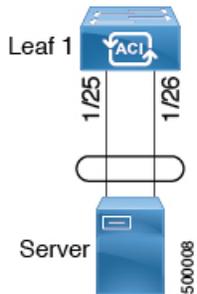
- Cisco Nexus 93128TX
- Cisco Nexus 9372PX
- Cisco Nexus 9372PX-E
- Cisco Nexus 9372TX
- Cisco Nexus 9372TX-E
- Cisco Nexus 9396PX
- Cisco Nexus 9396TX

ポートチャネルハッシュアルゴリズムは、個々のリーフ ノードに個別に適用されます。アルゴリズムは、vPC ペアのリーフ ノードへのロード バランシングなど、ファブリック内のロード バランシングには影響しません。したがって、対称 EtherChannel ハッシュ機能は、vPC の場合にエンドツーエンドのトラフィックの対称性を保証しません。

GUI を使用した ACI リーフ スイッチのポート チャネルの構成

この手順では、[ファブリック (Fabric)] > [アクセス ポリシー (Access Policies)] > [クイック スタート (Quick Start)] > [インターフェイスの構成 (Interface Configuration)] または [ファブリック (Fabric)] > [アクセス ポリシー (Access Policies)] > [インターフェイス構成 (Interface Configuration)] ページを使用して、ポート チャネルを使用して Cisco Application Centric Infrastructure (ACI) リーフ スイッチ インターフェイスにサーバーを接続します。手順は、Cisco ACI リーフ スイッチ インターフェイスに他の種類のデバイスを接続する場合と同じになります。

図 20: スイッチポートチャネル設定



始める前に

- Cisco ACI ファブリックが設置され、APIC コントローラがオンラインになっており、APIC クラスタが形成されて正常に動作していること。
- 必要なファブリック インフラストラクチャ設定を作成できる APIC ファブリック管理者アカウントが使用可能であること。
- ターゲットリーフスイッチが Cisco ACI ファブリックに登録され、使用可能であること。

手順

-
- ステップ 1** メニューバーで、[ファブリック (FABRIC)] > [アクセス ポリシー (Access Policies)] の順に選択します。
- ステップ 2** 次のいずれかの方法を使用して、[インターフェイスの構成 (Configure Interfaces)] ダイアログを開きます。
- 方法 1:
- a) [ナビゲーション (Navigation)] ペインで、[クイックスタート (Quick Start)] をクリックします。
 - b) [作業 (Work)] ペインで、[インターフェイスの設定 (Configure Interfaces)] をクリックします。
- 方法 2:
- a) ナビゲーション ペインで [インターフェイスの設定 (Interface Configuration)] を選択します。
 - b) 作業ペインで、[アクション (Actions)] > [インターフェイスの設定 (Configure Interfaces)] をクリックします。
- ステップ 3** [インターフェイスの設定 (Configure Interfaces)] ダイアログで、以下のアクションを実行します。
- a) [ノードタイプ (Node Type)] で、[リーフ (Leaf)] をクリックします。
 - b) [ポートタイプ (Port Type)] で、[アクセス (Access)] をクリックします。
 - c) [インターフェイスタイプ (Interface Type)] で、目的のタイプを選択します。

- d) [インターフェイス集約タイプ (Interface Aggregation Type)] で、[PC] を選択します。
- e) [ノード (Node)] で、[ノードの選択 (Select Node)] をクリックし、目的のスイッチ (ノード) のボックスにチェックを入れ、[OK] をクリックします。
- f) [すべてのスイッチのインターフェイス (Interfaces For All Switches)] で、目的のインターフェイスの範囲を入力します。
- g) [PC/vPC インターフェイス ポリシー グループ (PC/vPC Interface Policy Group)] で、[PC/vPC インターフェイス ポリシー グループの選択 (Select PC/vPC Interface Policy Group)] をクリックし、既存のポートチャネル ポリシー グループを選択するか、新規に作成します。
- h) [ポートチャネル メンバー ポリシー (Port Channel Member Policy)] で、[ポートチャネル メンバー ポリシーの選択 (Select Port Channel Member Policy)] をクリックし、既存のポートチャネル メンバー ポリシーを選択するか、新規に作成します。
- i) [PC/vPC インターフェイス ポリシー グループの選択 (Select PC/vPC Interface Policy Group)] ダイアログで、既存のポリシー グループを選択するか、[PC/vPC インターフェイス ポリシー グループの作成 (Create PC/vPC Interface Policy Group)] をクリックして新しいポリシー グループを作成します。
- j) [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

これで、ポート チャネルの設定手順は完了しました。



- (注) この設定はハードウェア接続を有効にしますが、このハードウェア設定に関連付けられた有効なアプリケーション プロファイル、EPG、およびコントラクトがないと、データ トラフィックはフローできません。

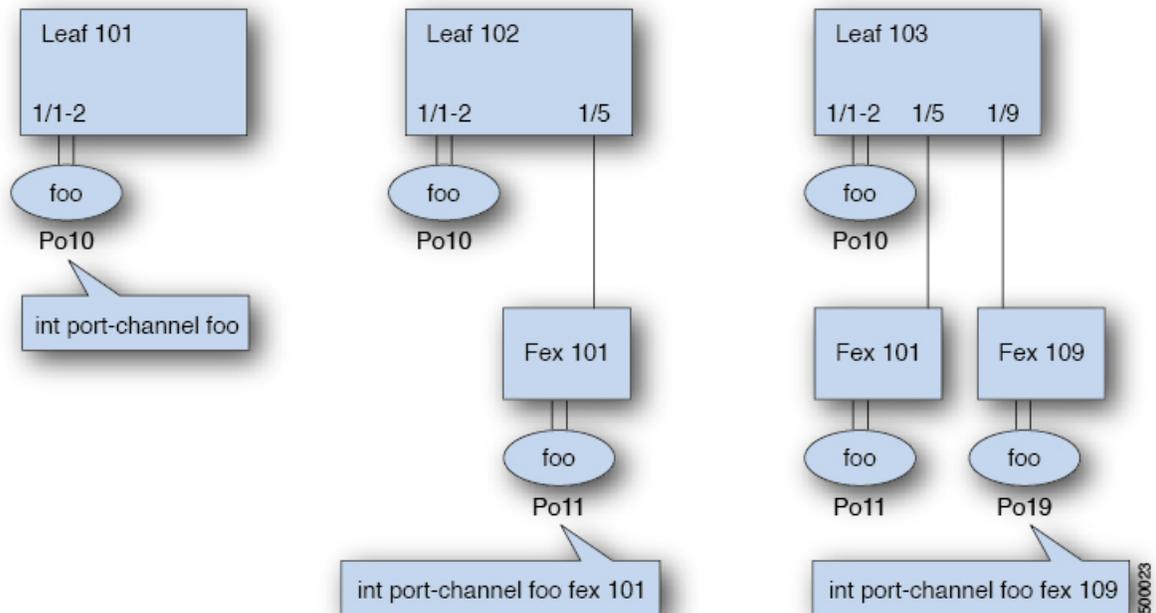
NX-OS CLI を使用したリーフ ノードおよび FEX デバイスのポートチャネルの設定

ポートチャネルは NX-OS の論理インターフェイスです。これは、複数の物理ポートのために帯域幅を集約するとともに、リンク障害時の冗長性を確保する目的でも使用されます。NX-OS におけるポートチャネルインターフェイスは、ノード内では一意となる、1 ~ 4096 の範囲でユーザが指定した番号によって識別されます。ポートチャネルインターフェイスは、(**interface port-channel** コマンドを使用して) 明示的に構成するか、または (**channel-group** コマンドを使用して) 暗黙的に作成します。ポートチャネルインターフェイスの構成は、ポートチャネルのすべてのメンバーポートに適用されます。特定の互換性パラメータ (速度など) は、メンバーポートでは設定できません。

ACI モデルでは、ポートチャネルは論理エンティティとして設定され、1 つ以上のリーフノードでポートセットに割り当てられるポリシーのコレクションを表す名前によって識別されます。このような割り当てによって各リーフノードにポートチャネルインターフェイスが 1 個

作成されます。これは、リーフノード内の 1 ~ 4096 の範囲で自動生成される番号によって識別されます。同じポートチャネル名を持つノード間で、番号を同じにすることも、別にすることもできます。これらのポートチャネルのメンバーシップは、同じでも異なってもかまいません。FEX ポート上にポートチャネルを作成するときには、同じポートチャネル名を使用して、リーフノードに接続されている各 FEX デバイスに対して 1 つのポートチャネルインターフェイスを作成することができます。したがって、N 個の FEX モジュールに接続されている各リーフノードには最大で N+1 個の一意のポートチャネルインターフェイス（自動生成されるポートチャネル番号で識別される）を作成できます。これは以下の例で説明します。FEX ポートのポートチャネルは、*fex-id* とポートチャネル名を指定することによって識別されます（例：**interface port-channel foo fex 101**）。

図 21:リーフスイッチと FEX ポートのポートチャネルの例



- 各リーフが N 個の FEX ノードに接続されているときは、ポートチャネル foo のリーフごとに N+1 個のインスタンスが可能です。
- リーフポートおよび FEX ポートを同じポートチャネルインスタンスの一部にすることはできません。
- 各 FEX ノードはポートチャネル foo のインスタンスを 1 つだけ持つことができます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure 例 :	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
	<code>apicl# configure</code>	
ステップ 2	template port-channel <i>channel-name</i> 例 : <pre>apicl(config)# template port-channel foo</pre>	新しいポートチャネルを作成するか、既存のポートチャネルを構成します（グローバル構成）。
ステップ 3	[no] switchport access vlan <i>vlan-id</i> tenant <i>tenant-name</i> application <i>application-name</i> epg <i>epg-name</i> 例 : <pre>apicl(config-po-ch-if)# switchport access vlan 4 tenant ExampleCorp application Web epg webEpg</pre>	ポートチャネルが関連付けられるすべてのポート上に VLAN を持つ EPG を展開します。
ステップ 4	channel-mode active 例 : <pre>apicl(config-po-ch-if)# channel-mode active</pre> <p>(注) 対称ハッシュを有効にするには、lACP symmetric-hash コマンドを入力します。</p> <pre>apicl(config-po-ch-if)# lACP symmetric-hash</pre>	<p>(注) channel-mode コマンドは、NX-OS の channel-group コマンドの mode オプションに相当します。ただし、ACI ではこれは（メンバーポートではなく）ポートチャネルでサポートされます。</p> <p>対称ハッシュは、次のスイッチではサポートされていません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Nexus 93128TX • Cisco Nexus 9372PX • Cisco Nexus 9372PX-E • Cisco Nexus 9372TX • Cisco Nexus 9372TX-E • Cisco Nexus 9396PX • Cisco Nexus 9396TX
ステップ 5	exit 例 : <pre>apicl(config-po-ch-if)# exit</pre>	設定モードに戻ります。
ステップ 6	leaf <i>node-id</i> 例 : <pre>apicl(config)# leaf 101</pre>	設定するリーフスイッチを指定します。 node-id には、設定の適用対象となる単一のノード ID、または ID の範囲を node-id1-node-id2 という形式で指定できます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 7	interface <i>type</i> 例： apic1(config-leaf)# interface ethernet 1/1-2	ポートチャネルに構成するインターフェイスまたはインターフェイスの範囲を指定します。
ステップ 8	[no] channel-group <i>channel-name</i> 例： apic1(config-leaf-if)# channel-group foo	インターフェイスまたはインターフェイスの範囲をポートチャネルに割り当てます。ポートチャネルからインターフェイスを削除するには、キーワード no を使用します。インターフェイス上からポートチャネルの割り当てを変更する場合は、以前のポートチャネルからインターフェイスを先に削除しなくても、 channel-group コマンドを入力することができます。
ステップ 9	(任意) lACP port-priority <i>priority</i> 例： apic1(config-leaf-if)# lACP port-priority 1000 apic1(config-leaf-if)# lACP rate fast	この設定とその他のポート単位の LACP プロパティは、この時点でポートチャネルのメンバーポートに適用できます。 (注) ACI モデルでは、これらのコマンドはポートがポートチャネルのメンバーになった後でのみ使用できます。ポートがポートチャネルから削除された場合、これらのポート単位のプロパティの設定も削除されます。

次の表に、ACI モデルでポートチャネルプロパティのグローバルコンフィギュレーションを行うためのさまざまなコマンドを示します。これらのコマンドは、(config-leaf-if) CLI モードで特定のリーフのポートチャネルのオーバーライドを設定するためにも使用できます。ポートチャネル上から行った構成は、すべてのメンバーポートに適用されます。

CLI 構文	機能
[no] speed <speedValue>	ポートチャネルの速度の設定
[no] link debounce time <time>	ポートチャネルのリンクデバウンスの設定
[no] negotiate auto	ポートチャネルのネゴシエートの構成
[no] cdp enable	ポートチャネルの CDP の無効化または有効化
[no] mcp enable	ポートチャネルの MCP の無効化または有効化

CLI 構文	機能
[no] lldp transmit	ポート チャネルの送信の設定
[no] lldp receive	ポート チャネルの LLDP 受信の設定
spanning-tree <bpduguard bpdufilter> <enable disable>	スパニング ツリー BPDU を設定します
[no] storm-control level <percentage> [burst-rate <percentage>]	ストーム制御（パーセント）を設定します
[no] storm-control pps <packet-per-second> burst-rate <packets-per-second>	ストーム制御（秒当たりのパケット）を設定します
[no] channel-mode { active passive on mac-pinning }	ポート チャネルのリンクの LACP モード
[no] lacp min-links <value>	リンクの最小数を設定します
[no] lacp max-links <value>	リンクの最大数を設定します
[no] lacp fast-select-hot-standby	ホットスタンバイ ポートの LACP 高速セレクトを設定します
[no] lacp graceful-convergence	LACP グレースフル コンバージェンスを設定します
[no] lacp load-defer	LACP ロード遅延メンバー ポートを設定します
[no] lacp suspend-individual	LACP 個別ポートの中断を設定します
[no] lacp port-priority	LACP ポート プライオリティ
[no] lacp rate	LACP レートを設定します

例

ポート チャネル（グローバル コンフィギュレーション）を設定します。速度およびチャネル モードの 2 つの設定を含むポリシーのコレクションを表す論理エンティティ「foo」を作成します。必要に応じてより多くのプロパティを設定できます。



(注) channel mode コマンドは、NX-OS の channel group コマンドの mode オプションに相当します。ただし、ACI ではこれは（メンバー ポートではなく）ポート チャネルでサポートされます。

```

apicl(config)# template port-channel foo
apicl(config-po-ch-if) # switchport access vlan 4 tenant ExampleCorp application Web epg
webEpg
apicl(config-po-ch-if) # speed 10G
apicl(config-po-ch-if) # channel-mode active

```

FEX のポート チャネルにポートを構成します。この例では、ポート チャネル foo はリーフ ノード 102 に接続されている FEX 101 のポート イーサネット 1/1-2 に割り当てられ、ポート チャネル foo のインスタンスを作成します。リーフ ノードは番号（例えば 1002）を自動生成し、スイッチのポート チャネルを識別します。このポート チャネル番号は、作成されたポート チャネル foo のインスタンス数とは無関係で、リーフ ノード 102 に固有のものであります。



- (注) リーフ ノードに FEX モジュールを接続する設定は、FEX ポートを使用してポート チャネルを作成する前に実行する必要があります。

```

apicl(config)# leaf 102
apicl(config-leaf) # interface ethernet 101/1/1-2
apicl(config-leaf-if) # channel-group foo

```

リーフ 102 では、このポート チャネル インターフェイスを `interface port channel foo` FEX 101 と呼ぶこともできます。

```

apicl(config)# leaf 102
apicl(config-leaf) # interface port-channel foo fex 101
apicl(config-leaf) # shut

```

複数のリーフ ノードでポート チャネルにポートを設定します。この例におけるポート チャネル foo は、101 ~ 103 の各リーフ ノード内にあるイーサネット 1/1-2 ポートに割り当てられます。リーフ ノードは各ノードで固有の番号（ノード間で同一にする、または分けられる）を自動生成し、これがポート チャネル インターフェイスを表します。

```

apicl(config)# leaf 101-103
apicl(config-leaf) # interface ethernet 1/1-2
apicl(config-leaf-if) # channel-group foo

```

ポート チャネルにメンバーを追加します。この例では、各リーフ ノードのポート チャネルに 2 つのメンバー `eth1/3-4` を追加し、各ノードのポート チャネル foo がメンバー `eth 1/1-4` を持つようにします。

```

apicl(config)# leaf 101-103
apicl(config-leaf) # interface ethernet 1/3-4
apicl(config-leaf-if) # channel-group foo

```

ポート チャネルからメンバーを削除します。この例は、各リーフ ノードでポート チャネル foo から 2 つのメンバー `eth1/2`、`eth1/4` を削除し、各ノードのポート チャネル foo がメンバー `eth 1/1`、`eth1/3` を持つようにします。

```

apicl(config)# leaf 101-103
apicl(config-leaf) # interface eth 1/2,1/4
apicl(config-leaf-if) # no channel-group foo

```

複数のリーフ ノードで異なるメンバーを持つポート チャネルを設定します。次に、同じポート チャネル foo ポリシーを使用して、リーフごとにメンバー ポートが異なる複

数のリーフ ノードでポートチャネルインターフェイスを作成する例を示します。リーフ ノードのポートチャネル番号は、同じポートチャネル foo に対して同じでも異なってもかまいません。ただし CLI では、構成は `interface port-channel foo` で参照されます。FEX ポートにポートチャネルが構成されている場合は、`interface port-channel foo fex <fex-id>` で参照されます。

```
apic1(config)# leaf 101
apic1(config-leaf)# interface ethernet 1/1-2
apic1(config-leaf-if)# channel-group foo
apic1(config-leaf-if)# exit
apic1(config-leaf)# exit
apic1(config)# leaf 102
apic1(config-leaf)# interface ethernet 1/3-4
apic1(config-leaf-if)# channel-group foo
apic1(config-leaf-if)# exit
apic1(config-leaf)# exit
apic1(config)# leaf 103
apic1(config-leaf)# interface ethernet 1/5-8
apic1(config-leaf-if)# channel-group foo
apic1(config-leaf-if)# exit
apic1(config-leaf)# interface ethernet 101/1/1-2
apic1(config-leaf-if)# channel-group foo
```

LACP のポート単位のプロパティを設定します。次に、LACP のポート単位のプロパティについてポートチャネルのメンバー ポートを構成する例を示します。



- (注) ACI モデルでは、これらのコマンドはポートがポートチャネルのメンバーになった後でのみ使用できます。ポートがポートチャネルから削除された場合、これらポート単位のプロパティ設定も削除されます。

```
apic1(config)# leaf 101
apic1(config-leaf)# interface ethernet 1/1-2
apic1(config-leaf-if)# channel-group foo
apic1(config-leaf-if)# lacp port-priority 1000
apic1(config-leaf-if)# lacp rate fast
```

ポートチャネルの管理状態を設定します。この例におけるポートチャネル foo は、`channel-group` コマンドを使用することで、101 ~ 103 の各リーフ ノードに対して構成されます。ポートチャネルの管理状態は、ポートチャネルインターフェイスを使用して各リーフで設定できます。ACI モデルでは、ポートチャネルの管理状態をグローバル スコープで構成することはできません。

```
// create port-channel foo in each leaf
apic1(config)# leaf 101-103
apic1(config-leaf)# interface ethernet 1/3-4
apic1(config-leaf-if)# channel-group foo

// configure admin state in specific leaf
apic1(config)# leaf 101
apic1(config-leaf)# interface port-channel foo
apic1(config-leaf-if)# shut
```

オーバーライド構成は、他のプロパティを共有しながら各リーフのポートチャネルインターフェイスに特定の VLAN ドメインを割り当てる場合などにとっても便利です。

```
// configure a port channel global config
apicl(config)# interface port-channel foo
apicl(config-if)# speed 1G
apicl(config-if)# channel-mode active

// create port-channel foo in each leaf
apicl(config)# leaf 101-103
apicl(config-leaf)# interface ethernet 1/1-2
apicl(config-leaf-if)# channel-group foo

// override port-channel foo in leaf 102
apicl(config)# leaf 102
apicl(config-leaf)# interface port-channel foo
apicl(config-leaf-if)# speed 10G
apicl(config-leaf-if)# channel-mode on
apicl(config-leaf-if)# vlan-domain dom-foo
```

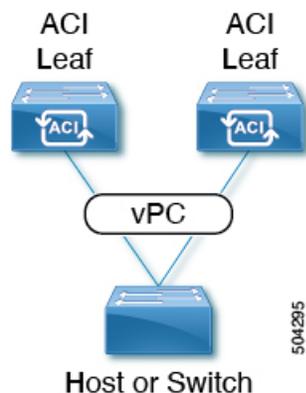
次の例では、channel-group コマンドを使用することで、ポートのポートチャンネル割り当てを変更します。他のポートチャンネルに割り当てる前にポートチャンネルのメンバーシップを削除する必要はありません。

```
apicl(config)# leaf 101-103
apicl(config-leaf)# interface ethernet 1/3-4
apicl(config-leaf-if)# channel-group foo
apicl(config-leaf-if)# channel-group bar
```

Cisco ACI の仮想ポート チャンネル

仮想ポートチャンネル (vPC) によって、2つの異なるCisco Application Centric Infrastructure (ACI) リーフノードに物理的に接続されたリンクを、リンク集約テクノロジーをサポートするネットワークスイッチ、サーバー、他のネットワークデバイスなどから単一のポートチャンネル (PC) に見えるようにすることができます。vPC は、vPC のピアスイッチとして指定された2台のCisco ACI リーフスイッチから構成されます。Of the vPC peers, one is primary and one is secondary. The system formed by the switches is referred to as a vPC domain.

図 22: vPC ドメイン



次の動作は、Cisco ACI vPC 実装に固有です。

- vPC ピア間に専用ピアリンクはありません。代わりに、ファブリック自体がマルチシャーシ トランッキング (MCT) として機能します。
- ピア到達可能性プロトコル : Cisco ACI は、Cisco Fabric Services (CFS) の代わりに Zero Message Queue (ZMQ) を使用します。
 - ZMQ は、トランスポートとして TCP を使用するオープンソースの高性能メッセージング ライブラリです。
 - このライブラリは、スイッチ上では libzmq としてパッケージ化されており、vPC ピアと通信する必要がある各アプリケーションにリンクされています。
- ピアの到達可能性は、物理ピアリンクを使用して処理されません。代わりに、ルーティング トリガーを使用してピアの到達可能性を検出します。
 - vPC マネージャは、ピア ルート通知のためにユニキャスト ルーティング情報ベース (URIB) に登録します。
 - IS-IS がピアへのルートを検出すると、URIB は vPC マネージャに通知します。vPC マネージャは、ピアとの ZMQ ソケットを開こうとします。
 - ピアルートが IS-IS によって取り消されると、URIB は vPC マネージャに再び通知し、vPC マネージャは MCT リンクをダウンします。
- 2つのリーフ スイッチ間に vPC ドメインを作成する場合は、以下のハードウェア モデルの制限が適用されます。
 - 第1世代のスイッチは、第1世代の他のスイッチとのみ互換性があります。これらのスイッチモデルは、スイッチ名の末尾に「EX」、「FX」、「FX2」、「GX」またはそれ以降のサフィックスがないことで識別できます。たとえば、N9K-9312TX という名前などです。
 - 第2世代以降のスイッチは、vPC ドメインで混在させることができます。これらのスイッチモデルは、スイッチ名の末尾に「EX」、「FX」、「FX2」、「GX」またはそれ以降のサフィックスが付いていることで識別できます。たとえば、N9K-93108TC-EX や N9K-9348GC-FXP という名前などです。

互換性のある vPC スイッチ ペアの例 :

- N9K-C9312TX および N9K-C9312TX
- N9K-C93108TC-EX および N9K-C9348GC-FXP
- N9K-C93180TC-FX and N9K-C93180YC-FX
- N9K-C93180YC-FX および N9K-C93180YC-FX

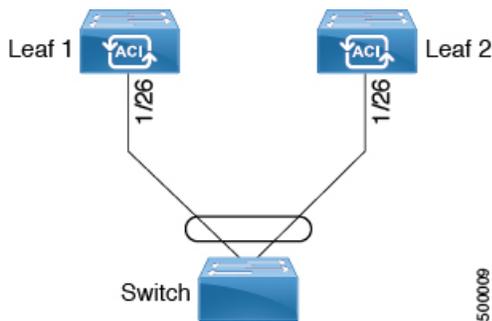
互換性のない vPC スイッチ ペアの例 :

- N9K-C9312TX および N9K-C93108TC-EX
- N9K-C9312TX および N9K-C93180YC-FX

- ポートチャネルおよび仮想ポートチャネルは、LACPの有無にかかわらず構成できます。ポートをLACP付きで構成したのに、ポートがピアからLACP PDUを受信しなかった場合、LACPはポートを中断状態に設定します。これによって、サーバーの中には起動に失敗するものがあります。LACPがポートを論理的 up 状態にすることを必要としているからです。**LACP suspend individual** を無効にして、動作を個々の使用に合わせて調整できます。そのためには、vPC ポリシーグループでポートチャネルポリシーを作成し、モードをLACP アクティブに設定してから、**Suspend Individual Port** を削除します。これ以後、vPC 内のポートはアクティブなまま、LACP パケットを送信し続けます。
- ARP ネゴシエーションに基づく、仮想ポートチャネル間での適応型ロードバランシング (ALB) は、Cisco ACI ではサポートされていません。

Cisco ACI 仮想ポートチャネルのワークフロー

図 23: パーチャルポートチャネルの設定



仮想ポートチャネル (vPC) の構成ワークフローは次のとおりです。

始める前に

- インフラセキュリティドメインに読み取り/書き込みアクセス権限があることを確認します。
- 必要なインターフェイスを持つターゲットリーフスイッチが使用できることを確認します。
- 同じvPCペアの一部になる2つのリーフスイッチのハードウェアに互換性があることを確認します。詳細については、[Cisco ACI の仮想ポートチャネル \(107 ページ\)](#) を参照してください。

手順

- ステップ 1** vPC タイプの VLAN プール、ドメイン、AAEP、アクセスリーフポートポリシーグループを構成します。
- ステップ 2** vPC スイッチペアを構成します。

ステップ 3 vPC インターフェイスを構成します。

ステップ 4 アプリケーション プロファイルを設定します。

- a) メニュー バーで、[テナント (Tenants)] > [すべてのテナント (ALL Tenants)] の順に選択します。
- b) [作業 (Work)] ペインで、テナントをダブルクリックします。
- c) [ナビゲーション (Navigation)] ペインで、テナント名 > [クイックスタート (Quick Start)] を選択します。
- d) エンドポイントグループ (EPG)、コントラクト、ブリッジドメイン、サブネット、およびコンテキストを設定します。
- e) 以前に作成した仮想ポートチャネルスイッチのプロファイルにアプリケーションプロファイル EPG を関連付けます。

GUI を使用した vPC スイッチ ペアの定義

この手順では、GUI を使用して vPC スイッチ ペアを定義します。次の例に示すように、リーフ スイッチ ペア グループ名は単純にすることをお勧めします。

- Leaf201_202
- Leaf203_204
- Leaf205_206

名前付けと番号付けのベスト プラクティスについては、Cisco ACI オブジェクトの名前付けと番号付け：ベスト プラクティスドキュメントを参照してください。

<https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/switches/datacenter/aci/apic/sw/kb/b-Cisco-ACI-Naming-and-Numbering.html>

手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[ファブリック (FABRIC)] > [アクセス ポリシー (Access Policies)] の順に選択します。
- ステップ 2** ナビゲーション ペインで、[ポリシー (Policies)] > [スイッチ (Switch)] > [仮想ポートチャネルのデフォルト (Virtual Port Channel default)] を選択します。
- ステップ 3** [明示的な vPC 保護グループ (Explicit vPC Protection Groups)] テーブルで、[+] をクリックし、次のようにフィールドに入力します。
 - a) [名前 (Name)] フィールドに、vPC ペアの名前を入力します。
 名前の例：Leaf201_202。この例のような名前を使用すると、どの2つのファブリック ノードが vPC ピアであるかを簡単に識別できます。
 - b) [ID] フィールドに、vPC ペアの ID (論理ピア ID) を入力します。

ID の例：201。この例では、ペアの最初のノード ID 番号を使用して、ID を vPC ペアと関連付けやすくしています。

- c) [Switch 1] および [Switch 2] フィールドで、vPC スイッチ ペアのリーフスイッチを選択します。
- d) [送信 (Submit)] をクリックします。

vPC ペアは、[明示的な vPC 保護グループ (Explicit vPC Protection Groups)] テーブルに追加されます。[仮想 IP (Virtual IP)] 値は、システム トンネル エンドポイント (TEP) プールから自動生成された IP アドレスであり、vPC スイッチ ペアの仮想共有 (エニーキャスト) TEP を表します。つまり、vPC ペアの vPC 接続エンドポイント宛ての packets は、このエニーキャスト VTEP を使用してパケットを送信します。

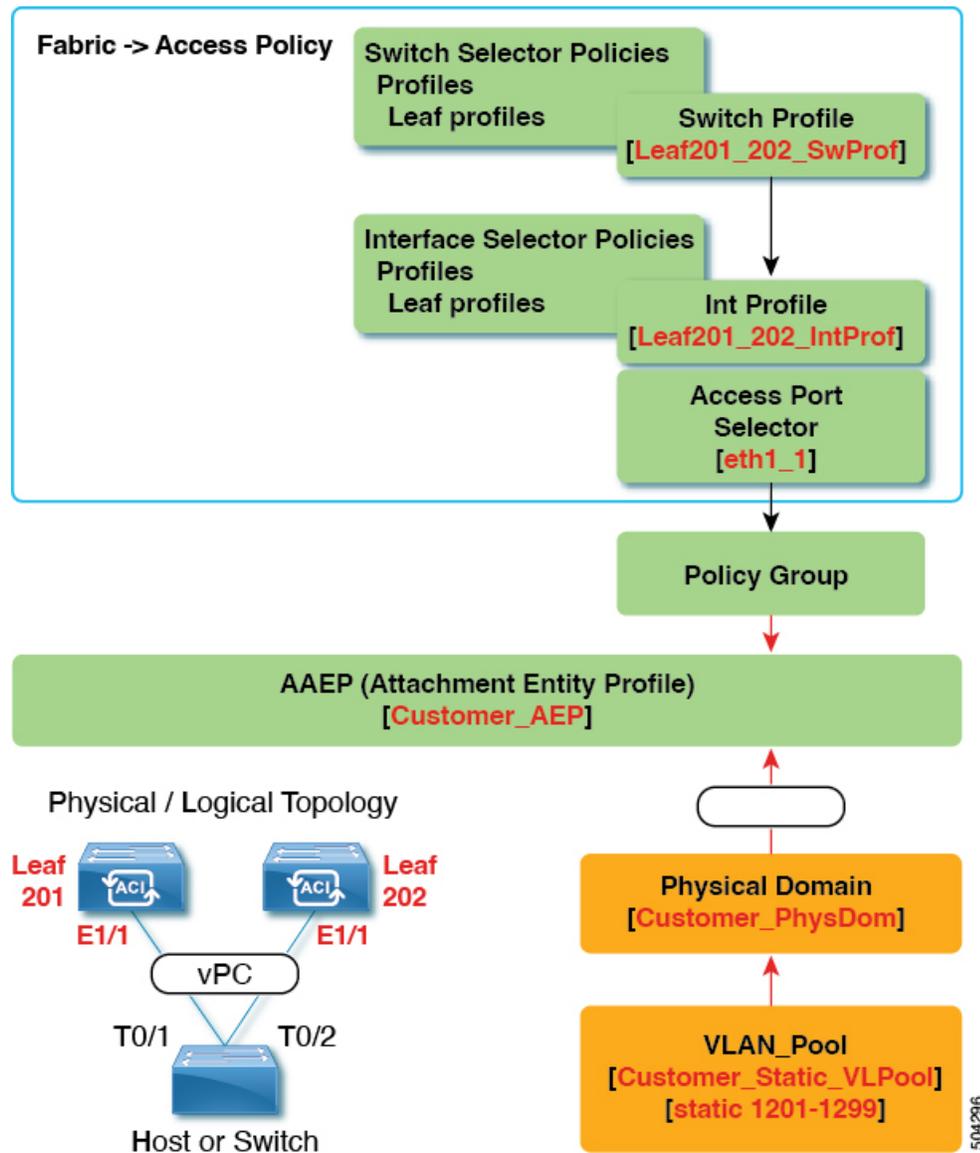
プロファイルとセレクトタを使用したリーフノードおよび FEX デバイスでの仮想ポートチャネルの設定

結合プロファイルを持ち、2台のリーフスイッチ間で同じリーフスイッチインターフェイスを持つ vPC

このユース ケースの例では、次のことを定義します。

- Leaf201_202_SwProf と呼ばれる結合スイッチプロファイル (ノード 201 およびノード 202)
- Leaf201_202_IntProf と呼ばれる結合インターフェースプロファイル (ノード 201 およびノード 202)
- Eth1_1 と呼ばれるアクセス ポート セレクトタ (Leaf201_202 インターフェイス プロファイルの下) は、vPC インターフェイス ポリシー グループを指しています。
- vPC インターフェイス ポリシー グループは、Customer_AEP と呼ばれる AAEP を指しています。
- AEP (Customer_AEP) には、Customer_PhysDom との関連付けがあります。
- Customer_PhysDom には、Customer_Static_VLPool と呼ばれる VLAN プールとの関連付けがあります。

図 24: 結合プロフィールを持ち、2台のリーフスイッチ間で同じリーフスイッチインターフェイスを持つ vPC



この構成の機能

スイッチ Leaf201 および Leaf202 で、ポート Eth1/1 を vPC の一部として設定します。この vPC インターフェイスは、VLAN 1201 ~ 1299 にアクセスできます。インターフェイス ポリシーグループに応じて、LACP アクティブおよびその他のインターフェイス固有のポリシー設定を有効にすることができます。

この構成をいつ使用するか

たとえば、vPC 接続されたサーバーのみを備えたコンピューティングリーフスイッチの専用ペアがある場合、これは、それらのスイッチのファブリックアクセスポリシーの下で、結合

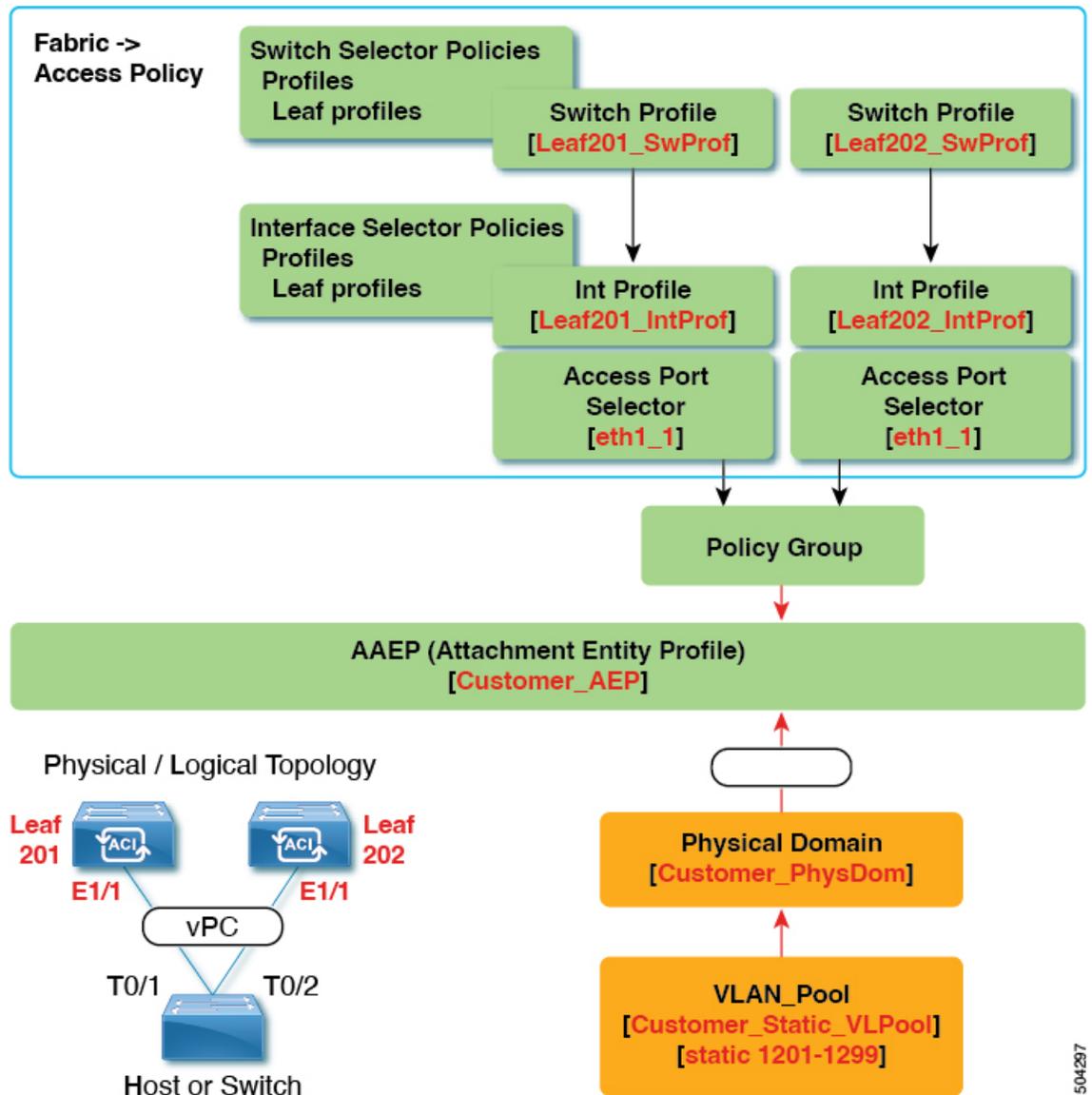
スイッチ/インターフェイス プロファイルを使用するための堅実なユース ケースになります。スイッチ、インターフェイス、アクセスポートセレクタ、およびvPC インターフェイス ポリシーグループを事前設定しておけば、最小限の労力で48のシャーシタイプのサーバーを接続できるようにすることができます。

個別のプロファイルを持つ2台のリーフスイッチ間で同じリーフスイッチインターフェイスを持つvPC

このユース ケースの例では、次のことを定義します。

- Leaf201_SwProf および Leaf202_SwProf と呼ばれる個々のスイッチ プロファイル（ノード 201 およびノード 202）。
- Leaf201_IntProf および Leaf202_IntProf と呼ばれる個々のインターフェイス プロファイル（ノード 201 およびノード 202）
- Eth1_1 と呼ばれるアクセス ポート セレクタ（Leaf201 および Leaf202 インターフェイス プロファイルの下）は、同じvPC インターフェイス ポリシーグループを指しています。
- vPC インターフェイス ポリシーグループは、Customer_AEP と呼ばれる AAEP を指しています。
- AEP（Customer_AEP）には、Customer_PhysDom との関連付けがあります。
- Customer_PhysDom には、Customer_Static_VLPool と呼ばれる VLAN プールとの関連付けがあります。

図 25: 個別のプロファイルを持つ2台のリーフスイッチ間で同じリーフスイッチインターフェイスを持つvPC



504297

この構成の機能

スイッチ Leaf201 および Leaf202 で、ポート Eth1/1 を vPC の一部として設定します。この vPC インターフェイスは、VLAN 1201 ~ 1299 にアクセスできます。インターフェイス ポリシーグループに応じて、LACP アクティブおよびその他のインターフェイス固有のポリシー設定を有効にすることができます。

この構成をいつ使用するか

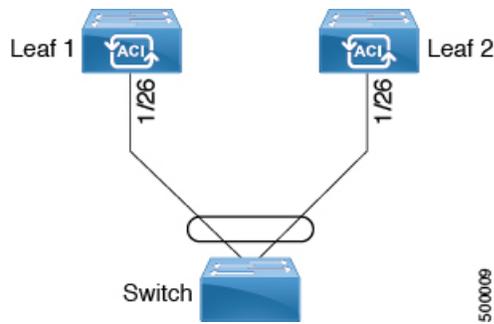
コンピューティング、サービス、または Cisco Application Policy Infrastructure Controller (APIC) などの混合ワークロードをサポートするリーフスイッチがある場合は、この構成を使用しま

す。この場合、個別のインターフェイスプロファイルを使用すると、最大限の柔軟性が得られると同時に、ファブリック > アクセス ポリシーの設定を可能な限りクリーンで管理しやすい状態に保つことができます。

GUIを使用したインターフェイス構成モデルによる ACI リーフスイッチ仮想ポートチャネルの構成

この手順では、「インターフェイス構成」方式を使用して、トランクスイッチを Cisco Application Centric Infrastructure (ACI) リーフスイッチの仮想ポートチャネルに接続します。手順は、Cisco ACI リーフスイッチインターフェイスに他の種類のデバイスを接続する場合と同じになります。

図 26: スイッチ パーチャル ポートチャネル設定



始める前に

- Cisco ACIファブリックが設置され、Cisco Application Policy Infrastructure Controller (APIC) がオンラインになっており、Cisco APIC クラスタが形成されて正常に動作していること。
- 必要なファブリック インフラストラクチャ構成を作成できる Cisco APIC ファブリック 管理者アカウントが使用可能であること。
- ターゲットリーフスイッチが Cisco ACI ファブリックに登録され、使用可能であること。



- (注) 2つのリーフスイッチ間に vPC ドメインを作成する場合は、同じ vPC ペアの一部になる2つのリーフスイッチのハードウェアに互換性があることを確認します。詳細については、[Cisco ACI の仮想ポートチャネル \(107 ページ\)](#) を参照してください。

手順

- ステップ 1** メニューバーで、[ファブリック (FABRIC)] > [アクセス ポリシー (Access Policies)] の順に選択します。

ステップ 2 次のいずれかの方法を使用して、[インターフェイスの構成 (Configure Interfaces)] ダイアログを開きます。

方法 1 :

- a) [ナビゲーション (Navigation)] ペインで、[クイックスタート (Quick Start)] をクリックします。
- b) [作業 (Work)] ペインで、[インターフェイスの設定 (Configure Interfaces)] をクリックします。

方法 2 :

- a) ナビゲーション ペインで [インターフェイスの設定 (Interface Configuration)] を選択します。
- b) 作業 ペインで、[アクション (Actions)] > [インターフェイスの設定 (Configure Interfaces)] をクリックします。

ステップ 3 [インターフェイスの設定 (Configure Interfaces)] ダイアログで、以下のアクションを実行します。

- a) [ノードタイプ (Node Type)] で、[リーフ (Leaf)] をクリックします。
- b) [ポートタイプ (Port Type)] で、[アクセス (Access)] をクリックします。
- c) [インターフェイス タイプ (Interface Type)] で、[イーサネット (Ethernet)] をクリックします。
- d) [インターフェイスの集約タイプ (Interface Aggregation Type)] で、[vPC] を選択します。
- e) [vPC リーフ スイッチ ペア (vPC Leaf Switch Pair)] の場合は、[vPC リーフ スイッチ ペアの選択 (Select vPC Leaf Switch Pair)] をクリックし、目的のスイッチ ペアのボックスにチェックを入れて、[選択 (Select)] をクリックします。複数のスイッチを選択できます。オプションとして、[vPC リーフ スイッチ ペアの作成 (Create vPC Leaf Switch Pair)] をクリックし、必要に応じてフィールドに入力し、ペアを選択して [選択 (Select)] をクリックします。
- f) [すべてのスイッチのインターフェイス (Interfaces For All Switches)] で、目的のインターフェイスの範囲を入力します。
- g) [PC/vPC インターフェイス ポリシー グループ (PC/vPC Interface Policy Group)] の場合は、[PC/vPC インターフェイス ポリシー グループの選択 (Select PC/vPC Interface Policy Group)] をクリックします。
- h) [PC/vPC インターフェイス ポリシー グループの選択 (Select PC/vPC Interface Policy Group)] ダイアログで、既存の vPC ポリシー グループを選択し、[選択 (Select)] をクリックします。オプションとして、[PC/vPC インターフェイス ポリシー グループの作成 (Create PC/vPC Interface Policy Group)] をクリックして新しい vPC ポリシー グループを作成し、フィールドに入力して [保存 (Save)] をクリックし、そのポリシー グループを選択して [選択 (Select)] をクリックします。
- i) [ポート チャネル メンバー ポリシー (Port Channel Member Policy)] で、[ポート チャネル メンバー ポリシーの選択 (Select Port Channel Member Policy)] をクリックし、ポリシーを選択して [選択 (Select)] をクリックします。オプションとして、[ポート チャネル メンバー ポリシーの作成 (Create Port Channel Member Policy)] をクリック

し、必要に応じてフィールドに入力して[保存 (Save)] をクリックし、そのポリシーを選択して[選択 (Select)] をクリックします。

j) [保存 (Save)] をクリックします。

確認: vPC が適切に設定されていることを確認するには、外部スイッチがアタッチされているリーフスイッチ上で、CLI コマンド **show int** を使用します。

次のタスク

これで、スイッチ バーチャル ポート チャネルの設定手順は完了しました。



- (注) この設定はハードウェア接続を有効にしますが、このハードウェア設定に関連付けられた有効なアプリケーションプロファイル、EPG、およびコントラクトがないと、データトラフィックはフローできません。

NX-OS CLI を使用したリーフノードおよび FEX デバイスの仮想ポートチャネルの設定

仮想ポートチャネル (vPC) は、ホストまたはスイッチを2つのアップストリームリーフノードに接続して帯域幅の使用率と可用性を向上させる、ポートチャネルの拡張機能です。NX-OS では、vPC 設定は2つのアップストリームスイッチのそれぞれで行われ、スイッチ間のピアリンクを使用して設定が同期されます。

Cisco Application Centric Infrastructure (ACI) モデルでは、ピアリンクは必要なく、vPC 設定は両方のアップストリームリーフノードに対してグローバルに実行できます。vpc context と呼ばれるグローバルコンフィギュレーションモードが Cisco ACI では導入されており、vPC インターフェイスは、両方のリーフノードにグローバルコンフィギュレーションを適用可能にする **interface vpc** というタイプを使用して表されます。

Cisco ACI モデルの vPC では、リーフポートを使用する vPC と FPC ポートを介した vPC の2つの異なるトポロジがサポートされます。リーフノードのペア間には多数の vPC インターフェイスを作成することができます。同様に、ストレートトポロジのリーフノードペアに接続された FEX モジュールのペア間にも、多数の vPC インターフェイスを作成できます。

vPV に関する検討事項としては、以下のようなものがあります。

- 使用される vPC 名は、リーフノードペア間で一意です。たとえば、「corp」という vPC を作成する場合、FEX の有無にかかわらず、各リーフペアで作成できるのは1つだけです。
- リーフポートと FEX ポートを同じ vPC に含めることはできません。
- 各 FEX モジュールは、vPC corp の1つのインスタンスにのみ含めることができます。
- 設定を可能にする vPC コンテキスト

- vPC コンテキストモードでは、特定のリーフペアのすべての vPC を設定できます。vPC over FEX の場合、次の 2 つの代替例に示すように、vPC コンテキスト用に、または vPC インターフェイスとともに *fex-id* ペアを指定する必要があります。

```
(config)# vpc context leaf 101 102
(config-vpc)# interface vpc Reg fex 101 101
```

または

```
(config)# vpc context leaf 101 102 fex 101 101
(config-vpc)# interface vpc Reg
```

Cisco ACIモデルでは、vPC の設定は次の手順で行います（次の例に示します）。



(注) VLAN ドメインは、VLAN の範囲で必要です。ポート チャンネルのテンプレートに関連付けられている必要があります。

1. VLAN の範囲で VLAN ドメイン構成 (グローバル設定)
2. vPC ドメイン設定 (グローバル設定)
3. ポート チャンネルのテンプレートの設定 (グローバル設定)
4. ポート チャンネルのテンプレートを VLAN ドメインに関連付ける
5. vPC ポート チャンネル設定 (グローバル設定)
6. ポートをリーフノードの vPC に設定する
7. レイヤ 2、レイヤ 3を vPC コンテキストの vPC に設定する

始める前に

同じ vPC ペアの一部になる 2 つのリーフ スイッチのハードウェアに互換性があることを確認します。詳細については、[Cisco ACI の仮想ポート チャンネル \(107 ページ\)](#) を参照してください。

手順

ステップ 1 **configure**

グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

例：

```
apic1# configure
```

ステップ 2 **vlan-domainname[dynamic] [type domain-type]**

仮想ポート チャンネルの VLAN ドメインの設定 (ポート チャンネルのテンプレートとここ)。

例：

```
apicl(config)# vlan-domain dom1 dynamic
```

ステップ3 **vlanrange**

VLAN ドメインの VLAN の範囲を設定し、configuration mode(設定モード、コンフィギュレーションモード)を終了します。単一の VLAN または複数の VLAN 範囲を設定できます。

例：

```
apicl(config-vlan)# vlan 1000-1999  
apicl(config-vlan)# exit
```

ステップ4 **vpc domain explicit domain-id leaf node-id1 node-id2**

vPC ドメインをリーフノードのペア間に設定します。リーフ ノード ペアとともに明示モードで vPC ドメイン ID を指定できます。

vPC ドメインを設定するための代替コマンドは次のとおりです。

- **vpc domain [consecutive | reciprocal]**

連続オプションおよび相互オプションを使用すると、Cisco ACI ファブリック内のすべてのリーフ ノードで vPC ドメインを自動設定できます。

- **vpc domain consecutive domain-start leaf start-node end-node**

このコマンドは、リーフ ノード ペアの選択されたセットに対して連続して vPC ドメインを設定します。

例：

```
apicl(config)# vpc domain explicit 1 leaf 101 102
```

ステップ5 **peer-dead-interval interval**

リーフスイッチは、ピアから応答を受信する前に、vPC を復元するまで待機する時間の遅延を設定します。この時間内ピアから応答を受信するはないとリーフスイッチ、ピアを停止するいと見なすをマスターとしての役割を持つvPC 始動します。ピアから応答を受信するとその時点で、vPC を復元します。範囲は 5 ~ 600 秒です。デフォルトは 200 秒です。

例：

```
apicl(config-vpc)# peer-dead-interval 10
```

ステップ6 **exit**

グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。

例：

```
apicl(config-vpc)# exit
```

ステップ7 **template port-channel channel-name**

新しいポートチャネルを作成するか、既存のポートチャネルを設定します (グローバル コンフィギュレーション)。

すべての vPC は、各リーフ ペアのポートチャネルとして設定されます。同じ vPC のリーフ ペアでは、同じポートチャネル名を使用する必要があります。このポートチャネルは、リーフ

ノードの 1 つ以上のペア間で vPC を作成するために使用できます。各リーフ ノードには、この vPC のインスタンスが 1 つだけあります。

例：

```
apic1(config)# template port-channel corp
```

ステップ 8 **vlan-domain member** *vlan-domain-name*

以前に設定された VLAN ドメインには、ポート チャンネルのテンプレートを関連付けます。

例：

```
vlan-domain member dom1
```

ステップ 9 **switchport access vlan** *vlan-id* **tenant** *tenant-name* **application** *application-name* **epg** *epg-name*

ポート チャンネルを関連付けるすべてのポート上に VLAN を持つ EPG を導入します。

例：

```
apic1(config-po-ch-if)# switchport access vlan 4 tenant ExampleCorp application Web epg webEpg
```

ステップ 10 **channel-mode active**

(注) vPC のポートチャンネルはアクティブ チャンネルモードである必要があります。

例：

```
apic1(config-po-ch-if)# channel-mode active
```

ステップ 11 **exit**

設定モードに戻ります。

例：

```
apic1(config-po-ch-if)# exit
```

ステップ 12 **leaf** *node-id1* *node-id2*

設定するリーフ スイッチのペアを指定します。

例：

```
apic1(config)# leaf 101-102
```

ステップ 13 **interface** *typeleaf/interface-range*

ポート チャンネルに設定するインターフェイスまたはインターフェイスの範囲を指定します。

例：

```
apic1(config-leaf)# interface ethernet 1/3-4
```

ステップ 14 **[no] channel-group** *channel-name* **vpc**

インターフェイスまたはインターフェイスの範囲をポートチャンネルに割り当てます。ポートチャンネルからインターフェイスを削除するには、キーワード **no** を使用します。インターフェイス上からポートチャンネルの割り当てを変更する場合は、以前のポートチャンネルからインターフェイスを最初に削除することなく **channel-group** コマンドを入力することができます。

(注) このコマンドの **vpc** キーワードは、ポートチャネルを vPC にします。vPC がまだ存在しない場合は、vPC ID が自動的に生成され、すべてのメンバー リーフ ノードに適用されます。

例 :

```
apicl(config-leaf-if)# channel-group corp vpc
```

ステップ 15 **exit**

例 :

```
apicl(config-leaf-if)# exit
```

ステップ 16 **exit**

例 :

```
apicl(config-leaf)# exit
```

ステップ 17 **vpc context leaf node-id1 node-id2**

vPC コンテキスト モードでは、vPC の設定を両方のリーフ ノード ペアに適用できます。

例 :

```
apicl(config)# vpc context leaf 101 102
```

ステップ 18 **interface vpc channel-name**

例 :

```
apicl(config-vpc)# interface vpc blue fex 102 102
```

ステップ 19 (任意) **[no] shutdown**

vPC コンテキストでの管理状態の設定では、両方のリーフ ノードに対して 1 つのコマンドで vPC の管理状態を変更できます。

例 :

```
apicl(config-vpc-if)# no shut
```

例

次に、基本的な vPC を設定する例を示します。

```
apicl# configure
apicl(config)# vlan-domain dom1 dynamic
apicl(config-vlan)# vlan 1000-1999
apicl(config-vlan)# exit
apicl(config)# vpc domain explicit 1 leaf 101 102
apicl(config-vpc)# peer-dead-interval 10
apicl(config-vpc)# exit
apicl(config)# template port-channel corp
apicl(config-po-ch-if)# vlan-domain member dom1
apicl(config-po-ch-if)# channel-mode active
apicl(config-po-ch-if)# exit
apicl(config)# leaf 101-102
```

```

apic1(config-leaf)# interface ethernet 1/3-4
apic1(config-leaf-if)# channel-group corp vpc
apic1(config-leaf-if)# exit
apic1(config)# vpc context leaf 101 102

```

次に、FEXポートを使用してvPCを設定する例を示します。

```

apic1(config-leaf)# interface ethernet 101/1/1-2
apic1(config-leaf-if)# channel-group Reg vpc
apic1(config)# vpc context leaf 101 102
apic1(config-vpc)# interface vpc corp
apic1(config-vpc-if)# exit
apic1(config-vpc)# interface vpc red fex 101 101
apic1(config-vpc-if)# switchport
apic1(config-vpc-if)# exit
apic1(config-vpc)# interface vpc blue fex 102 102
apic1(config-vpc-if)# shut

```

第1世代スイッチから第2世代スイッチへのノードの移行

仮想ポートチャンネル（vPC）を構成している/していない場合がある第1世代 Cisco Nexus 9000 シリーズスイッチ。同じケーブルを使用している第2世代 Cisco Nexus 9000 シリーズスイッチに移行しています。

第1世代 Cisco Nexus 9000 シリーズスイッチには、製品IDに -EX、-FX、または -GX を含まないそれらのスイッチを含みます。

第2世代 Cisco Nexus 9000 シリーズのスイッチには、製品IDに -EX、-FX、-GX、またはそれ以降のサフィックスが付いているスイッチが含まれます。

第1世代のスイッチを第2世代のスイッチに移行するには、次の手順を実行する必要があります。

このスイッチでサポートされるトランシーバ、アダプタ、およびケーブルを確認するには、『[Cisco トランシーバモジュール互換性情報](#)』を参照してください。

トランシーバの仕様と取り付けに関する情報を確認するには、『[Cisco Transceiver Modules Installation Guides](#)』を参照してください。

始める前に

- 移行中の第1世代のスイッチに接続している Cisco Application Policy Infrastructure Controller (APIC) をファブリックのその他のスイッチに移動し、Cisco APIC クラスタが「完全に適合」になるまで待ちます。
- 次の移行パスがサポートされます。
 1. 第1世代 Cisco Application Centric Infrastructure (ACI) のスイッチから、同じソフトウェアリリースを実行している第2世代 Cisco ACI スイッチへの移行。
 2. 異なるソフトウェアリリースを実行している第1世代の Cisco ACI スイッチから第2世代の Cisco ACI スイッチへの移行。

新しいスイッチに必要な新しいリリースで既存のスイッチがサポートされていない場合は、2番目の移行パスが必要です。例えば、Cisco ACI スイッチ 15.0 (1) 移行のリリースからサポートされていない Cisco Nexus 9300 (製品 ID にサフィックス -E 付きまたはなし) 第1世代 Cisco ACI スイッチから、15.0 (1) 移行のみでサポートされている新しいスイッチのいずれかに移行する場合。

第1世代のスイッチが vPC を構成している場合は、2番目の移行パスに進む前に、次の必須の前提条件の手順を完了します。

1. トラフィック損失の可能性があるため、メンテナンス ウィンドウ中に vPC 移行を実行することをお勧めします。
2. この手順を実行する前に、自動ファームウェア更新ポリシーを無効にする必要があります。
3. クラスタが古いリリースを実行している場合は、Cisco APIC クラスタを 4.2 (7v) リリースにアップグレードします。また、第1世代のスイッチを 14.2 (7v) リリースにアップグレードします。ファブリックが統合されるまで待ちます。
4. Cisco APIC クラスタを 5.2 (7f) リリースにアップグレードし、クラスタが「完全に適合」するのを待ちます。
5. 新しい第2世代スイッチがプリロードされ、Cisco APIC と同等のリリース、つまり 15.2(7f) リリースが実行されていることを確認します。ソースバージョンとターゲットバージョンのソフトウェア リリース 4.2(7v)/14.2(7v) および 5.2(7f)/15.2(7f) 以外のソフトウェア リリースは、この移行手順でサポートされていません。



(注)

- 第2世代スイッチのポート数とポートタイプは、交換する第1世代スイッチと一致している必要があります。番号が一致しない場合は、新しいポートまたはポートタイプに対応するように構成を変更する必要があります。これは、同じソフトウェアバージョンを維持しながらハードウェアを移行する場合にも当てはまります。
- 第1世代の非 vPC リーフ スイッチまたは第1世代スパイン スイッチを第2世代スイッチに移行するには、以下の手順の [ステップ 1 \(124 ページ\)](#) ~ [ステップ 6 \(124 ページ\)](#) 従ってください。vPC 関連の情報は、この移行には適用されません。

第1世代の非 vPC リーフ スイッチまたは第1世代スパイン スイッチを第2世代スイッチに移行する必要がある場合、送信元およびターゲットソフトウェアリリース 4.2 (7v) /14.2 (7v) および 5.2 (7f) /15.2 (7f) は必要ありません。ファブリックが、第2世代のスイッチ PID をサポートする必要なソフトウェア リリースを実行していることを確認します。
Cisco ACI

手順

- ステップ 1** Cisco APIC GUI から、動作中のセカンダリ vPC スイッチ ノードに対して**コントローラからの削除操作**を実行します。
- Cisco APIC クリーンにより、スイッチが再起動します。操作が完了するまで約 10 分待ちます。このアクションでは、すべてのトラフィックでデータトラフィックにその他の第一世代スイッチを使用するように促します。
- (注) **コントローラからの削除操作**を実行すると、動作可能なセカンダリ vPC のトラフィックが数秒間失われます。
- ステップ 2** 取り外した第 2 世代のスイッチからケーブルを接続解除します。
- ステップ 3** スイッチ固有の『ハードウェア取り付けガイド』にある「スイッチシャーシの取り付け」セクションに記載されている手順の順序を逆に、第一世代のスイッチを取り外します。
- ステップ 4** スイッチ固有の『ハードウェア取り付けガイド』の「スイッチシャーシの取り付け」セクションに記載されている手順に従って、第 2 世代スイッチを取り付けます。
- ステップ 5** 第 1 世代から取り外したゆるんだケーブルを、第 2 世代スイッチの同じポートに接続します。
- ステップ 6** で新しい第 2 世代スイッチを登録します。Cisco APIC
- 新しいノードを同じノード名およびノード ID に登録します。このスイッチはファブリックの一部になります。Cisco APIC では新しいスイッチにポリシーをプッシュし、スイッチ世代の不一致があるため vPC レッグがダウンしたままになります。この時点で、vPC プライマリは引き続きデータトラフィックを送信します。
- ステップ 7** [ステップ 8 \(124 ページ\)](#) に進む前に、新しいスイッチが構成をダウンロードするまで 10 ~ 15 分待ちます。
- ステップ 8** Cisco APIC GUI から、vPC プライマリの**コントローラからの削除操作**を実行します。Cisco APIC クリーンにより、スイッチが再起動します。
- 操作が完了するまで約 10 分待ちます。Cisco APIC によりダウン状態になっていた第 2 世代スイッチの vPC レッグが起動します。このアクションにより、すべてのトラフィックが新しい第 2 世代スイッチに移動するように求められます。新しい第 2 世代スイッチの vPC ポートが起動するまでに数分かかる場合があり、その間にトラフィックがドロップします。トラフィックドロップの期間は、ファブリック内のスケールとフローによって異なります。
- ステップ 9** 第 1 世代スイッチからケーブルを接続解除します。
- ステップ 10** [ステップ 3 \(124 ページ\)](#) で行ったように、第 1 世代のスイッチを取り外します。
- ステップ 11** で行ったように、第 2 世代スイッチを取り付けます。[ステップ 4 \(124 ページ\)](#)
- ステップ 12** [ステップ 5 \(124 ページ\)](#) で行ったように、緩んだケーブルを接続します。
- ステップ 13** で新しい第 2 世代スイッチを登録します。Cisco APIC

新しいノードを同じノード名およびノード ID に登録します。このスイッチはファブリックの一部になります。Cisco APIC ではポリシーを新しいスイッチにプッシュし、vPC レッグが起動し、トラフィックの通過を開始します。

リフレクティブリレー (802.1Qbg)

リフレクティブリレーでは、Cisco APIC リリース 2.3(1) でスイッチング オプションの開始時刻です。リフレクティブリレー: IEEE 標準 802.1Qbg のタグのないアプローチ: ポリシーを適用し、必要に応じて、宛先またはターゲット VM サーバ上にトラフィックを送信する外部のスイッチへのすべてのトラフィックを転送します。ローカルスイッチングはありません。ブロードキャストまたはマルチキャストトラフィックは、リフレクティブリレーは、各 VM サーバでローカルにパケットのレプリケーションを提供します。

リフレクティブリレーの利点の1つは、スイッチング機能および管理機能、Vm をサポートするサーバリソースを解放するための外部スイッチを活用しています。リフレクティブリレーでは、ポリシー、同じサーバ上の Vm の間のトラフィックに適用する Cisco APIC で設定することもできます。

Cisco ACI、入ってきたのと同じポートからオンに戻すにトラフィックを許可する、リフレクティブリレーを有効にできます。APIC GUI、NX-OS CLI または REST API を使用して、レイヤ 2 インターフェイス ポリシーとして individual ports(個々のポート、個別ポート)、ポートチャネルまたは仮想ポートチャネルでリフレクティブリレーを有効にすることができます。この機能はデフォルトではディセーブルになっています。

用語 仮想イーサネットポートのためのアグリゲータ 802.1Qbg を説明する (VEPA) が使用されるも機能します。

リフレクティブリレーのサポート

リフレクティブリレーには、次のサポートされています。

- IEEE 標準 802.1Qbg タグのないアプローチ、リフレクティブリレーとも呼ばれます。

Cisco APIC 2.3(1) リリースのリリースは IEE 標準 802.1Qbg をサポートしていませんマルチチャネルテクノロジーと S タグ付きアプローチです。

- 物理ドメイン。
仮想ドメインはサポートしていません。
- 物理ポート、ポートチャネル (Pc) と仮想ポートチャネル (vPC)

シスコファブリックエクステンダ (FEX) とブレードサーバはサポートされていません。リフレクティブリレーはサポートされていないインターフェイスで有効になっていると、障害が発生すると、最後の有効な設定が保持されます。ポートでリフレクティブリレーを無効にすると、障害をクリアします。

- Cisco Nexus 9000 シリーズのスイッチと EX または FX、モデル名の最後にします。

GUI を使用したリフレクティブ リレーの有効化

; By default(デフォルトで、デフォルトでは) リフレクティブ リレーが無効になっていますただし、スイッチのレイヤ 2 インターフェイス ポリシーとして、ポート、またはポート チャネルまたは仮想ポート チャネルでこれを有効にできます。最初にポリシーを設定し、ポリシー グループとポリシーを関連付けます。

始める前に

この手順では、Cisco Application Centric Infrastructure (ACI) ファブリックをセットアップし、物理スイッチを設置してあることを前提としています。

手順

-
- ステップ 1 [ファブリック]>[外部アクセス ポリシー]>>[インターフェイス ポリシー] を選択し、[ポリシー] フォルダを開きます。
 - ステップ 2 [L2 インターフェイス] フォルダを右クリックして、[L2 インターフェイス ポリシーの作成] を選択します。
 - ステップ 3 [L2 インターフェイス ポリシーの作成] ダイアログ ボックスで、[名前] フィールドに名前を入力します。
 - ステップ 4 [リフレクティブ リレー (802.1Qbg)] エリアで、[有効] をクリックします。
 - ステップ 5 必要に応じて、ダイアログ ボックスのその他のオプションを選択します。
 - ステップ 6 [Submit] をクリックします。
 - ステップ 7 [ポリシー] ナビゲーション ペインで、[ポリシー グループ] フォルダを開いて、[リーフ ポリシー グループ] フォルダをクリックします。
 - ステップ 8 [リーフ ポリシー グループ] 中央ペインで、[ACTIONS] ドロップダウンリストを展開し、[Create Leaf Access Port Policy Group]、[Create PC Interface Policy Group]、[Create vPC Interface Policy Group]、または [Create PC/vPC Override Policy Group] を選択します。
 - ステップ 9 ポリシーグループ ダイアログ ボックスで、[Name field] フィールドに名前を入力します。
 - ステップ 10 [L2 インターフェイス ポリシー] ドロップダウンリストで、リフレクティブ リレーを有効にするために作成したポリシーを選択します。
 - ステップ 11 [Submit] をクリックします。
-

NX-OS は、CLI を使用してリフレクティブ リレーの有効化

; By default(デフォルトで、デフォルトでは) リフレクティブ リレーが無効になっていますただし、スイッチのレイヤ 2 インターフェイス ポリシーとして、ポート、またはポート チャネルまたは仮想ポート チャネルでこれを有効にできます。CLI では、NX-OS テンプレートを使用して、複数のポートでリフレクティブ リレーの有効化または individual ports(個々のポート、個別ポート) で有効にすることができます。

始める前に

この手順では、Cisco Application Centric Infrastructure (ACI) ファブリックを設定し、物理スイッチをインストールしてあることを前提としています。

手順

リフレクティブ リレー 1 つまたは複数のポートで有効にします。

例：

この例では、1 つのポートでリフレクティブ リレーが有効にします。

```
apicl(config)# leaf 101
apicl(config-leaf)# interface ethernet 1/2
apicl(config-leaf-if)# switchport vepa enabled
apicl(config-leaf-if)# exit
apicl(config-leaf)# exit
```

例：

この例では、リフレクティブ リレー、テンプレートを使用して複数のポートで有効にします。

```
apicl(config)# template policy-group grp1
apicl(config-pol-grp-if)# switchport vepa enabled
apicl(config-pol-grp-if)# exit
apicl(config)# leaf 101
apicl(config-leaf)# interface ethernet 1/2-4
apicl(config-leaf-if)# policy-group grp1
```

例：

この例では、ポート チャンネルでリフレクティブ リレーが有効にします。

```
apicl(config)# leaf 101
apicl(config-leaf)# interface port-channel po2
apicl(config-leaf-if)# switchport vepa enabled
apicl(config-leaf-if)# exit
apicl(config-leaf)# exit
apicl(config)#
```

例：

この例では、複数のポート チャンネルでリフレクティブ リレーが有効にします。

```
apicl(config)# template port-channel pol
apicl(config-if)# switchport vepa enabled
apicl(config-if)# exit
apicl(config)# leaf 101
apicl(config-leaf)# interface ethernet 1/3-4
apicl(config-leaf-if)# channel-group pol
apicl(config-leaf-if)# exit
apicl(config-leaf)# exit
```

例：

この例では、仮想ポート チャンネルでリフレクティブ リレーが有効にします。

```
apicl(config)# vpc domain explicit 1 leaf 101 102
apicl(config-vpc)# exit
apicl(config)# template port-channel po4
apicl(config-if)# exit
apicl(config)# leaf 101-102
```

```
apic1(config-leaf)# interface eth 1/11-12
apic1(config-leaf-if)# channel-group po4 vpc
apic1(config-leaf-if)# exit
apic1(config-leaf)# exit
apic1(config)# vpc context leaf 101 102
apic1(config-vpc)# interface vpc po4
apic1(config-vpc-if)# switchport vepa enabled
```

FEX デバイスへのポート、PC、および vPC 接続の設定

FEX 接続とそれらの構成に使用されるプロファイルは、GUI、NX-OS スタイルの CLI、または REST API を使用して作成できます。Cisco Application Policy Infrastructure Controller (APIC) 3.0 (1k) リリース以降では、FEX 接続構成のインターフェイス プロファイルがサポートされています。

構成には、2 つの主要な手順があります。

- FEX と Cisco Application Centric Infrastructure (ACI) リーフ スイッチ間の接続の定義
- サーバーに接続されている FEX ポートの構成

Cisco ACI リーフ スイッチへの FEX 接続を構成した後の、FEX ホスト側ポートの構成は、個々のインターフェイス、ポートチャンネル、または vPC としての Cisco ACI リーフ スイッチ ポートの構成と変わりません。

GUI、NX-OS スタイルの CLI、または REST API を使用してポート、PC、および vPC を構成する方法については、次の項を参照してください。

- [物理ポートの構成 \(88 ページ\)](#)
- [ポート チャンネル \(97 ページ\)](#)
- [Cisco ACI の仮想ポート チャンネル \(107 ページ\)](#)

ACI FEX のガイドライン

FEX を展開するときには、次のガイドラインに従ってください。

- リーフ スイッチ前面パネル ポートが EPG および VLAN を展開するように設定されていないと仮定して、最大 10,000 個のポート EPG が FEX を使用して展開することをサポートします。
- メンバーとして FEX ポートを含む各 FEX ポートまたは vPC では、各 VLAN で最大 20 個の EPG がサポートされます。
- FEX インターフェイスを備えた vPC は、ポート チャンネル ポリシーで設定されたリンクの最小数と最大数を無視します。vPC は、リンク数が最小値を下回ったり、最大値を上回ったりしても、up 状態を維持します。

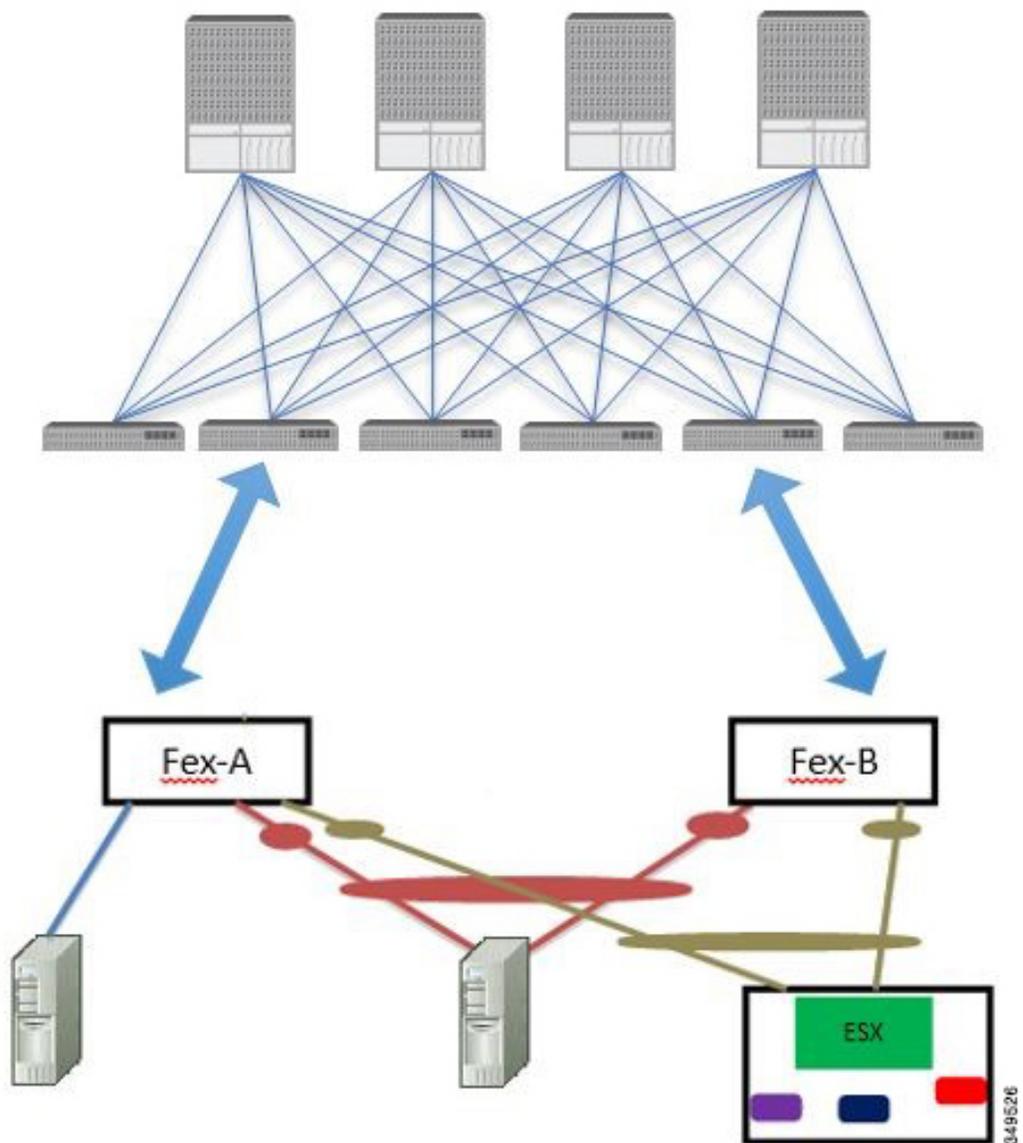
FEX 仮想ポート チャンネル

ACI ファブリックは、FEX ストレート vPC と呼ばれる Cisco Fabric Extender (FEX) サーバ側仮想ポート チャンネル (vPC) をサポートします。



- (注) 2つのリーフスイッチ間に vPC ドメインを作成する場合は、同じ vPC ペアの一部になる2つのリーフスイッチのハードウェアに互換性があることを確認します。詳細については、[Cisco ACI の仮想ポート チャンネル \(107 ページ\)](#) を参照してください。

図 27: サポートされる FEX vPC トポロジ



サポートされる FEX vPC ポート チャンネル トポロジは次のとおりです。

- FEX の背後にある VTEP および非 VTEP の両方のハイパーバイザ。
- ACI ファブリックに接続された 2 つの FEX に接続された仮想スイッチ (AVS や VDS など) (物理 FEX ポートに直接接続された vPC はサポートされません。vPC はポート チャンネルでのみサポートされます)。

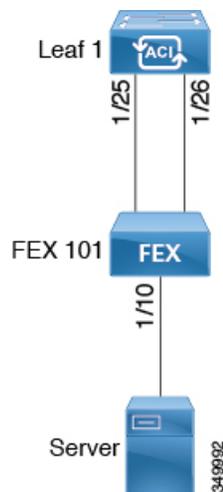


- (注) GARP を、同じ FEX 上の異なるインターフェイスで IP から MAC バインディングへ変更する際の通知プロトコルとして使用する場合、ブリッジドメインは **[ARP フラッディング (ARP Flooding)]** に設定し、**[EP 移動検出モード (EP Mode Detection Mode)]** : **[GARP ベースの検出 (GARP-based Detection)]** を、ブリッジドメイン ウィザードの **[L3 構成 (L3 Configuration)]** ページで有効にする必要があります。この回避策は、のみ生成 1 スイッチで必要です。第 2 世代のスイッチで、または以降では、この問題ではありません。

GUI を使用した ACI リーフスイッチへの FEX 接続の構成

この手順では、FEX にサーバを接続する手順を示します。手順は、Cisco Application Centric Infrastructure (ACI) が接続された FEX にデバイスを接続する場合と同じになります。

図 28: 基本的な FEX 設定



- (注) FEX ID 165 ~ 199 の FEX 接続の設定は、APIC GUI ではサポートされていません。これらの FEX ID のいずれかを使用するには、NX-OS スタイル CLI を使用してプロファイルを設定します。詳細については、「NX-OS スタイル CLI のインターフェイスプロファイルを使用して FEX 接続を設定する」を参照してください。

始める前に

- Cisco ACI ファブリックが設置され、Cisco Application Policy Infrastructure Controller (APIC) がオンラインになっており、Cisco APIC クラスタが形成されて正常に動作していること。
- 必要なファブリック インフラストラクチャ設定を作成できる Cisco APIC ファブリック管理者アカウントが使用可能であること。
- ターゲット リーフ スイッチ、インターフェイス、およびプロトコルが設定されており、使用可能であること。
- FEX に電源が入っていて、ターゲット リーフ スイッチのインターフェイスに接続されていること。



- (注) FEX に接続されているファブリックポートチャネルでは、最大 8 つのメンバーがサポートされます。

手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[ファブリック (FABRIC)] > [アクセス ポリシー (Access Policies)] の順に選択します。
- ステップ 2** ナビゲーション ペインで [インターフェイスの設定 (Interface Configuration)] を選択します。
- ステップ 3** 作業 ペインで、[アクション (Actions)] > [ファブリック エクステンダ (Fabric Extender)] をクリックします。
- ステップ 4** [ファブリック エクステンダ (Fabric Extender)] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。
 - a) [ノード (Node)] で、[ノードの選択 (Select Node)] をクリックし、目的のノードのボックスにチェックを入れて、[OK] をクリックします。複数のノードを選択できます。
 - b) [すべてのスイッチのインターフェイス (Interfaces For All Switches)] で、目的のインターフェイスの範囲を入力します。
 - c) [接続先 FEX の ID (Connected FEX ID)] には、FEX の ID を入力します。
NX-OS スタイル CLI を使用して、FEX ID 165 ~ 199 を構成する必要があります。
『*Configuring FEX Connections Using Interface Profiles with the NX-OS Style CLI*』を参照してください。
 - d) [保存 (Save)] をクリックします。
Cisco APIC は、必要な FEX プロファイル (`switch-policy-name_FexPFEX-ID`) とセレクトラ (`switch-policy-name_ifselector`) を自動的に生成します。

確認 : FEX がオンラインであることを確認するには、FEX が接続されているスイッチに対して CLI コマンド `show fex` を使用します。

ステップ 5 通常の Cisco ACI リーフスイッチインターフェイスなどの FEX インターフェイスを、[ファブリック (Fabric)] > [ファブリック アクセス (Fabric Access)] > [インターフェイス構成 (Interface Configuration)] によって構成できるようになりました。

次のタスク



(注) この設定はハードウェア接続を有効にしますが、このハードウェア設定に関連付けられた有効なアプリケーションプロファイル、EPG、およびコントラクトがないと、データトラフィックはフローできません。

プロファイルと NX-OS スタイル CLI を使用した ACI リーフスイッチへの FEX 接続の構成

NX-OS スタイル CLI を使用してリーフノードへの接続を FEX を設定するには、次の手順を使用します。



(注) FEX ID 165~199 の FEX 接続の構成は、Cisco Application Policy Infrastructure Controller (APIC) GUI ではサポートされていません。これらの FEX ID のいずれかを使用するには、次のコマンドを使用して、プロファイルを設定します。

手順

ステップ 1 **configure**

グローバル構成モードを開始します。

例：

```
apic1# configure
```

ステップ 2 **leaf-interface-profile name**

設定するリーフインターフェイスプロファイルを指定します。

例：

```
apic1(config)# leaf-interface-profile fexIntProf1
```

ステップ 3 **leaf-interface-group name**

設定するインターフェイスグループを指定します。

例：

```
apic1(config-leaf-if-profile)# leaf-interface-group leafIntGrp1
```

ステップ 4 `fex associate fex-id [template template-typefex-template-name]`

リーフノードにFEXモジュールを接続します。使用するテンプレートを指定するのにオプションのテンプレートのキーワードを使用します。存在しない場合、システムは、名前とタイプが指定したで、テンプレートを作成します。

例：

```
apicl(config-leaf-if-group)# fex associate 101
```

例

このマージの例では、ID 101 で FEX 接続のリーフ インターフェイス プロファイルを設定します。

```
apicl# configure
apicl(config)# leaf-interface-profile fexIntProf1
apicl(config-leaf-if-profile)# leaf-interface-group leafIntGrp1
apicl(config-leaf-if-group)# fex associate 101
```

ポートプロファイルの設定

アップリンクおよびダウンリンク変換は、名前の末尾が EX か FX、またはそれ以降の Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチでサポートされます（たとえば、N9K-C9348GC-FXP または N9K-C93240YC-FX2）。変換後のダウンリンクに接続されている FEX もサポートされています。

サポートされているサポート対象の Cisco スイッチについては、『[ポートプロファイルの設定のまとめ（138 ページ）](#)』を参照してください。

アップリンクポートがダウンリンクポートに変換されると、他のダウンリンクポートと同じ機能を持つようになります。

制約事項

- FAST リンク フェールオーバー ポリシーとポートプロファイルは、同じポートではサポートされていません。ポートプロファイルが有効になっている場合、FAST リンク フェールオーバーを有効にすることはできません。その逆も同様です。
- サポートされているリーフ スイッチの最後の 2 つのアップリンク ポートは、ダウンリンク ポートに変換することはできません（これらはアップリンク接続用に予約されています）。
- ダイナミック ブレークアウト（100Gb と 40Gb の両方）は、N9K-C93180YC-FX スイッチのプロファイルされた QSFP ポートでサポートされます。ブレークアウトおよびポートプロファイルでは、ポート 49-52 でアップリンクからダウンリンクへの変換が一緒にサポートされています。ブレークアウト（10g-4x オプションと 25g-4x オプションの両方）は、ダウンリンク プロファイル ポートでサポートされます。

- N9K-C9348GC-FXP は FEX をサポートしていません。
- ブレークアウトはダウンリンクポートでのみサポートされます。他のスイッチに接続されているファブリックポートではサポートされません。
- Cisco ACI リーフスイッチは、56 を超えるファブリックリンクを持つことはできません。
- スwitchのポートプロファイル構成を変更した後にスイッチをリロードすると、データプレーンを通過するトラフィックが中断されます。

ガイドライン

アップリンクをダウンリンクに変換したり、ダウンリンクをアップリンクに変換したりする際は、次のガイドラインにご注意ください。

サブジェクト	ガイドライン
ポートプロファイルを使用したノードのデコミッション	デコミッションされたノードがポートプロファイル機能を展開している場合、ポート変換はノードのデコミッション後も削除されません。ポートをデフォルト状態に戻すには、デコミッション後に手動で設定を削除する必要があります。これを行うには、スイッチにログインし、 <code>setup-clean-config.sh -k</code> スクリプトを実行して、実行完了を待ちます。それから、リロードコマンドを入力します。 <code>-k</code> スクリプトオプションを使用すると、ポートプロファイルの設定がリロード後も維持され、追加のリポートが不要になります。

サブジェクト	ガイドライン
<p>最大アップリンク ポートの制限</p>	<p>最大アップリンク ポートの制限に達し、ポート 25 および 27 がアップリンクからダウンリンクへ返還されるとき、Cisco 93180LC EX スイッチのアップリンクに戻ります。</p> <p>Cisco N9K-93180LC-EX スイッチでは、ポート 25 および 27 がオリジナルのアップリンク ポートです。ポートプロファイルを使用して、ポート 25 および 27 をダウンリンク ポートに変換する場合でも、ポート 29、30、31、および 32 は引き続き 4 つの元のアップリンクポートとして使用できます。変換可能なポート数のしきい値のため（最大 12 ポート）、8 個以上のダウンリンク ポートをアップリンクポートに変換できます。たとえば、ポート 1、3、5、7、9、13、15、17 はアップリンクポートに変換されます。ポート 29、30、31、および 32 は、4 つの元からのアップリンク ポートです（Cisco 93180LC-EX スイッチでの最大アップリンク ポートの制限）。</p> <p>スイッチがこの状態でポートプロファイル設定がポート 25 および 27 で削除される場合、ポート 25 および 27 はアップリンクポートへ再度変換されますが、前述したようにスイッチにはすでに 12 個のアップリンクポートがあります。ポート 25 および 27 をアップリンクポートとして適用するため、ポート範囲 1、3、5、7、9、13、15、17 からランダムで 2 個のポートがアップリンクへの変換を拒否されます。この状況はユーザにより制御することはできません。</p> <p>そのため、リーフ ノードをリロードする前にすべての障害を消去し、ポートタイプに関する予期しない問題を回避することが必須です。ポートプロファイルの障害を消去せずにノードをリロードすると、特に制限超過に関する障害の場合、ポートは予想される動作状態になることに注意する必要があります。</p>

ブレークアウト制限

スイッチ	リリース	制限事項
N9K-C93180LC-EX	Cisco APIC 3.1(1) 以降	<ul style="list-style-type: none"> • 40 Gb と 100 Gb のダイナミック ブレークアウトは、ポート 1 ~ 24 の奇数ポート上でサポートされます。 • 上位ポート（奇数ポート）ブレークアウトされると、下部ポート（偶数ポート）はエラーが無効になります。 • ポートプロファイルおよびブレークアウトは、同じポートでサポートされていません。ただし、ポートプロファイルを適用してファブリックポートをダウンリンクに変換してからであれば、ブレークアウト設定を適用できます。
N9K-C9336C-FX2-E	Cisco APIC 5.2(4) 以降	<ul style="list-style-type: none"> • 40Gb および 100Gb のダイナミックブレークアウトは、ポート 1 ~ 34 でサポートされます。 • ポートプロファイルは、ブレークアウトが有効になっているポートには適用できません。ただし、ポートプロファイルを適用してファブリックポートをダウンリンクに変換してからであれば、ブレークアウト設定を適用できます。 • 34 ポートすべてをブレークアウトポートとして設定できます。 • 34 のポートにブレークアウト設定を適用する場合は、34 のダウンリンクポートを持つようにポートのポートプロファイルを設定してから、リーフスイッチをリブートする必要があります。 • 複数のポートのリーフスイッチにブレークアウト設定を同時に適用する場合、34 ポートのハードウェアがプログラムされるまでに最大 10 分かかります。プログラミングが完了するまで、ポートはダウンしたままになります。新しい設定の場合、クリーンリブート後、またはスイッチの検出中に遅延が発生する可能性があります。

スイッチ	リリース	制限事項
N9K-C9336C-FX2	Cisco APIC 4.2(4) 以降	<ul style="list-style-type: none"> • 40Gb および 100Gb のダイナミック ブレークアウトは、ポート 1 ~ 34 でサポートされます。 • ポートプロファイルは、ブレークアウトが有効になっているポートには適用できません。ただし、ポートプロファイルを適用してファブリックポートをダウンリンクに変換してからであれば、ブレークアウト設定を適用できます。 • 34 ポートすべてをブレークアウトポートとして設定できます。 • 34 のポートにブレークアウト設定を適用する場合は、34 のダウンリンクポートを持つようにポートのポートプロファイルを設定してから、リーフスイッチをリブートする必要があります。 • 複数のポートのリーフスイッチにブレークアウト設定を同時に適用する場合、34 ポートのハードウェアがプログラムされるまでに最大 10 分かかります。プログラミングが完了するまで、ポートはダウンしたままになります。新しい設定の場合、クリーンリブート後、またはスイッチの検出中に遅延が発生する可能性があります。
N9K-C9336C-FX2	Cisco APIC 3.2(1) 以降、ただし 4.2(4) は含まない	<ul style="list-style-type: none"> • ポート 1 ~ 30 では、40 Gb と 100 Gb のダイナミックブレークがサポートされています。 • ポートプロファイルおよびブレークアウトは、同じポートでサポートされていません。ただし、ポートプロファイルを適用してファブリックポートをダウンリンクに変換してからであれば、ブレークアウト設定を適用できます。 • 最大 20 のポートをブレークアウトポートとして設定できます。

スイッチ	リリース	制限事項
N9K-C93180YC-FX	Cisco APIC 3.2(1) 以降	<ul style="list-style-type: none"> • 40 Gb と 100 Gb のダイナミック ブレークは、52、上にあるときにプロファイリング QSFP ポートがポート 49 でサポートされます。ダイナミック ブレークアウトを使用するには、次の手順を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • ポート 49~52 を前面パネルポート (ダウンリンク) に変換します。 • 次の方法のいずれかを使用して、ポートプロファイルのリロードを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • Cisco APIC GUI で、[ファブリック (Fabric)]>[インベントリ (Inventory)]>[ポッド (Pod)]>[リーフ (Leaf)]に移動し、[シャーシ (Chassis)] を右クリックして、[リロード (Reload)] を選択します。 • iBash CLI で、reload コマンドを入力します。 • プロファイルされたポート 49 - 52 のブレークアウトを適用します。 • ポート 53 および 54 では、ポートプロファイルまたはブレークアウトをサポートしていません。
N9K-C93240YC-FX2	Cisco APIC 4.0(1) 以降	ブレークアウトは変換後のダウンリンクではサポートされていません。

ポートプロファイルの設定のまとめ

次の表に、アップリンクからダウンリンク、およびダウンリンクからアップリンクへのポートプロファイル変換をサポートするスイッチでサポートされるアップリンクおよびダウンリンクをまとめます。

スイッチ モデル	デフォルト リンク	最大アップリンク (ファブリック ポート)	最大ダウンリンク (サーバのポート)	サポートされているリリース
N9K-C9348GC-FXP ¹	48 x 100 M/1 G BASE-T ダウンリンク 4 x 10/25 Gbps SFP28 ダウンリンク 2 x 40/100 Gbps QSFP28 アップリンク	48 x 100 M/1 G BASE-T ダウンリンク 4 x 10/25 Gbps SFP28 アップリンク 2 x 40/100 Gbps QSFP28 アップリンク	デフォルトのポート設定と同じ	3.1(1)
N9K-C93180LC-EX	24 x 40 Gbps QSFP28 ダウンリンク (ポート 1-24) 2 x 40/100 Gbps QSFP28 アップリンク (ポート 25、27) 4 x 40/100 Gbps QSFP28 アップリンク (ポート 29-32) または 12 X 100 Gbps QSFP28 ダウンリンク (1-24 の奇数番号ポート) 2 x 40/100 Gbps QSFP28 アップリンク (ポート 25、27) 4 x 40/100 Gbps QSFP28 アップリンク (ポート 29-32)	18 X 40 Gbps QSFP28 ダウンリンク (1-24) 6 X 40 Gbps QSFP28 アップリンク (1-24) 2 x 40/100 Gbps QSFP28 アップリンク (25、27) 4 x 40/100 Gbps QSFP28 アップリンク (29-32) または 6 x 100 Gbps QSFP28 ダウンリンク (1-24 の範囲の奇数) 6 x 100 Gbps QSFP28 アップリンク (1-24 の範囲の奇数) 2 x 40/100 Gbps QSFP28 アップリンク (25、27) 4 x 40/100 Gbps QSFP28 アップリンク (29-32)	24 X 40 Gbps QSFP28 ダウンリンク (1-24) 2 x 40/100 Gbps QSFP28 ダウンリンク (25、27) 4 x 40/100 Gbps QSFP28 アップリンク (29-32) または 12 X 100 Gbps QSFP28 ダウンリンク (1-24 の範囲の奇数) 2 x 40/100 Gbps QSFP28 ダウンリンク (25、27) 4 x 40/100 Gbps QSFP28 アップリンク (29-32)	3.1(1)

スイッチモデル	デフォルトリンク	最大アップリンク (ファブリックポート)	最大ダウンリンク (サーバのポート)	サポートされているリリース
N9K-C93180YC-EX N9K-C93180YC-FX N9K-C93180YC-FX3	48 x 10/25 Gbps ファイバ ダウンリンク 6 x 40/100 Gbps QSFP28 アップリンク	デフォルトのポート 設定と同じ	48 x 10/25 Gbps ファイバ ダウンリンク	3.1(1)
		48 X 10/25 Gbps ファイバ アップリンク	4 x 40/100 Gbps QSFP28 ダウンリンク	4.0(1)
		6 x 40/100 Gbps QSFP28 アップリンク	2 x 40/100 Gbps QSFP28 アップリンク	5.1(3)
N9K-C93108TC-EX ² N9K-C93108TC-FX ² N9K-C93108TC-FX3	48 x 10GBASE T ダウンリンク 6 x 40/100 Gbps QSFP28 アップリンク	デフォルトのポート 設定と同じ	48 x 10/25 Gbps ファイバ ダウンリンク	3.1(1)
			4 x 40/100 Gbps QSFP28 ダウンリンク	4.0(1)
			2 x 40/100 Gbps QSFP28 アップリンク	5.1(3)

スイッチ モデル	デフォルト リンク	最大アップリンク (ファブリック ポート)	最大ダウンリンク (サーバのポート)	サポートされているリリース
N9K-C9336C-FX2	30 x 40/100 Gbps QSFP28 ダウンリンク 6 x 40/100 Gbps QSFP28 アップリンク	18 x 40/100 Gbps QSFP28 ダウンリンク	デフォルトのポート設定と同じ	3.2(1)
		18 x 40/100 Gbps QSFP28 アップリンク	34 X 40/100 Gbps QSFP28 ダウンリンク	3.2(3)
		18 x 40/100 Gbps QSFP28 アップリンク	2 x 40/100 Gbps QSFP28 アップリンク	
		36 x 40/100-Gbps QSFP28 アップリンク	34 X 40/100 Gbps QSFP28 ダウンリンク 2 x 40/100 Gbps QSFP28 アップリンク	4.1(1)
N9K-C9336C-FX2-E	30 x 40/100 Gbps QSFP28 ダウンリンク 6 x 40/100 Gbps QSFP28 アップリンク	36 x 40/100-Gbps QSFP28 アップリンク	34 X 40/100 Gbps QSFP28 ダウンリンク 2 x 40/100 Gbps QSFP28 アップリンク	5.2(4)
N9K-93240YC-FX2	48 x 10/25 Gbps ファイバダウンリンク 12 x 40 / 100Gbps QSFP28 アップリンク	デフォルトのポート設定と同じ	48 x 10/25 Gbps ファイバダウンリンク	4.0(1)
		48 X 10/25 Gbps ファイバアップリンク 12 x 40 / 100Gbps QSFP28 アップリンク	10 X 40/100 Gbps QSFP28 ダウンリンク 2 x 40/100 Gbps QSFP28 アップリンク	4.1(1)

スイッチモデル	デフォルトリンク	最大アップリンク (ファブリックポート)	最大ダウンリンク (サーバのポート)	サポートされているリリース
N9K-C93216TC-FX2	96 X 10G BASE-T ダウンリンク 12 x 40 / 100Gbps QSFP28 アップリンク	デフォルトのポート 設定と同じ	96 X 10G BASE-T ダウンリンク 10 X 40/100 Gbps QSFP28 ダウンリンク 2 x 40/100 Gbps QSFP28 アップリンク	4.1(2)
N9K-C93360YC-FX2	96 X 10/25 Gbps SFP28 ダウンリンク 12 x 40 / 100Gbps QSFP28 アップリンク	44 x 10 / 25Gbps SFP28 ダウンリンク 52 x 10 / 25Gbps SFP28 アップリンク 12 x 40 / 100Gbps QSFP28 アップリンク	96 X 10/25 Gbps SFP28 ダウンリンク 10 X 40/100 Gbps QSFP28 ダウンリンク 2 x 40/100 Gbps QSFP28 アップリンク	4.1(2)
N9K-C93600CD-GX	28 x 40/100 Gbps QSFP28 ダウンリンク (ポート 1~28) 8 x 40/100/400 Gbps QSFP-DD アップリンク (ポート 29~ 36)	28 X 40/100 Gbps QSFP28 アップリンク 8 x 40/100/400 Gbps QSFP-DD アップリンク	28 X 40/100 Gbps QSFP28 ダウンリンク 6 X 40/100/400 Gbps QSFP-DD ダウンリンク 2 x 40/100/400 Gbps QSFP-DD アップリンク	4.2(2)
N9K-C9364C-GX	48 x 40/100 Gbps QSFP28 ダウンリンク (ポート 1~48) 16 x 40/100 Gbps QSFP28 アップリンク (ポート 49~ 64)	64 X 40/100 Gbps QSFP28 アップリンク	62 X 40/100 Gbps QSFP28 ダウンリンク 2 x 40/100 Gbps QSFP28 アップリンク	4.2(3)

スイッチ モデル	デフォルト リンク	最大アップリンク (ファブリック ポート)	最大ダウンリンク (サーバのポート)	サポートされているリリース
N9K-C9316D-GX	12 x 40/100/400 Gbps QSFP-DD ダウンリンク (ポート 1~12) 4 x 40/100/400 Gbps QSFP-DD アップリンク (ポート 13~16)	16 X 40/100/400 Gbps QSFP-DD アップリンク	14 x 40/100/400 Gbps QSFP-DD ダウンリンク	5.1(4)
N9K-C9332D-GX2B	2 x 1/10 Gbps SFP+ ダウンリンク (ポート 33~34) 24 x 40/100/400 Gbps QSFP-DD ダウンリンク (ポート 1~24) 8 x 40/100/400 Gbps QSFP-DD アップリンク (ポート 25~32)	2 X 1/10 Gbps SFP+ ダウンリンク 32 X 40/100/400 Gbps QSFP-DD アップリンク	2 X 1/10 Gbps SFP+ ダウンリンク 30 X 40/100/400 Gbps QSFP-DD ダウンリンク 2 x 40/100/400 Gbps QSFP-DD アップリンク	5.2(3)
N9K-C9348D-GX2A	2 x 1/10 Gbps SFP+ ダウンリンク (ポート 49~50) 36 x 40/100/400 Gbps QSFP-DD ダウンリンク (ポート 1~36) 12 x 40/100/400 Gbps QSFP-DD アップリンク (ポート 37~48)	2 X 1/10 Gbps SFP+ ダウンリンク 48 x 40/100/400 Gbps QSFP-DD アップリンク	2 X 1/10 Gbps SFP+ ダウンリンク 46 X 40/100/400 Gbps QSFP-DD ダウンリンク 2 x 40/100/400 Gbps QSFP-DD アップリンク	5.2(5)

スイッチモデル	デフォルトリンク	最大アップリンク (ファブリックポート)	最大ダウンリンク (サーバのポート)	サポートされているリリース
N9K-C9364D-GX2A	2 x 1/10 Gbps SFP+ ダウンリンク (ポート 65~66) 48 x 40/100/400 Gbps QSFP-DD ダウンリンク (ポート 1~48) 16 x 40/100/400 Gbps QSFP-DD アップリンク (ポート 49~64)	2 X 1/10 Gbps SFP+ ダウンリンク 64 x 40/100/400 Gbps QSFP-DD アップリンク	2 X 1/10 Gbps SFP+ ダウンリンク 62 X 40/100/400 Gbps QSFP-DD ダ ウンリンク 2 x 40/100/400 Gbps QSFP-DD アップリ ンク	5.2(5)
N9K-C9408 (N9K-X9400-8D 搭載) ³	6 X 40/100/400 Gbps QSFP-DD ダウンリンク 2 x 40/100/400 Gbps QSFP-DD アップリンク	8 x 40/100/400 Gbps QSFP-DD アップリンク	デフォルトのポート設定と同じ	6.0(2)
N9K-C9408 (N9K-X9400-16W 搭載) ³	12 x 100/200 Gbps QSFP56 ダウンリンク 4 x 100/200 Gbps QSFP56 アップリンク	6 x 100/200 Gbps QSFP56 アップリンク (ポート 1~6) 6 x 100/200 Gbps QSFP56 ダウンリンク (ポート 7~12) 4 x 100/200 Gbps QSFP56 アップリンク (ポート 13~16)	デフォルトのポート設定と同じ	6.0(2) ⁴

1 FEX をサポートしていません。

2 アップリンクからダウンリンクへの変換のみがサポートされています。

3 ポート 1~6 のみがポートプロファイルの変換をサポートします。

4 6.0(2) リリースは 200 Gbps をサポートしていません。

GUIを使用したアップリンクからダウンリンクまたはダウンリンクからアップリンクへの変更

この手順では、ポートタイプ(アップリンクまたはダウンリンク)を決定するポートプロファイルを設定する方法について説明します。[ファブリック (Fabric)] > [アクセス ポリシー (Access Policies)] > [インターフェイスの構成 (Interface Configuration)] > [アクション (Actions)] > [インターフェイスの変換 (Convert Interfaces)]を使用して、ポートをアップリンクまたはダウンリンクとして設定できます。[ファブリック (Fabric)] > [インベントリ (Inventory)] > [トポロジ (Topology)] > [インターフェイスの変換 (Convert Interfaces)]を使用することもできます。2つの方法は同じワークフローを提供します。

始める前に

- Cisco Application Centric Infrastructure (ACI) ファブリックが設置され、Cisco Application Policy Infrastructure Controller (APIC) がオンラインになっており、Cisco APIC クラスタが形成されて正常に動作していること。
- 必要なファブリック インフラストラクチャ設定を作成または変更できる Cisco APIC ファブリック管理者アカウントが使用可能であること。
- ターゲットリーフスイッチが Cisco ACI ファブリックに登録され、使用可能であること。

手順

- ステップ 1** メニューバーで、[ファブリック (FABRIC)] > [アクセス ポリシー (Access Policies)] の順に選択します。
- ステップ 2** ナビゲーションペインで[インターフェイスの構成 (Interface Configuration)]を選択します。
- ステップ 3** 作業ペインで、[アクション (Actions)] > [インターフェイスの変換 (Convert Interfaces)]をクリックします。
- ステップ 4** [インターフェイス構成サポートタイプ (Interface Configuration Support Type)] ドロップダウンリストで、[アップリンクへの変換 (Convert to Uplink)] または [ダウンリンクへの変換 (Convert to Downlink)] を選択します。
- ステップ 5** [ノード (Node)] フィールドで、[ノードの選択 (Select Node)] をクリックし、ノードを選択します。
- ステップ 6** [すべてのスイッチのインターフェイス (Interfaces for All Switches)] フィールドで、目的のインターフェイスを入力します。

ダウンリンクをアップリンクに、またはアップリンクをダウンリンクに変換した後、GUIまたはCLIの `reload` コマンドを使用してスイッチをリロードする必要があります。スイッチの電源の再投入では不十分です。

NX-OS スタイル CLI を使用したポート プロファイルの設定

NX-OS スタイルの CLI を使用したポート プロファイルの設定をするには、次の手順を実行します。

始める前に

- ACI ファブリックが設置され、APIC コントローラがオンラインになっており、APIC クラスタが形成されて正常に動作していること。
- 必要なファブリック インフラストラクチャ設定を作成または変更できる APIC ファブリック管理者アカウントが使用可能であること。
- ターゲット リーフ スイッチが ACI ファブリックに登録され、使用可能であること。

手順

ステップ 1 **configure**

グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

例：

```
apic1# configure
```

ステップ 2 **leaf node-id**

設定するリーフまたはリーフ スイッチを指定します。

例：

```
apic1(config)# leaf 102
```

ステップ 3 **interface type**

設定するインターフェイスを指定します。インターフェイス タイプと ID を指定できます。イーサネット ポートの場合は、`ethernet slot / port` を使用します。

例：

```
apic1(config-leaf)# interface ethernet 1/2
```

ステップ 4 **port-direction {uplink | downlink}**

ポートの方向を決定するか変更します。この例ではダウンリンクにポートを設定します。

(注) N9K-C9336C-FX スイッチでは、アップリンクからダウンリンクへの変更はサポートされていません。

例：

```
apic1(config-leaf-if)# port-direction downlink
```

ステップ 5 ポートがあるリーフ スイッチにログインし、**reload** コマンドを入力します。

NX-OS スタイル CLI を使用したポート プロファイルの設定と変換の確認

`show interface brief` CLI コマンドを使用して、ポートの設定と変換を確認することができます。



- (注) ポート プロファイルは、Cisco N9K-C93180LC EX スイッチのトップ ポートにのみ展開されます。たとえば、1、3、5、7、9、11、13、15、17、19、21、および23となります。ポート プロファイルを使用してトップ ポートを変換すると、ボトム ポートはハードウェア的に無効になります。たとえば、ポート プロファイルを使用して Eth 1/1 を変換すると、Eth 1/2 はハードウェア的に無効になります。

手順

- ステップ 1** この例では、アップリンク ポートをダウンリンク ポートに変換する場合の出力を示しています。アップリンク ポートをダウンリンク ポートに変換する前に、この例での出力が表示されます。**routed** というキーワードは、ポートがアップリンク ポートであることを示しています。

例：

```
switch# show interface brief
<snip>
Eth1/49      --      eth  routed  down  sfp-missing      100G(D)  --
Eth1/50      --      eth  routed  down  sfp-missing      100G(D)  --
<snip>
```

- ステップ 2** ポート プロファイルを設定して、スイッチのリロード、後に、例では、出力が表示されます。キーワード **トランク** ダウンリンク ポートとしてポートを示します。

例：

```
switch# show interface brief
<snip>
Eth1/49      0      eth  trunk   down  sfp-missing      100G(D)  --
Eth1/50      0      eth  trunk   down  sfp-missing      100G(D)  --
<snip>
```

インターフェイス構成の編集

この手順では、以前に構成したインターフェイスの構成を編集する方法について説明します。これにより、インターフェイスのポート ポリシー グループまたは説明を変更できます。

始める前に

少なくとも1つのインターフェイスを構成する必要があります。

手順

- ステップ1 メニューバーで、[ファブリック (FABRIC)] > [アクセス ポリシー (Access Policies)] の順に選択します。
- ステップ2 ナビゲーションペインで[インターフェイスの構成 (Interface Configuration)]を選択します。
- ステップ3 作業ウィンドウで、構成を編集するインターフェイスの行の右端にある[...]をクリックし、[インターフェイス構成の編集 (Edit Interface Configuration)]を選択します。
- ステップ4 [インターフェイス名ポリシーグループの編集 (Edit Policy Group for interface-name)] ダイアログで、必要に応じて構成を変更します。
- ステップ5 [保存 (Save)] をクリックします。

(注) ノードまたはポートプロファイルを使用して行われた既存の構成については、[APIC REST API の構成手順](#)を使用して FEX 構成全体を移行できます。



第 8 章

FCoE 接続

この章は、次の内容で構成されています。

- [Cisco ACI ファブリックでの Fibre Channel over Ethernet トラフィックのサポート](#) (149 ページ)
- [Fibre Channel over Ethernet のガイドラインと制限事項](#) (152 ページ)
- [Fibre Channel over Ethernet \(FCoE\) をサポートするハードウェア](#) (152 ページ)
- [APIC GUI を使用した FCoE の設定](#) (153 ページ)
- [NX-OS スタイルの CLI を使用した FCoE の設定](#) (173 ページ)
- [vPC による SAN ブート](#) (185 ページ)

Cisco ACI ファブリックでの Fibre Channel over Ethernet トラフィックのサポート

Cisco Application Centric Infrastructure (ACI) では、Cisco ACI ファブリック上の Fibre Channel over Ethernet (FCoE) に対するサポートを設定して、管理することができます。

FCoE は、ファイバチャネルパケットをイーサネットパケット内にカプセル化するプロトコルです。これにより、ストレージトラフィックをファイバチャネル SAN とイーサネットネットワーク間でシームレスに移動できます。

Cisco ACI ファブリックで FCoE プロトコルのサポートを標準実装することにより、イーサネットベースの Cisco ACI ファブリックに配置されているホストが、ファイバチャネルネットワークに配置されている SAN ストレージデバイスと通信できます。ホストは、Cisco ACI リーフスイッチに展開された仮想 F ポートを介して接続しています。SAN ストレージデバイスとファイバチャネルネットワークは、ファイバチャネルフォワーディング (FCF) ブリッジおよび仮想 NP ポートを介して Cisco ACI ファブリックに接続されます。このポートは、仮想 F ポートと同じ Cisco ACI リーフスイッチに導入されます。仮想 NP ポートおよび仮想 F ポートも汎用的に仮想ファイバチャネル (vFC) ポートと呼ばれます。

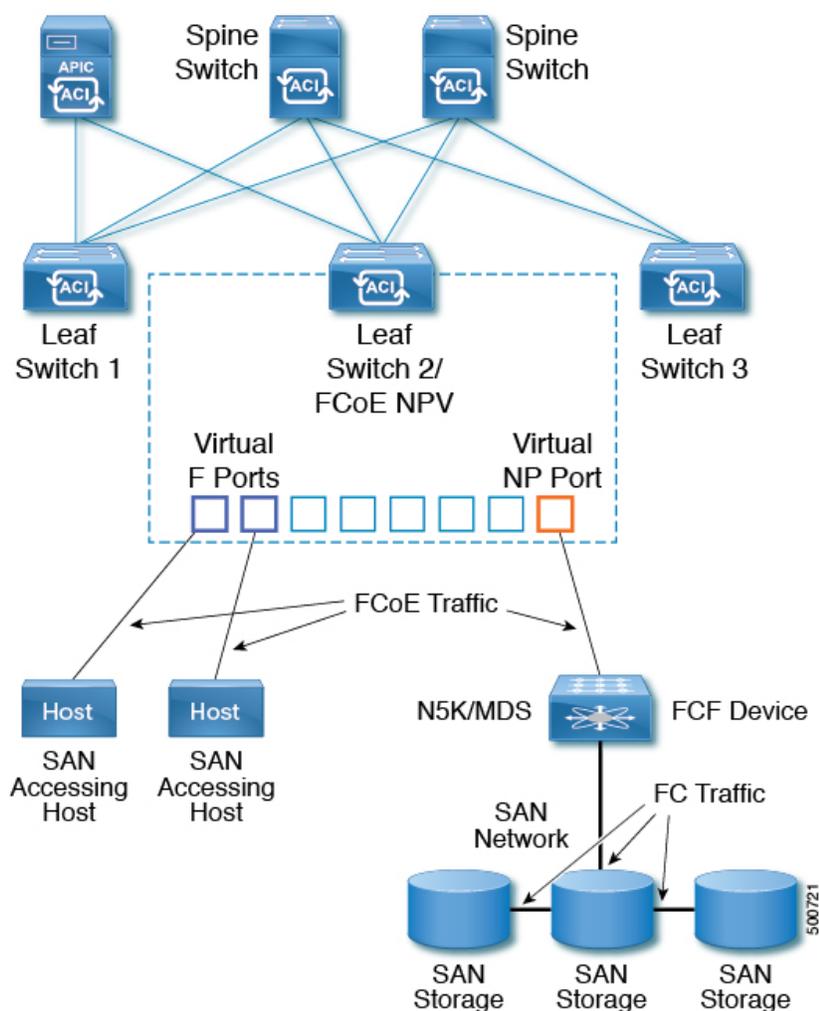


- (注) FCoE トポロジにおける Cisco ACI リーフスイッチの役割は、ローカル接続された SAN ホストとローカル接続された FCF デバイスの間で、FCoE トラフィックのパスを提供することです。リーフスイッチでは SAN ホスト間のローカルスイッチングは行われず、FCoE トラフィックはスパインスイッチに転送されません。

Cisco ACI を介した FCoE トラフィックをサポートするトポロジ

Cisco ACI ファブリック経由の FCoE トラフィックをサポートする一般的な設定のトポロジは、次のコンポーネントで構成されます。

図 29: Cisco ACI FCoE トラフィックをサポートするトポロジ



- NPV バックボーンとして機能するようにファイバチャネル SAN ポリシーを通して設定されている 1 つ以上の Cisco ACI リーフスイッチ。

- 仮想 F ポートとして機能するように設定された NPV 設定リーフ スイッチ上で選択されたインターフェイス。SAN 管理アプリケーションまたは SAN を使用しているアプリケーションを実行しているホストとの間を往来する FCoE トラフィックの調整を行います。
- 仮想 NP ポートとして機能するように設定された NPV 設定リーフ スイッチ上で選択されたインターフェイス。ファイバチャネル転送 (FCF) ブリッジとの間を往来する FCoE トラフィックの調整を行います。

FCF ブリッジは、通常 SAN ストレージデバイスを接続しているファイバチャネルリンクからファイバチャネルトラフィックを受信し、ファイバチャネルパケットを FCoE フレームにカプセル化して、Cisco ACI ファブリック経由で SAN 管理ホストまたは SAN データ消費ホストに送信します。FCoE トラフィックを受信し、ファイバチャネルに再パッケージしてファイバチャネル ネットワーク経由で伝送します。



- (注) 前掲の Cisco ACI トポロジでは、FCoE トラフィックのサポートには、ホストと仮想 F ポート間の直接接続、および、FCF デバイスと仮想 NP ポート間の直接接続が必要です。

Cisco Application Policy Infrastructure Controller (APIC) サーバーは、Cisco APIC GUI、NX-OS スタイルの CLI、または REST API へのアプリケーションコールを使用して、FCoE トラフィックを設定およびモニタできます。

FCoE の初期化をサポートするトポロジ

FCoE トラフィック フローが説明の通り機能するためには、別の VLAN 接続を設定する必要があります。SAN ホストはこの接続を経由して、FCoE 初期化プロトコル (FIP) パケットをブロードキャストし、F ポートとして有効にされているインターフェイスを検出します。

vFC インターフェイス設定ルール

Cisco APIC GUI、NX-OS スタイル CLI、または REST API のいずれかを使用して vFC ネットワークと EPG の導入を設定する場合でも、次の一般的なルールがプラットフォーム全体に適用されます。

- F ポートモードは、vFC ポートのデフォルトモードです。NP ポートモードは、インターフェイス ポリシーで具体的に設定する必要があります。
- デフォルトのロードバランシングモードはリーフスイッチ、またはインターフェイスレベル vFC 設定が src dst ox id。
- ブリッジドメインごとに 1 つの VSAN 割り当てがサポートされます。
- VSAN プールおよび VLAN プールの割り当てモードは、常にスタティックである必要があります。
- vFC ポートでは、VLAN にマッピングされている VSAN を含む VSAN ドメイン (ファイバチャネルドメインとも呼ばれます) との関連付けが必要です。

Fibre Channel over Ethernet のガイドラインと制限事項

FCoE に使用する VLAN の `vlanScope` を `Global` に設定する必要があります。 `vlanScope` を `portLocal` に設定することは、FCoE ではサポートされていません。値は、レイヤ 2 インターフェイス ポリシー (I2IfPol) を使用して設定されます。

Fibre Channel over Ethernet (FCoE) をサポートするハードウェア

FCoE は、次のスイッチでサポートされます。

- N9K-C93180LC-EX

40 ギガビットイーサネット (GE) ポートが FCoE F または NP ポートとして有効になっている場合、40GE ポートブレイクアウトを有効にすることはできません。FCoE は、ブレイクアウト ポートではサポートされません。

- N9K-C93108TC-FX
- N9K-C93108TC-EX (FCoE NPVのみ)
- N9K-C93180YC-EX
- N9K-C93180LC-EX

FEX ポートでの FCoE がサポートされます。

- N9K-C93180YC-FX

サポート対象は、10/25G ポート (1~48) 、40G ポート (1/49~54) 、4x10G ブレイクアウト ポート (1/49~54) 、および FEX ポート上の FCoE です。

FCoE は、次の Nexus FEX デバイスでサポートされます。

- 10 ギガ-ビット C2348UPQ N2K
- 10 ギガ-ビット C2348TQ N2K
- N2K-C2232PP-10GE
- N2K-B22DELL-P
- N2K-B22HP-P
- N2K-B22IBM-P
- N2K B22DELL P FI

APIC GUI を使用した FCoE の設定

FCoE GUI の設定

FCoE ポリシー、プロファイル、およびドメインの設定

[Fabric Access Policies] タブで APIC GUI を使用すれば、ポリシー、ポリシー グループ、およびプロファイルを設定して、ACI リーフ スイッチ上の F および NP ポートをサポートする FCoE のカスタマイズされ、スケールアウトした展開と割り当てを行うことが可能になります。次に、APIC の [Tenant] タブで、では、これらのポートへの EPG アクセスを設定できます。

ポリシーおよびポリシー グループ

FCoE のサポートのために作成または設定する APIC ポリシーとポリシー グループには、次のものが含まれます:

アクセス スイッチ ポリシー グループ

ACI リーフ スイッチを通して FCoE トラフィックをサポートする、スイッチ レベルのポリシーの組み合わせです。

このポリシー グループをリーフ プロファイルと関連付けて、指定された ACI リーフ スイッチでの FCoE サポートを有効にすることができます。

このポリシー グループは、次のポリシーで構成されています:

- **ファイバチャネル SAN ポリシー**

NPV リーフが使用する、EDTOV、RATOV、および MAC アドレス プレフィックス (FC マップとも呼ばれる) の値を指定します。

- **ファイバチャネル ノード ポリシー**

このポリシーグループに関連付けられる FCoE トラフィックに適用される、ロードバランス オプションと FIP キープ アライブ間隔を指定します。

インターフェイス ポリシー グループ

ACI リーフ スイッチのインターフェイスを通して FCoE トラフィックをサポートする、インターフェイス レベルのポリシーの組み合わせです。

このポリシー グループを FCoE のサポート的インターフェイス プロファイルと関連付けて、指定したインターフェイスでの FCoE サポートを有効にすることができます。

2つのインターフェイス ポリシー グループを設定できます。F ポートの 1つのポリシー グループと、NP ポートの 1つのポリシー グループです。

インターフェイスポリシーグループの以下のポリシーは、FCoEの有効化およびトラフィックに適用されます:

- **優先順位フロー制御ポリシー**

このポリシーグループが適用されているインターフェイスの優先順位フロー制御(PFC)の状態を指定します。

このポリシーは、どのような状況で QoS レベルの優先順位フロー制御が FCoE トラフィックに適用されるかを指定します。

- **Fibre Channel Interface Policy**

このポリシーグループが適用されているインターフェイスが F ポートまたは NP ポートとして設定されるかどうかを指定します。

- **低速ドレイン ポリシー**

ACI ファブリックでトラフィックの輻輳の原因となる FCoE パケットを処理するためのポリシーを指定します。

グローバル ポリシー

設定により、ACI ファブリックの FCoE トラフィックのパフォーマンス特性に影響を及ぼす APIC グローバル ポリシーです。

グローバル QoS クラス ポリシー (Level1、Level2、Level4、Level5、またはLevel6 接続に対応するもの) には、ACI ファブリック上の FCoE トラフィックに影響する次の設定が含まれます。

- **[PFC Admin State] は Auto に設定することが必要**

FCoE トラフィックのこのレベルで優先順位フロー制御を有効にするかどうかを指定します (デフォルト値は false です)。

- **No Drop COS**

特定のサービスクラス (CoS) レベルで指定された FCoE トラフィックのこのレベルに対し、no-drop ポリシーを有効にするかどうかを指定します。

注: PFC および FCoE ノードロップに対して有効にされている QoS レベルは、CNA 上の PFC に対して有効にされている優先順位グループ ID と一致している必要があります。

注: ノードロップおよび PFC に対して有効にできるのは、ただ 1 つの QoS レベルです。そして同じ QoS レベルが FCoE Epg に関連付けられている必要があります。

- **QoS クラス — 優先順位フロー制御は、CoS レベルがファブリックに対してグローバルに有効にされていること、そして FCoE トラフィックを生成するアプリケーションのプロファイルに割り当てられていることを必要とします。**

CoS 保存も有効にする必要があります。[ファブリック (Fabric)] > [アクセス ポリシー (Access Policies)] > [ポリシー (Policies)] > [グローバル (Global)] > [QoS クラス (QoS Class)] 荷移動して、[COS Dot1P Preserve を保存 (Preserve COS Dot1p Preserve)] を有効にします



- (注) 一部のレガシー CNA も、**レベル 2** グローバル QoS ポリシーが、**ノードロップ PFC**、FCoE (Fibre Channel over Ethernet) QoS ポリシーで使用されていることを必要とする場合があります。使用しているコンバージドネットワーク アダプタ (CNA) がファブリックにログインしておらず、CNA から FCoE Initiation Protocol (FIP) フレームが送信されていないことがわかった場合には、**レベル 2** を FCoE QoS ポリシーとして有効にしてみてください。**Level2** ポリシーは、使用中の FCoE EPG にアタッチする必要があり、PFC no-drop に対して 1 つの QoS レベルのみを有効にできます。

プロファイル

FCoE をサポートするために作成または設定ができる APIC プロファイルとしては、次のものがあります:

リーフ プロファイル

FCoE トラフィックのサポートが構成される、ACI ファブリック リーフ スイッチを指定します。

アクセス スイッチ ポリシー グループに含まれるポリシーの組み合わせは、このプロファイルに含まれるリーフ スイッチに適用できます。

インターフェイス プロファイル

F ポートまたは NP ポートが展開される一連のインターフェイスを指定します。

少なくとも 2 つのリーフ インターフェイス プロファイルを設定します。一方は F ポートのインターフェイス プロファイルで、もう一方は NP ポートのインターフェイス プロファイルです。

F ポートのインターフェイス ポリシー グループに含まれるポリシーの組み合わせは、F ポートのインターフェイス プロトコルに含まれている一連のインターフェイスに適用できます。

NP ポートのインターフェイス ポリシー グループに含まれるポリシーの組み合わせは、NP ポートのインターフェイス プロトコルに含まれている一連のインターフェイスに適用できます。

アタッチ エンティティ プロファイル

インターフェイス ポリシー - グループの設定をファイバチャネル ドメイン マッピングにバインドします。

ドメイン

FCoE をサポートするために作成または設定ができるドメインとしては、次のものがあります:

物理ドメイン

FCoE VLAN ディスカバリのための LAN をサポートするため作成された仮想ドメイン。物理ドメインは、FCoE VLAN ディスカバリをサポートするための VLAN プールを指定します。

ファイバチャネルドメイン

FCoE 接続のための仮想 SAN をサポートするため作成された仮想ドメイン。

ファイバチャネルドメインは、FCoE トラフィックが搬送される VSAN プール、VLAN プールおよび VSAN 属性を指定します。

- **VSAN プール** - 既存の VLAN に関連付けられた仮想 SAN のセット。個々の VSAN は、VLAN をイーサネット接続のためのインターフェイスに割り当てるのと同じ方法で、関連付けられた FCoE 対応のインターフェイスに割り当てることができます。
- **VLAN プール** - 個々の VSAN に関連付けることができる VLAN のセット。
- **VSAN 属性** - VSAN から VLAN へのマッピング。

テナントエンティティ

[テナント] タブでは、ブリッジドメインおよび EPG エンティティを、FCoE ポートにアクセスし、FCoE トラフィックを交換するように設定します。

エンティティには、次のものがあります:

ブリッジドメイン (FCoE サポートのために設定されたもの)

テナントの下で、FCoE 接続を使用するアプリケーションのために FCoE トラフィックを送るように作成され、設定されたブリッジドメイン。

アプリケーション EPG

同じテナントの下で FCoE ブリッジドメインと関連付けられる EPG。

ファイバチャネルパス

FCoE F ポートまたは NP ポートとして有効にされ、選択した EPG に関連付けられるインターフェイスを指定します。ファイバチャネルのパスを EPG に関連付けると、FCoE インターフェイスは指定された VSAN に展開されます。

APIC GUI を使用した FCoE vFC ポートの展開

APIC GUI では、カスタマイズされたノードポリシーグループ、リーフプロファイル、インターフェイスポリシーグループ、インターフェイスプロファイル、仮想 SAN ドメインを作成し、システム管理者が F ポートまたは NP ポートとして指定するすべてのインターフェイスを再利用して、整合性のある FCoE 関連ポリシーが適用されている FCoE トラフィックを処理できます。

始める前に

- ACI ファブリックがインストールされています。
- ポートチャネル(PC) トポロジ上で導入する場合、ポートチャネルは [GUI を使用した ACI リーフスイッチのポートチャネルの構成 \(98 ページ\)](#) の説明に従ってセットアップします。
- 仮想ポートチャネル (vPC) トポロジを介して展開する場合は、[GUI を使用したインターフェイス構成モデルによる ACI リーフスイッチ仮想ポートチャネルの構成 \(115 ページ\)](#) の説明に従って vPC が設定されます。

手順

ステップ 1 FCoE 補助スイッチ ポリシー グループを作成し、FCoE 設定をサポートするすべてのリーフスイッチ ポリシーを指定して組み合わせます。

このポリシー グループは、NPV ホストとして機能するリーフスイッチに適用されます。

- APIC GUI で、APIC のメニューバーから **[Fabric] > [Access Policies] > [Switches] > [Leaf Switches] > [Policy Groups]** の順にクリックします。
- Policy Groups** を右クリックして、**Create Access Switch Policy Group** をクリックします。
- [Create Access Switch Policy Group] ダイアログボックスで、以下で説明する設定を指定して、[Submit] をクリックします。

ポリシー	説明
名前	<p>スイッチ ポリシー グループを識別します。</p> <p>このスイッチポリシーグループの FCoE 補助機能を示す名前を入力します。たとえば、 fcoe_switch_policy_grp のようにします。</p>
ファイバチャネル SAN ポリシー	<p>次の SAN ポリシーの値を指定します:</p> <ul style="list-style-type: none"> • FC プロトコルの EDTOV (デフォルト: 2000) • FC プロトコルの RATOV (デフォルト: 10000) • リーフスイッチが使用する MAC アドレスのプレフィックス (FC マップとも呼ばれます)。この値は、同じポートに接続されているピアデバイスの値と一致する必要があります。通常、デフォルト値の OE:FC:00 が使用されます。 <p>ドロップダウン オプション ボックスをクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • デフォルトの EDTOV、RATOV、および MAC アドレスのプレフィックス値を使用するには、default をクリックします。 • 既存のポリシーで指定した値を使用するには、そのポリシーをクリックします。

ポリシー	説明
	<ul style="list-style-type: none"> カスタマイズした新しいMACアドレスプレフィックスを指定する新しいポリシーを作成するには、[Create Fibre Channel SAN Policy] をクリックして、プロンプトに従います。

ステップ 2 FCoE トラフィックをサポートするリーフ スイッチのリーフ プロファイルを作成します。

このプロファイルは、前の手順で設定されたスイッチ ポリシー グループを割り当てるスイッチまたはリーフスイッチの設定を指定します。この関連付けにより、事前定義されたポリシー設定で FCoE トラフィックをサポートするスイッチの設定を有効にします。

- APIC メニューバーから、[Fabric] > [Access Policies] > [Switches] > [Leaf Switches] > [Profiles] の順にクリックします。
- [リーフ プロファイル] を右クリックし、[リーフ プロファイルの作成] をクリックします。
- [リーフ プロファイルの作成] ダイアログで、リーフプロファイルを作成し名前を付けます (例: NPV 1)
- また、**Create Leaf Profile** ダイアログの **Leaf Selectors** テーブルで、+ をクリックしてテーブルで新しい行を作成し、NPV デバイスとして動作するリーフ スイッチを指定します。
- テーブルの新しい行で、リーフ名とブロックを選択し、前のステップで作成したスイッチポリシー グループを割り当てます。
- [Next (次へ)] をクリックし、さらに [Finish (終了)] をクリックします。

ステップ 3 少なくとも 2 個の FCoE 補助インターフェイス ポリシー グループの作成: 1 個は FCoE F ポートインターフェイスをサポートするすべてのポリシーを組み合わせ、1 個は FCoE NP ポートをサポートしているすべてのポリシーを組み合わせるためのものです。

これらのインターフェイス ポリシー グループは、F ポートおよび NP ポートとして使用されるインターフェイスに適用されるインターフェイスのプロファイルに適用します。

- APIC メニューバーで、[Fabric] > [Access Policies] > [Interfaces] > [Leaf Interfaces] > [Policy Groups] の順にクリックします。
- [Policy Groups] を右クリックし、ポートアクセスの設定方法に応じて、[Create Leaf Access Port Policy Group]、[Create PC Interface Port Policy]、または [Create vPC Interface Port Policy Group] のいずれかのオプションをクリックします。

(注)

- PC インターフェイスで展開する場合、追加情報については [GUI を使用した ACI リーフ スイッチのポート チャネルの構成 \(98 ページ\)](#) を参照してください。

- vPC インターフェイスを介して展開する場合は、[GUI を使用したインターフェイス構成モデルによる ACI リーフ スイッチ仮想ポートチャネルの構成 \(115 ページ\)](#) で詳細を確認してください。

- ポリシーグループダイアログで、設定するファイバチャネルインターフェイスポリシー、低速ドレイン ポリシー、優先順位フロー制御ポリシーを含むように指定します。

ポリシー	説明
名前	<p>このポリシー グループの名前。</p> <p>このリーフアクセスポートのポリシーグループとポートタイプ (FまたはNP) の補助機能を示す、サポートを意図した名前を入力します。 fcoe_f_port_policy または fcoe_np_port_policy。</p>
優先順位フロー制御ポリシー	<p>このポリシー グループが適用されているインターフェイスの優先順位 フロー制御 (PFC) の状態を指定します。</p> <p>オプションには、次のものが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [自動] (デフォルト値) DCBXによってアダプタイズされ、ピアとの交渉が正常に行われた値を条件として、設定されている非ドロップ CoS のローカルポートで、優先順位フロー制御 (PFC) を有効にします。障害により、非ドロップ CoS 上で優先順位フロー制御が無効になります。 • [オフ] 機能によりあらゆる状況下で、ローカルポートの FCoE 優先順位フロー制御を無効にします。 • [オン] 機能によりあらゆる状況下で、ローカルポートの FCoE 優先順位フロー制御を有効にします。 <p>ドロップダウン オプション ボックスをクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • デフォルト値を使用するには、[デフォルト] をクリックします。 • 既存のポリシーで指定した値を使用するには、そのポリシーをクリックします。 • 別の値を指定する新しいポリシーを作成するには、[優先順位フロー制御ポリシーの作成] をクリックし、指示に従います。 <p>(注) PFC では、サービス クラス (CoS) レベルがファブリックに対してグローバルに有効になり、FCoE トラフィックを生成するアプリケーションのプロファイルに割り当てられている必要があります。また、CoS 保持が有効になっている必要があります。有効にするには、[Fabric] > [Access Policies] > [Policies] > [Global] > [QoS Class] に移動して、[Preserve COS Dot1p Preserve] を有効にします。</p>
低速ドレインポリシー	<p>ACI ファブリックでトラフィック輻輳を引き起こす FCoE パケットを処理する方法を指定します。オプションには、次のものが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 輻輳クリア アクション (デフォルト: 無効) <p>FCoE トラフィックの輻輳時に実行するアクション。次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • エラー: 無効: ポートを無効にします。 • ログ: イベントログの輻輳を記録します。

ポリシー	説明
	<ul style="list-style-type: none"> 無効：実行しません。 輻輳検出乗数（デフォルト：10） FCoE トラフィック輻輳に対処するため輻輳クリアアクションをトリガするポート上で受信した一時停止フレーム数。 フラッシュ管理状態 <ul style="list-style-type: none"> 有効：バッファをフラッシュします。 無効：バッファをフラッシュしません。 フラッシュのタイムアウト（デフォルト：500 ミリ秒単位） 輻輳時にバッファのフラッシュをトリガするしきい値（ミリ秒）。 デフォルト値を使用するには、[デフォルト] をクリックします。 既存のポリシーで指定した値を使用するには、そのポリシーをクリックします。 別の値を指定する新しいポリシーを作成するには、[低速ドレインポリシーの作成] をクリックしてプロンプトに従います。

ステップ 4 少なくとも 2 個のインターフェイス プロファイルの作成：1 個は F ポート接続をサポートするプロファイル、1 個は NP ポート接続をサポートするプロファイル、追加ポート ポリシーの変数に関連付けるオプションの追加プロファイル。

- APIC バーメニューで、[Fabric] > [Access Policies] > [Interfaces] > [Leaf Interfaces] > [Profiles] をクリックします。
- Profiles** を右クリックし、**Create Leaf Interface Profile** を選択します。
- [Create Leaf Interface Profile] ダイアログで、たとえば「FCoE_F_port_Interface_profile-1」など、プロファイルを説明する名前を入力します。
- インターフェイスの [Interface Selectors] テーブルで、[+] をクリックして [Create Access Port Selector] ダイアログを表示します。このダイアログを使用すると、インターフェイスの範囲を表示し、次の表に記載されたフィールドに設定を適用できます。

オプション	説明
名前	このポート セレクタを説明する名前。
Interface IDs	<p>この範囲が適用されるインターフェイスの設定を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> スイッチにすべてのインターフェイスを含むには、[すべて] を選択します。 この範囲に個々のインターフェイスを含めるには、たとえば 1/20 など単一のインターフェイス ID を指定します。

オプション	説明
	<ul style="list-style-type: none"> この範囲にインターフェイスの範囲を含めるには、たとえば 1/10 - 1/15 など、ハイフンで区切られた最低値と最大値を入力します。 <p>(注) F ポートおよび NP ポートのインターフェイスのプロファイルを設定する際に、重複しない別の範囲をインターフェイスに指定します。</p>
インターフェイスポリシーグループ	<p>前の手順で設定した F ポート インターフェイス ポリシー グループまたは NP ポート ポリシー グループの名前。</p> <ul style="list-style-type: none"> F ポートとしてこのプロファイルに含まれるインターフェイスを指定するには、F ポート用に設定されているインターフェイスポリシーグループを選択します。 NP ポートとしてプロファイルに含まれるインターフェイスを指定するには、NP ポート用に設定されているインターフェイスポリシーグループを選択します。

ステップ 5 [Submit] をクリックします。前の手順を繰り返すと、F ポートおよび NP ポートの両方にインターフェイス ポリシーを有することができます。

ステップ 6 FCoE トラフィックにグローバル QoS ポリシーを適用するかどうかを設定します。

さまざまなレベル (1、2、4、5、6) の FCoE トラフィックにさまざまな QoS ポリシーを指定することができます。

- APIC バーメニューから、**[Fabric] > [Access Policies] > [Policies] > [Global] > [QoS Class]** の順にクリックし、[QoS Class] ペインで [Preserve CoS] フラグを有効にします。
- [QoS Class - Level 1]**、**[QoS Class - Level 2]**、**[QoS Class - Level 4]**、**[QoS Class - Level 5]**、または **[QoS Class - Level 6]** ダイアログで、次のフィールドを編集して PFC と no-drop CoS を指定します。それから **Submit** をクリックします。

(注) PFC とノードロップ CoS で設定できるのは 1 レベルだけです。

ポリシー	説明
PFC 管理状態	<p>FCoE トラフィックのこのレベルに優先順位フロー制御を有効にするかどうか (デフォルト値は false です)。</p> <p>優先順位フロー制御を有効にすると、FCoE トラフィックのこのレベルの [輻輳アルゴリズム] が [ノードロップ] に設定されます。</p>
No-Drop-CoS	<p>FCoE トラフィックの輻輳の場合でも FCoE パケット処理をドロップしない CoS レベル。</p>

ステップ 7 ファイバチャネルドメインを定義します。仮想 SAN (VSAN) のセットを作成し、それらを既存の VLAN の設定にマップします。

- APIC バーメニューで、**[Fabric] > [Access Policies] > [Physical and External Domains] > [Fibre Channel Domains]** の順にクリックします。
- [Fibre Channel Domains]** を右クリックし、**[Create Fibre Channel Domain]** をクリックします。
- [Fibre Channel Domain]** ダイアログで、次の設定を指定します。

オプション	説明/処理
Name	作成する VSAN ドメインに割り当てる名前またはラベルを指定します。(たとえば vsan-dom2 など)
VSAN Pool	<p>このドメインに割り当てられる VSAN プール。</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存の VSAN プールを選択するには、ドロップダウンをクリックしてリストから選択します。変更する場合は、編集アイコンをクリックします。 VSAN プールを作成するには、Create a VSAN Pool をクリックします。 <p>VSAN プールを作成するダイアログで、プロンプトに従って以下を設定します:</p> <ul style="list-style-type: none"> FCoE をサポートするには、静的リソース割り当て方法が用いられます。 FCoE F ポート インターフェイスと NP ポート インターフェイスを割り当てる際に利用できる VSAN の範囲です。 <p>(注) 最小値は 1 です。最大値は 4078 です。</p> <p>必要であれば、複数の範囲の VSAN を設定できます。</p>
VLAN プール	<p>VSAN プールのメンバーがマッピングで利用できる VLAN のプール。</p> <p>VLAN プールは、このドメインの FCoE 接続をサポートする際に使用する、VLAN の数値範囲を指定します。指定した範囲内の VLAN が、VSAN がマップを行う際に利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存の VLAN プールを選択するには、ドロップダウンをクリックしてリストから選択します。変更する場合は、編集アイコンをクリックします。 VLAN プールを作成するには、Create a VLAN Pool をクリックします。 <p>VLAN プールを作成するダイアログで、プロンプトに従って以下を設定します:</p> <ul style="list-style-type: none"> FCoE をサポートするには、静的リソース割り当て方法が用いられます。 VSAN でマッピングを行う際に利用できる VLAN の範囲です。 <p>(注) 最小値は 1 です。最大値は 4094 です。</p> <p>必要であれば、複数の範囲の VLAN を設定できます。</p>
VSAN Attr	<p>このドメインの VSAN 属性マップ</p> <p>VSAN 属性は、VSAN プールの VSAN を VLAN プールの VLAN にマップします。</p>

オプション	説明/処理
	<ul style="list-style-type: none"> • 既存の VSAN 属性マップを選択するには、ドロップダウンをクリックしてリストから選択します。変更する場合は、編集アイコンをクリックします。 • VSAN 属性マップを作成するには、Create VSAN Attributes をクリックします。 <p>VSAN 属性を構成するダイアログで、プロンプトに従って以下を設定します:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 適切なロード バランシング オプション (src-dst-ox-id or src-dst-id)。 • 個々の VSAN から個々の VLAN へのマッピング。たとえば vsan-8 を vlan 10 にマッピングします <p>(注) このドメインのために指定した範囲の VSAN と VLAN だけが、相互にマッピングできます。</p>

ステップ 8 接続済みエンティティ プロファイルを作成し、ファイバチャネル ドメインをインターフェイス ポリシー グループにバインドします。

- a) APIC メニューバーで、**[Fabric] > [Access Policies] > [Interfaces] > [Leaf Interfaces] > [Policy Groups] > [interface_policy_group_name]** の順にクリックします。

この手順の *interface_policy_group_name* は、手順 3 で定義したインターフェイス ポリシー グループです。

- b) インターフェイス ポリシー グループのダイアログ ボックスで、**[Attached Entity Profile]** ドロップダウンをクリックし、既存のアタッチ エンティティ プロファイルを選択するか、**Create Attached Entity Profile** をクリックして、新しいものを作成します。
- c) **[Attached Entity Profile]** ダイアログでは、以下の設定を指定します:

フィールド	説明
名前	この接続済みエンティティ プロファイルの名前
Domains To Be Associated To Interfaces	<p>インターフェイスポリシーグループに関連付けられるドメインが一覧表示されます。</p> <p>ここでは、手順 7 で設定したファイバチャネル ドメインを選択します。</p> <p>[Submit] をクリックします。</p>

ステップ 9 リーフ プロファイルおよび F ポートと NP ポート インターフェイス プロファイルを関連付けます。

- a) APIC メニューバーから、**[Fabric] > [Access Policies] > [Switches] > [Leaf Switches] > [Profiles]** をクリックし、手順 2 で設定したリーフ プロファイルの名前をクリックします。

- b) [Create Leaf Profile] ダイアログで、[Associated Interface Selector Profiles] 表を探し、[+] をクリックして新しい表の行を作成し、手順4で作成した F ポートインターフェイスプロファイルを選択します。
- c) もう一度 **Associated Interface Selector Profiles** テーブルで、+ をクリックしてテーブルの新しい行を作成し、手順4で作成した NP ポートインターフェイスプロファイルを選択します。
- d) [Submit] をクリックします。

次のタスク

ACI ファブリックのインターフェイスに仮想 F ポートおよび NP ポートを正常に展開した後、次の手順でシステム管理者がこれらのインターフェイスを介して EGP アクセスと接続が可能になります。

詳細については、[APIC GUI を使用した vFC ポートへの EPG アクセスの展開 \(164 ページ\)](#) を参照してください。

APIC GUI を使用した vFC ポートへの EPG アクセスの展開

ACI ファブリック エンティティを、FCoE トラフィックおよび指定したインターフェイスの F ポートおよび NP ポートをサポートするように設定したら、次の手順はこれらのポートへの EPG アクセスを設定することです。

始める前に

- ACI ファブリックがインストールされていること。
- FC ネットワーク (SAN ストレージなど) に接続しているファイバチャネル転送 (FCF) スイッチは、イーサネットによって ACI リーフ スイッチポートに物理的に接続しています。
- FC ネットワークにアクセスする必要があるホストアプリケーションは、同じ ACI リーフ スイッチのポートにイーサネットで物理的に接続されていること。
- リーフ ポリシーグループ、リーフプロファイル、インターフェイス ポリシーグループ、インターフェイス プロファイルとファイバチャネル ドメインのすべてが、FCoE トラフィックをサポートするように設定されていること。

手順

- ステップ 1** 適切なテナントの下で、既存のブリッジドメインを FCoE をサポートするように設定するか、FCoE をサポートするブリッジドメインを作成します。

オプション:	アクション:
FCoE の既存のブリッジドメインを設定するには	<ol style="list-style-type: none"> 1. Tenant > <i>tenant_name</i> > Networking > Bridge Domains > <i>bridge_domain_name</i> をクリックします。 2. タイプ ブリッジドメインのフィールド プロパティ パネルにある、クリックして fc。 3. [Submit] をクリックします。
FCoE の新しいブリッジドメインを作成するには	<ol style="list-style-type: none"> 1. Tenant > <i>tenant_name</i> > Networking > Bridge Domains > Actions > Create a Bridge Domain をクリックします。 2. Name フィールド (Specify Bridge Domain for the VRF ダイアログ) で、ブリッジドメインの名前を入力します。 3. [Specify Bridge Domain for the VRF] ダイアログの [Type] フィールドで、[fc] をクリックします。 4. [VRF] フィールドで、ドロップダウンから VRF を選択するか、Create VRF をクリックし、新しい VRF を作成して設定します。 5. ブリッジドメインの設定を終了します。 6. [Submit] をクリックします。

ステップ 2 同じテナントで、既存の EPG を設定するか、新しい EPG を作成して、FCoE が設定されたブリッジドメインと関連付けます。

オプション:	アクション:
既存の EPG を関連付ける	<ol style="list-style-type: none"> 1. [Tenant] > [<i>テナント名</i>] > [Application Profiles] > [<i>アプリケーションプロファイル名</i>] > [Application EPGs] > [<i>EPG 名</i>] の順にクリックします。 2. [QoS class] フィールドで、この EPG によって生成されたトラフィックに割り当てる Quality of Service (Level1、Level2、Level4、Level5、または Level6) を選択します。 優先順位フロー制御のドロップ輻輳なしハンドリングで QoS レベルのいずれかを設定する場合、そしてドロップなしパケット優先順位で FCoE トラフィックを処理する必要がある場合には、この EPG にその QoS レベルを割り当てます。 3. Bridge Domain フィールド (EPG の Properties パネル) で、ドロップダウンリストをクリックして、タイプに合わせて設定したドメインの名前を選択します。ここでは fcoe です。 4. [Submit] をクリックします。

オプション:	アクション:
	<p>(注) [Bridge Domain] フィールドを変更した場合には、変更後 30 ～ 35 秒待機する必要があります。[Bridge Domain] フィールドの変更を急ぎすぎると、NPV スイッチの vFC インターフェイスが障害を起し、スイッチのリロードが必要になります。</p>
新しい EPG を作成して関連付ける	<ol style="list-style-type: none"> 1. [Tenant] > [<テナント名>] > [Application Profiles] > [<アプリケーション プロファイル名>] > [Application EPGs] の順にクリックします。 2. Application EPGs を右クリックし、Create Application EPG をクリックします。 3. [QoS class] フィールドで、この EPG によって生成されたトラフィックに割り当てる Quality of Service (Level1、Level2、Level4、Level5、または Level6) を選択します。 優先順位フロー制御のドロップ輻輳なしハンドリングで QoS レベルのいずれかを設定する場合、そしてドロップなしパケット優先順位で FCoE トラフィックを処理する必要がある場合には、この EPG にその QoS レベルを割り当てます。 4. Bridge Domain フィールド (Specify the EPG Identity ダイアログ) フィールドで、ドロップダウンリストをクリックして、タイプに合わせて設定したドメインの名前を選択します。ここでは fcoe です。 (注) [Bridge Domain] フィールドを変更した場合には、変更後 30 ～ 35 秒待機する必要があります。[Bridge Domain] フィールドの変更を急ぎすぎると、NPV スイッチの vFC インターフェイスが障害を起し、スイッチのリロードが必要になります。 5. ブリッジドメインの設定を終了します。 6. Finish をクリックします。

ステップ 3 ファイバチャネルドメインと EPG の関連付けを追加します。

- a) [Tenant] > [<テナント名>] > [Application Profiles] > [<アプリケーション プロファイル名>] > [Application EPGs] > [<EPG 名>] > [Domains (VMs and Bare Metal)] の順にクリックします。
- b) [Domains (VMs and Bare Metal)] を右クリックし、[Add Fibre Channel Domain Association] をクリックします。
- c) [Add Fibre Channel Domain Association] ダイアログで、[Fibre Channel Domain Profile] フィールドを探します。
- d) ドロップダウンリスト をクリックし、以前に設定したファイバチャネルドメインの名前を選択します。
- e) [Submit] をクリックします。

ステップ 4 関連する EPG の下で、ファイバチャネルのパスを定義します。

ファイバチャネルのパスでは、FCoE F ポートまたは NP ポートとして有効にされたインターフェイスを指定して、選択した EPG に関連付けます。

- [Tenant] > [<テナント名>] > [Application Profiles] > [<アプリケーションプロファイル名>] > [Application EPGs] > [<EPG 名>] > [Fibre Channel (Paths)] の順にクリックします。
- [Fibre Channel (Paths)] を右クリックし、[Deploy Fibre Channel] をクリックします。
- [Deploy Fibre Channel] ダイアログで、次の設定を行います。

オプション:	アクション:
Path Type	FCoE トラフィックを送受信するためにアクセスされるインターフェイスのタイプです (ポート、ダイレクトポートチャネル、または仮想ポートチャネル)。
Path	<p>選択した EPG に関連付けられている FCoE トラフィックが流れるノードインターフェイスのパスです。</p> <p>ドロップダウンリストをクリックして、リスト表示されたインターフェイスの中から選択します。。</p> <p>(注) 以前に F ポートまたは NP ポートとして設定されているインターフェイスのみを選択します。設定されていないインターフェイスを選択すると、これらのインターフェイスにはデフォルト値だけが適用されます。</p> <p>(注) FCoE over FEX を展開するには、以前に設定した FEX ポートを選択します。</p>
VSAN	<p>Path フィールドで選択したインターフェイスを使用する VSAN です。</p> <p>(注) 指定する VSAN は、VSAN プールとして指定した VSAN の範囲になければなりません。</p> <p>ほとんどの場合、この EPG がアクセスするために設定されているすべてのインターフェイスは、同じ VSAN に割り当てられている必要があります。ただし、仮想ポートチャネル (VPC) 接続上にファイバチャネルパスを指定する場合を除きます。その場合には、2 つの VSAN を指定し、接続のレッグごとに 1 つを使用します。</p>
VSAN Mode	<p>選択した VSAN が選択したインターフェイスにアクセスするモードです (Native または Regular)。</p> <p>FCoE サポート用に設定された各インターフェイスでは、ネイティブモードに設定された VSAN が 1 つだけ必要です。同じインターフェイスに割り当てられる追加の VSAN は、通常モードでアクセスする必要があります。</p>
Pinning label	(オプション) このオプションは、アクセスを F ポートへマッピングする場合のみ適用されます。そしてこの F ポートは、特定のアップリンク NP ポートにバインドする必要があります。これは、ピンングラベル (ピンングラベル 1 またはピ

オプション:	アクション:
	<p>ピング ラベル 2) を特定の NP ポートに関連付けます。それから、ピング ラベルをターゲット F ポートに割り当てます。この関連づけを行うと、関連付けられた NP ポートは、すべての場合に、ターゲット F ポートへのアップリンク ポートとしての役割を果たします。</p> <p>ピング ラベルを選択し、それを NP ポートとして設定されたインターフェイスに関連付けます。</p> <p>このオプションは、「トラフィック-マッピング」とも呼ばれるものを実装します。</p> <p>(注) F ポートと、関連付けられているピング ラベルの NP ポートは、同一のリーフ スイッチ上に存在する必要があります。</p>

ステップ 5 [Submit] をクリックします。

ステップ 6 EPG アクセスをマッピングする、FCoE 対応のインターフェイスごとに、手順 4 と 5 を繰り返します。

ステップ 7 正常に導入できたかどうかは、次のように確認します。

a) **Fabric > Inventory > Pod_name > leaf_name > Interfaces > VFC interfaces** をクリックします。

ポートを展開したインターフェイスが、VFC インターフェイス下にリスト表示されます。

次のタスク

vFC インターフェイスへの EPG アクセスをセットアップした後の最後の手順は、FCoE 初期化プロトコル (FIP) をサポートするネットワークをセットアップすることです。これによって、それらのインターフェイスの検出が有効になります。

詳細については、[FCoE Initiation Protocol をサポートする EPG の導入 \(168 ページ\)](#) を参照してください。

FCoE Initiation Protocol をサポートする EPG の導入

FCoE EPG からサーバのポートへのアクセスを設定した後も、FCoE Initiation Protocol (FIP) をサポートするように EPG のアクセスを設定する必要があります。

始める前に

- ACI ファブリックがインストールされています。
- FC ネットワークにアクセスする必要があるホストアプリケーションは、同じ ACI Leaf スイッチのポートにイーサネットでも物理的に接続されます。

- リーフポリシーグループ、リーフプロファイル、インターフェイスポリシーグループ、インターフェイスのプロファイルとファイバチャネルドメインはすべて、[APIC GUI を使用した vFC ポートへの EPG アクセスの展開 \(164 ページ\)](#) のトピックで説明されているように、FCoE トラフィックをサポートするように設定されています。
- EPG から vFC ポートへのアクセスは、「[APIC GUI を使用した vFC ポートへの EPG アクセスの展開 \(164 ページ\)](#)」のトピックで説明しているように、有効になっています。

手順

- ステップ 1** 同じテナントの下で、FIP をサポートするように既存のブリッジドメインを設定するか、FIP をサポートする通常のブリッジドメインを作成します。

オプション:	アクション:
FCoE の既存のブリッジドメインを設定するには	<ol style="list-style-type: none"> 1. Tenant > <i>tenant_name</i> > Networking > Bridge Domains > <i>bridge_domain_name</i> をクリックします。 2. Type フィールド (ブリッジドメインの Properties パネル) で、Regular をクリックします。 3. [Submit] をクリックします。
FCoE の新しいブリッジドメインを作成するには	<ol style="list-style-type: none"> 1. Tenant > <i>tenant_name</i> > Networking > Bridge Domains > Actions > Create a Bridge Domain をクリックします。 2. Name フィールド (Specify Bridge Domain for the VRF ダイアログ) で、ブリッジドメインの名前を入力します。 3. [Specify Bridge Domain for the VRF] ダイアログの [Type] フィールドで、[Regular] をクリックします。 4. [VRF] フィールドで、ドロップダウンから VRF を選択するか、Create VRF をクリックし、新しい VRF を作成して設定します。 5. ブリッジドメインの設定を終了します。 6. [Submit] をクリックします。

- ステップ 2** 同じテナントで、既存の EPG を設定するか、または通常型のブリッジドメインと関連付ける新しい EPG を作成します。

オプション:	アクション:
既存の EPG を関連付ける	<ol style="list-style-type: none"> 1. Tenant > <i>tenant_name</i> > Application Profiles > ap1 > Application EPGs > <i>epg_name</i> をクリックします。

オプション:	アクション:
	<ol style="list-style-type: none"> 2. Bridge Domain フィールド (EPG の Properties パネル) で、ドロップダウンリストをクリックして、先ほど FIP をサポートするように設定した通常型のブリッジ ドメインの名前を入力します。 3. [Submit] をクリックします。
新しい EPG を作成して関連付けるには、	<ol style="list-style-type: none"> 1. Tenant > <i>tenant_name</i> > Application Profiles > ap1 > Application EPGs をクリックします。 2. Application EPGs を右クリックし、Create Application EPG をクリックします。 3. Bridge Domain フィールド (Specify the EPG Identity ダイアログ) で、ドロップダウンリストをクリックして、先ほど FIP をサポートするように設定した通常型のブリッジ ドメインの名前を選択します。 4. ブリッジ ドメインの設定を終了します。 5. Finish をクリックします。

ステップ 3 EPG と物理ドメインの関連付けを追加します。

- a) **Tenant** > *tenant_name* > **Application Profiles** > **ap1** > **Application EPGs** > *epg_name* > **Domains & Bare Metal** をクリックします。
- b) **Domains & Bare Metal** を右クリックし、**Add Physical Domain Association** をクリックします。
- c) **Add Physical Domain Association** ダイアログの [Physical Domain Profile Field] を操作します。
- d) ドロップダウンリストをクリックし、FIP のサポートで使用する LAN を含む物理ドメインの名前を選択します。
- e) [Submit] をクリックします。

ステップ 4 関連する EPG でパスを定義します。

FCoE F ポートまたは NP ポートとして有効にされ、選択した EPG に関連付けられるインターフェイスを指定します。

- a) [Tenant] > [<テナント名>] > [Application Profiles] > [ap1] > [Application EPGs] > [<EPG 名>] > [Static Ports] の順にクリックします。
- b) [Static Ports] を右クリックし、[Deploy Static EPG on PC, VPC, or Interface] をクリックします。
- c) **Path Type** フィールドで、F モード vFC を展開するポートタイプ (ポート、直接ポートチャネル、または仮想ポートチャネル) を指定します。
- d) **Path** フィールドで、F ポートを展開するすべてのパスを指定します。
- e) FCoE VLAN ディスカバリとして、およびポートモードとして 802.1p (アクセス) のために使用する [VLAN Encap] を選択します。

- f) [Submit] をクリックします。

FCoE コンポーネントは、FCoE ネットワークの動作を開始するために、ディスカバリ プロセスを開始します。

APIC GUI を使用した FCoE 接続のアンデプロイ

ACI ファブリック上のリーフ スイッチ インターフェイスの FCoE イネーブルメントを取り消すには、[APIC GUI を使用した FCoE vFC ポートの展開 \(156 ページ\)](#) で定義したファイバチャネルパスとファイバチャネル ドメインとその要素を削除します。



- (注) クリーンアップ中に vFC ポートのイーサネット設定オブジェクト (infraHPortS) を削除した場合 (たとえば、GUI の **Leaf Interface Profiles** ページの **Interface Selector** テーブル)、デフォルトの vFC プロパティはそのインターフェイスに関連付けられたままになります。たとえば、vFCNP ポート 1/20 のインターフェイス設定が削除され、そのポートは vFC ポートのままですが、デフォルト以外の NP ポート設定が適用されるのではなく、デフォルトの F ポート設定が使用されます。

始める前に

FCoE の展開中に指定した関連する VSAN プール、VLAN プール、および VSAN 属性マップを含む、ファイバチャネルパスとファイバチャネル ドメインの名前を知っている必要があります。

手順

- ステップ 1** 関連するファイバチャネルパスを削除して、この配置でパスが指定されたポート/vsan から vFC をアンデプロイします。

この操作では、この展開でパスが指定されたポート/vsan から vFC 展開が削除されます。

- [Tenant] > [<テナント名>] > [Application Profiles] > [<アプリケーション プロファイル名>] > [Application EPGs] > [<アプリケーション EPG 名>] > [Fibre Channel (Paths)] の順にクリックします。次に、ターゲットのファイバチャネルパスの名前を右クリックし、[Delete] を選択します。
- [Yes] をクリックして削除を確定します。

- ステップ 2** ファイバチャネル ドメインを定義したときに設定した VLAN 対 VSAN マップを削除します。

この操作は、マップに定義されているすべての要素から vFC の展開を削除します。

- [Fabric] > [Access Policies] > [Pools] > [VSAN Attributes] をクリックします。次に、ターゲット マップの名前を右クリックし、[Delete] を選択します。
- [Yes] をクリックして削除を確定します。

ステップ 3 ファイバチャネルドメインを定義したときに定義した VLAN プールと VSAN プールを削除します。

これにより、ACI ファブリックからのすべての vFC 展開が不要になります。

- a) **[Fabric]** > **[Access Policies]** > **[Pools]** > **[VSAN]** をクリックし、ターゲット VSAN プール名を右クリックして、**[Delete]** を選択します。
- b) **[Yes]** をクリックして削除を確認します。
- c) **[Fabric]** > **[Access Policies]** > **[Pools]** > **[VLAN]** をクリックし、ターゲット VLAN プール名を右クリックして、**[Delete]** を選択します。
- d) **[Yes]** をクリックして削除を確認します。

ステップ 4 削除したばかりの VSAN プール、VLAN プール、およびマップエレメントを含むファイバチャネルドメインを削除します。

- a) **[Tenants]** > [**<テナント名>**] > **[Application Profiles]** > **[Fibre Channel Domains]** をクリックします。次に、ターゲットのファイバチャネルドメインの名前を右クリックし、**[Delete]** を選択します。
- b) **[Yes]** をクリックして削除を確認します。

ステップ 5 テナント/EPG/App とセレクトは、必要がない場合は削除できます。

オプション	Action
関連するアプリケーション EPG を削除するが、関連するテナントとアプリケーションプロファイルを保存する場合は、次のようにします。	[Tenants] > <i>[tenant_name]</i> > [Application Profiles] > <i>[app_profile_name]</i> > [Application EPGs] をクリックし、ターゲットアプリケーション EPG の名前を右クリックして [Delete] を選択し、 [Yes] をクリックして削除を確認します。
関連するアプリケーションプロファイルを削除するが関連するテナントを保存する場合は、次のようにします。	[Tenants] > <i>[tenant_name]</i> > [Application Profiles] をクリックし、ターゲットアプリケーションプロファイルの名前を右クリックし、 [Delete] を選択してから [Yes] をクリックして削除を確認します。
関連するテナントを削除する場合:	[Tenants] > をクリックし、ターゲットテナントの名前を右クリックして [Delete] を選択し、 [Yes] をクリックして削除を確認します。

NX-OS スタイルの CLI を使用した FCoE の設定

FCoE NX-OS スタイル CLI 設定

NX-OS スタイル CLI を使用したポリシーまたはプロファイルのない FCoE 接続の設定

次の例の NX-OS スタイル CLI シーケンス EPG の FCoE 接続を設定する **e1** テナントで **t1** 設定またはスイッチ レベルとインターフェイス レベル ポリシーとプロファイルを適用せず。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>ターゲットテナントの下には、FCoE トラフィックをサポートするブリッジドメインを設定します。</p> <p>例：</p> <pre>apicl(config)# tenant t1 apicl(config-tenant)# vrf context v1 apicl(config-tenant-vrf)# exit apicl(config-tenant)# bridge-domain b1 apicl(config-tenant-bd)# fc apicl(config-tenant-bd)# vrf member v1 apicl(config-tenant-bd)# exit apicl(config-tenant)# exit</pre>	<p>サンプル コマンド シーケンスはブリッジドメインを作成 b1 テナントで t1 FCoE 接続をサポートするように設定します。</p>
ステップ 2	<p>同じテナントの下には、FCoE に設定されたブリッジドメインとターゲット EPG を関連付けます。</p> <p>例：</p> <pre>apicl(config)# tenant t1 apicl(config-tenant)# application a1 apicl(config-tenant-app)# epg e1 apicl(config-tenant-app-epg)# bridge-domain member b1 apicl(config-tenant-app-epg)# exit apicl(config-tenant-app)# exit apicl(config-tenant)# exit</pre>	<p>サンプル コマンド シーケンス作成 EPG e1 し、FCoE に設定されたブリッジドメインにその EPG を関連付けます b1。</p>
ステップ 3	<p>VLAN マッピングに VSAN ドメイン、VSAN プール、VLAN プール、VSAN を作成します。</p> <p>例：</p> <p>A</p> <pre>apicl(config)# vsan-domain dom1 apicl(config-vsan)# vsan 1-10 apicl(config-vsan)# vlan 1-10</pre>	<p>例 A、サンプル コマンド シーケンスは、VSAN ドメインを作成 dom1 VSAN プールと VLAN プール、VSAN 1 を VLAN 1 にマッピングされ、VLAN 2 に VSAN 2 をマップ</p> <p>例 B、代替サンプル コマンド シーケンスは再利用可能な VSAN 属性テンプレートを作成 pol1 VSAN ドメインを作成</p>

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre> apicl(config-vsana)# fcoe vsan 1 vlan 1 loadbalancing src-dst-ox-id apicl(config-vsana)# fcoe vsan 2 vlan 2 例 : B apicl(config)# template vsan-attribute poll apicl(config-vsana-attr)# fcoe vsan 2 vlan 12 loadbalancing src-dst-ox-id apicl(config-vsana-attr)# fcoe vsan 3 vlan 13 loadbalancing src-dst-ox-id apicl(config-vsana-attr)# exit apicl(config)# vsan-domain dom1 apicl(config-vsana)# vsan 1-10 apicl(config-vsana)# vlan 1-10 apicl(config-vsana)# inherit vsan-attribute poll apicl(config-vsana)# exit </pre>	し、 dom1 、そのテンプレートから属性とマッピングを継承します。
ステップ 4	<p>FCoE Initialization (FIP) プロセスをサポートする物理ドメインを作成します。</p> <p>例 :</p> <pre> apicl(config)# vlan-domain fipVlanDom apicl(config-vlan)# vlan 120 apicl(config-vlan)# exit </pre>	例では、コマンドシーケンスは、通常の VLAN ドメインを作成 fipVlanDom 、VLAN を含む 120 FIP プロセスをサポートします。
ステップ 5	<p>ターゲットテナントの下には、定期的なブリッジドメインを設定します。</p> <p>例 :</p> <pre> apicl(config)# tenant t1 apicl(config-tenant)# vrf context v2 apicl(config-tenant-vrf)# exit apicl(config-tenant)# bridge-domain fip-bd apicl(config-tenant-bd)# vrf member v2 apicl(config-tenant-bd)# exit apicl(config-tenant)# exit </pre>	コマンドシーケンスがブリッジドメインを作成例では、 fip bd 。
ステップ 6	<p>同じテナントの下には、設定されている定期的なブリッジドメインでこの EPG を関連付けます。</p> <p>例 :</p> <pre> apicl(config)# tenant t1 apicl(config-tenant)# application a1 apicl(config-tenant-app)# epg epg-fip apicl(config-tenant-app-epg)# bridge-domain member fip-bd apicl(config-tenant-app-epg)# exit apicl(config-tenant-app)# exit apicl(config-tenant)# exit </pre>	例では、コマンドシーケンス関連付けます EPG epg fip ブリッジドメインを fip bd 。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 7	<p>VFC インターフェイスを F モードで設定します。</p> <p>例 :</p> <p>A</p> <pre> apic1(config)# leaf 101 apic1(config-leaf)# interface ethernet 1/2 apic1(config-leaf-if)# vlan-domain member fipVlanDom apic1(config-leaf-if)# switchport trunk native vlan 120 tenant t1 application a1 epg epg-fip apic1(config-leaf-if)# exit apic1(config-leaf)# exit apic1(config-leaf)# interface vfc 1/2 apic1(config-leaf-if)# switchport mode f apic1(config-leaf-if)# vsan-domain member dom1 apic1(config-leaf-if)# switchport vsan 2 tenant t1 application a1 epg e1 apic1(config-leaf-if)# switchport trunk allowed vsan 3 tenant t1 application a1 epg e2 apic1(config-leaf-if)# exit </pre> <p>例 :</p> <p>B</p> <pre> apic1(config)# vpc context leaf 101 102 apic1(config-vpc)# interface vpc vpc1 apic1(config-vpc-if)# vlan-domain member vfdom100 apic1(config-vpc-if)# vsan-domain member dom1 apic1(config-vpc-if)# #For FIP discovery apic1(config-vpc-if)# switchport trunk native vlan 120 tenant t1 application a1 epg epg-fip apic1(config-vpc-if)# switchport vsan 2 tenant t1 application a1 epg e1 apic1(config-vpc-if)# exit apic1(config-vpc)# exit apic1(config)# leaf 101-102 apic1(config-leaf)# interface ethernet 1/3 apic1(config-leaf-if)# channel-group vpc1 vpc apic1(config-leaf-if)# exit apic1(config-leaf)# exit </pre> <p>例 :</p> <p>C</p>	<p>例では A コマンドシーケンスは、インターフェイスを有効に 1/2 リーフスイッチで 101 として機能する、F ポートおよびインターフェイスの VSAN のドメインに関連 dom1 。</p> <p>ネイティブモードで1つ(と1つだけ)の VSAN 対象のインターフェイスの各割り当てする必要があります。各インターフェイスには、通常モードで1つ以上の追加 Vsan を割り当てることができません。</p> <p>サンプル コマンドシーケンスは、対象のインターフェイスを関連付けます 1/2 と。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLAN 120 FIP ディスカバリの EPG に関連付けます epg fip およびアプリケーション a1 テナントで t1 。 • VSAN 2 ネイティブ VSAN として、EPG に関連付けます e1 およびアプリケーション a1 テナントで t1 。 • VSAN 3 定期的な VSAN として。 <p>例 B では、コマンドシーケンスは、両方のレッグに同じ VSAN を持つ vPC を介して vFC を設定します。CLI からログごとに異なる Vsan を指定することはできません。代替設定は、GUIを高度な apic 内で実行できます。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre> apicl(config)# leaf 101 apicl(config-leaf)# interface vfc-po pcl apicl(config-leaf-if)# vsan-domain member dom1 apicl(config-leaf-if)# switchport vsan 2 tenant t1 application a1 epg e1 apicl(config-leaf-if)# exit apicl(config-leaf)# interface ethernet 1/2 apicl(config-leaf-if)# channel-group pcl apicl(config-leaf-if)# exit apicl(config-leaf)# exit </pre>	
ステップ 8	<p>VFC インターフェイスを NP モードで設定します。</p> <p>例 :</p> <pre> apicl(config)# leaf 101 apicl(config-leaf)# interface vfc 1/4 apicl(config-leaf-if)# switchport mode np apicl(config-leaf-if)# vsan-domain member dom1 </pre>	<p>サンプル コマンド シーケンスは、インターフェイスを有効に 1/4 リーフスイッチで 101 として機能する、NP ポートおよびインターフェイスの VSAN のドメインに関連 dom1。</p>
ステップ 9	<p>VSAN を対象となる FCoE 対応インターフェイスに割り当てます。</p> <p>例 :</p> <pre> apicl(config-leaf-if)# switchport trunk allowed vsan 1 tenant t1 application a1 epg e1 apicl(config-leaf-if)# switchport vsan 2 tenant t4 application a4 epg e4 </pre>	<p>ネイティブ モードで 1 つ (と 1 つだけ) の VSAN 対象のインターフェイスの各割り当てる必要があります。各インターフェイスには、通常モードで 1 つ以上の追加 Vsan を割り当てることができません。</p> <p>サンプル コマンド シーケンスは、ターゲット インターフェイスを VSAN 1 に割り当て、それを EPG e1 とアプリケーション a1 にテナント t1 の下で関連付けます。「trunk allowed」は、VSAN 1 に通常モードのステータスを割り当てます。コマンド シーケンスも割り当てます、インターフェイス、必要な ネイティブモード VSAN 2。次の例に示すは、同一のインターフェイスを異なるテナント アクセスで実行されているさまざまな Epg を提供するためにさまざまな Vsan の動作を渡します。</p>

NX-OSスタイルCLIを使用したポリシーまたはプロファイルがあるFCoE接続の設定

次の例 NX-OS スタイル CLI のシーケンスを作成し、EPG の FCoE 接続を設定するポリシーを使用して **e1** テナントで **t1**。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>ターゲット テナントの下には、FCoE トラフィックをサポートするブリッジドメインを設定します。</p> <p>例 :</p> <pre>apicl# configure apicl(config)# tenant t1 apicl(config-tenant)# vrf context v1 apicl(config-tenant-vrf)# exit apicl(config-tenant)# bridge-domain b1 apicl(config-tenant-bd)# fc apicl(config-tenant-bd)# vrf member v1 apicl(config-tenant-bd)# exit apicl(config-tenant)# exit apicl(config)#</pre>	<p>サンプルコマンドシーケンスはブリッジドメインを作成 b1 テナントで t1 FCoE接続をサポートするように設定します。</p>
ステップ 2	<p>同じテナントの下には、設定されている FCoE ブリッジドメインと、ターゲット EPG を関連付けます。</p> <p>例 :</p> <pre>apicl(config)# tenant t1 apicl(config-tenant)# application a1 apicl(config-tenant-app)# epg e1 apicl(config-tenant-app-epg)# bridge-domain member b1 apicl(config-tenant-app-epg)# exit apicl(config-tenant-app)# exit apicl(config-tenant)# exit apicl(config)#</pre>	<p>サンプルコマンドシーケンス作成 EPG e1 その EPG の FCoE に設定されたブリッジドメイン関連付け b1。</p>
ステップ 3	<p>VLAN マッピングに VSAN ドメイン、VSAN プール、VLAN プール、VSAN を作成します。</p> <p>例 :</p> <p>A</p> <pre>apicl(config)# vsan-domain dom1 apicl(config-vsan)# vsan 1-10 apicl(config-vsan)# vlan 1-10 apicl(config-vsan)# fcoe vsan 1 vlan</pre>	<p>例 A、サンプルコマンドシーケンスは、VSAN ドメインを作成 dom1 VSAN プールと VLAN プール、マップ VSAN 1 VLAN 1 と VLAN 2 に VSAN 2 をマップ</p> <p>例 B、代替サンプルコマンドシーケンスは再利用可能な vsan 属性テンプレートを作成 pol1 VSAN ドメインを</p>

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre> 1 loadbalancing src-dst-ox-id apic1(config-vsana)# fcoe vsan 2 vlan 2 例： B apic1(config)# template vsan-attribute poll apic1(config-vsana-attr)# fcoe vsan 2 vlan 12 loadbalancing src-dst-ox-id apic1(config-vsana-attr)# fcoe vsan 3 vlan 13 loadbalancing src-dst-ox-id apic1(config-vsana-attr)# exit apic1(config)# vsan-domain dom1 apic1(config-vsana)# inherit vsan-attribute poll apic1(config-vsana)# exit </pre>	作成し、 dom1 、そのテンプレートから属性とマッピングを継承します。
ステップ 4	<p>FCoE Initialization (FIP) プロセスをサポートする物理ドメインを作成します。</p> <p>例：</p> <pre> apic1(config)# vlan-domain fipVlanDom apic1(config)# vlan-pool fipVlanPool </pre>	
ステップ 5	<p>ファイバチャネル SAN ポリシーを設定します。</p> <p>例：</p> <pre> apic1# apic1# configure apic1(config)# template fc-fabric-policy ffp1 apic1(config-fc-fabric-policy)# fctimer e-d-tov 1111 apic1(config-fc-fabric-policy)# fctimer r-a-tov 2222 apic1(config-fc-fabric-policy)# fcoe fcmap 0E:FC:01 apic1(config-fc-fabric-policy)# exit </pre>	サンプルコマンドシーケンスは、SAN のファイバチャネルポリシーを作成 ffp1 の組み合わせを指定するエラー検出タイムアウト値 (EDTOV)、resource allocation(リソース割り当て、リソースの割り当て)タイムアウト値 (RATOV)、およびターゲットリーフ上の FCoE 対応のインターフェイスのデフォルト FC マップ値スイッチです。
ステップ 6	<p>ファイバチャネル ノード ポリシーを作成します。</p> <p>例：</p> <pre> apic1(config)# template fc-leaf-policy flp1 apic1(config-fc-leaf-policy)# fcoe fka-adv-period 44 apic1(config-fc-leaf-policy)# exit </pre>	サンプルコマンドシーケンスは、ファイバチャネルノードのポリシーを作成 flp1 を中断のロードバランシングの有効化と FIP キープアライブ値の組み合わせを指定します。これらの値は、ターゲットリーフスイッチ上のすべて

	コマンドまたはアクション	目的
		の FCoE 対応インターフェイスにも適用されます。
ステップ 7	<p>ノード ポリシー グループを作成します。</p> <p>例 :</p> <pre> apicl(config)# template leaf-policy-group lpg1 apicl(config-leaf-policy-group)# inherit fc-fabric-policy ffp1 apicl(config-leaf-policy-group)# inherit fc-leaf-policy flp1 apicl(config-leaf-policy-group)# exit apicl(config)# exit apicl# </pre>	<p>サンプルコマンドシーケンスはノードポリシー グループを作成 lpg1、SAN のファイバチャネルポリシーの値を結合する ffp1 とファイバチャネル ノードのポリシー、 flp1。このノードポリシーグループの合計値は、後で設定されているノードのプロファイルに適用できます。</p>
ステップ 8	<p>ノード プロファイルを作成します。</p> <p>例 :</p> <pre> apicl(config)# leaf-profile lp1 apicl(config-leaf-profile)# leaf-group lg1 apicl(config-leaf-group)# leaf 101 apicl(config-leaf-group)# leaf-policy-group lpg1 </pre>	<p>サンプルコマンドシーケンスがノードのプロファイルを作成 lp1 ノードポリシー グループと関連付けます lpg1、ノードグループ lg1、およびリーフスイッチ 101。</p>
ステップ 9	<p>F ポート インターフェイスのインターフェイス ポリシーグループを作成します。</p> <p>例 :</p> <pre> apicl(config)# template policy-group ipg1 apicl(config-pol-grp-if)# priority-flow-control mode auto apicl(config-pol-grp-if)# switchport mode f apicl(config-pol-grp-if)# slow-drain pause timeout 111 apicl(config-pol-grp-if)# slow-drain congestion-timeout count 55 apicl(config-pol-grp-if)# slow-drain congestion-timeout action log </pre>	<p>サンプルコマンドシーケンスは、インターフェイスグループのポリシーを作成 ipg1 し、プライオリティ フロー制御の有効化、F ポートの有効化、およびこのポリシーグループに適用されているすべてのインターフェイスに対して低速ドレインポリシーの値を決定する値の組み合わせを割り当てます。</p>
ステップ 10	<p>NP ポート インターフェイスのインターフェイス ポリシーグループを作成します。</p> <p>例 :</p> <pre> apicl(config)# template policy-group ipg2 apicl(config-pol-grp-if)# priority-flow-control mode auto apicl(config-pol-grp-if)# switchport mode np </pre>	<p>サンプルコマンドシーケンスは、インターフェイスグループ ポリシー ipg2 を作成し、このポリシーグループに適用されているすべてのインターフェイスに対して、優先順位フロー制御の有効化、NP ポートの有効化、低速ドレインポリシーの値を決定する値の組み合わせを割り当てます。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre>apic1(config-pol-grp-if)# slow-drain pause timeout 111 apic1(config-pol-grp-if)# slow-drain congestion-timeout count 55 apic1(config-pol-grp-if)# slow-drain congestion-timeout action log</pre>	
ステップ 11	<p>F ポート インターフェイスのインターフェイスプロファイルを作成します。</p> <p>例 :</p> <pre>apic1# configure apic1(config)# leaf-interface-profile lip1 apic1(config-leaf-if-profile)# description 'test description lip1' apic1(config-leaf-if-profile)# leaf-interface-group lig1 apic1(config-leaf-if-group)# description 'test description lig1' apic1(config-leaf-if-group)# policy-group ipg1 apic1(config-leaf-if-group)# interface ethernet 1/2-6, 1/9-13</pre>	<p>サンプルコマンドシーケンスは、インターフェイスプロファイルを作成 lip1 F ポートのインターフェイスの F ポートの特定のインターフェイスポリシーグループプロファイルを関連付けます ipg1、このインターフェイスを指定しプロファイルとその関連するポリシー。適用されます。</p>
ステップ 12	<p>NP ポート インターフェイスのインターフェイスプロファイルを作成します。</p> <p>例 :</p> <pre>apic1# configure apic1(config)# leaf-interface-profile lip2 apic1(config-leaf-if-profile)# description 'test description lip2' apic1(config-leaf-if-profile)# leaf-interface-group lig2 apic1(config-leaf-if-group)# description 'test description lig2' apic1(config-leaf-if-group)# policy-group ipg2 apic1(config-leaf-if-group)# interface ethernet 1/14</pre>	<p>サンプルコマンドシーケンスは、インターフェイスプロファイルを作成 lip2 NP ポート インターフェイス、NP ポートの特定のインターフェイスポリシーグループプロファイルに関連付けます ipg2、このインターフェイスを指定し、プロファイルとその関連するポリシー適用されます。</p>
ステップ 13	<p>レベル 1 の QoS クラス ポリシーを設定します。</p> <p>例 :</p> <pre>apic1(config)# qos parameters levell apic1(config-qos)# pause no-drop cos 3</pre>	<p>サンプルコマンドシーケンスは、FCoE トラフィック プライオリティフロー制御ポリシーを適用することがおよび非ドロップパケットのクラスのサービスレベル 3 の処理を一時停止の QoS レベルを指定します。</p>

NX-OS スタイル CLI を使用して FCoE オーバー FEX の設定

FEX ポートは、ポート Vsan として設定されます。

手順

ステップ1 テナントと VSAN のドメインを設定します。

例：

```
apicl# configure
apicl(config)# tenant t1
apicl(config-tenant)# vrf context v1
apicl(config-tenant-vrf)# exit
apicl(config-tenant)# bridge-domain b1
apicl(config-tenant-bd)# fc
apicl(config-tenant-bd)# vrf member v1
apicl(config-tenant-bd)# exit
apicl(config-tenant)# application a1
apicl(config-tenant-app)# epg e1
apicl(config-tenant-app-epg)# bridge-domain member b1
apicl(config-tenant-app-epg)# exit
apicl(config-tenant-app)# exit
apicl(config-tenant)# exit

apicl(config)# vsan-domain dom1
apicl(config-vsan)# vlan 1-100
apicl(config-vsan)# vsan 1-100
apicl(config-vsan)# fcoe vsan 2 vlan 2 loadbalancing src-dst-ox-id
apicl(config-vsan)# fcoe vsan 3 vlan 3 loadbalancing src-dst-ox-id
apicl(config-vsan)# fcoe vsan 5 vlan 5
apicl(config-vsan)# exit
```

ステップ2 FEX をインターフェイスに関連付けます。

例：

```
apicl(config)# leaf 101
apicl(config-leaf)# interface ethernet 1/12
apicl(config-leaf-if)# fex associate 111
apicl(config-leaf-if)# exit
```

ステップ3 ポート、ポート チャネル、および VPC あたり FEX を介して FCoE を設定します。

例：

```
apicl(config-leaf)# interface vfc 111/1/2
apicl(config-leaf-if)# vsan-domain member dom1
apicl(config-leaf-if)# switchport vsan 2 tenant t1 application a1 epg e1
apicl(config-leaf-if)# exit

apicl(config-leaf)# interface vfc-po pc1 fex 111
apicl(config-leaf-if)# vsan-domain member dom1
apicl(config-leaf-if)# switchport vsan 2 tenant t1 application a1 epg e1
apicl(config-leaf-if)# exit
apicl(config-leaf)# interface ethernet 111/1/3
apicl(config-leaf-if)# channel-group pc1
apicl(config-leaf-if)# exit
apicl(config-leaf)# exit
```

```

apic1(config)# vpc domain explicit 12 leaf 101 102
apic1(config-vpc)# exit
apic1(config)# vpc context leaf 101 102
apic1(config-vpc)# interface vpc vpc1 fex 111 111
apic1(config-vpc-if)# vsan-domain member dom1
apic1(config-vpc-if)# switchport vsan 2 tenant t1 application a1 epg e1
apic1(config-vpc-if)# exit
apic1(config-vpc)# exit
apic1(config)# leaf 101-102
apic1(config-leaf)# interface ethernet 1/2
apic1(config-leaf-if)# fex associate 111
apic1(config-leaf-if)# exit
apic1(config-leaf)# interface ethernet 111/1/2
apic1(config-leaf-if)# channel-group vpc1 vpc
apic1(config-leaf-if)# exit

```

ステップ 4 設定を確認するには、次のコマンドを実行します。

例：

```

apic1(config-vpc)# show vsan-domain detail
vsan-domain : dom1

vsan : 1-100

vlan : 1-100

Leaf          Interface          Vsan  Vlan  Vsan-Mode  Port-Mode  Usage
Operational  State
-----
-----
101          vfc111/1/2         2     2     Native     Tenant: t1
  Deployed
                                     App: a1
                                     Epg: e1

101          PC:pc1             5     5     Native     Tenant: t1
  Deployed
                                     App: a1
                                     Epg: e1

101          vfc111/1/3         3     3     Native     F          Tenant: t1
  Deployed
                                     App: a1
                                     Epg: e1

```

NX-OS スタイルの CLI を使用した FCoE 設定の検証

次 **show** コマンドは、リーフ スイッチ ポートで FCoE の設定を確認します。

手順

使用して、**vsan ドメインを表示** コマンドをターゲット スイッチで FCoE が有効になっていることを確認します。

コマンドの例では、FCoE がリストされているリーフ スイッチおよび接続の詳細を FCF で有効になっていることを確認します。

例：

```

ifav-isim8-ifc1# show vsan-domain detail
vsan-domain : iPostfcoeDomP1

vsan : 1-20 51-52 100-102 104-110 200 1999 3100-3101 3133
      2000

vlan : 1-20 51-52 100-102 104-110 200 1999 3100-3101 3133
      2000

Leaf   Interface      Vsan  Vlan  Vsan  Port  Usage              Operational
-----
101    vfc1/11           1     1     Regular  F     Tenant: iPost101  Deployed
                                           App: iPost1
                                           Epg: iPost1

101    vfc1/12           1     1     Regular  NP    Tenant: iPost101  Deployed
                                           App: iPost1
                                           Epg: iPost1

101    PC:infraAccBndl  4     4     Regular  NP    Tenant: iPost101  Deployed
      Grp_pc01
                                           App: iPost4
                                           Epg: iPost4

101    vfc1/30           2000  Native  Tenant: t1  Not deployed
      App: a1      (invalid-path)
      Epg: e1

```

NX-OS スタイル CLI を使用した FCoE 要素の展開解除

ACI ファブリックから FCoE 接続を導入解除に移動してもでは、いくつかのレベルで FCoE コンポーネントを削除する必要があります。

手順

- ステップ 1** リーフポートインターフェイスの属性のリスト、そのモードの設定をデフォルトに設定し、その EPG の導入とドメインの関連付けを削除します。

インターフェイス `vfc` のポートモードの設定を設定する例 **1/2** のデフォルトに [EPG の導入を削除 `e1` と VSAN ドメインに関連付け `dom1` そのインターフェイスから。

例 :

```
apic1(config)# leaf 101
apic1(config-leaf)# interface vfc 1/2
apic1(config-leaf-if)# show run
# Command: show running-config leaf 101 interface vfc 1 / 2
# Time: Tue Jul 26 09:41:11 2016
  leaf 101
    interface vfc 1/2
      vsan-domain member dom1
      switchport vsan 2 tenant t1 application a1 epg e1
    exit
  exit
apic1(config-leaf-if)# no switchport mode
apic1(config-leaf-if)# no switchport vsan 2 tenant t1 application a1 epg e1
apic1(config-leaf-if)# no vsan-domain member dom1
apic1(config-leaf-if)# exit
apic1(config-leaf)# exit
```

- ステップ 2** VSAN/VLAN マッピング、および VLAN と VSAN のプールを一覧表示して削除します。

この例では、`vsan2` の VSAN/VLAN マッピング、VLAN プール **1-10**、および VSAN プール **1-10** を、VSAN ドメイン `dom1` から削除します。

例 :

```
apic1(config)# vsan-domain dom1
apic1(config-vsan)# show run
# Command: show running-config vsan-domain dom1
# Time: Tue Jul 26 09:43:47 2016
  vsan-domain dom1
    vsan 1-10
    vlan 1-10
    fcoe vsan 2 vlan 2
  exit
apic1(config-vsan)# no fcoe vsan 2
apic1(config-vsan)# no vlan 1-10
apic1(config-vsan)# no vsan 1-10
apic1(config-vsan)# exit

#####
NOTE: To remove a template-based VSAN to VLAN mapping use an alternate sequence:
#####

apic1(config)# template vsan-attribute <template_name>
apic1(config-vsan-attr)# no fcoe vsan 2
```

- ステップ 3** VSAN ドメインを削除します。

例は、ドメインの VSAN を削除する `dom1` 。

例 :

```
apic1(config)# no vsan-domain dom1
```

ステップ 4 必要はないかどうかは、関連付けられているテナント、EPG、およびセクタを削除できません。

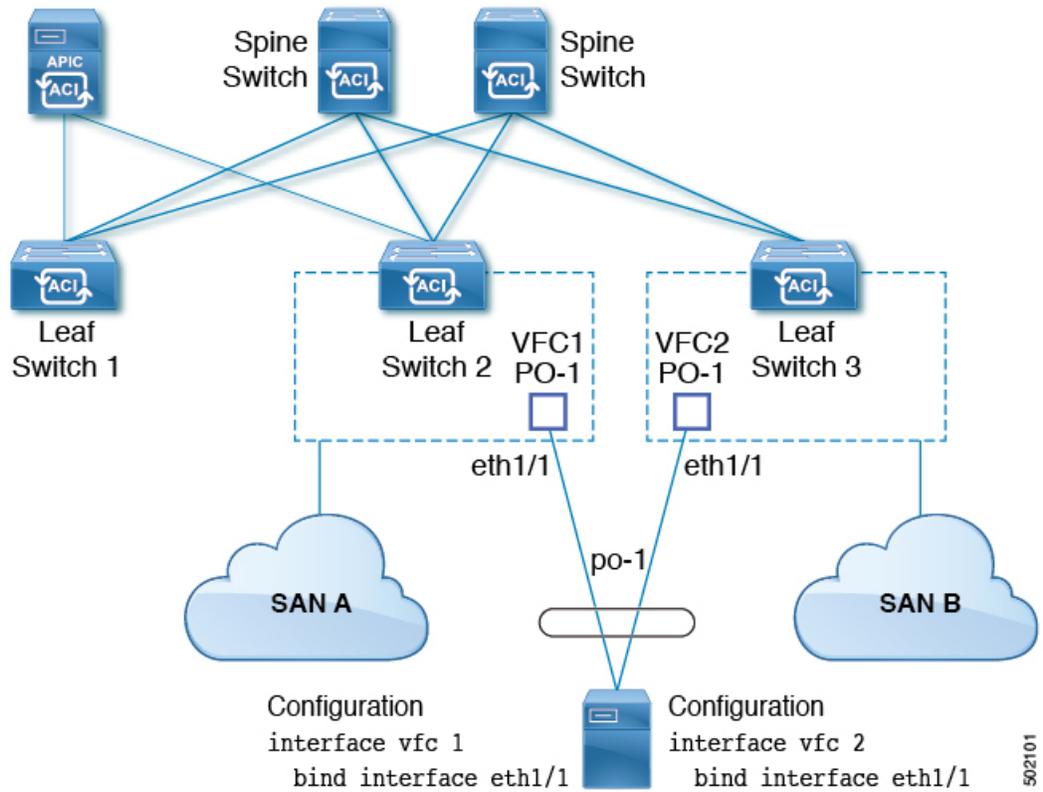
vPC による SAN ブート

Cisco ACI は、Link Aggregation Control Protocol (LACP) ベースの vPC におけるイニシエータの SAN ブートをサポートしています。この制限事項は、LACP ベースのポート チャンネルに固有です。

通常のホスト-vPC トポロジでは、ホストに接続している vFC インターフェイスは vPC にバインドされており、vFC インターフェイスをアップする前に vPC を論理的にアップする必要があります。このトポロジでは、vPC で LACP が設定されている場合、ホストは SAN からブートできません。これは、ホストの LACP は通常はアダプタのファームウェアで実装されているのではなく、ホスト ドライバで実装されているためです。

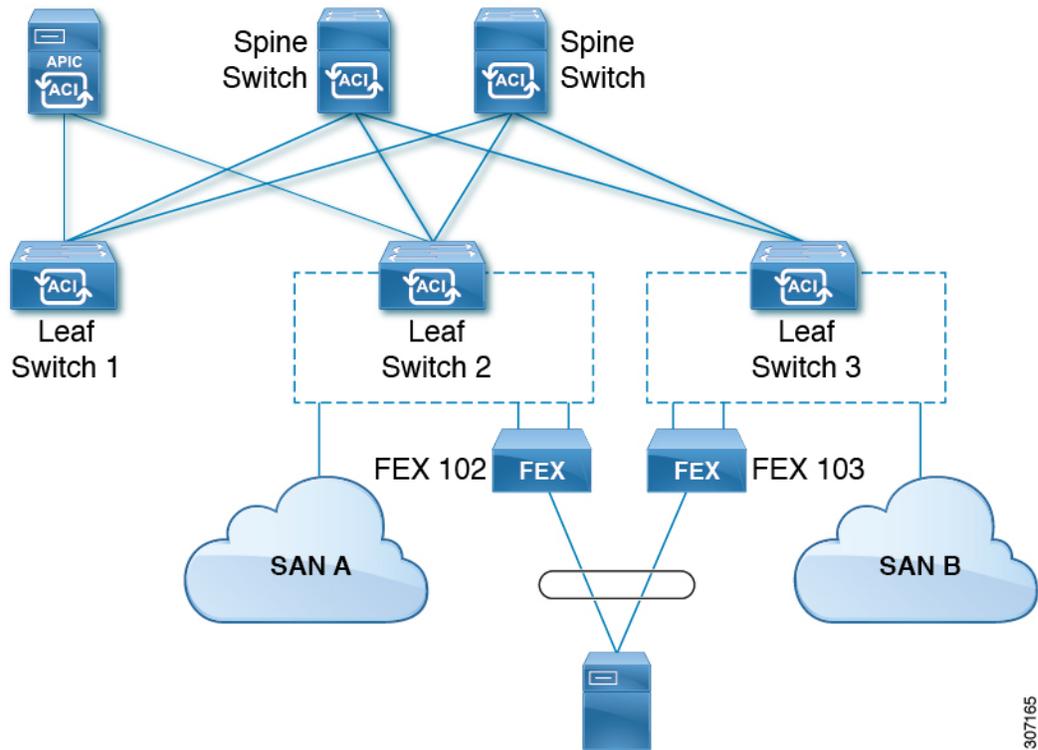
SAN ブートについては、ホストに接続している vFC インターフェイスは、ポート チャンネル自体ではなく、ポート チャンネルのメンバーにバインドされています。このバインディングにより、最初の構成で LACP ベースのポート チャンネルに依存することなく、CNA/ホストバスアダプタ (HBA) のリンクがアップした時点で、SAN ブート中にホスト側の vFC がアップするようになります。

図 30: vPCによる SAN ブートのトポロジ



Cisco APIC リリース 4.0(2) 以降、次の図に示すように、SAN ブートは FEX ホスト インターフェイス (HIF) ポート vPC を介してサポートされます。

図 31: FEX ホストインターフェイス (HIF) ポート vPC を使用した SAN ブート トポロジ



vPC による SAN ブートのガイドラインと制約事項

- 複数のメンバーのポートチャンネルはサポートされていません。
- vFC がメンバー ポートにバインドされている場合、ポートチャンネルに複数のメンバーを持たせることはできません。
- vFC がポートチャンネルにバインドされている場合、ポートチャンネルには 1 つのメンバーポートしか持たせることはできません。

GUI を使用した vPC による SAN ブートの設定

設定を簡単に行うため、この手順では [Configure Interface, PC, and vPC] ウィザード ([Fabric] > [Access Policies] > [Quickstart]) を使用します。

始める前に

この手順では、次の項目がすでに設定済みであることを前提としています。

- VSAN Pool
- VLAN Pool
- VSAN の属性、VSAN プール内の VSAN の VLAN へのマッピング

- ファイバチャネル ドメイン (VSAN ドメイン)
- テナント、アプリケーション プロファイル
- アタッチ エンティティ プロファイル

手順

-
- ステップ 1** APIC メニューバーで、[Fabric]>[Access Policies]>[Quick Start] に移動し、[Configure an interface, PC, and VPC] をクリックします。
- ステップ 2** [Configure an interface, PC, and VPC] 作業領域の [vPC Switch Pairs] ツールバーで、[+] をクリックしてスイッチ ペアを作成します。次のアクションを実行します。
- [vPC Domain ID] テキスト ボックスで、スイッチ ペアを指定する番号を入力します。
 - [Switch 1] ドロップダウンリストで、リーフ スイッチを選択します。
同じ vPC ポリシー グループ内のインターフェイスを持つスイッチのみをペアリングできます。
 - [Switch 2] ドロップダウンリストで、リーフ スイッチを選択します。
 - [Save] をクリックしてこのスイッチ ペアを保存します。
- ステップ 3** [Configure an interface, PC, and vPC] 作業領域で、緑色の大きい[+] をクリックし、スイッチを選択します。
[Select Switches To Configure Interfaces] 作業領域が開き、[Quick] オプションがデフォルトで選択されます。
- ステップ 4** [Switches] ドロップダウンリストから 2 つのスイッチ ID を選択し、スイッチ プロファイルに名前を付けます。
- ステップ 5** 再び緑色の大きい[+] をクリックし、スイッチ インターフェイスを設定します。
- ステップ 6** [Interface Type] コントロールで、[vPC] を選択します。
- ステップ 7** [Interfaces] には、両方のスイッチで vPC メンバーとして使用される 1 つのポート番号 (1/49 など) を入力します。
この操作によってインターフェイスセクタ ポリシーが作成されます。[Interface Selector Name] テキスト ボックスで、ポリシーの名前を受け入れるか変更できます。
- ステップ 8** [Interface Policy Group] コントロールで、[Create One] を選択します。
- ステップ 9** [Fibre Channel Interface Policy] テキストボックスから、[Create Fibre Channel Interface Policy] を選択し、次の操作を実行します。
- [Name] フィールドに、ファイバチャネル インターフェイス ポリシーの名前を入力します。
 - [Port Mode] セレクタで、[F] を選択します。
 - [Trunk Mode] セレクタで、[trunk-on] を選択します。
 - [Submit] をクリックします。

- ステップ 10** [Port Channel Policy] テキスト ボックスで、[Create Port Channel Policy] を選択し、次の操作を実行します。
- [Name] フィールドに、ポート チャネル ポリシーの名前を入力します。
 - [Mode] ドロップダウンリストで、[LACP Active] を選択します。
 - [Control] セレクタから [Suspend Individual Port] を削除します。
[Suspend Individual Port] はポート チャネルから削除する必要があります。削除しないと、ホストからの LACP BPDU が受信されない場合に物理インターフェイスが中断されます。
 - [Submit] をクリックします。
- ステップ 11** [Attached Device Type] ドロップダウンリストで、[Fibre Channel] を選択します。
- ステップ 12** [Fibre Channel Domain] ドロップダウンリストで、ファイバチャネル ドメイン (VSAN ドメイン) を選択します。
- ステップ 13** [保存 (Save)] をクリックして、この vPC 設定を保存します。
- ステップ 14** [Save] をクリックして、このインターフェイス設定を保存します。
- ステップ 15** [Submit] をクリックします。
- ステップ 16** [Tenants] > [<テナント名>] > [Application Profiles] > [<名前>] > [Application EPGs] の順に展開します。
- ステップ 17** [Application EPGs] を右クリックし、[Create Application EPG] を選択して、次の操作を実行します。
- この EPG がネイティブ EPG になり、ネイティブ VLAN が設定されます。
- [Name] フィールドに、EPG の名前を入力します。
 - [Bridge Domain] ドロップダウンリストで、[Create Bridge Domain] を選択します。
 - [Name] フィールドに、ブリッジ ドメインの名前を入力します。
 - [Type] コントロールで、[regular] を選択します。
 - [VRF] ドロップダウンリストで、テナント VRF を選択します。VRF がまだ存在しない場合は、[Create VRF] を選択し、VRF に名前を付けて、[Submit] をクリックします。
 - [Next]、[Next]、[Finish] の順にクリックして [Create Application EPG] に戻ります。
 - [Finish] をクリックします。
- ステップ 18** 前のステップで作成したネイティブ EPG を展開します。
- ステップ 19** [Static Ports] を右クリックし、[Deploy Static EPG On PC, VPC, or Interface] をクリックして、次の操作を実行します。
- [Path Type] コントロールで、[Virtual Port Channel] を選択します。
 - [Path] ドロップダウンリストから、vPC 用に作成されたポート チャネル ポリシーを選択します。
 - [Port Encap] ドロップダウンリストから [VLAN] を選択し、イーサネット VLAN の番号を入力します。
 - [Deployment Immediacy] コントロールで、[Immediate] を選択します。
 - [Mode] コントロールで、[Access (802.1P)] を選択します。
 - [Submit] をクリックします。

ステップ 20 [Application EPGs] を右クリックし、[Create Application EPG] を選択して、次の操作を実行します。

この EPG は、SAN ごとに 2 つの EPG のうちの 1 番目になります。

- a) [Name] フィールドに、EPG の名前を入力します。
- b) [Bridge Domain] ドロップダウンリストで、[Create Bridge Domain] を選択します。
- c) [Name] フィールドに、ブリッジドメインの名前を入力します。
- d) [Type] コントロールで、[fc] を選択します。
- e) [VRF] ドロップダウンリストで、テナント VRF を選択します。VRF がまだ存在しない場合は、[Create VRF] を選択し、VRF に名前を付けて、[Submit] をクリックします。
- f) [Next]、[Next]、[Finish] の順にクリックして [Create Application EPG] に戻ります。
- g) [Finish] をクリックします。

ステップ 21 前の手順を繰り返して、2 番目のアプリケーション EPG を作成します。

この 2 番目の EPG は 2 番目の SAN に使用されます。

ステップ 22 2 つの SAN EPG のうちいずれか 1 つを展開し、[Fibre Channel (Paths)] を右クリックし、[Deploy Fibre Channel] を選択して、次の操作を実行します。

- a) [Path Type] コントロールで、[Port] を選択します。
- b) [Node] ドロップダウンリストで、スイッチ ペアの一方のリーフを選択します。
- c) [Path] ドロップダウンリストで、VPC のイーサネット ポート番号を選択します。
- d) [VSAN] テキストボックスで、「vsan-」で始まる VSAN 番号を入力します。
たとえば、VSAN 番号が 300 の場合は「vsan-300」と入力します。
- e) [VSAN Mode] コントロールで、[Native] を選択します。
- f) [Submit] をクリックします。

ステップ 23 2 つの SAN EPG のうちもう一方を展開し、前の手順を繰り返してスイッチ ペアのもう一方のリーフを選択します。

CLI を使用した vPC による SAN ブートの設定

この例では、次の項目がすでに設定されていると仮定しています。

- VLAN ドメイン
- テナント、アプリケーションプロファイル、アプリケーション EPG
- ポート チャネル テンプレート 「Switch101-102_1-ports-49_PolGrp」

この例では、VSAN 200 はリーフ 101 上の物理イーサネット インターフェイス 1/49 にバインドされていて、VSAN 300 はリーフ 102 上の物理イーサネット インターフェイス 1/49 にバインドされています。2 つのインターフェイスは、仮想ポート チャネル Switch101-102_1-ports-49_PolGrp のメンバーです。

```
apicl(config-leaf)# show running-config
# Command: show running-config leaf 101
# Time: Sat Sep  1 12:51:23 2018
leaf 101

    interface ethernet 1/49
        # channel-group Switch101-102_1-ports-49_PolGrp vpc
        switchport trunk native vlan 5 tenant newtenant application AP1 epg epgNative
        port-direction downlink
        exit

    # Port-Channel inherits configuration from "template port-channel
Switch101-102_1-ports-49_PolGrp"
    interface port-channel Switch101-102_1-ports-49_PolGrp
        exit

    interface vfc 1/49
        # Interface inherits configuration from "channel-group
Switch101-102_1-ports-49_PolGrp" applied to interface ethernet 1/49
        switchport vsan 200 tenant newtenant application AP1 epg epg200
        exit

apicl(config-leaf)# show running-config
# Command: show running-config leaf 102
# Time: Sat Sep  1 13:28:02 2018
leaf 102

    interface ethernet 1/49
        # channel-group Switch101-102_1-ports-49_PolGrp vpc
        switchport trunk native vlan 1 tenant newtenant application AP1 epg epgNative
        port-direction downlink
        exit

    # Port-Channel inherits configuration from "template port-channel
Switch101-102_1-ports-49_PolGrp"
    interface port-channel Switch101-102_1-ports-49_PolGrp
        exit

    interface vfc 1/49
        # Interface inherits configuration from "channel-group
Switch101-102_1-ports-49_PolGrp" applied to interface ethernet 1/49
        switchport vsan 300 tenant newtenant application AP1 epg epg300
```




第 9 章

ファイバチャネル NPV

この章は、次の内容で構成されています。

- [ファイバチャネル接続の概要 \(193 ページ\)](#)
- [NPV トラフィック管理 \(196 ページ\)](#)
- [SAN A/B の分離 \(199 ページ\)](#)
- [SAN ポート チャネル \(199 ページ\)](#)
- [ファイバチャネル N ポート仮想化のガイドラインと制限事項 \(200 ページ\)](#)
- [ファイバチャネル N ポート仮想化でサポートされるハードウェア \(202 ページ\)](#)
- [ファイバチャネル N ポート仮想化の相互運用性 \(202 ページ\)](#)
- [ファイバチャネル NPV GUI の設定 \(203 ページ\)](#)
- [ファイバチャネル NPV NX-OS スタイル CLI の設定 \(211 ページ\)](#)
- [ファイバチャネル NPV REST API の設定 \(215 ページ\)](#)

ファイバチャネル接続の概要

Cisco ACI では、N ポート仮想化 (NPV) モードを使用したリーフスイッチでのファイバチャネル (FC) 接続がサポートされています。NPV により、スイッチにおいて、ローカル接続されたホストポート (N ポート) からの FC トラフィックをノードプロキシ (NP ポート) アップリンクに集約して、コアスイッチに送ることができます。

スイッチは、NPV を有効にした後は NPV モードになります。NPV モードはスイッチ全体に適用されます。NPV モードのスイッチに接続するエンドデバイスはそれぞれ、この機能を使用するために N ポートとしてログインする必要があります (ループ接続デバイスはサポートされていません)。(NPV モードの) エッジスイッチから NPV コアスイッチへのすべてのリンクは、(E ポートではなく) NP ポートとして確立されます。このポートは、通常のスイッチ間リンクに使用されます。



- (注) FC NPV アプリケーションにおける ACI リーフ スイッチの役割は、ローカル接続された SAN ホストとローカル接続されたコア スイッチ間の FC トラフィックのパスを提供することです。リーフ スイッチでは SAN ホスト間のローカル スイッチングは行われず、FC トラフィックはスパイン スイッチに転送されません。

FC NPV の利点

FC NPV では次の機能を提供します。

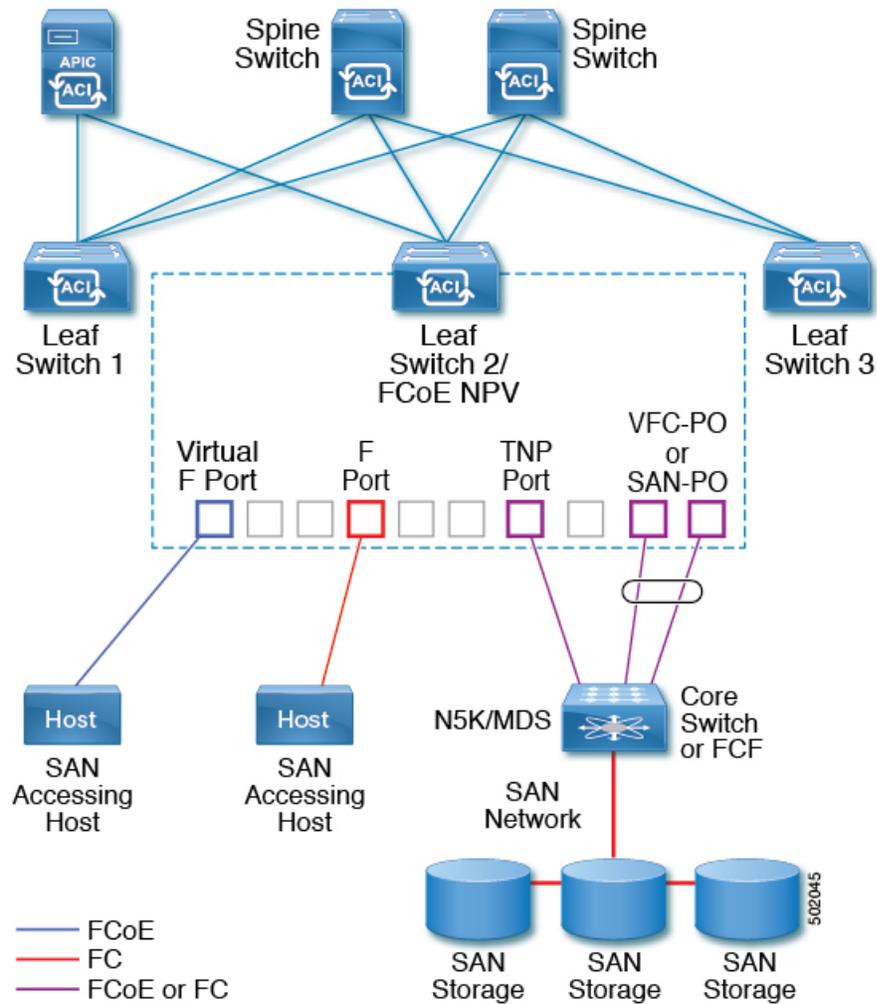
- ファブリックでドメイン ID を追加しなくても、ファブリックに接続するホスト数が増加します。NPV のコア スイッチのドメイン ID は、複数の NPV スイッチ間で共有されます。
- FC ホストと FCoE ホストは、ネイティブの FC インターフェイスを使用して SAN ファブリックに接続します。
- トラフィックの自動マッピングによるロード バランシング。NPV に接続しているサーバを新しく追加した場合に、トラフィックが現在のトラフィック負荷に基づいて、外部のアップリンク間で自動的に分散されます。
- トラフィックの静的マッピング。NPV に接続しているサーバを、外部のアップリンクに静的にマッピングすることができます。

FC NPV モード

ACI の Feature-set `fcoe-npv` は、最初に FCoE/FC 設定がプッシュされるときに、デフォルトで自動的に有効になります。

FC トポロジ

ACI ファブリック経由の FC トラフィックをサポートするさまざまな設定のトポロジを、次の図に示します。



- ACI リーフスイッチ上のサーバー/ストレージホストインターフェイスは、ネイティブの FC ポートか仮想 FC (FCoE) ポートのどちらかとして機能するように設定できます。
- FC コアスイッチへのアップリンクインターフェイスは、次のいずれかのポートタイプとして設定できます。
 - ネイティブ FC NP ポート
 - SAN-PO NP ポート
- FCF スイッチへのアップリンク インターフェイスは、次のいずれかのポートタイプとして設定できます。
 - 仮想 (vFC) NP ポート
 - vFC-PO NP ポート

- N ポート ID 仮想化 (NPIV) がサポートされており、デフォルトで有効になっています。そのため、単一のリンクを経由して N ポートに複数の N ポート ID またはファイバチャネル ID (FCID) を割り当てるのが可能です。
- コアスイッチへの NP ポートでは、トランキングを有効にすることができます。トランキングにより、ポートで複数の VSAN をサポートできます。トランクモードが有効になった NP ポートのことを、TNP ポートと呼びます。
- 複数の FC NP ポートを結合してコアスイッチへの SAN ポートチャネル (SAN-PO) とすることができます。トランキングは SAN ポートチャネルでサポートされます。
- FCF ポートでは 4/16/32 Gbps および自動速度設定がサポートされますが、ホストインターフェイスでは 8Gbps はサポートされません。デフォルトの速度は「auto」です。
- FC NP ポートでは、4/8/16/32 Gbps および自動速度設定がサポートされます。デフォルトの速度は「auto」です。
- Flogi に続く複数の FDISC (ネスト NPIV) は、FC/FCoE ホストと FC/FCoE NP リンクによってサポートされます。
- FEX の背後にある FCoE ホストは、FCoE NP/アップリンクを介してサポートされます。
- APIC 4.1(1) リリース以降、FEX の背後にある FCoE ホストは、ファイバチャネル NP/アップリンクを介してサポートされます。
- 1 つの FEX の背後にあるすべての FCoE ホストは、複数の vFC および vFC-PO アップリンク間、または単一のファイバチャネル/SAN ポートチャネルアップリンクを通じてロードバランシングできます。
- SAN ブートは、FEX で FCoE アップリンク経由でサポートされます。
- APIC 4.1(1) リリース以降、SAN ブートは FC/SAN-PO アップリンクでもサポートされます。
- SAN ブートは、FEX を介して接続された FCoE ホストの vPC を介してサポートされます。

NPV トラフィック管理

通常は、すべてのトラフィックにおいて、すべての使用可能なアップリンクの使用を許可することをお勧めします。NPV トラフィック管理は、自動トラフィック エンジニアリングがネットワーク要件を満たさない場合にだけ使用してください。

自動アップリンク選択

NPV は、外部 NP アップリンク インターフェイスの自動選択をサポートしています。サーバ (ホスト) インターフェイスがアップになると、サーバ インターフェイスと同じ VSAN 内で利用可能な外部インターフェイスから、負荷が最も少ない外部インターフェイスが選択されます。

新しい外部インターフェイスが動作可能になっても、新たに利用可能になったアップリンクを含めるために既存の負荷は自動的に再分散されません。外部インターフェイスが新しいアップリンクを選択できるようになってから、サーバインターフェイスが動作します。

トラフィック マップ

FCNPVは、トラフィックマップをサポートしています。トラフィックマップにより、サーバ（ホスト）インターフェイスがコアスイッチに接続するために使用可能な外部（NPアップリンク）インターフェイスを指定できます。



Note FCNPVトラフィックマップがサーバインターフェイスに設定されると、サーバインターフェイスはそのトラフィックマップ内の外部インターフェイスからのみ選択する必要があります。指定された外部インターフェイスがいずれも動作していない場合、サーバは非動作状態のままになります。

FC NPV トラフィック マップ機能を使用すると、次のようなメリットが得られます。

- 特定のサーバインターフェイス（またはサーバインターフェイスの範囲）に外部インターフェイスの事前設定された設定を割り当てることによって、トラフィックエンジニアリングが容易になります。
- インターフェイスの再初期化またはスイッチの再起動後に、サーバインターフェイスは同じトラフィックパスを提供することで、常に同じ外部インターフェイス（または指定された外部インターフェイスのセットのいずれか）に接続するので、永続的なFCID機能の適切な動作が確保されます。

複数の NP リンクにまたがるサーバログインの破壊的自動ロードバランシング

FCNPVは、サーバログインの中断的ロードバランシングをサポートしています。中断的ロードバランシングが有効の場合、新しいNPアップリンクが動作すると、FCNPVによって、サーバインターフェイスがすべての利用可能なNPアップリンクにわたって再分配されます。サーバインターフェイスを一方のNPアップリンクからの他方のNPアップリンクに移動するために、FCNPVはサーバインターフェイスを強制的に再初期化して、サーバがコアスイッチへのログインを新たに実行するようにします。

別のアップリンクに移されたサーバインターフェイスだけが再初期化されます。移されたサーバインターフェイスごとにシステムメッセージが生成されます。



Note サーバインターフェイスを再配布すると、接続されたエンドデバイスへのトラフィックが中断されます。既存のポートチャネルにメンバーを追加しても、中断的自動ロードバランシングはトリガーされません。

サーバトラフィックの中断を避けるために、新しいNPアップリンクを追加してから、この機能をイネーブルし、サーバインターフェイスが再配布されてからこの機能を再度ディセーブルにしてください。

ディスラプティブロードバランシングがイネーブルでない場合、サーバインターフェイスの一部またはすべてを手動で再初期化して、新しいNPアップリンクインターフェイスにサーバトラフィックを分散することができます。

FC NPV トラフィック管理のガイドライン

FC NPV トラフィック管理を導入するには、次の注意事項に従ってください。

- NPV トラフィック管理は、自動トラフィック エンジニアリングがネットワーク要件を満たさない場合にだけ使用してください。
- すべてのサーバインターフェイスにトラフィック マップを設定する必要はありません。FC NPV はデフォルトで自動トラフィック管理を使用します。
- NP アップリンク インターフェイスのセットを使用するように設定されたサーバインターフェイスは、利用可能な NP アップリンク インターフェイスがなくても、他の利用可能な NP アップリンク インターフェイスを使用できません。
- ディスラプティブロードバランシングがイネーブルになると、サーバインターフェイスは1つの NP アップリンクから別の NP アップリンクに移動される場合があります。NP アップリンク インターフェイス間を移動する場合、FCNPV ではコアスイッチに再度ログインする必要があり、トラフィックの中断が生じます。
- サーバのセットを特定のコアスイッチにリンクするには、サーバインターフェイスを NP アップリンク インターフェイスのセット（すべてこのコアスイッチに接続されている）に関連付けてください。
- コアスイッチに永続的な FC ID を設定し、トラフィック マップ機能を使用してサーバインターフェイスのトラフィックを NP アップリンクに送ります（すべてのアップリンクが関連付けられたコアスイッチに接続しています）。
- トラフィック マップの固定を初めて設定する際は、最初のトラフィック マップを設定する前に、サーバのホストポートをシャットダウンする必要があります。
- トラフィックのマッピングを複数のアップリンクに設定していて、ホストへのログインに使用されるトラフィックマップを削除する場合は、先にホストをシャットダウンする必要があります。
- FEX の背後にある FCoE ホストのトラフィック マップを設定する場合、1つのホストを複数の FCoE NP/アップリンク（VFC または VFC-PO）または単一のファイバチャネル/SAN ポート チャネル NP/アップリンクにマッピングできます。

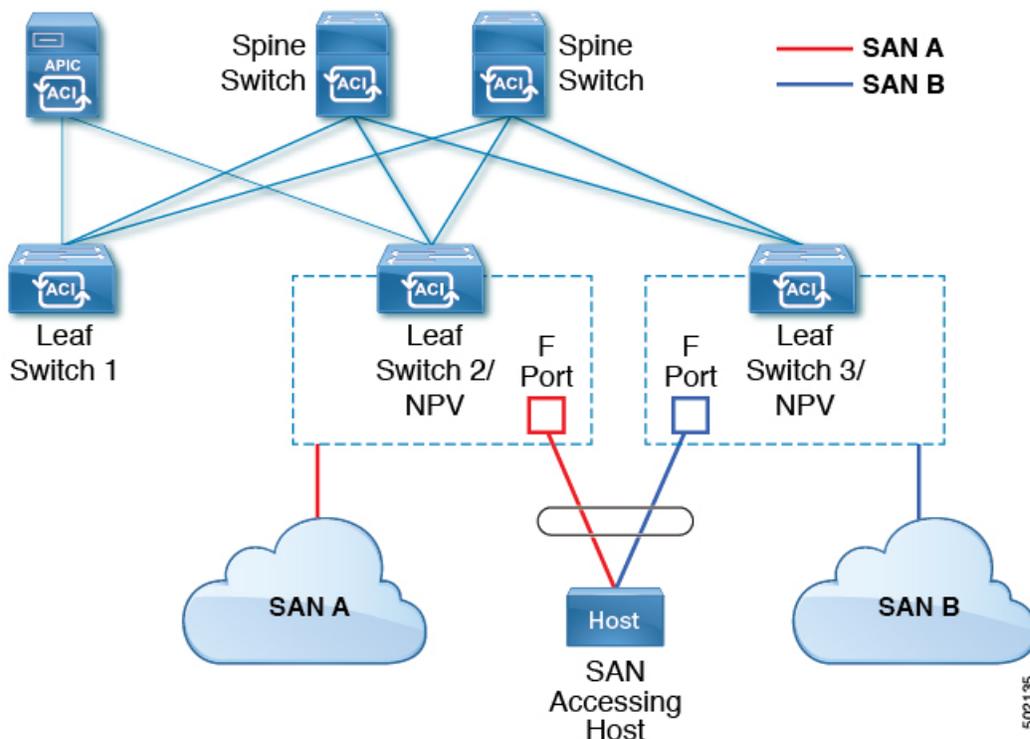


Note サーバが外部インターフェイスに静的にマッピングされている場合は、外部インターフェイスが何らかの理由でダウンする事態に備えて、サーバトラフィックが再分配されません。

SAN A/B の分離

SAN A と SAN B の分離により、いずれかのファブリック コンポーネントが障害を起こしても SAN 接続が使用できることが保証されます。SAN A と SAN B の分離は、ファブリック全体で導入されている VSAN を分割することで、物理的または論理的に実現できます。

図 32: SAN A/B の分離



SAN ポート チャンネル

SAN ポート チャンネルについて

- SAN ポート チャンネルは、同じファイバチャネル ノードに接続された一組の FC インターフェイスを結合して 1 つのリンクとして動作させる論理インターフェイスです。
- SAN ポート チャンネルにより、帯域の利用率と可用性がサポートされます。

- Cisco ACI スイッチの SAN ポート チャネルは、FC コア スイッチに接続するため、そして VSAN のアップリンク間で最適な帯域幅利用と透過型のフェールオーバーを実現するために使用されます。

SAN ポート チャネルのガイドラインと制限事項

- Cisco ACI スイッチのアクティブ ポート チャネルの最大数 (SAN ポート チャネルと VFC アップリンク/NP ポート チャネルの合計) は 7 です。追加で設定されたポート チャネルはすべて、既存のいずれかのアクティブ ポート チャネルをシャットダウンまたは削除するまで、**errdisabled** 状態のままです。既存のアクティブ ポート チャネルをシャットダウンまたは削除してから、**errdisabled** のポート チャネルを shut/no shut してアップします。
- SAN ポート チャネルに結合できる FC インターフェイスの最大数は 16 個に制限されます。
- SAN ポート チャネルの Cisco ACI スイッチでのデフォルトのチャネル モードは**アクティブ**です。これは変更できません。
- SAN ポート チャネルがコア スイッチとして Cisco FC コア スイッチに接続されている場合は、アクティブなチャネル モードだけがサポートされます。Cisco FC コア スイッチでアクティブなチャネルモードを設定する必要があります。

SAN ポート チャネル モードについて

SAN ポート チャネルは、デフォルトではチャネル モードがアクティブの状態を設定されています。アクティブの場合、ピア ポートのチャネルグループ モードに関係なく、メンバー ポートはピア ポートとのポートチャネルプロトコルのネゴシエーションを開始します。チャネルグループで設定されているピア ポートがポートチャネルプロトコルをサポートしていない場合、またはネゴシエーション不可能を示すステータスを返す場合、ポートチャネルは無効になります。アクティブのポートチャネルモードでは、片側でポートチャネルメンバーのポートの有効化および無効化を明示的に行わなくても、自動回復が可能です。

ファイバチャネル N ポート仮想化のガイドラインと制限事項

ファイバチャネル N ポート仮想化 (NPV) を設定する場合、次の注意事項および制限事項に注意してください。

- ファイバチャネル NP ポートはトランク モードをサポートしますが、ファイバチャネル F ポートはサポートしません。
- トランク ファイバチャネルポートでは、最も高い VSAN により内部ログインが行われません。
- コア スイッチで次の機能を有効にする必要があります。

```
feature npiv
feature fport-channel-trunk
```

- 8G のアップリンク速度を使用する場合は、コア スイッチで IDLE フィル パターンを設定する必要があります。



(注) Cisco MDS スイッチでの IDLE フィル パターンの設定例を次に示します。

```
Switch(config)# int fc2/3
Switch(config)# switchport fill-pattern IDLE speed 8000
Switch(config)# show run int fc2/3

interface fc2/3
switchport speed 8000
switchport mode NP
switchport fill-pattern IDLE speed 8000
no shutdown
```

- ファイバチャネル NPV のサポートは Cisco N9K-C93180YC-FX スイッチに限定されています。
- ファイバチャネル設定にはポート 1 ~ 48 を使用できます。ポート 49 ~ 54 をファイバチャネルポートにすることはできません。
- ポートをイーサネットからファイバチャネルに、またはその逆に変換する場合は、スイッチをリロードする必要があります。Currently, you can convert only one contiguous range of ports to Fibre Channel ports, and this range must be a multiple of 4, ending with a port number that is a multiple of 4.現時点で変換できるのは、ファイバチャネルポートの連続した範囲のポートだけです。そしてこの範囲は 4 の倍数である必要があります、最後のポート番号は 4 の倍数になっている必要があります。たとえば、1 ~ 4、1 ~ 8、21 ~ 24 などです。
- Brocade ポート ブレードファイバチャネル 16 ~ 32 へのファイバチャネルアップリンク (NP) 接続は、Cisco N9K-93180YC-FX リーフスイッチポートが 8G の速度で設定されている場合はサポートされません。
- 選択したポートの速度が SFP によってサポートされている必要があります。たとえば、32G の SFP は 8/16/32G をサポートするため、4G のポート速度には 8G または 16G の SFP が必要です。16G の SFP のサポートは 4/8/16G であるため、32G のポート速度には 32G の SFP が必要です。
- 速度の自動ネゴシエーションがサポートされています。デフォルトの速度は「auto」です。
- 40G およびブレイクアウト ポートではファイバチャネルを使用できません。
- FEX を FC ポートに直接接続することはできません。
- FEX HIF ポートを FC に変換することはできません。
- スイッチのポート プロファイル構成を変更した後にスイッチをリロードすると、データプレーンを通過するトラフィックが中断されます。

ファイバチャネル N ポート仮想化でサポートされるハードウェア

ファイバチャネル N ポート仮想化 (FC NPV) は、次のスイッチでサポートされます。

- N9K-C93108TC-FX
- N9K-C93180YC-FX

次のファイバチャネル Small Form-Factor Pluggable (SFP) トランシーバはサポートされています。

- DS-SFP-FC8G-SW : 2/4/8G (2G の FC NPV ポート速度はサポート外)
- DS-SFP-FC16G-SW : 4/8/16G (FC NPV ポート速度が 32G の場合は非互換)
- DS-SFP-FC32G-SW : 8/16/32G (FC NPV ポート速度が 4G の場合は非互換)

サポートされている NPIV コア スイッチは、Cisco Nexus 5000 シリーズ、Nexus 6000 シリーズ、Nexus 7000 シリーズ (FCoE)、および Cisco MDS 9000 シリーズ マルチレイヤ スイッチです。

ファイバチャネル N ポート仮想化の相互運用性

次の表に、Cisco Application Policy Infrastructure Controller (APIC) のファイバチャネル N ポート仮想化 (FC NPV) 機能の相互運用性がテストされたサードパーティ製品を示します。

表 5: FC NPV でサポートされるサードパーティ製品

サードパーティ スイッチ ベンダー	Brocade
サードパーティ ハードウェア モデル	DS-6620B
サードパーティ ソフトウェア リリース	8.2.1a
Cisco NX-OS リリース	14.1(1) 以降
Cisco Nexus 9000 モデル	N9K-C93180YC-FX
相互運用性モード	NA (NPV)
Cisco SFP モジュール	DS-SFP-FC32G-SW
サードパーティ SFP モジュール	Brocade-32G

ファイバチャネル NPV GUI の設定

GUI を使用したネイティブ ファイバチャネル ポート プロファイルの設定

この手順では、ファイバチャネルのホスト（サーバなど）に接続するための一連のネイティブファイバチャネル（FC）Fポートの設定を行います。

設定を簡単に行うため、この手順では **[Configure Interface, PC, and vPC]** ウィザードを使用します。

手順

ステップ 1 APIC メニュー バーで、**[Fabric] > [Access Policies] > [Quickstart]** に移動し、**[Configure an interface, PC, and vPC]** をクリックします。

ステップ 2 **[Configured Switch Interfaces]** ツールバーで、**[+]** をクリックしてスイッチ プロファイルを作成します。次のアクションを実行します。

このスイッチ プロファイルでは、サーバホストポートを設定します。別のスイッチ プロファイルでは、アップリンクポートを設定します。

a) **[Switches]** ドロップダウンリストで、**NPV リーフ スイッチ** を選択します。

この操作によって、自動的にリーフ スイッチ プロファイルが作成されます。**[Switch Profile Name]** テキスト ボックスで、リーフ スイッチ プロファイルの名前を受け入れるか変更できます。

b) さらにインターフェイス設定を開くには、ポートで大きな緑色の**[+]** をクリックします。

c) **[Interface Type]** で、**[FC]** を選択して、ファイバチャネル ホスト インターフェイス ポート（F ポート）を指定します。

d) **[Interfaces]** で、FC ポートのポート範囲を入力します。

FC ポートに変換できるポートの連続範囲は1つだけです。この範囲は4の倍数にする必要があります、4の倍数のポート番号で終わる必要があります（たとえば、1～4、1～8、21～24は有効な範囲です）。

この操作によってインターフェイスセクタポリシーが作成されます。**[Interface Selector Name]** テキスト ボックスで、ポリシーの名前を受け入れるか変更できます。

(注) イーサネットからFCへのポートの変換には、スイッチのリロードが必要です。インターフェイスポリシーを適用すると、スイッチをリロードするよう求める通知アラームがGUIに表示されます。スイッチのリロード中はスイッチへの通信が中断され、スイッチにアクセスしようとするときタイムアウトになります。

- e) [Policy Group Name] ドロップダウンリストで、[Create FC Interface Policy Group] を選択します。
- f) [Create FC Interface Policy Group] ダイアログボックスで、[Name] フィールドに名前を入力します。
- g) [Fibre Channel Interface Policy] ドロップダウンリストで、[Create Fibre Channel Interface Policy] を選択します。
- h) [Create Fibre Channel Interface Policy] ダイアログボックスで、[Name] フィールドに名前を入力し、次の設定を行います。

フィールド	設定
ポート モード	ホスト インターフェイスの場合、[F] を選択します。
Trunk Mode	ホスト インターフェイスの場合、[trunk-off] を選択します。
速度	[auto] (デフォルト) を選択します。
[自動最大速度 (Auto Max Speed)]	Auto Max Speed設定は、速度が auto の場合にのみ適用されます。 [Auto Max Speed]は、速度が自動モードのときに最大速度を制限します。
Receive Buffer Credit	[64] を選択します。

- i) [Submit] をクリックして、ファイバチャネル インターフェイス ポリシーを保存し、[Create FC Interface PolicyGroup] ダイアログボックスに戻ります。
- j) [Attached Entity Profile] ドロップダウンリストで、[Create Attachable Access Entity Profile] を選択します。

アタッチ可能なエンティティ プロファイルのオプションでは、リーフ アクセス ポート ポリシーを展開するインターフェイスを指定します。
- k) [Name] フィールドに、アタッチ可能なエンティティのポリシーの名前を入力します。
- l) [Domains (VMM, Physical, or External) To Be Associated To Interfaces] ツールバーで、[+] をクリックしてドメイン プロファイルを追加します。
- m) [Domain Profile] ドロップダウンリストで、[Create Fibre Channel Domain] を選択します。
- n) [Name] フィールドに、ファイバチャネル ドメインの名前を入力します。
- o) [VSAN Pool] ドロップダウンリストで、[Create VSAN Pool] を選択します。
- p) [Name] フィールドに、VSAN プールの名前を入力します。
- q) [Encap Blocks] ツールバーで、[+] をクリックして VSAN 範囲を追加します。
- r) [Create VSAN Ranges] ダイアログボックスで、[From] および [To] の VSAN 番号を入力します。
- s) [Allocation Mode] で、[Static Allocation] を選択し、[OK] をクリックします。
- t) [Create VSAN Ranges] ダイアログボックスで、[Submit] をクリックします。

- u) [Create Fibre Channel Domain] ダイアログボックスで、[Submit] をクリックします。
 - (注) ファイバチャンネル ドメインでは、FCoE ではなくネイティブ FC ポートを使用する場合、VLAN プールや VSAN 属性を設定する必要はありません。
- v) [Create Attachable Access Entity Profile] ダイアログボックスで、[Update] をクリックしてファイバチャンネル ドメイン プロファイルを選択し、[Submit] をクリックします。
- w) [Create FC Policy Group] ダイアログボックスで、[Submit] をクリックします。
- x) [Configure Interface, PC, and vPC] ダイアログボックスで、[Save] をクリックして、サーバー ホスト ポートのこのスイッチ プロファイルを保存します。

(注) イーサネットから FC へのポートの変換には、スイッチのリロードが必要です。インターフェイスポリシーを適用すると、スイッチをリロードするよう求める通知アラームが GUI に表示されます。スイッチのリロード中はスイッチへの通信が中断され、スイッチにアクセスしようとするときタイムアウトになります。

(注) たとえば、アップリンクをダウンリンクとして再設定し、スイッチをリロードするなど、スイッチのポート プロファイルを変更すると、スイッチが Cisco APIC から設定を取得するまで、スイッチとの通信が中断されます。

[Fabric] > [Access Policies] > [Switches] > [Leaf Switches] > [Profiles] > [<名前>] で、[Leaf Profiles] 作業ペインの [Associated Interface Selector Profiles] リストにファイバチャンネル ポート プロファイルが表示されます。

次のタスク

- ファイバチャンネル アップリンク 接続 プロファイルを設定します。
- テナント内のサーバポートとアップリンク ポートを展開し、ファイバチャンネルのコアスイッチに接続します。

GUI を使用したネイティブ FC ポート チャネル プロファイルの設定

この手順では、ファイバチャンネルのコアスイッチへのアップリンク接続に使用するネイティブファイバチャンネルポートチャネル (FC PC) プロファイルを設定します。



- (注) この手順は、[Configure Interface, PC, and vPC] ウィザードを使用して実行することもできます。

始める前に

アタッチ可能なエンティティ プロファイルを含む、アップリンク接続を設定します。

手順

ステップ 1 [Fabric] > [Access Policies] > [Interfaces] > [Leaf Interfaces] > [Profiles] の順に展開します。

ステップ 2 [Profiles] を右クリックし、[Create Leaf Interface Profile] をクリックします。

ステップ 3 [Create Leaf Interface Profile] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。

- a) [Name] フィールドに、リーフ インターフェイス プロファイルの名前を入力します。
- b) [Interface Selectors] ツールバーで、[+] をクリックして [Create Access Port Selector] ダイアログボックスを表示します。
- c) [Name] フィールドに、ポート セレクタの名前を入力します。
- d) [Interface IDs] フィールドで、FC PC ポートのポート範囲を入力します。

ポート チャネルには最大 16 個のポートを持たせることができます。

FC ポートに変換できるポートの連続範囲は1つだけです。この範囲は4の倍数にする必要があります。4の倍数のポート番号で終わる必要があります（たとえば、1～4、1～8、21～24 は有効な範囲です）。

(注) イーサネットから FC へのポートの変換には、スイッチのリロードが必要です。インターフェイスポリシーを適用すると、スイッチを手動でリロードするよう求める通知アラームが GUI に表示されます。スイッチのリロード中はスイッチへの通信が中断され、スイッチにアクセスしようとするときタイムアウトになります。

- e) [Interface Policy Group] ドロップダウンリストで、[Create FC PC Interface Policy Group] を選択します。
- f) [Name] フィールドに、FCPC インターフェイス ポリシー グループの名前を入力します。
- g) [Fibre Channel Interface Policy] ドロップダウンリストで、[Create Fibre Channel Interface Policy] を選択します。
- h) [Name] フィールドに、FC PC インターフェイス ポリシーの名前を入力します。
- i) [Create Interface FC Policy] ダイアログボックスで、[Name] フィールドに名前を入力し、次の設定を行います。

フィールド	設定
ポート モード	アップリンク インターフェイスの場合、[NP] を選択します。
Trunk Mode	アップリンク インターフェイスの場合、[trunk-on] を選択します。

- j) [Submit] をクリックして、FC PC インターフェイス ポリシーを保存し、[Create FC PC Interface Policy Group] ダイアログボックスに戻ります。
- k) **Port Channel Policy** ドロップで、**Create Port Channel Policy** を選択します。
- l) [Name] フィールドに、ポート チャネル ポリシーの名前を入力します。

このメニューにある他の設定は無視できます。

- m) [Submit] をクリックして、ポート チャネル ポリシーを保存し、[Create FC PC Interface Policy Group] ダイアログボックスに戻ります。
- n) [Attached Entity Profile] ドロップダウンリストで、既存のアタッチ可能なエンティティプロフィールを選択します。
- o) [Submit] をクリックして [Create Access Port Selector] ダイアログボックスに戻ります。
- p) [OK] をクリックして [Create Leaf Interface Profile] ダイアログボックスに戻ります。
- q) [OK] をクリックして [Leaf Interfaces - Profiles] 作業ペインに戻ります。

ステップ 4 [Fabric] > [Access Policies] > [Switches] > [Leaf Switches] > [Profiles] の順に展開します。

ステップ 5 作成したリーフ スイッチ プロファイル を右クリックし、[Create Interface Profile] をクリックします。

ステップ 6 [Create Interface Profile] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。

- a) [Interface Select Profile] ドロップダウンリストで、ポート チャネル用に作成したリーフ インターフェイス プロファイルを選択します。
- b) [Submit] をクリックして [Leaf Interfaces - Profiles] 作業ペインに戻ります。

(注) イーサネットから FC へのポートの変換には、スイッチのリロードが必要です。インターフェイスポリシーを適用すると、スイッチをリロードするよう求める通知アラームが GUI に表示されます。スイッチのリロード中はスイッチへの通信が中断され、スイッチにアクセスしようとするときタイムアウトになります。

[Fabric] > [Access Policies] > [Switches] > [Leaf Switches] > [Profiles] > [<名前>] で、作業ペインの [Associated Interface Selector Profiles] リストに FC ポート チャネル プロファイルが表示されます。

次のタスク

テナント内のサーバポートとアップリンクポートを展開し、ファイバチャネルのコアスイッチに接続します。

ファイバチャネル ポートの展開

この手順では、ファイバチャネルサーバホストポートとアップリンクポートをアクティブにします。

始める前に

- ファイバチャネル (FC) サーバホストポート プロファイル (F ポート) を設定します。
- FC アップリンク ポート プロファイル (NP または TNP ポート) を設定します。
- 関連付けられている 2 つのインターフェイス セレクタ プロファイル (1 つはホストポート用、1 つはアップリンクポート用) を含むリーフスイッチプロファイルを設定します。

手順

- ステップ 1** [Tenants] > [<テナント名>] > [Application Profiles] の順に展開します。
テナントが存在しない場合は、テナントを作成する必要があります。
- ステップ 2** [Application Profiles] を右クリックし、[Create Application Profile] をクリックして、次の操作を実行します。
- [Name] フィールドに、アプリケーションプロファイルの名前を入力します。
 - [Submit] をクリックします。
- ステップ 3** [Tenants] > [<テナント名>] > [Application Profiles] > [<名前>] > [Application EPGs] の順に展開します。
- ステップ 4** [Application EPGs] を右クリックし、[Create Application EPG] をクリックして、次の操作を実行します。
- ステップ 5** [Create Application EPG] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。
- [Name] フィールドに、アプリケーション EPG の名前を入力します。
 - 次を設定します。
- | フィールド | 設定 |
|-------------------------------|----------------------|
| Intra EPG Isolation | [Unenforced] を選択します。 |
| Preferred Group Member | [Exclude] を選択します。 |
| カプセル化のフラッディング | [Disabled] を選択します。 |
- [Bridge Domain] ドロップダウンリストで、[Create Bridge Domain] を選択します。
 - [Name] フィールドに、ブリッジドメインの名前を入力します。
 - [Type] で、[fc] を選択してファイバチャネルブリッジドメインを指定します。
 - [VRF] ドロップダウンリストで、[Create VRF] を選択します。
 - [Name] フィールドに、VRF の名前を入力します。
 - [Submit] をクリックして [Create Bridge Domain] ダイアログボックスに戻ります。
 - [Next]、[Next]、[Finish] の順にクリックして [Create Application EPG] ダイアログボックスに戻ります。
 - [Finish] をクリックします。
- ステップ 6** [Tenants] > [<テナント名>] > [Application Profiles] > [<名前>] > [Application EPGs] > [<名前>] > [Domains (VMs and Bare-Metals)] の順に展開します。
- ステップ 7** [Domains (VMs and Bare-Metals)] を右クリックし、[Add Fibre Channel Domain Association] をクリックして、次の操作を実行します。
- [Fibre Channel Domain Profile] ドロップダウンリストで、ホストポートの設定時に作成したファイバチャネルドメインを選択します。
 - [Submit] をクリックします。

ステップ 8 [Tenants] > [<テナント名>] > [Application Profiles] > [<名前>] > [Application EPGs] > [<名前>] > [Fibre Channel (Paths)] の順に展開し、次の操作を実行します。

このステップでは、サーバ ホスト ポートを展開します。

- a) [Fibre Channel (Paths)] を右クリックし、[Deploy Fibre Channel] をクリックします。
- b) [Path Type] コントロールで、[Port] をクリックします。
- c) [Node] ドロップダウンリストで、リーフ スイッチを選択します。
- d) [Path] ドロップダウンリストで、サーバ ホスト ポートとして設定されているリーフ スイッチ ポートを選択します。
- e) [VSAN] フィールドに、ポートの VSAN を入力します。
- f) [VSAN Mode] コントロールで、[Native] をクリックします。
- g) [Type] が fcoe であることを確認します。
- h) (オプション) トラフィック マップを必要とする場合は、[Pinning Label] ドロップダウンリストを使用します。

(注) 複数のアップリンク ポートが使用可能で、ホスト ポートにおいて常にその FLOGI を特定のアップリンクに送るようにする場合は、固定プロファイル (トラフィック マップ) を作成してホスト ポートをアップリンク ポートに関連付けることができます。そのようにしない場合は、使用可能なアップリンク ポート間でホストがロードバランスされます。

- i) [Submit] をクリックします。
- j) ファイバチャネルポート ホストごとに**ステップ a** から繰り返します。

ステップ 9 [Tenants] > [<テナント名>] > [Application Profiles] > [<名前>] > [Application EPGs] > [<名前>] > [Fibre Channel (Paths)] の順に展開し、次の操作を実行します。

このステップでは、アップリンク ポート チャネルを展開します。

- a) [Fibre Channel (Paths)] を右クリックし、[Deploy Fibre Channel] をクリックします。
- b) [Path Type] コントロールで、[Direct Port Channel] をクリックします。
- c) [Port Type] ドロップダウンリストで、アップリンク ポートチャネルを選択します。
- d) [VSAN] フィールドに、ポートのデフォルトの VSAN を入力します。
- e) [VSAN Mode] コントロールで、ポートの VSAN の場合は [Native] をクリックし、トランクの VSAN の場合は [Regular] をクリックします。
- f) [Type] が fcoe であることを確認します。
- g) [Submit] をクリックします。
- h) ファイバチャネルアップリンク ポートまたはポート チャネルごとに**ステップ a** から繰り返します。

ファイバチャネルポートのトラフィック マップの設定

複数のアップリンク ポートが使用可能なアプリケーションでは、デフォルトで、サーバトラフィックが使用可能なアップリンク ポート間でロードバランスされます。場合によっては、1

つ以上の特定のアップリンク ポートまたはポート チャンネルにログイン要求 (FLOGI) を送信するようサーバを設定する必要があります。このような場合、固定プロファイル (トラフィック マップ) を作成して、それらのアップリンク ポートまたはポート チャンネルにサーバポートを関連付けることができます。

この手順では、1 つ以上のサーバポートと 1 つ以上のアップリンク ポートまたはポート チャンネルがすでに設定済みであると仮定します。サーバポートがすでに設定済みであるため、最初に、アップリンクにマッピングするすべてのサーバポートをシャットダウン (無効化) する必要があります。トラフィック マップを設定した後で、再度ポートを有効にします。

始める前に

この手順では、次の項目がすでに設定済みであることを前提としています。

- サーバポート (F ポート) およびアップリンク ポートまたはポート チャンネル (NP ポート)
- テナント (アプリケーション プロファイルおよびアプリケーション EPG を含む)



(注) 固定プロファイル (トラフィック マップ) を作成する前に、アップリンクにマッピングするサーバポートをシャットダウンする必要があります。

手順

- ステップ 1** [Fabric] > [Inventory] > [Pod <n>] > [Leaf <n>] > [Interfaces] > [FC Interfaces] 作業ウィンドウを選択し、アップリンクにマッピングするサーバ インターフェイス ポートを選択して無効にします。
- ステップ 2** [Tenants] > [<テナント名>] > [Application Profiles] > [<アプリケーション プロファイル名>] > [Application EPGs] > [<EPG 名>] > [Fibre Channel (Paths)] の順に展開し、次の操作を実行します。
- a) [Fibre Channel (Paths)] を右クリックし、[Deploy Fibre Channel] をクリックします。
 - b) [Path Type] コントロールで、[Port] をクリックします。
 - c) [Node] ドロップダウンリストで、リーフ スイッチを選択します。
 - d) [Path] ドロップダウンリストで、特定のアップリンク ポートにマッピングするサーバポートを選択します。
 - e) [VSAN] フィールドに、ポートのデフォルトの VSAN を入力します。
 - f) [VSAN Mode] コントロールで、[Native] をクリックします。
 - g) [Type] が fcoe であることを確認します。
 - h) [Pinning Label] ドロップダウンリストで、[Create Pinning Profile] を選択します。
 - i) [Name] フィールドに、トラフィック マップの名前を入力します。
 - j) [Path Type] コントロールで、[Port] をクリックして単一の NP アップリンク ポートに接続するか、[Direct Port Channel] をクリックして FC ポート チャンネルに接続します。

パスの種類で [Port] を選択した場合は、表示される [Node] ドロップダウンリストでリーフスイッチを選択する必要もあります。

パスの種類で [Direct Port Channel] を選択した場合は、インターフェイスポリシーグループで定義した FC PC を選択する必要もあります。

- k) [Path] ドロップダウンリストで、サーバポートをマッピングするアップリンクポートまたはポートチャネルを選択します。
- l) [Submit] をクリックして [Deploy Fibre Channel] ダイアログボックスに戻ります。
- m) [Submit] をクリックします。

ステップ 3 [Fabric] > [Inventory] > [Pod <n>] > [Leaf <n>] > [Interfaces] > [FC Interfaces] 作業ウィンドウを選択し、アップリンクにマッピングするサーバインターフェイスポートを選択して再び有効にします。

ファイバチャネル NPV NX-OS スタイル CLI の設定

CLI を使用したファイバチャネル インターフェイスの設定

NPV 対応リーフスイッチでは、ユニバーサルポートをファイバチャネル (FC) ポートに変換することができます。FC ポートは F ポートまたは NP ポートのどちらかにすることができ、NP ポートではポートチャネルを形成できます。

手順

ステップ 1 ポートの範囲をイーサネットからファイバチャネルに変換します。

例：

```
apicl(config)# leaf 101
apicl(config-leaf)# slot 1
apicl(config-leaf-slot)# port 1 12 type fc
```

この例では、リーフ 101 のポート 1/1-12 をファイバチャネルポートに変換します。[no] 形式の **port type fc** コマンドで、ポートをファイバチャネルから再びイーサネットに変換します。

(注) ポートの変換はリーフスイッチのリポート後にのみ行われます。

現在のところ、FC ポートに変換できるポートの連続範囲は 1 つだけです。この範囲は 4 の倍数にする必要があり、4 の倍数のポート番号で終わる必要があります (例：1 ~ 4、1 ~ 8、21 ~ 24)。

ステップ 2 すべてのファイバチャネル インターフェイスを設定します。

例：

```

apic1(config)# leaf 101
apic1(config-leaf)# interface fc 1/1
apic1(config-leaf-fc-if)# switchport mode [f | np]
apic1(config-leaf-fc-if)# switchport rxbbcredit <16-64>
apic1(config-leaf-fc-if)# switchport speed [16G | 32G | 4G | 8G | auto | unknown]
apic1(config-leaf-fc-if)# switchport trunk-mode [ auto | trunk-off | trunk-on | un-init]
apic1(config-leaf-fc-if)# switchport [trunk allowed] vsan <1-4093> tenant <name> \
    application <name> epg <name>

```

(注) FC ホスト インターフェイス (F ポート) は、8Gbps の速度設定をサポートしていません。

FC インターフェイスは、アクセス モードまたはトランク モードで設定できます。FC ポートをアクセス モードに設定するには、次のコマンド形式を使用します。

例：

```
apic1(config-leaf-fc-if)# switchport vsan 2 tenant t1 application a1 epg e1
```

FC ポートをトランク モードに設定するには、次のコマンド形式を使用します。

例：

```
apic1(config-leaf-fc-if)# switchport trunk allowed vsan 4 tenant t1 application a1 epg e1
```

FC ポート チャネルを設定するには、FC ポート インターフェイス テンプレートを設定し、FC ポートチャネルのメンバーになる FC インターフェイスに適用します。

ポート チャネルには最大 16 個のメンバーを持たせることができます。

例：

```

apic1(config)# template fc-port-channel my-fc-pc
apic1(config-fc-po-ch-if)# lacp max-links 4
apic1(config-fc-po-ch-if)# lacp min-links 1
apic1(config-fc-po-ch-if)# vsan-domain member dom1
apic1(config-fc-po-ch-if)# exit
apic1(config)# leaf 101
apic1(config-leaf)# interface fc 1/1-2
apic1(config-leaf-fc-if)# fc-channel-group my-fc-pc
apic1(config-leaf-fc-if)# exit
apic1(config-leaf)# interface fc-port-channel my-fc-pc
apic1(config-leaf-fc-pc)# switchport mode [f | np]
apic1(config-leaf-fc-pc)# switchport rxbbcredit <16-64>
apic1(config-leaf-fc-pc)# switchport speed [16G | 32G | 4G | 8G | auto | unknown]
apic1(config-leaf-fc-pc)# switchport trunkmode [ auto | trunk-off | trunk-on | un-init]

```

CLI を使用したファイバチャネル NPV ポリシーの設定

始める前に

NPV アプリケーションで使用するリーフスイッチポートをファイバチャネル (FC) ポートに変換した。

手順

ステップ 1 ファイバチャネル F ポート ポリシー グループのテンプレートを作成します。

例 :

```
apicl(config)# template fc-policy-group my-fc-policy-group-f-ports
apicl(config-fc-pol-grp-if)# vsan-domain member dom1
apicl(config-fc-pol-grp-if)# switchport mode f
apicl(config-fc-pol-grp-if)# switchport trunk-mode trunk-off
```

速度など、他のスイッチポート設定を行うことができます。

ステップ 2 ファイバチャネル NP ポート ポリシー グループのテンプレートを作成します。

例 :

```
apicl(config)# template fc-policy-group my-fc-policy-group-np-ports
apicl(config-fc-pol-grp-if)# vsan-domain member dom1
apicl(config-fc-pol-grp-if)# switchport mode np
apicl(config-fc-pol-grp-if)# switchport trunk-mode trunk-on
```

速度など、他のスイッチポート設定を行うことができます。

ステップ 3 ファブリック全体のファイバチャネル ポリシーを作成します。

例 :

```
apicl(config)# template fc-fabric-policy my-fabric-fc-policy
apicl(config-fc-fabric-policy)# fctimer e-d-tov 1000
apicl(config-fc-fabric-policy)# fctimer r-a-tov 5000
apicl(config-fc-fabric-policy)# fcoe fcmapping OE:FC:01
```

ステップ 4 ファイバチャネル ポート チャネル ポリシーを作成します。

例 :

```
apicl(config)# template fc-port-channel my-fc-pc
apicl(config-fc-po-ch-if)# lACP max-links 4
apicl(config-fc-po-ch-if)# lACP min-links 1
apicl(config-fc-po-ch-if)# vsan-domain member dom1
```

ステップ 5 リーフ全体のファイバチャネル ポリシー グループを作成します。

例：

```
apic1(config)# template fc-leaf-policy my-fc-leaf-policy
apic1(config-fc-leaf-policy)# npv auto-load-balance disruptive
apic1(config-fc-leaf-policy)# fcoe fka-adv-period 10
```

(注) ここに示すポリシー コマンドは単なる例であり、必須の設定ではありません。

ステップ 6 リーフ ポリシー グループを作成します。

```
apic1(config)# template leaf-policy-group lpg1
apic1(config-leaf-policy-group)# inherit fc-fabric-policy my-fabric-fc-policy
apic1(config-leaf-policy-group)# inherit fc-leaf-policy my-fc-leaf-policy
```

FC 関連のポリシーを継承することによって、リーフ ポリシー グループが作成されます。

ステップ 7 リーフ プロファイルを作成し、リーフポリシーグループをリーフグループに適用します。

例：

```
apic1(config)# leaf-profile my-leaf-profile
apic1(config-leaf-profile)# leaf-group my-leaf-group
apic1(config-leaf-group)# leaf 101
apic1(config-leaf-group)# leaf-policy-group lpg1
```

この例では、リーフ ポリシー グループ lpg1 にグループ化された、ファブリック全体の FC ポリシーとリーフ全体の FC ポリシーを、リーフ 101 に適用します。

ステップ 8 リーフ インターフェイス プロファイルを作成し、fc ポリシーグループを一組の FC インターフェイスに適用します。

例：

```
apic1(config)# leaf-interface-profile my-leaf-interface-profile
apic1(config-leaf-if-profile)# leaf-interface-group my-leaf-interface-group
apic1(config-leaf-if-group)# fc-policy-group my-fc-policy-group-f-ports
apic1(config-leaf-if-group)# interface fc 1/1-10
```

CLI を使用した NPV トラフィック マップの設定

この手順では、FC/FCoE サーバ（ホスト） インターフェイスから NP モードに設定された FC/FCoE 外部（アップリンク） インターフェイスに送信されるトラフィックをマッピングします。

始める前に

すべてのサーバ インターフェイスが F ポートである必要があり、すべてのアップリンク インターフェイスが NP ポートである必要があります。

手順

例 :

```

apicl(config)# leaf 101
apicl(config-leaf)# npv traffic-map server-interface \
  { vfc <slot/port> | vfc-po <po-name> | fc <slot/port> } \
  label <name> tenant <tn> app <ap> epg <ep>
apicl(config-leaf)# npv traffic-map external-interface \
  { vfc <slot/port> | vfc-po <po-name> | fc <slot/port> } \
  tenant <tn> label <name>

```

例 :

```

apicl(config)# leaf 101
apicl(config-leaf)# npv traffic-map server-interface vfc 1/1 label serv1 tenant t1 app
ap1 epg epg1
apicl(config-leaf)# npv traffic-map external-interface vfc-po my-fc-pc tenant t1 label
ext1

```

ファイバチャネル NPV REST API の設定

REST API を使用した FC 接続の設定

FC が有効なインターフェイスと Epg REST API を使用して、FC プロトコルを使用してこれらのインターフェイスへのアクセスを設定することができます。

手順

- ステップ 1** VSAN プールを作成するには、次の例などと XML post を送信します。この例では、VSAN プール myVsanPool1 を作成し、vsan-50 から vsan-60 までを含むように VSAN の範囲を指定します。

例 :

```

https://apic-ip-address/api/mo/uni/infra/vsanns-[myVsanPool1]-static.xml

<fvnsVsanInstP allocMode="static" name="myVsanPool1">
  <fvnsVsanEncapBlk from="vsan-50" name="encap" to="vsan-60"/>
</fvnsVsanInstP>

```

- ステップ 2** ファイバチャネル ドメインを作成するには、次の例のように XML で post を送信します。この例では、ファイバチャネル ドメイン (VSAN ドメイン) myFcDomain1 を作成し、VSAN プール myVsanPool1 に関連付けます。

例 :

```
https://apic-ip-address/api/mo/uni/fc-myFcDomain1.xml

<fcDomP name="myFcDomain1">
  <fcRsVsanNs tDn="uni/infra/vsanns-[myVsanPool1]-static"/>
</fcDomP>
```

ステップ 3 FC ポートのアタッチ エンティティ ポリシー (AEP) を作成するには、次の例のように XML で POST を送信します。この例では、AEP myFcAEP1 を作成し、ファイバチャネルドメイン myFcDomain1 に関連付けます。

例：

```
https://apic-ip-address/api/mo/uni.xml

<polUni>
<infraInfra>
  <infraAttEntityP name="myFcAEP1">
    <infraRsDomP tDn="uni/fc-myFcDomain1"/>
  </infraAttEntityP>
</infraInfra>
</polUni>
```

ステップ 4 サーバホストポートの FC インターフェイス ポリシーとポリシー グループを作成するには、XML で POST を送信します。この例は次の要求を実行します。

- サーバホストポートの FC インターフェイス ポリシー myFcHostIfPolicy1 を作成します。これらは、トランキングのない F ポートです。
- FC ホスト インターフェイス ポリシー myFcHostIfPolicy1 を含む FC インターフェイス ポリシー グループ myFcHostPortGroup1 を作成します。
- ポリシー グループを FC インターフェイス ポリシーに関連付けて、これらのポートを FC ポートに変換します。
- ホストポート プロファイル myFcHostPortProfile を作成します。
- ポートを 5～8 の範囲で指定するポート セレクタ myFcHostSelector を作成します。
- リーフ ノード 104 を指定するノード セレクタ myFcNode1 を作成します。
- リーフ ノード 104 を指定するノード セレクタ myLeafSelector を作成します。
- ホストポートをリーフ ノードに関連付けます。

例：

```
https://apic-ip-address/api/mo/uni.xml

<polUni>
  <infraInfra>
    <fcIfPol name="myFcHostIfPolicy1" portMode="f" trunkMode="trunk-off" speed="auto"/>

    <infraFuncP>
      <infraFcAccPortGrp name="myFcHostPortGroup1">
        <infraRsFcL2IfPol tnFcIfPolName="myFcHostIfPolicy1" />
      </infraFcAccPortGrp>
    </infraFuncP>
    <infraAccPortP name="myFcHostPortProfile">
```

```

        <infraHPortS name="myFcHostSelector" type="range">
          <infraPortBlk name="myHostPorts" fromCard="1" toCard="1" fromPort="1"
toPort="8" />
        </infraHPortS>
        <infraRsAccBaseGrp tDn="uni/infra/funcprof/fcaccportgrp-myFcHostPortGroup1"
/>
      </infraAccPortP>
    </infraNodeP>
  </infraNodeP>
  <infraLeafS name="myLeafSelector" type="range">
    <infraNodeBlk name="myLeaf104" from_"="104" to_"="104" />
  </infraLeafS>
  <infraRsAccPortP tDn="uni/infra/accportprof-myHostPorts" />
</infraNodeP>
</infraInfra>
</polUni>

```

(注) この設定を適用する場合は、ポートを FC ポートとしてアップするためにスイッチのリロードが必要になります。

現在のみ FC ポートに変換できるポートの 1 つの連続した範囲と、この範囲にする必要がありますが 4 の倍数で終わるポート番号 4 の倍数ことです。たとえば、1 ~ 4、1 ~ 8、21 ~ 24 などです。

ステップ 5 アップリンク ポート チャネルの FC アップリンク ポート インターフェイス ポリシーとポリシーグループを作成するには、XML で POST を送信します。この例は次の要求を実行します。

- アップリンク ポートの FC インターフェイス ポリシー `myFcUplinkIfPolicy2` を作成します。これらは、ランキングが有効になっている NP ポートです。
- FC アップリンク インターフェイス ポリシー `myFcUplinkIfPolicy2` を含む FC インターフェイスバンドル ポリシーグループ `myFcUplinkBundleGroup2` を作成します。
- ポリシーグループを FC インターフェイス ポリシーに関連付けて、これらのポートを FC ポートに変換します。
- アップリンク ポート プロファイル `myFcUplinkPortProfile` を作成します。
- ポートを 1/9 ~ 12 の範囲で指定するポートセクタ `myFcUplinkSelector` を作成します。
- ホスト ポートをリーフ ノード 104 に関連付けます。

例：

`https://apic-ip-address/api/mo/uni.xml`

```

<polUni>
  <infraInfra>
    <fcIfPol name="myFcUplinkIfPolicy2" portMode="np" trunkMode="trunk-on"
speed="auto"/>
    <infraFuncP>
      <infraFcAccBndlGrp name="myFcUplinkBundleGroup2">
        <infraRsFcL2IfPol tnFcIfPolName="myFcUplinkIfPolicy2" />
      </infraFcAccBndlGrp>
    </infraFuncP>
    <infraAccPortP name="myFcUplinkPortProfile">
      <infraHPortS name="myFcUplinkSelector" type="range">
        <infraPortBlk name="myUplinkPorts" fromCard="1" toCard="1" fromPort="9"
toPort="12" />
      </infraHPortS>
    </infraAccPortP>
  </infraInfra>
</polUni>

```

```

        <infraRsAccBaseGrp
tDn="uni/infra/funcprof/fcaccportgrp-myFcUplinkBundleGroup2" />
        </infraHPortS>
    </infraAccPortP>
    <infraNodeP name="myFcNode1">
        <infraLeafS name="myLeafSelector" type="range">
            <infraNodeBlk name="myLeaf104" from_="104" to_="104" />
        </infraLeafS>
        <infraRsAccPortP tDn="uni/infra/accportprof-myUplinkPorts" />
    </infraNodeP>
</infraInfra>
</polUni>

```

(注) この設定を適用する場合は、ポートを FC ポートとしてアップするためにスイッチのリロードが必要になります。

現在のみ FC ポートに変換できるポートの 1 つの連続した範囲と、この範囲にする必要がありますが 4 の倍数で終わるポート番号 4 の倍数ことです。たとえば、1～4、1～8、21～24 などです。

ステップ 6 テナント、アプリケーションプロファイル、EPG を作成し、FCブリッジドメインを EPG に関連付けるするには、次の例などと XML post を送信します。例では、FC およびアプリケーション EPG `epg1` をサポートするように設定されたターゲットテナントの下に、ブリッジドメイン `myFcBD1` を作成します。これにより、ファイバチャネルドメイン `myFcDomain1` とファイバチャネルパスが、リーフスイッチ 104 のインターフェイス 1/7 に関連付けられます。各インターフェイスは、VSAN に関連付けられます。

例：

<https://apic-ip-address/api/mo/uni/tn-tenant1.xml>

```

<fvTenant name="tenant1">
  <fvCtx name="myFcVRF"/>
  <fvBD name="myFcBD1" type="fc">
    <fvRsCtx tnFvCtxName="myFcVRF"/>
  </fvBD>
  <fvAp name="appl">
    <fvAEPg name="epg1">
      <fvRsBd tnFvBDName="myFcBD1"/>
      <fvRsDomAtt tDn="uni/fc-myFcDomain1"/>
      <fvRsFcPathAtt tDn="topology/pod-1/paths-104/pathep-[fc1/1]" vsan="vsan-50"
vsanMode="native"/>
      <fvRsFcPathAtt tDn="topology/pod-1/paths-104/pathep-[fc1/2]" vsan="vsan-50"
vsanMode="native"/>
    </fvAEPg>
  </fvAp>
</fvTenant>

```

ステップ 7 サーバポートをアップリンクポートに固定するトラフィックマップを作成するには、次の例のように XML で POST を送信します。この例では、サーバポート `vFC 1/47` をアップリンクポート `FC 1/7` に固定するトラフィックマップを作成します。

例：

<https://apic-ip-address/api/mo/uni/tn-tenant1.xml>

```

<fvTenant name="tenant1">
  <fvAp name="appl">

```

```
<fvAEPg name="epg1">
  <fvRsFcPathAtt tDn="topology/pod-1/paths-104/pathep-[eth1/47]" vsan="vsan-50"
vsanMode="native">
    <fcPinningLbl name="label1"/>
  </fvRsFcPathAtt>
</fvAEPg>
</fvAp>
</fvTenant>
```

https://apic-ip-address/api/mo/uni/tn-vfc_t1.xml

```
<fvTenant name="tenant1">
  <fcPinningP name="label1">
    <fcRsPinToPath tDn="topology/pod-1/paths-104/pathep-[fc1/7]"/>
  </fcPinningP>
</fvTenant>
```

(注) トラフィック マップの固定を初めて設定する場合は、最初のトラフィック マップを設定する前にサーバ ホスト ポートをシャットダウンする必要があります。



第 10 章

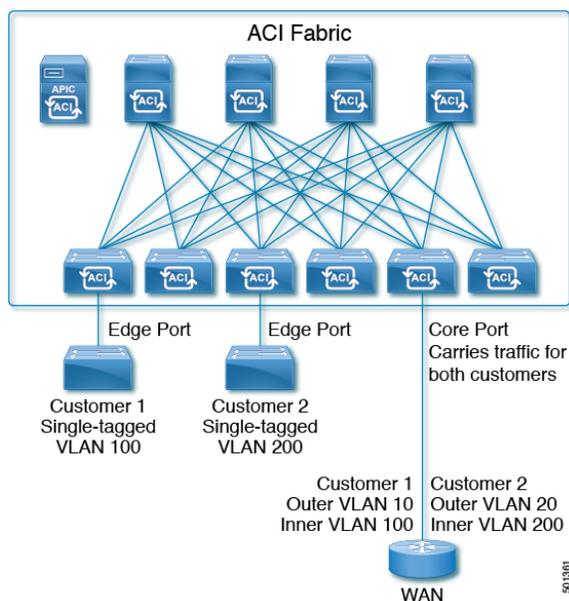
802.1 q トンネリング

この章は、次の内容で構成されています。

- ACI 802.1 q トンネルについて (221 ページ)
- GUI を使用した 802.1Q トンネルの設定 (224 ページ)
- NX-OS スタイルの CLI を使用した 802.1Q トンネルの設定 (226 ページ)

ACI 802.1 q トンネルについて

図 33: ACI 802.1 q トンネル



エッジ (トンネル) ポートで 802.1Q トンネルを設定して、Quality of Service (QoS) の優先順位設定とともに、ファブリックのイーサネットフレームの point-to-multi-point トンネリングを有効にできます。Dot1q トンネルは、タグなし、802.1Q タグ付き、802.1ad 二重タグ付きフレームを、ファブリックでそのまま送信します。各トンネルでは、単一の顧客からのトラフィックを伝送し、単一のブリッジドメインに関連付けられています。Cisco Application Centric

Infrastructure (ACI) の前面パネルポートは、Dot1q トンネルの一部とすることができます。レイヤ2 スイッチングは宛先 MAC (DMAC) に基づいて行われ、通常の MAC ラーニングはトンネルで行われます。エッジポート Dot1q トンネルは、スイッチモデル名の最後に「EX」またはそれ以降のサフィックスが付く、Cisco Nexus 9000 シリーズスイッチでサポートされません。

同じコアポートで複数の 802.1Q トンネルを設定することができ、複数の顧客からの二重タグ付きトラフィックを伝送できます。それぞれは、802.1Q トンネルごとに設定されたアクセスのカプセル化で識別されます。802.1Q トンネルでは、MAC アドレス学習を無効にすることもできます。エッジポートとコアポートの両方を、アクセスカプセル化が設定され、MAC アドレス学習が無効にされた 802.1Q トンネルに所属させることができます。エッジポートとコアポートの Dot1q トンネルは、スイッチモデル名の最後に「FX」またはそれ以降のサフィックスが付く、Cisco Nexus 9000 シリーズスイッチでサポートされます。

IGMP および MLD パケットは、802.1Q トンネルを介して転送できます。

このドキュメントで使用する用語は、Cisco Nexus 9000 シリーズのドキュメントとは異なっている場合があります。

表 6: 802.1Q トンネルの用語

ACI のドキュメント	Cisco Nexus 9000 シリーズのドキュメント
エッジポート	トンネルポート
コアポート	トランクポート

次の注意事項および制約事項が適用されます:

- VTP、CDP、LACP、LLDP、および STP プロトコルのレイヤ2 トンネリングは、次の制限付きでサポートされます。
 - リンク集約制御プロトコル (LACP) トンネリングは、個々のリーフインターフェイスを使用する、ポイントツーポイントトンネルでのみ、予想通りに機能します。ポートチャネル (PC) または仮想ポートチャネル (vPC) ではサポートされていません。
 - PC または vPC を持つ CDP および LLDP トンネリングは確定的ではありません。これは、トラフィックの宛先として選択するリンクによって異なります。
 - レイヤ2 プロトコル トンネリングに VTP を使用するには、CDP をトンネル上で有効にする必要があります。
 - レイヤ2 プロトコルのトンネリングが有効になっており、Dot1q トンネルのコアポートにブリッジドメインが展開されている場合、STP は 802.1Q トンネルブリッジドメインではサポートされません。
 - Cisco ACI リーフスイッチは、トンネルブリッジドメインのエンドポイントでフラッシングを行い、ブリッジドメインでフラッドングすることにより、STP TCN パケットに反応します。

- 2 個上のインターフェイスを持つ CDP および LLDP トンネリングが、すべてのインターフェイスでパケットをフラッディングします。
- エッジポートからコアポートにトンネリングしているレイヤ 2 プロトコルパケットの宛先 MAC アドレスは、01-00-0c-cd-cd-d0 に書き換えられ、コアポートからエッジポートにトンネリングしているレイヤ 2 プロトコルパケットの宛先 MAC アドレスは、プロトコルに対して標準のデフォルト MAC アドレスに書き換えられます。
- PC または vPC が Dot1q Tunnel 内の唯一のインターフェイスであり、削除してから再設定した場合には、PC/VPC の Dot1q トンネルへの関連付けを削除して、再設定してください。
- 製品 ID に EX が含まれるスイッチに導入された 802.1Q トンネルでは、最初の 2 つの VLAN タグの 0x8100 + 0x8100、0x8100 + 0x88a8、0x88a8 + 0x88a8 の Ethertype の組み合わせはサポートされません。
トンネルが EX と FX またはそれ以降のスイッチの組み合わせに導入されている場合は、この制限が適用されます。
製品 ID に FX 以降が含まれるスイッチにのみトンネルが導入されている場合、この制限は適用されません。
- コアポートについては、二重タグつきフレームのイーサタイプは、0x8100 の後に 0x8100 が続く必要があります。
- 複数のエッジポートおよびコアポートを（リーフスイッチ上のものであっても）Dot1q トンネルに含めることができます。
- エッジポートは 1 つのトンネルの一部にのみ属することが可能ですが、コアポートは複数の Dot1q トンネルに属することができます。
- 通常の EPG を 802.1Q で使用されるコアポートに展開できます。
- L3Outs は、Dot1q トンネルで有効になっているインターフェイスではサポートされていません。
- FEX インターフェイスは Dot1q トンネルのメンバーとしてはサポートされていません。
- ブレークアウトポートとして設定されているインターフェイスは、802.1q をサポートしていません。
- インターフェイスレベルの統計情報は Dot1q トンネルのインターフェイスでサポートされていますが、トンネルレベルの統計情報はサポートされていません。

GUI を使用した802.1Q トンネルの設定

APIC GUI を使用した 802.1Q トンネル インターフェイスの設定

次の手順で、トンネルを使用するインターフェイスを設定します:

始める前に

トンネルを使用するテナントを作成します。

手順

-
- ステップ 1** メニューバーで、**[Fabric] > [Access Policies]** の順にクリックします。
- ステップ 2** [ナビゲーション] バーで、**[ポリシー] > [インターフェイス] > [L2 インターフェイス]** をクリックします。
- ステップ 3** **[L2 インターフェイス]** を右クリックし、**[L2 インターフェイス ポリシーの作成]** を選択して、次の操作を実行します。
- Name** フィールドに、レイヤ 2 インターフェイス ポリシーの名前を入力します。
 - オプション。ポリシーの説明を追加します。L2 インターフェイス ポリシーの目的を説明することをお勧めします。
 - Dot1q** トンネルで、エッジポートとして使用するインターフェイスを有効にするインターフェイス ポリシーを作成するために、**QinQ** フィールドで、**edgePort** をクリックします。
 - Dot1q** トンネルでコアポートとして使用するインターフェイスを有効にするインターフェイス ポリシーを作成するために、**QinQ** フィールドで、**corePort** をクリックします。
- ステップ 4** 次の手順で、L2 インターフェイス ポリシーをポリシー グループに適用します。
- [ファブリック] > [アクセス ポリシー] > [インターフェイス] > [リーフ インターフェイス]** をクリックして、**[ポリシー グループ]** を展開します。
 - [リーフ アクセス ポート]**、**[PC インターフェイス]** または **[VPC インターフェイス]** を右クリックし、トンネルに設定しているインターフェイスのタイプに応じて、次のいずれかを選択します。
 - **リーフ アクセス ポート ポリシー グループの作成**
 - **PC ポリシー グループの作成**
 - **VPC ポリシー グループの作成**
 - 表示されるダイアログボックスで、以下のアクションを実行します:
 - **Name** フィールドに、ポリシー グループの名前を入力します。
 オプション。ポリシー グループについての説明を追加します。ポリシー グループの目的を説明することをお勧めします。

- **L2 Interface Policy** フィールドで、下向き矢印をクリックし、前に作成した L2 インターフェイス ポリシーを選択します。
- CDP レイヤ 2 トンネリング プロトコルでトンネルを作成する場合は、[CDP Policy] 下向き矢印をクリックし、ポリシー ダイアログボックスでポリシーの名前を追加し、管理状態を無効にして、[Submit] をクリックします。
- LLDP レイヤ 2 トンネリング プロトコルでトンネルを作成する場合には、[LLDP Policy] 下向き矢印をクリックし、ポリシー ダイアログボックスでポリシーの名前を追加し、送信状態を無効にして [submit] をクリックします。
- [Submit] をクリックします。

ステップ 5 次の手順に従ってリーフ インターフェイス プロファイルを作成します:

- a) [Fabric] > [Access Policies] > [Interfaces] > [Leaf Interfaces] > [Profiles] をクリックします。
- b) **Profiles** プロファイルを右クリックし、**Create Leaf Interface Profile** を選択し、次の手順に従います:
 - **Name** フィールドに、**Leaf Interface Profile** の名前を入力します。
オプション。説明を追加します。
 - **Interface Selectors** フィールドで、+ をクリックし、以下の情報を入力します:
 - **[名前]** フィールドに、インターフェイス セレクタの名前を入力します。
オプション。説明を追加します。
 - **Interface IDs** フィールドに、このトンネルに含まれる **Dot1q Tunnel** インターフェイス、または複数のインターフェイスの名前を入力します。
 - **Interface Policy Group** フィールドで、下向き矢印をクリックして、前に作成したインターフェイス ポリシー グループを選択します。

ステップ 6 トンネル設定のポートへのスタティック バインディングを作成するには、[Tenant] > [Networking] > [Dot1Q Tunnels] の順にクリックします。[Dot1Q Tunnels] を展開し、前に作成した **Dot1Q Tunnels <ポリシー名>** をクリックして、次の操作を実行します。

- a) [Static Bindings] テーブルを展開して [Create Static Binding] ダイアログボックスを開きます。
- b) [Port] フィールドで、ポートの種類を選択します。
- c) [Node] フィールドで、ドロップダウンリストからノードを選択します。
- d) [Path] フィールドで、ドロップダウンリストからインターフェイスパスを選択し、[Submit] をクリックします。

NX-OS スタイルの CLI を使用した 802.1Q トンネルの設定

NX-OS スタイル CLI を使用した 802.1Q トンネルの設定



(注) **Dot1q トンネル** に含まれるインターフェイスのポート、ポート チャネル、仮想ポート チャネルを使用できます。手順の詳細にはポートの設定が含まれます。エッジおよびコアポートチャネルと仮想ポート チャネルを設定するコマンドについては、下の例を参照してください。

次の手順で、**Dot1q トンネル** を作成し、NX-OS スタイル CLI を使用してトンネルで使用するインターフェイスを設定します。



(注) **Dot1q トンネル** には2 個以上のインターフェイスを含める必要があります。手順を繰り返し (または2 個のインターフェイスをまとめて設定)、**Dot1q トンネル** で使用する各インターフェイスをマークします。この例で、2 個のインターフェイスは単一の顧客で使用されているエッジスイッチポートとして設定されます。

次の手順を使用して、設定を次の手順を使用して、NX-OS スタイル CLI を使用して **Dot1q トンネル** を設定します。

1. トンネルで使用するインターフェイスを最低 2 個設定します。
2. **Dot1q トンネル** を作成します。
3. トンネルとすべてのインターフェイスを関連付けます。

始める前に

Dot1q トンネル を使用するテナントを設定します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure 例： apic1# configure	コンフィギュレーションモードに入ります。
ステップ 2	次の手順により 802.1Q で使用するための 2 個のインターフェイスを設定します。	

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	leaf ID 例： apicl(config)# leaf 101	Dot1q トンネル のインターフェイスが配置されるリーフを特定します。
ステップ 4	interface ethernet slot/port 例： apicl(config-leaf)# interface ethernet 1/13-14	トンネルのポートとしてマークされるインターフェイスを特定します。
ステップ 5	switchport mode dot1q-tunnel {edgePort corePort} 例： apicl(config-leaf-if)# switchport mode dot1q-tunnel edgePort apicl(config-leaf-if)# exit apicl(config-leaf)# exit apicl(config)# exit	802.1Q トンネルで使用するインターフェイスをマークして、設定モードをそのままにします。 この例では、エッジポートを使用するためにいくつかのインターフェイス設定を示します。トンネルに複数のインターフェイスを設定するには、手順 3～5 を繰り返します。
ステップ 6	次の手順で 802.1q トンネルを作成します。	
ステップ 7	leaf ID 例： apicl(config)# leaf 101	インターフェイスが配置されているリーフに戻ります。
ステップ 8	interface ethernet slot/port 例： apicl(config-leaf)# interface ethernet 1/13-14	トンネルに含まれるインターフェイスに戻ります。
ステップ 9	switchport tenant tenant-namedot1q-tunnel tunnel-name 例： apicl(config-leaf-if)# switchport tenant tenant64 dot1q-tunnel vrf64_edgetunnel apicl(config-leaf-if)# exit	トンネルにインターフェイスに関連付け、設定モードを終了します。
ステップ 10	トンネルとその他のインターフェイスを関連付けるには、ステップ 7～10 を繰り返します。	

例：NX-OS スタイル CLI でポートを使用する 802.1Q トンネルを設定する

例：NX-OS スタイル CLI でポートを使用する 802.1Q トンネルを設定する

この例では、2つのポートを **Dot1q** トンネルで使用されるエッジポートインターフェイスとしてマークし、さらに2つのポートをコアポートインターフェイスで使用されるものとしてマークし、トンネルを作成して、ポートをトンネルに関連付けます。

```

apic1# configure
apic1(config)# leaf 101
apic1(config-leaf)# interface ethernet 1/13-14
apic1(config-leaf-if)# switchport mode dot1q-tunnel edgePort
apic1(config-leaf-if)# exit
apic1(config-leaf)# exit
apic1(config)# leaf 102
apic1(config-leaf)# interface ethernet 1/10, 1/21
apic1(config-leaf-if)# switchport mode dot1q-tunnel corePort
apic1(config-leaf-if)# exit
apic1(config-leaf)# exit
apic1(config)# tenant tenant64
apic1(config-tenant)# dot1q-tunnel vrf64_tunnel
apic1(config-tenant-tunnel)# l2protocol-tunnel cdp
apic1(config-tenant-tunnel)# l2protocol-tunnel lldp
apic1(config-tenant-tunnel)# access-encap 200
apic1(config-tenant-tunnel)# mac-learning disable
apic1(config-tenant-tunnel)# exit
apic1(config-tenant)# exit
apic1(config)# leaf 101
apic1(config-leaf)# interface ethernet 1/13-14
apic1(config-leaf-if)# switchport tenant tenant64 dot1q-tunnel vrf64_tunnel
apic1(config-leaf-if)# exit
apic1(config-leaf)# exit
apic1(config)# leaf 102
apic1(config-leaf)# interface ethernet 1/10, 1/21
apic1(config-leaf-if)# switchport tenant tenant64 dot1q-tunnel vrf64_tunnel
apic1(config-leaf-if)# exit
apic1(config-leaf)# exit

```

例：NX-OS スタイル CLI でポートチャンネルを使用する 802.1Q トンネルを設定する

例では、このエッジポート 802.1q インターフェイスとして2つのポートチャンネルにマークし、2つ以上のポートチャンネルをコアポート 802.1q インターフェイスとしてマークして、**Dotq** トンネルを作成し、トンネルとポートチャンネルを関連付けます。

```

apic1# configure
apic1(config)# tenant tenant64
apic1(config-tenant)# dot1q-tunnel vrf64_tunnel
apic1(config-tenant-tunnel)# l2protocol-tunnel cdp
apic1(config-tenant-tunnel)# l2protocol-tunnel lldp
apic1(config-tenant-tunnel)# access-encap 200
apic1(config-tenant-tunnel)# mac-learning disable
apic1(config-tenant-tunnel)# exit

```

```

apicl(config-tenant)# exit
apicl(config)# leaf 101
apicl(config-leaf)# interface port-channel pc1
apicl(config-leaf-if)# exit
apicl(config-leaf)# interface ethernet 1/2-3
apicl(config-leaf-if)# channel-group pc1
apicl(config-leaf-if)# exit
apicl(config-leaf)# interface port-channel pc1
apicl(config-leaf-if)# switchport mode dot1q-tunnel edgePort
apicl(config-leaf-if)# switchport tenant tenant64 dot1q-tunnel vrf64_tunnel
apicl(config-tenant-tunnel)# exit
apicl(config-tenant)# exit
apicl(config)# leaf 102
apicl(config-leaf)# interface port-channel pc2
apicl(config-leaf-if)# exit
apicl(config-leaf)# interface ethernet 1/4-5
apicl(config-leaf-if)# channel-group pc2
apicl(config-leaf-if)# exit
apicl(config-leaf)# interface port-channel pc2
apicl(config-leaf-if)# switchport mode dot1q-tunnel corePort
apicl(config-leaf-if)# switchport tenant tenant64 dot1q-tunnel vrf64_tunnel

```

例：NX-OS スタイル CLI で仮想ポート チャンネルを使用する 802.1Q トンネルを設定する

この例では、2つの仮想ポートチャンネル (vPC) を Dot1q トンネルのエッジポート 802.1Q インターフェイスとしてマークし、さらに2つのVPCをトンネルのためのコアポートインターフェイスとしてマークし、トンネルを作成して、仮想ポートチャンネルをトンネルに関連付けています。

```

apicl# configure
apicl(config)# vpc domain explicit 1 leaf 101 102
apicl(config)# vpc context leaf 101 102
apicl(config-vpc)# interface vpc vpc1
apicl(config-vpc-if)# switchport mode dot1q-tunnel edgePort
apicl(config-vpc-if)# exit
apicl(config-vpc)# exit
apicl(config)# vpc domain explicit 1 leaf 103 104
apicl(config)# vpc context leaf 103 104
apicl(config-vpc)# interface vpc vpc2
apicl(config-vpc-if)# switchport mode dot1q-tunnel corePort
apicl(config-vpc-if)# exit
apicl(config-vpc)# exit
apicl(config)# tenant tenant64
apicl(config-tenant)# dot1q-tunnel vrf64_tunnel
apicl(config-tenant-tunnel)# l2protocol-tunnel cdp
apicl(config-tenant-tunnel)# l2protocol-tunnel lldp
apicl(config-tenant-tunnel)# access-encap 200
apicl(config-tenant-tunnel)# mac-learning disable
apicl(config-tenant-tunnel)# exit
apicl(config-tenant)# exit
apicl(config)# leaf 103
apicl(config-leaf)# interface ethernet 1/6
apicl(config-leaf-if)# channel-group vpc1 vpc
apicl(config-leaf-if)# exit
apicl(config-leaf)# exit
apicl(config)# leaf 104

```

例: NX-OS スタイル CLI で仮想ポートチャネルを使用する 802.1Q トンネルを設定する

```
apic1(config-leaf)# interface ethernet 1/6
apic1(config-leaf-if)# channel-group vpc1 vpc
apic1(config-leaf-if)# exit
apic1(config-leaf)# exit
apic1(config-vpc)# interface vpc vpc1
apic1(config-vpc-if)# switchport tenant tenant64 dot1q-tunnel vrf64_tunnel
apic1(config-vpc-if)# exit
```



第 11 章

Epg の Q-で-Q カプセル化のマッピング

- Epg の Q-で-Q カプセル化のマッピング (231 ページ)
- GUI を使用した EPG の Q-in-Q カプセル化マッピングの設定 (232 ページ)
- NX-OS スタイル CLI を使用した Q-in-Q カプセル化リーフ インターフェイスへの EPG のマッピング (236 ページ)

Epg の Q-で-Q カプセル化のマッピング

Cisco Application Policy Infrastructure Controller (APIC) を使用すれば、通常のインターフェイス、PC、または vPC で入力される二重タグ付き VLAN トラフィックを EPG にマッピングできます。この機能が有効で、二重タグ付きトラフィックが EPG のネットワークに入ると、両方のタグがファブリック内で個別に処理され、Cisco Application Centric Infrastructure (ACI) スイッチの出力時に二重タグに復元されます。単一タグおよびタグなしのトラフィックの入力はドロップします。

次の注意事項および制約事項が適用されます。

- この機能は、Cisco Nexus 9300-FX プラットフォーム スイッチでのみサポートされています。
- 外側と内側の両方のタグは、EtherType 0x8100 である必要があります。
- MAC ラーニングとルーティングは、アクセスのカプセル化ではなく、EPG ポート、sclass、および VRF インスタンスに基づいています。
- QoS 優先度設定がサポートされ、入力の外側のタグから派生し、出力の両方のタグに書き換えられます。
- EPG はリーフ スイッチの他のインターフェイスに同時に関連付けることができ、単一タグの VLAN に設定されます。
- サービス グラフは、Q-in-Q カプセル化したインターフェイスにマッピングされているプロバイダとコンシューマ EPG をサポートしています。サービス ノードの入力および出力トラフィックが単一タグのカプセル化フレームにある限り、サービス グラフを挿入することができます。

- vPC ポートが Q-in-Q カプセル化モードに対して有効になっている場合、VLAN 整合性チェックは実行されません。

この機能では、次の機能とオプションがサポートされていません。

- ポート単位の VLAN 機能
 - FEX 接続
 - Mixed mode
- たとえば、Q-in-Q カプセル化モードのインターフェイスでは、通常の VLAN のカプセル化ではなく、二重タグ付きカプセルのみを持つ EPG にバインディングされている静的パスを有します。
- STP と「カプセル化でのフラッドイング」オプション
 - タグなしおよび 802.1p モード
 - マルチポッドと複数サイト
 - レガシブリッジドメイン
 - L2Out および L3Out 接続
 - VMM の統合
 - ポート モードをルーテッドから Q-in-Q カプセル化モードに変更する
 - Q-in-Q カプセル化モードのポートでの VLAN 単位の誤配線プロトコル

GUI を使用した EPG の Q-in-Q カプセル化マッピングの設定

GUI を使用して、特定のリーフスイッチ インターフェイス上で Q-in-Q カプセル化を有効にします

リーフスイッチポート、PC、または vPC は、APIC GUI の次のいずれかの場所の [インターフェイス (Interface)] タブで Q-in-Q カプセル化モードを有効にします。

- [Fabric] > [Inventory] > [Topology]
- [Fabric] > [Inventory] > [Pod]
- [Fabric] > [Inventory] > [Pod] > [leaf-name]

[Topology] タブまたは [Pod Interface] タブで VPC を設定します。

始める前に

Q-in-Q モードに設定されたインターフェイスでマッピングされるテナント、アプリケーション プロファイル、およびアプリケーション EPG を作成する必要があります。

手順

- ステップ 1** メニューバーで **[Fabric > Inventory]** を選択し、**[Topology]**、**[Pod]** をクリックするか、**[Pod]** を展開してリーフを選択します。
- ステップ 2** **[Topology]** タブ、または **[Pod]** パネルの **[Interface]** タブを選択します。
- ステップ 3** **[Operation/Configuration]** トグル ボタンをクリックして、設定パネルを表示します。
- ステップ 4** **[+]** をクリックしてリーフスイッチの図を追加し、1つ以上のスイッチを選択して**[Add Selected]** をクリックします。

[<リーフ名>] パネルの **[Interface]** タブで、**[Operation]/[Configuration]** トグルボタンをクリックすると、自動的にスイッチのダイアグラムが表示されます。
- ステップ 5** Q-in-Q カプセル化モードを有効にするインターフェイスをクリックします。
- ステップ 6** ポートを設定するには、次の手順を実行します。
 - a) 左上の **L2** をクリックします。
 - b) L2 タブの **[L2 QinQ State]** フィールドで **[Double Q Tag Port]** をクリックし、**[Submit]** をクリックします。
- ステップ 7** PCを設定するには、次の手順を実行します。
 - a) 左上の **PC** をクリックします。
 - b) **[Physical Interface]** タブで、**[Policy Group Name]** を入力します。
 - c) L2 タブの **[L2 QinQ State]** フィールドで **[Double Q Tag Port]** をクリックし、**[Submit]** をクリックします。
- ステップ 8** vPC を設定するには、次のステップを実行します。
 - a) 2つのリーフスイッチダイアグラムで、VPCの2つのレッグのインターフェイスをクリックします。
 - b) **[vPC]** をクリックします。
 - c) **[Physical Interface]** タブで、**[Logical Pair ID]** (自動保護グループの識別子) を入力します。各保護グループには、固有の ID があります。ID は1~1000 の範囲です) および **[Policy Group Name]**。
 - d) L2 タブの **[L2 QinQ State]** フィールドで **[Double Q Tag Port]** をクリックし、**[Submit]** をクリックします。

GUI を使用したファブリック インターフェイス ポリシーでリーフ インターフェイスの Q-in-Q カプセル化の有効化

リーフ インターフェイス プロファイルを使用して、Q-in-Q カプセル化のリーフ インターフェイス、PC、および vPC を有効にします。

始める前に

Q-in-Q モードに設定されたインターフェイスでマッピングされるテナント、アプリケーション プロファイル、およびアプリケーション EPG を作成する必要があります。

手順

- ステップ 1 メニュー バーで、**Fabric > External Access Policies** を選択します。
- ステップ 2 [ナビゲーション] バーで、[ポリシー] > [インターフェイス] > [L2 インターフェイス] をクリックします。
- ステップ 3 [L2 インターフェイス] を右クリックし、[L2 インターフェイス ポリシーの作成] を選択して、次の操作を実行します。
 - a) [名前] フィールドに、レイヤ 2 インターフェイス ポリシーの名前を入力します。
 - b) オプション。ポリシーの説明を追加します。L2 インターフェイス ポリシーの目的を説明することをお勧めします。
 - c) Q-in-Q カプセル化を有効にするインターフェイス ポリシーを作成するには、[QinQ] フィールドで [doubleQtagPort] をクリックします。
 - d) [Submit] をクリックします。
- ステップ 4 次の手順で、ポリシー グループに L2 インターフェイス ポリシーを適用されます。
 - a) [ファブリック] > [外部アクセス ポリシー] > [インターフェイス] > [リーフ インターフェイス] をクリックし、[ポリシー グループ] を展開します。
 - b) [リーフ アクセス ポート]、[PC インターフェイス]、または [vPC インターフェイス] を右クリックし、トンネルに設定するインターフェイスのタイプに応じて、次のいずれかを選択します。
 - リーフ アクセス ポート ポリシー グループの作成
 - PC ポリシー グループの作成
 - vPC ポリシー グループの作成
 - c) 結果のダイアログボックスでポリシーグループ名を入力し、以前作成した L2 インターフェイス ポリシーを選択し、[送信] をクリックします。
- ステップ 5 次の手順で、リーフ インターフェイス プロファイルを作成します。
 - a) [ファブリック] > [外部アクセス ポリシー] > [インターフェイス] > [リーフ インターフェイス] > [プロファイル] の順にクリックします。

- b) [リーフ プロファイル] を右クリックして、[リーフ インターフェイス ポリシーの作成] を選択し、次の手順を実行します。
- **Name** フィールドに、**Leaf Interface Profile** の名前を入力します。
オプション。説明を追加します。
 - [インターフェイス セレクタ] フィールドで、[+] をクリックし、次の情報を入力します。
 - [名前] フィールドに、インターフェイス セレクタの名前を入力します。
オプション。説明を追加します。
 - セレクタの名前とし、任意で説明を入力します。
 - インターフェイス ID フィールドに、プロファイルに含む単一または複数のインターフェイスを入力します。
 - [インターフェイス ポリシーグループ] フィールドで、以前作成したインターフェイス ポリシー グループを選択します。

GUI を使用して EPG から Q-in-Q カプセル化が有効なインターフェイスにマッピングする

EPF は、次のモデルのいずれかで Q-in-Q カプセルが有効なインターフェイスに関連付けることができます:

- 特定の Q-in-Q カプセル化が有効なインターフェイス上に静的な EPG を展開します。
- EPG を Q-in-Q カプセル化が有効なリーフ スイッチに静的にリンクします。
- EPG を Q-in-Q カプセル化が有効なエンドポイント (スタティック MAC アドレスを持つもの) に関連付けます

APIC GUI の同じエリアに 3 つすべてのタスクが実行されます。

始める前に

- Q-in-Q モードで構成されたインターフェイスにマッピングされるテナント、アプリケーション プロファイル、おおびアプリケーション EPG を作成します。
- ターゲット インターフェイスは Q-in-Q カプセル化で構成されている必要があります。

手順

-
- ステップ 1** メニューバーで、**Tenants** > *tenant-name* の順にクリックします。
- ステップ 2** ナビゲーション ウィンドウで、**Application Profiles** > > *application-profile-name* > **Application EPGs** > *application-EPG-name* を展開します。
- ステップ 3** Q-in-Q モードが有効になっているインターフェイス、PC、または vPC にスタティック EPG を展開するには、次の手順を実行します。
- アプリケーション EPG の下で、**[スタティック ポート (Static Ports)]** を右クリックし、**[スタティック EPG を PC、vPC、またはインターフェイスに展開 (Deploy Static EPG on PC, vPC, or Interface)]** を選択します。
 - パスのタイプ、ノード、および Q-in-Q が有効になっているインターフェイスのパスを選択します。
 - Port Encap (or Secondary VLAN for Micro-Seg)** フィールドで、**QinQ** を選択し、EPG にマップされるトラフィックの外部および内部 VLAN タグを入力します。
 - [Submit] をクリックします。
- ステップ 4** EPG を Q-in-Q モードが有効なノードに静的にリンクするには、次の手順を実行します：
- アプリケーション EPG で、**Static Leafs** を右クリックして、**Statically Link With Node** を選択します。
 - [Node] フィールドで、リストから Q-in-Q が有効なスイッチを選択します。
 - [Encap] フィールドで、**QinQ** を選択し、EPG の外部および内部 VLAN タグを入力します。
 - [Submit] をクリックします。
- ステップ 5** EPG と静的エンドポイントを関連付けるには、次の手順を実行します：
- アプリケーション EPG で、**Static EndPoints** を右クリックし、**Create Static EndPoint** を選択します。
 - インターフェイスの MAC アドレスを入力します。
 - パスのタイプ、ノード、および Q-in-Q カプセル化が有効になっているインターフェイスのパスを選択します。
 - オプション。エンドポイントの IP アドレスを追加します。
 - Encap** フィールドで、**QinQ** を選択し、外部および内部 VLAN タグを入力します。
 - [Submit] をクリックします。
-

NX-OS スタイル CLI を使用した Q-in-Q カプセル化リーフインターフェイスへの EPG のマッピング

Q-in-Q カプセル化のインターフェイスを有効にし、EPG にインターフェイスを関連付けます。

始める前に

Q-in-Q モードに設定されているインターフェイスでマッピングされるテナント、アプリケーション プロファイル、アプリケーション EPG を作成します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Configure 例： apic1# configure	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	leaf number 例： apic1(config)# leaf 101	設定するリーフを指定します。
ステップ 3	interface ethernetslot/port 例： apic1 (config-leaf)# interface ethernet 1/25	設定するインターフェイスを指定します。
ステップ 4	switchport mode dot1q-tunnel doubleQtagPort 例： apic1(config-leaf-if)# switchport mode dot1q-tunnel doubleQtagPort	Q-in-Q カプセル化のインターフェイスを有効にします。
ステップ 5	switchport trunkqinq outer-vlanvlan-number inner-vlan vlan-number tenant tenant-name application application-name epg epg-name 例： apic1(config-leaf-if)# switchport trunk qinq outer-vlan 202 inner-vlan 203 tenant tenant64 application AP64 epg EPG64	インターフェイスを EPG に関連付けます。

例

次の例では、リーフ インターフェイス 101/1/25 で Q-in-Q カプセル化を有効にして (VLAN ID 201 外部および VLAN ID 203 内部)、EPG64 にインターフェイスを関連付けます。

```
apic1(config)# leaf 101
apic1(config-leaf)# interface ethernet 1/25
apic1(config-leaf-if)#switchport mode dot1q-tunnel doubleQtagPort
apic1(config-leaf-if)# switchport trunk qinq outer-vlan 202 inner-vlan 203 tenant tenant64 application AP64 epg EPG64
```




第 12 章

ブレイクアウト ポート

この章は、次の項で構成されています。

- [ブレイクアウト ポートの設定 \(239 ページ\)](#)
- [ダウンリンクのダイナミックブレイクアウトポートの注意事項と制約事項 \(240 ページ\)](#)
- [ファブリック リンクの自動ブレイクアウト ポートの注意事項と制約事項 \(245 ページ\)](#)
- [GUI を使用したプロファイルおよびセレクタによるブレイクアウト ポートの構成 \(247 ページ\)](#)
- [GUI を使用したプロファイルおよびセレクタによるブレイクアウト ポートの構成 \(250 ページ\)](#)
- [GUI を使用したインターフェイス コンフィギュレーションによるブレイクアウト ポートの設定 \(253 ページ\)](#)
- [NX-OS スタイルの CLI を使用したダイナミック ブレイクアウト ポートの設定 \(254 ページ\)](#)

ブレイクアウト ポートの設定

ブレイクアウトケーブルは非常に短いリンクに適しており、コスト効率の良いラック内および隣接ラック間を接続する方法を提供します。ブレイクアウトでは、40 ギガビット (Gb) ポートを 4 つの独立した論理 10 Gb ポートに分割すること、100Gb ポートを 4 つの独立した論理 25Gb ポートに分割すること、または 400Gb ポートを 4 つの独立した論理 100Gb ポートに分割することができます。

スイッチのダウンリンク (アクセス側ポートまたはダウンリンク ポートとも呼ばれます) およびファブリックリンクにブレイクアウトを設定します。ファブリックリンクは、リーフスイッチとスパインスイッチ間の接続、またはマルチティア トポロジのティア 1 リーフスイッチとティア 2 リーフスイッチ間の接続を形成します。

ブレイクアウト ポートは、次の方法で構成できます。

- ポート プロファイルとセレクタを使用できます。この方法では、リーフ インターフェイス プロファイルでブレイクアウト リーフ ポートを構成し、プロファイルとスイッチを関連付け、サブポートを構成します。

- Cisco Application Policy Infrastructure Controller (APIC) 6.0(1) リリース以降では、[ファブリック (Fabric)] > [アクセス ポリシー (Access Policies)] > [インターフェイス構成 (Interface Configuration)] ワークフローを使用できます。
- [ファブリック (Fabric)] > [インベントリ (Inventory)] > *pod* > *leaf_name* ワークフローを使用できます。Cisco APIC 6.0(1) リリース以降、インベントリ ビューの構成でもインターフェイスの構成を使用します。

ダウンリンクのダイナミック ブレイクアウトポートの注意事項と制約事項

40Gb から 10Gb へのダイナミック ブレイクアウト機能は、次のスイッチのアクセス側ポートでサポートされます。

- N9K-C93180LC-EX
- N9K-C93180YC-FX
- N9K-C9336C-FX2
- N9K-C93360YC-FX2
- N9K-C93216TC-FX2
- N9K-C93108TC-FX3P
- N9K-C93180YC-FX3
- N9K-C93600CD-GX
- N9K-C9364C-GX
- N9K-C9408 (6.0 (2) リリース以降)
- N9K-C9348D-GX2A (6.0 (3) リリース以降)
- N9K-C9364D-GX2A (6.0 (3) リリース以降)
- N9K-C9332D-GX2B (6.0 (3) リリース以降)

100Gb から 25Gb へのブレイクアウト機能は、次のスイッチのアクセスポートでサポートされます。

- N9K-C93180LC-EX
- N9K-C9336C-FX2
- N9K-C93180YC-FX
- N9K-C93360YC-FX2
- N9K-C93216TC-FX2
- N9K-C93108TC-FX3P

- N9K-C93180YC-FX3
- N9K-C93600CD-GX
- N9K-C9364C-GX
- N9K-C9408 (6.0 (2) リリース以降)
- N9K-C9348D-GX2A (6.0 (3) リリース以降)
- N9K-C9364D-GX2A (6.0 (3) リリース以降)
- N9K-C9332D-GX2B (6.0 (3) リリース以降)

400Gb から 100Gb へのブレイクアウト機能は、次のスイッチのアクセスポートでサポートされます。

- N9K-C9348D-GX2A
- N9K-C9364D-GX2A
- N9K-C9332D-GX2B
- N9K-C93600CD-GX
- N9K-C9316D-GX
- N9K-C9408 (6.0(2) リリース以降)
- 6.0(2) リリース以降、QDD-400G-SR4.2-BD 光ファイバは 400Gb ポートでサポートされません。100Gb 速度のピアノードは、QSFP-100G-SR1.2 光ファイバを使用する必要があります。
- QDD-400G-DR4-S、QDD-4X100G-FR-S、QDD-4X100G-LR-S 光ファイバは 400Gb ポートでサポートされます。100Gb 速度のピア ノードは、次のオプティクスを使用できます。
 - QSFP-100G-DR-S
 - QSFP-100G-FR-S
 - QSFP-100G-LR-S

ブレイクアウト ポートを設定する前に、次のいずれかのケーブルを使用して、40Gb ポートを 4 つの 10Gb ポートに、100Gb ポートを 4 つの 25 Gb ポートに、または 400Gb ポートを 4 つの 100Gb ポートに接続します。

- Cisco QSFP-4SFP10G
6.0 (3) リリース以降、GX2 スイッチはこの直接接続ケーブルをサポートしています。
- Cisco QSFP-4SFP25G
6.0 (3) リリース以降、GX2 スイッチはこの直接接続ケーブルをサポートしています。
- Cisco QSFP-4X10G-AOC
6.0 (3) リリース以降、GX2 スイッチはこの直接接続ケーブルをサポートしています。

- Cisco QDD-4ZQ100-CU (1M、2M、2.5M、および 3M) (6.0 (3) リリース以降)
- MPO から、両端に QSFP-40G-SR4 および 4 X SFP-10G-SR を備えたブレイクアウト スプリッタ ケーブルへ
- MPO から、両端に QSFP-100G-SR4-S と 4 X SFP-25G-SR-S を備えたブレイクアウト スプリッタ ケーブルへ
- MPO から、両端に QDD-400G-DR4-S、QDD-4X100G-FR-S、または QDD-4X100G-LR-S、および 4 x QSFP-100G-DR-S、4 x QSFP-100G-FR-S、または 4 x QSFP-100G-LR-S を備えたブレイクアウト スプリッタ ケーブルへ
- MPO から、両端に QDD-400G-SR4.2-BD および 4 x QSFP-100G-SR1.2 を備えたブレイクアウト スプリッタ ケーブルへ



(注) サポートされている光ファイバとケーブルについては、『*Cisco Optics-to-Device Compatibility Matrix*』を参照してください。

<https://tmgmatrix.cisco.com/>

次に示すガイドラインおよび制限事項に従ってください。

- ブレイクアウトポートは、ダウンリンクと変換ダウンリンクの両方でサポートされます。
- 次のスイッチは、プロファイルされた QSFP ポートでダイナミックブレイクアウト (100Gb と 40Gb の両方) をサポートします。

- Cisco N9K-C93180YC-FX
- Cisco N9K-C93216TC-FX2
- Cisco N9K-C93360YC-FX2
- Cisco N9K-C93600CD-GX

これは、ポート 1/25 ~ 34 にのみ適用されます。ポートをダウンリンクに変換する場合、ポート 1/29 ~ 34 はダイナミック ブレイクアウトに使用できます。

- Cisco N9K-C9336C-FX2

最大 34 のダイナミック ブレイクアウトを構成できます。

- Cisco N9K-C9364C-GX

1/1 ~ 59 の奇数番号のプロファイリングされた QSFP ポートで、最大 30 のダイナミック ブレイクアウトを設定できます。

- Cisco N9K-93600CD-GX

40/100G ポート x 24 から最大 12 のダイナミック ブレイクアウトを設定でき、ポート 25 ~ 34 から最大 10 のダイナミック ブレイクアウトを設定できます。ポートをダウンリンクに変換する場合、ポート 29 ~ 34 はダイナミックブレイクアウトに使用でき

ます。最後の2つのポート（ポート 35 と 36）は、ファブリック リンク用に予約されています。

- Cisco N9K-C9400-SW-GX2A と Cisco N9K-X9400-16W ラインカード

奇数番号のプロファイリングされた QSFP ポートで、ブレイクアウトを構成できません。

- Cisco N9K-C9336C-FX2 スイッチは、ブレイクアウト サブポートで LACP fast hello をサポートします。
- ブレイクアウト ポートは Cisco Application Policy Infrastructure Controller (APIC) 接続には使用できません。
- ファスト リンク フェールオーバー ポリシーは、ダイナミック ブレイクアウト機能と同一ポートではサポートされていません。
- ブレイクアウトのサポートは、ポリシー モデルが使用されているその他のポート タイプと同じ方法で使用できます。
- ポートでダイナミック ブレイクアウトが有効になっている場合、親ポート上の他のポリシー（モニタリング ポリシーを除く）は無効になります。
- ポートがダイナミックブレイクアウトに対して有効になっている場合、親ポートのその他の EPG 展開が無効になります。
- ブレイクアウト サブポートは、ブレイクアウト ポリシー グループを使用してもこれ以上分割することはできません。
- Cisco APIC ポリシーを使用して構成された、ダイナミック ブレイクアウトまたは 400Gb ポートの 100Gb ポート x 4 へのブレイクアウトは、QDD-4X100G-FR-S および QDD-4X100G-LR-S オプティクスでサポートされています。
- ブレイクアウトサブポートはLACPをサポートします。デフォルトでは、「デフォルト」ポート チャネル メンバー ポリシーで定義された LACP 送信レート設定が使用されます。LACP 送信レートは、「デフォルト」ポート チャネル メンバー ポリシーを変更するか、各 PC/vPC インターフェイス ポリシー グループでのオーバーライドポリシー グループを使用すれば、変更できます。
- ブレイクアウト サブポートを持つポート チャネルの LACP 送信レートを変更する必要がある場合、ブレイクアウト サブポートを含むすべてのポート チャネルで同じ LACP 送信レート設定を使用することが必要です。オーバーライドポリシーを設定して、次のように送信レートを設定できます。
 1. デフォルトのポート チャネル メンバー ポリシーを設定/変更して、Fast Transmit Rate を含めます ([Fabric] > [Access Policies] > [Policies] > [Interface] > [Port Channel Member]) 。
 2. すべての PC/vPC インターフェイス ポリシー グループを設定して、上記のデフォルトポート チャネル メンバー ポリシーをオーバーライドポリシー グループに含めます

(**[Fabric]** > **[Access Policies]** > **[Interfaces]** > **[Leaf Interfaces]** > **[Policy Groups]** > **[PC/vPC Interface]**)。

- 次の注意事項および制約事項が Cisco N9K-C9364C-GX スイッチに適用されます。
 - 奇数番号のポート（行 1 および行 3）は、ブレイクアウトをサポートします。隣接する偶数ポート（行 2 または行 4）は無効になります（「hw-disabled」）。これは、ポート 1/1 ～ 60 に適用されます。
 - 最後の 2 つのポート（1/63 と 64）は、ファブリック リンク用に予約されています。
 - ポート 1/61 と 62 はダウンリンク ポートに変換できますが、ブレイクアウトはサポートされていません。ブレイクアウトポートと 40/100G の非ブレイクアウトポートは、1/1 ～ 4 または 1/5 ～ 8 など、1/1 から始まる 4 つのポートのセットに混在させることはできません。
たとえば、ポート 1/1 がブレイクアウト対応の場合、ポート 1/3 はブレイクアウト対応またはネイティブ 10G で使用できます。ポート 1/3 が 40/100G の場合、error-disabled 状態になります。
 - ダウンリンクの最大数は、30 x 4 ポート 10/25（ブレイクアウト）+ 2 ポート（1/61 と 62）= 122 ポートです。ポート 1/63 および 64 はファブリック リンク用に予約されており、1/2 ～ 60 の偶数番号のポートは error-disabled になっています。
 - このスイッチは、すべてのポートで 10G with QSA をサポートします。ネイティブ 10G には QSA が必要です。
- 次の注意事項および制約事項が Cisco N9K-93600CD-GX スイッチに適用されます。
 - 奇数番号のポート（行 1 のすべてのポート）はブレイクアウトをサポートします。行 2 の偶数番号のポートは無効になります（「hw-disabled」）。これは、ポート 1 ～ 24 にのみ適用されます。
 - ブレイクアウトと 40/100G 非ブレイクアウトは、1/1 ～ 4 または 1/5 ～ 8 など、1/1 から 1/24 までの 4 つのポートのセットに混在させることはできません。次に例を示します。
 - ポート 1/1 ～ 24 の場合、セットごとに 4 つのポートを使用できます。
たとえば、ポート 1/1 がブレイクアウト対応の場合、ポート 1/3 はブレイクアウト対応またはネイティブ 10G で使用できます。ポート 1/3 が 40/100G の場合、error-disabled 状態になります。
 - ポート 1/25 ～ 28 では、セットごとに 2 つのポートを使用できます。
たとえば、ポート 1/25 がブレイクアウト対応の場合でも、ポート 1/27 は 40/100G で使用できます。
 - ダウンリンクの最大数は、12 x 4 ポート 10/25G（ブレイクアウト）+ 10 x 4 ポート 10/25G（ブレイクアウト）= 88 ポートです。ポート 35 および 36 はファブリックリンク用に予約されており、12 個のポートは無効になっています。

- このスイッチは、すべてのポートで 10G with QSA をサポートします。ネイティブ 10G には QSA が必要です。

ファブリックリンクの自動ブレイクアウトポートの注意事項と制約事項

ブレイクアウトがサポートされているラインカードにトランシーバを挿入すると、ポートは自動的にブレイクアウトします。ブレイクアウトを手動で設定する必要はありません。

400Gb から 100Gb へのブレイクアウト機能は、次のラインカードのファブリックポートでサポートされます。

- QDD-4X100G-FR-S または QDD-4X100G-LR-S トランシーバを搭載した N9K-X9716D-GX

400Gb から 100Gb へのブレイクアウト機能は、次のスイッチのファブリックポートでサポートされます。

- N9K-C9348D-GX2A
- N9K-C9364D-GX2A
- N9K-C9332D-GX2B
- N9K-C93600CD-GX
- N9K-C9316D-GX
- N9K-C9408 (6.0(2) リリース以降)
- 6.0(2) リリース以降、QDD-400G-SR4.2-BD 光ファイバは 400Gb ポートでサポートされません。100Gb 速度のピアノードは、QSFP-100G-SR1.2 光ファイバを使用する必要があります。
- QDD-4X100G-FR-S および QDD-4X100G-LR-S オプティクスは、400Gb ポートでサポートされます。100Gb 速度のピアノードは、次のオプティクスを使用できます。
 - QSFP-100G-DR-S
 - QSFP-100G-FR-S
 - QSFP-100G-LR-S

次のいずれかのケーブルを使用してポートを接続します。

- Cisco QDD-4ZQ100-CU (1M、2M、2.5M、および 3M) (6.0(3) リリース以降)
- MPO から、両端に QDD-4X100G-FR-S または QDD-4X100G-LR-S および 4 x QSFP-100G-DR-S、4 x QSFP-100G-FR-S、または 4 x QSFP-100G-LR-S を備えた 4xLC ブレイクアウト スプリッタ ケーブル

- MPO から、両端に QDD-400G-SR4.2-BD および 4 x QSFP-100G-SR1.2 を備えたブレイクアウト スプリッタ ケーブルへ

ファブリック リンクでの 400G から 4x100G へのブレイクアウトに関する次のガイドラインと制限事項に従ってください。

- QDD-400G-SR4.2-BD 光ファイバを備えたファブリックポートを非ブレイクアウトからブレイクアウトに変更するには、トランシーバを取り外し、ブレイクアウトケーブルをトランシーバに接続してから、トランシーバを再度挿入する必要があります。
- GX2 スイッチは、次のスイッチからスイッチへの接続をサポートします。
 - スパインスイッチからリーフスイッチへ
 - リーフスイッチからスパインスイッチへ
 - リーフスイッチからリーフスイッチ (多層)
- GX ラインカードは、次のスイッチからスイッチへの接続をサポートします。
 - スパインスイッチからリーフスイッチへ
- 次の構成はサポートされていません。
 - スパインスイッチからスパインスイッチ ブレイクアウトへ
 - スパインスイッチから IPN ブレイクアウトへ
- 特定のハードウェアおよびポートのブレイクアウトをサポートしていないリリースにダウングレードすると、ブレイクアウトポートはブレイクアウトされず、リンクがダウンします。スパインとリーフスイッチ間のすべての接続がブレイクアウトのみの場合、ブレイクアウトをサポートしていないリリースにダウングレードすると、リンクはダウンし、ノードはファブリック外になります。
- スイッチから SFP トランシーバを取り外した場合、トランシーバを再度追加する前に、少なくとも 15 秒待つ必要があります。
- Cisco Nexus 9300 GX2 シリーズまたは Cisco N9K-X9716D-GX ラインカードでは、ラインカードの電源がオフの状態でも光ファイバを交換しても、ポートは起動しません。次に例を示します。
 1. スロット 4 に Cisco N9K-X9716D-GX ラインカードがあり、4x100-FR-S トランシーバがポート (たとえば、ポート 8) に挿入されている。ポート 8は、4x100-FR-S トランシーバが挿入されたときに自動的にアクティブになる自動ブレイクアウト機能により、4 つのポート (Eth4/8/1-4) に分割されます。
 2. スロット 4 のラインカードの電源をオフにします。
 3. ラインカードの電源がオフになっている間に、ポート 8 から 4x100G-FR-S 光ファイバを取り外し、4x100G-FR-S 以外の光ファイバを挿入します。

4. スロット 4 のラインカードの電源をオンにします。ポート Eth4/8 は、ピア エンドで互換性のあるポートとトランシーバの組み合わせに接続した後でも起動しません。

GUI を使用したプロファイルおよびセクタによるブレイクアウト ポートの構成

この手順では、ポートプロファイルとセクタを使用して、ブレイクアウト ポートを構成します。リーフ インターフェイス プロファイルでブレイクアウト リーフ ポートを構成し、プロファイルとスイッチを関連付け、サブポートを構成します。

始める前に

- Cisco Application Centric Infrastructure (ACI) ファブリックが設置され、Cisco Application Policy Infrastructure Controller (APIC) がオンラインになっており、Cisco APIC クラスタが形成されて正常に動作していること。
- ブレイクアウト ポートを設定できる Cisco APIC ファブリック 管理者アカウントが使用可能であること。
- ターゲット リーフ スイッチが Cisco ACI ファブリックに登録され、使用可能であること。
- 40GE または 100GE リーフ スイッチ ポートは、ダウンリンク ポートに Cisco ブレイクアウト ケーブルを接続します。

手順

- ステップ 1 メニュー バーで、**[Fabric]** > **[Access Policies]** の順に選択します。
- ステップ 2 ナビゲーション ウィンドウで、**Interfaces** および **Leaf Interfaces** および **Profiles** を展開します。
- ステップ 3 **Profiles** を右クリックして **Create Leaf Interface Profile** を選択します。
- ステップ 4 名前と説明 (オプション) を入力して、**Interface Selectors** の **[+]** 記号をクリックします。
- ステップ 5 次の手順を実行します。
 - a) **Access Port Selector** の名前と説明 (オプション) を入力します。
 - b) **Interface IDs** フィールドで、ブレイクアウト ポートのスロットとポートを入力します。
 - c) **Interface Policy Group** フィールドで、下矢印をクリックして **Create Leaf Breakout Port Group** を選択します。
 - d) **Leaf Breakout Port Group** の名前 (およびオプションとして説明) を入力します。
 - e) **Breakout Map** フィールドで、**10g-4x** または **25g-4x** を選択します。

ブレイクアウトをサポートするスイッチのリストについては、[ブレイクアウトポートの設定 \(239 ページ\)](#) を参照してください。
 - f) **[Submit]** をクリックします。

ステップ 6 ブレイクアウトポートを EPG に割り当てるには、次の手順を実行します。

メニューバーで、[Tenant] > [Application Profiles] > [Application EPG] の順に選択します。
[Application EPGs] を右クリックして [Create Application EPG] ダイアログボックスを開き、次の手順を実行します。

- a) [Statically Link with Leaves/Paths] チェックボックスをオンにして、ダイアログボックスの [Leaves/Paths] タブにアクセスします。
- b) 次のいずれかの手順を実行します。

オプション	説明
次のものに EPG を展開する場合、	次を実行します。
ノード	<ol style="list-style-type: none"> 1. Leaves エリアを展開します。 2. [Node] ドロップダウンリストから、ノードを選択します。 3. Encap フィールドで、適切な VLAN を入力します。 4. (オプション) Deployment Immediacy ドロップダウンリストで、デフォルトの On Demand のままにするか、Immediate を選択します。 5. (オプション) [Mode] ドロップダウンリストで、デフォルトの [Trunk] のままにするか、別のモードを選択します。
ノード上のポート	<ol style="list-style-type: none"> 1. Paths エリアを展開します。 2. Path ドロップダウンリストから、適切なノードおよびポートを選択します。 3. (オプション) Deployment Immediacy フィールドのドロップダウンリストで、デフォルトの On Demand のままにするか、Immediate を選択します。 4. (オプション) [Mode] ドロップダウンリストで、デフォルトの [Trunk] のままにするか、別のモードを選択します。 5. Port Encap フィールドに、導入するセカンダリ VLAN を入力します。 6. (オプション) Primary Encap フィールドで、展開するプライマリ VLAN を入力します。

ステップ 7 リーフ インターフェイス プロファイルをリーフ スイッチに関連付けるため、次の手順に従います。

- a) **Switches** と **Leaf Switches**、および **Profiles** を展開します。
- b) **Profiles** を右クリックして **Create Leaf Profiles** を選択します。
- c) リーフ プロファイルの名前と、オプションとして説明を入力します。
- d) + 記号 (**Leaf Selectors** エリア) をクリックします。

- e) リーフ セクタの名前と、オプションとして説明を入力します。
- f) **Blocks** フィールドの下向き矢印をクリックして、ブレイクアウト インターフェイス プロファイルと関連付けるスイッチを選択します。
- g) **Policy Group** フィールドの下向き矢印をクリックし、**Create Access Switch Policy Group** を選択します。
- h) アクセス スイッチ ポリシー グループの名前と、オプションとして説明を入力します。
- i) オプション。その他のポリシーを有効にします。
- j) [Submit] をクリックします。
- k) **Update** をクリックします。
- l) [Next] をクリックします。
- m) **Associations Interface Selector Profiles** エリアで、ブレイクアウト ポート用に以前に作成したインターフェイス セクタ プロファイルを選択します。
- n) **Finish** をクリックします。

ステップ 8 ブレイクアウト ポートが 4 つのサブ ポートに分割されたことを確認するために、次の手順に従います:

- a) メニュー バーで、**Fabric > Inventory** をクリックします。
- b) ナビゲーションバーで、ブレイクアウト ポートがあるポッドとリーフをクリックします。
- c) **Interfaces** および **Physical Interfaces** を展開します。
ブレイクアウト ポートが設定された場所に 4 つのポートが表示されます。たとえば、1/10 をブレイクアウト ポートとして設定した場合、次のように表示されます:

- eth1/10/1
- eth1/10/2
- eth1/10/3
- eth1/10/4

ステップ 9 サブ ポートを設定するには、次の手順を実行します:

- a) メニュー バーで、**[Fabric] > [Access Policies]** をクリックします。
- b) ナビゲーションバーで、**Interfaces**、**Leaf Interfaces**、**Profiles**、および前に作成したブレイクアウト リーフ インターフェイス プロファイルを展開します。
ブレイクアウト ケーブルが付属するポートのセクタが表示されます。既存のポートのセクタでサブポート ブロックを定義する代わりに、新しいアクセス ポート セクタで定義する必要があります。
- c) ナビゲーションバーで、上位レベルのインターフェイス プロファイルを右クリックし、**[Create Access Port Selector]** を選択します。
- d) **[Name]** フィールドで、サブ ポートの名前を入力します。
- e) **Interface IDs** フィールドに、4 つのサブ ポートの ID を、1/10/1-4 のフォーマットで入力します。
- f) **[Interface Policy Group]** フィールドで、**[Create Leaf Access Port Policy Group]** を選択します。

g) [送信 (Submit)] をクリックします。

ステップ 10 AAEP をポートにリンクする個々のインターフェイスにポリシーグループを適用するには、次の手順を実行します。

- a) [Name] フィールドに、リーフアクセスポートのグループポリシー名を入力します。
- b) [Link Level Policy] フィールドで、[link-level_auto] を選択します。
- c) [CDP Policy] フィールドで、[cdp_enabled] を選択します。
- d) [LLDP Policy] フィールドで、[default] を選択します。
- e) [Attached Entity Profile] フィールドで、ポリシーグループにアタッチする AAEP プロファイルを選択します。
- f) [Submit] をクリックします。

GUIを使用したプロファイルおよびセクタによるブレイクアウトポートの構成

この手順では、ポートプロファイルとセクタを使用して、ブレイクアウトポートを構成します。リーフインターフェイスプロファイルでブレイクアウトリーフポートを構成し、プロファイルとスイッチを関連付け、サブポートを構成します。

始める前に

- Cisco Application Centric Infrastructure (ACI) ファブリックが設置され、Cisco Application Policy Infrastructure Controller (APIC) がオンラインになっており、Cisco APIC クラスタが形成されて正常に動作していること。
- ブレイクアウトポートを設定できるCisco APICファブリック管理者アカウントが使用可能であること。
- ターゲットリーフスイッチがCisco ACIファブリックに登録され、使用可能であること。
- 40GE または 100GE リーフスイッチポートは、ダウンリンクポートにCisco ブレイクアウトケーブルを接続します。

手順

- ステップ 1** メニューバーで、[Fabric] > [Access Policies] の順に選択します。
- ステップ 2** ナビゲーションウィンドウで、**Interfaces** および **Leaf Interfaces** および **Profiles** を展開します。
- ステップ 3** **Profiles** を右クリックして **Create Leaf Interface Profile** を選択します。
- ステップ 4** 名前と説明 (オプション) を入力して、**Interface Selectors** の [+] 記号をクリックします。
- ステップ 5** 次の手順を実行します。
 - a) **Access Port Selector** の名前と説明 (オプション) を入力します。

- b) **Interface IDs** フィールドで、ブレイクアウト ポートのスロットとポートを入力します。
- c) **Interface Policy Group** フィールドで、下矢印をクリックして **Create Leaf Breakout Port Group** を選択します。
- d) **Leaf Breakout Port Group** の名前 (およびオプションとして説明) を入力します。
- e) **Breakout Map** フィールドで、**10g-4x** または **25g-4x** を選択します。

ブレイクアウトをサポートするスイッチのリストについては、[ブレイクアウトポートの設定 \(239 ページ\)](#) を参照してください。

- f) [Submit] をクリックします。

ステップ 6 ブレイクアウト ポートを EPG に割り当てるには、次の手順を実行します。

メニュー バーで、[Tenant] > [Application Profiles] > [Application EPG] の順に選択します。
[Application EPGs] を右クリックして [Create Application EPG] ダイアログボックスを開き、次の手順を実行します。

- a) [Statically Link with Leaves/Paths] チェックボックスをオンにして、ダイアログボックスの [Leaves/Paths] タブにアクセスします。
- b) 次のいずれかの手順を実行します。

オプション	説明
次のものに EPG を展開する場合、	次を実行します。
ノード	<ol style="list-style-type: none"> 1. Leaves エリアを展開します。 2. [Node] ドロップダウンリストから、ノードを選択します。 3. Encap フィールドで、適切な VLAN を入力します。 4. (オプション) Deployment Immediacy ドロップダウンリストで、デフォルトの On Demand のままにするか、Immediate を選択します。 5. (オプション) [Mode] ドロップダウンリストで、デフォルトの [Trunk] のままにするか、別のモードを選択します。
ノード上のポート	<ol style="list-style-type: none"> 1. Paths エリアを展開します。 2. Path ドロップダウンリストから、適切なノードおよびポートを選択します。 3. (オプション) Deployment Immediacy フィールドのドロップダウンリストで、デフォルトの On Demand のままにするか、Immediate を選択します。 4. (オプション) [Mode] ドロップダウンリストで、デフォルトの [Trunk] のままにするか、別のモードを選択します。 5. Port Encap フィールドに、導入するセカンダリ VLAN を入力します。

オプション	説明
	6. (オプション) Primary Encap フィールドで、展開するプライマリ VLAN を入力します。

ステップ 7 リーフ インターフェイス プロファイルをリーフ スイッチに関連付けるため、次の手順に従います。

- a) **Switches** と **Leaf Switches**、および **Profiles** を展開します。
- b) **Profiles** を右クリックして **Create Leaf Profiles** を選択します。
- c) リーフ プロファイルの名前と、オプションとして説明を入力します。
- d) + 記号 (**Leaf Selectors** エリア) をクリックします。
- e) リーフ セクタの名前と、オプションとして説明を入力します。
- f) **Blocks** フィールドの下向き矢印をクリックして、ブレイクアウト インターフェイス プロファイルと関連付けるスイッチを選択します。
- g) **Policy Group** フィールドの下向き矢印をクリックし、**Create Access Switch Policy Group** を選択します。
- h) アクセス スイッチ ポリシー グループの名前と、オプションとして説明を入力します。
- i) オプション。その他のポリシーを有効にします。
- j) [Submit] をクリックします。
- k) **Update** をクリックします。
- l) [Next] をクリックします。
- m) **Associations Interface Selector Profiles** エリアで、ブレイクアウト ポート用に以前に作成したインターフェイス セクタ プロファイルを選択します。
- n) **Finish** をクリックします。

ステップ 8 ブレイクアウト ポートが 4 つのサブ ポートに分割されたことを確認するために、次の手順に従います:

- a) メニュー バーで、**Fabric > Inventory** をクリックします。
- b) ナビゲーションバーで、ブレイクアウトポートがあるポッドとリーフをクリックします。
- c) **Interfaces** および **Physical Interfaces** を展開します。
ブレイクアウト ポートが設定された場所に 4 つのポートが表示されます。たとえば、1/10 をブレイクアウト ポートとして設定した場合、次のように表示されます:

- eth1/10/1
- eth1/10/2
- eth1/10/3
- eth1/10/4

ステップ 9 サブ ポートを設定するには、次の手順を実行します:

- a) メニュー バーで、**[Fabric] > [Access Policies]** をクリックします。
- b) ナビゲーションバーで、**Interfaces**、**Leaf Interfaces**、**Profiles**、および前に作成したブレイクアウト リーフ インターフェイス プロファイルを展開します。

ブレイクアウトケーブルが付属するポートのセレクタが表示されます。既存のポートのセレクタでサブポートブロックを定義する代わりに、新しいアクセス ポート セレクタで定義する必要があります。

- c) ナビゲーションバーで、上位レベルのインターフェイス プロファイルを右クリックし、**[Create Access Port Selector]** を選択します。
- d) **[Name]** フィールドで、サブ ポートの名前を入力します。
- e) **Interface IDs** フィールドに、4 つのサブ ポートの ID を、1/10/1-4 のフォーマットで入力します。
- f) **[Interface Policy Group]** フィールドで、**[Create Leaf Access Port Policy Group]** を選択します。
- g) **[送信 (Submit)]** をクリックします。

ステップ 10 AAEP をポートにリンクする個々のインターフェイスにポリシーグループを適用するには、次の手順を実行します。

- a) **[Name]** フィールドに、リーフ アクセス ポートのグループ ポリシー名を入力します。
- b) **[Link Level Policy]** フィールドで、**[link-level_auto]** を選択します。
- c) **[CDP Policy]** フィールドで、**[cdp_enabled]** を選択します。
- d) **[LLDP Policy]** フィールドで、**[default]** を選択します。
- e) **[Attached Entity Profile]** フィールドで、ポリシー グループにアタッチする AAEP プロファイルを選択します。
- f) **[Submit]** をクリックします。

GUI を使用したインターフェイス コンフィギュレーションによるブレイクアウト ポートの設定

() 6.0(1) リリース以降では、ファブリック アクセス ポリシー インターフェイス設定ワークフローを使用して、ブレイクアウト ポートを設定できます。Cisco Application Policy Infrastructure Controller APIC > >

始める前に

- Cisco Application Centric Infrastructure (ACI) ファブリックが設置され、Cisco APIC がオンラインになっており、Cisco APIC クラスタが形成されて正常に動作していること。
- ブレイクアウト ポートを設定できる Cisco APIC ファブリック 管理者 アカウント が使用可能 であること。
- ターゲット リーフ スイッチ が Cisco ACI ファブリック に登録され、使用可能 であること。
- 40GE または 100GE リーフ スイッチ ポートは、ダウンリンク ポートに Cisco ブレイクアウト ケーブルを接続します。

手順

- ステップ1 メニューバーで、[ファブリック (FABRIC)] > [アクセス ポリシー (Access Policies)] の順に選択します。
- ステップ2 ナビゲーションペインで[インターフェイスの構成 (Interface Configuration)]を選択します。
- ステップ3 作業ペインで、[アクション (Actions)] > [削除 (Delete)]の順に選択します。
- ステップ4 [ブレイクアウト (Breakout)] ページで、次のサブ手順を実行します。
- [ノード (Node)]で、[ノードの選択 (Select Node)]をクリックし、目的のスイッチ (ノード) のボックスにチェックを入れ、[OK]をクリックします。複数のスイッチを選択できます。
 - [すべてのスイッチのインターフェイス (Interfaces For All Switches)]で、目的のインターフェイスの範囲を入力します。
 - [ブレイクアウト マップ (Breakout Map)]で、目的のブレイクアウト タイプを選択します。
 - [保存 (Save)]をクリックします。

NX-OS スタイルの CLI を使用したダイナミック ブレイクアウト ポートの設定

ブレイクアウトポートを設定、設定を確認およびNX-OS スタイル CLI を使用してサブポートで、EPGを設定するには、次の手順を使用します。

始める前に

- ACI ファブリックが設置され、APIC コントローラがオンラインになっており、APIC クラスタが形成されて正常に動作していること。
- 必要なファブリック インフラストラクチャ設定を作成できる APIC ファブリック管理者アカウントが使用可能であること。
- ターゲット リーフ スイッチが ACI ファブリックに登録され、使用可能であること。
- 40GE または 100GE リーフ スイッチ ポートは、ダウンリンク ポートに Cisco ブレイクアウト ケーブルを接続します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	configure 例 :	コンフィギュレーションモードに入ります。

	コマンドまたはアクション	目的
	<code>apicl# configure</code>	
ステップ 2	leaf ID 例 : <code>apicl(config)# leaf 101</code>	ブレイクアウトポートが配置され、リーフ configuration mode (設定モード、コンフィギュレーションモード)を開始リーフ スイッチを選択します。
ステップ 3	interface ethernetslot/port 例 : <code>apicl(config-leaf)# interface ethernet 1/16</code>	40 ギガビット イーサネット (GE) ブレイクアウトポートとして有効にするインターフェイスを識別します。
ステップ 4	breakout10g-4x 25g-4x 例 : <code>apicl(config-leaf-if)# breakout 10g-4x</code>	ブレイクアウトを選択したインターフェイスを有効にします。 (注) ダイナミック ブレイクアウトポート機能は、スイッチのサポートを参照してください。 ブレイクアウトポートの設定 (239 ページ) 。
ステップ 5	show run 例 : <code>apicl(config-leaf-if)# show run</code> <code># Command: show running-config leaf 101 interface ethernet 1 / 16</code> <code># Time: Fri Dec 2 18:13:39 2016</code> <code>leaf 101</code> <code>interface ethernet 1/16</code> <code>breakout 10g-4x</code> <code>apicl(config-leaf-if)# exit</code> <code>apicl(config-leaf)# exit</code>	インターフェイスの実行コンフィギュレーションを表示することによって、設定を確認し、グローバル コンフィギュレーションモードに戻ります。
ステップ 6	tenant tenant-name 例 : <code>apicl(config)# tenant tenant64</code>	選択またはブレイクアウトポートで消費され、テナント configuration mode (設定モード、コンフィギュレーションモード)を開始するテナントを作成します。
ステップ 7	vrf context vrf-name 例 : <code>apicl(config-tenant)# vrf context vrf64</code> <code>apicl(config-tenant-vrf)# exit</code>	作成またはテナントに関連付けられている Virtual Routing and Forwarding (VRF) インスタンスを識別し、 configuration mode (設定モード、コンフィギュレーションモード)を終了します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 8	bridge-domain <i>bridge-domain-name</i> 例 : <pre>apic1(config-tenant)# bridge-domain bd64</pre>	作成またはテナントに関連付けられているブリッジドメインを識別し、BD configuration mode (設定モード、コンフィギュレーションモード)を開始します。
ステップ 9	vrf member <i>vrf-name</i> 例 : <pre>apic1(config-tenant-bd)# vrf member vrf64 apic1(config-tenant-bd)# exit</pre>	ブリッジドメイン、VRF の関連付け、 configuration mode (設定モード、コンフィギュレーションモード)を終了します。
ステップ 10	application <i>application-profile-name</i> 例 : <pre>apic1(config-tenant)# application app64</pre>	作成またはテナントと EPG に関連付けられているアプリケーションプロファイルを識別します。
ステップ 11	epg <i>epg-name</i> 例 : <pre>apic1(config-tenant)# epg epg64</pre>	作成または EPG を識別し、EPG configuration mode (設定モード、コンフィギュレーションモード)に入力します。
ステップ 12	bridge-domain member <i>bridge-domain-name</i> 例 : <pre>apic1(config-tenant-app-epg)# bridge-domain member bd64 apic1(config-tenant-app-epg)# exit apic1(config-tenant-app)# exit apic1(config-tenant)# exit</pre>	EPG をブリッジドメインに関連付け、グローバル設定モードをにに戻ります。 たとえば、必要に応じて、サブポートを設定コマンドを使用して、速度リファインターフェイスモードでサブポートを設定します。
ステップ 13	leaf <i>leaf-name</i> 例 : <pre>apic1(config)# leaf 1017 apic1(config-leaf)# interface ethernet 1/13 apic1(config-leaf-if)# vlan-domain member dom1 apic1(config-leaf-if)# switchport trunk allowed vlan 20 tenant t1 application AP1 epg EPG1</pre> <p>(注) 上の例に示した vlan-domain コマンドと vlan-domain member コマンドは、ポートに EPG を導入するための前提条件です。</p>	EPG をブレイクアウトポートに関連付けます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 14	speed interface-speed 例 : <pre>apicl(config)# leaf 101 apicl(config-leaf)# interface ethernet 1/16/1 apicl(config-leaf-if)# speed 10G apicl(config-leaf-if)# exit</pre>	リーフインターフェイスモードを開始し、[インターフェイスの速度を設定 configuration mode(設定モード、コンフィギュレーションモード)を終了します。
ステップ 15	show run 例 : <pre>apicl(config-leaf)# show run</pre>	サブポートを設定した後にリーフ configuration mode(設定モード、コンフィギュレーションモード)で次のコマンドを入力して、サブポートの詳細が表示されます。

サブポート 1/16/1、2/1/16、1/16/3 および 4/1/16 ブレイクアウトを有効になっているリーフインターフェイス 1/16 で 101 上のポートを確認します。

例

この例では、ブレイクアウトポートで設定します。

```
apicl# configure
apicl(config)# leaf 101
apicl(config-leaf)# interface ethernet 1/16
apicl(config-leaf-if)# breakout 10g-4x
```

この例では、サブインターフェイスポートの EPG で設定します。

```
apicl(config)# tenant tenant64
apicl(config-tenant)# vrf context vrf64
apicl(config-tenant-vrf)# exit
apicl(config-tenant)# bridge-domain bd64
apicl(config-tenant-bd)# vrf member vrf64
apicl(config-tenant-bd)# exit
apicl(config-tenant)# application app64
apicl(config-tenant-app)# epg epg64
apicl(config-tenant-app-epg)# bridge-domain member bd64
apicl(config-tenant-app-epg)# end
```

この例では、10 G に、ブレイクアウトの速度サブポートを設定します。

```
apicl(config)# leaf 101
apicl(config-leaf)# interface ethernet 1/16/1
apicl(config-leaf-if)# speed 10G
apicl(config-leaf-if)# exit

apicl(config-leaf)# interface ethernet 1/16/2
apicl(config-leaf-if)# speed 10G
apicl(config-leaf-if)# exit
apicl(config-leaf)# interface ethernet 1/16/3
apicl(config-leaf-if)# speed 10G
apicl(config-leaf-if)# exit
apicl(config-leaf)# interface ethernet 1/16/4
apicl(config-leaf-if)# speed 10G
apicl(config-leaf-if)# exit
```

この例では、リーフ 101、インターフェイス 1/16 に接続されている、4 つのアシスタント的なポートを示します。

```
apic1#(config-leaf)# show run
# Command: show running-config leaf 101
# Time: Fri Dec 2 00:51:08 2016
leaf 101
  interface ethernet 1/16/1
    speed 10G
    negotiate auto
    link debounce time 100
  exit
  interface ethernet 1/16/2
    speed 10G
    negotiate auto
    link debounce time 100
  exit
  interface ethernet 1/16/3
    speed 10G
    negotiate auto
    link debounce time 100
  exit
  interface ethernet 1/16/4
    speed 10G
    negotiate auto
    link debounce time 100
  exit
  interface ethernet 1/16
    breakout 10g-4x
  exit
  interface vfc 1/16
```



第 13 章

プロキシ ARP

この章は、次の内容で構成されています。

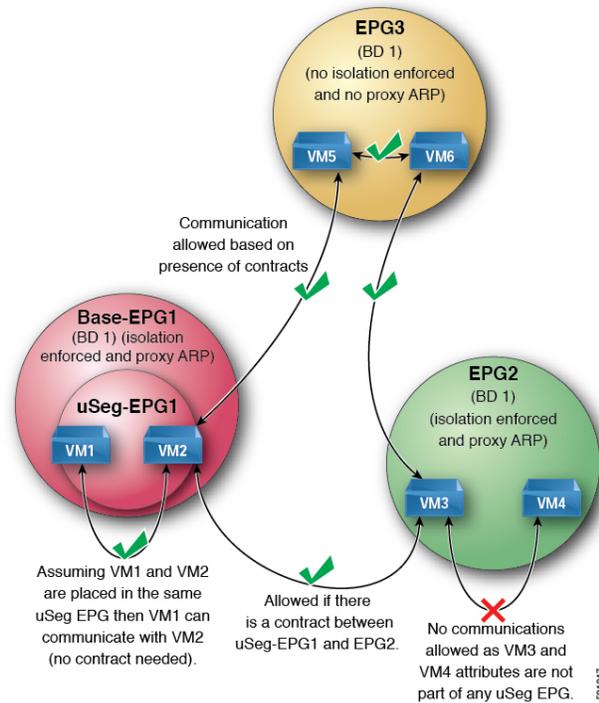
- [プロキシ ARP について \(259 ページ\)](#)
- [注意事項と制約事項 \(266 ページ\)](#)
- [プロキシ ARP がサポートされている組み合わせ \(267 ページ\)](#)
- [拡張 GUI を使用したプロキシ ARP の設定 \(267 ページ\)](#)
- [プロキシ ARP は、Cisco NX-OS スタイル CLI を使用しての設定 \(268 ページ\)](#)

プロキシ ARP について

Cisco ACI のプロキシ ARP は、ネットワークまたはサブネット内のエンドポイントが、別のエンドポイントの MAC アドレスを知らなくても、そのエンドポイントと通信できるようにします。プロキシ ARP はトラフィックの宛先場所を知っており、代わりに、最終的な宛先として自身の MAC アドレスを提供します。

プロキシ ARP を有効にするには、EPG 内エンドポイント分離を EPG で有効にする必要があります。詳細については、次の図を参照してください。EPG 内エンドポイント分離と Cisco ACI の詳細については、「[Cisco ACI 仮想化ガイド](#)」を参照してください。

図 34: プロキシ ARP および Cisco APIC



Cisco ACI ファブリック内のプロキシ ARP は従来のプロキシ ARP とは異なります。通信プロセスの例として、プロキシ ARP が EPG で有効になっているとき、エンドポイント A が ARP 要求をエンドポイント B に送信し、エンドポイント B がファブリック内で学習される場合、エンドポイント A はブリッジドメイン (BD) MAC からプロキシ ARP 応答を受信します。エンドポイント A が B、エンドポイントの ARP 要求を送信し、エンドポイント B はすでに ACI ファブリック内で学習しない場合は、ファブリックはプロキシ ARP の BD 内で要求を送信します。エンドポイント B は、ファブリックに戻る要求、このプロキシ ARP に応答します。この時点では、ファブリックはプロキシ ARP エンドポイント A への応答を送信しませんが、エンドポイント B は、ファブリック内で学習します。エンドポイント A は、エンドポイント B に別の ARP 要求を送信する場合、ファブリックはプロキシ ARP 応答から送信 BD mac です。次の例ではプロキシ ARP 解像度がクライアント VM1 と VM2 間の通信の手順します。

1. VM2 通信を VM1 が必要です。

図 35: VM2 通信を VM1 が必要です。

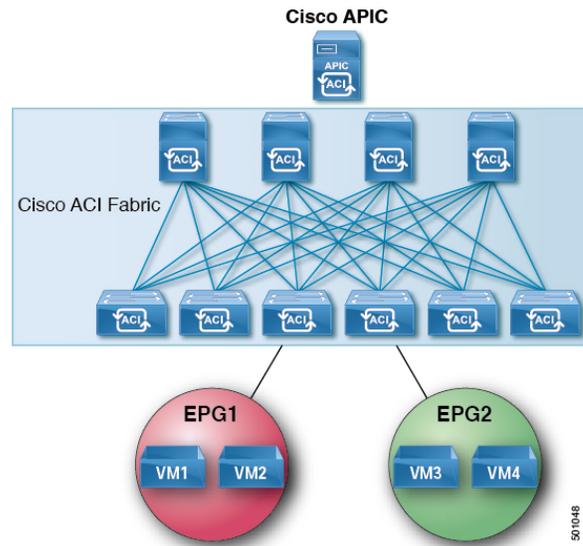


表 7: ARP 表の説明

デバイス	状態
VM1	IP = * MAC = *
ACI ファブリック	IP = * MAC = *
VM2	IP = * MAC = *

2. VM1 は、ブロードキャスト MAC アドレスとともに ARP 要求を VM2 に送信します。

図 36: VM1 はブロードキャスト MAC アドレスとともに ARP 要求を VM2 に送信します

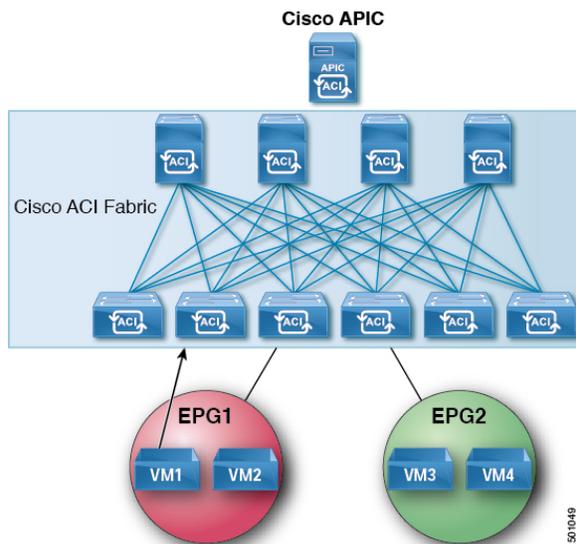


表 8: ARP 表の説明

デバイス	状態
VM1	IP = VM2 IP; MAC = ?
ACI ファブリック	IP = VM1 IP; MAC = VM1 MAC
VM2	IP = * MAC = *

3. ACI ファブリックは、ブリッジドメイン (BD) 内のプロキシ ARP 要求をフラッディングします。

図 37: ACI ファブリックは BD 内のプロキシ ARP 要求をフラッディングします

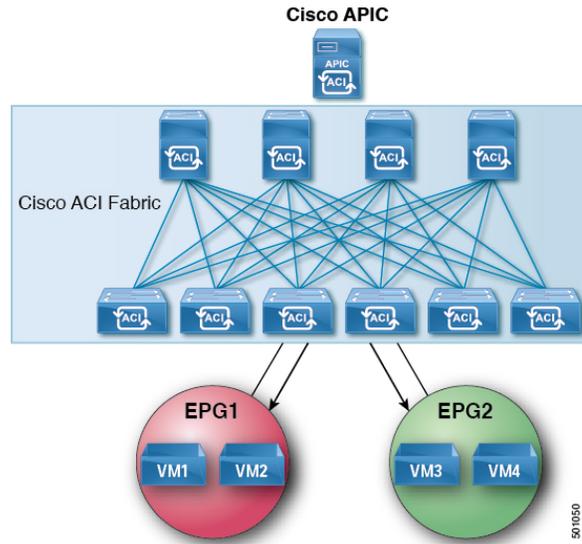


表 9: ARP 表の説明

デバイス	状態
VM1	IP = VM2 IP; MAC = ?
ACI ファブリック	IP = VM1 IP; MAC = VM1 MAC
VM2	IP = VM1 IP; MAC = BD MAC

4. VM2 は、ARP 応答を ACI ファブリックに送信します。

図 38: VM2 は ARP 応答を ACI ファブリックに送信します

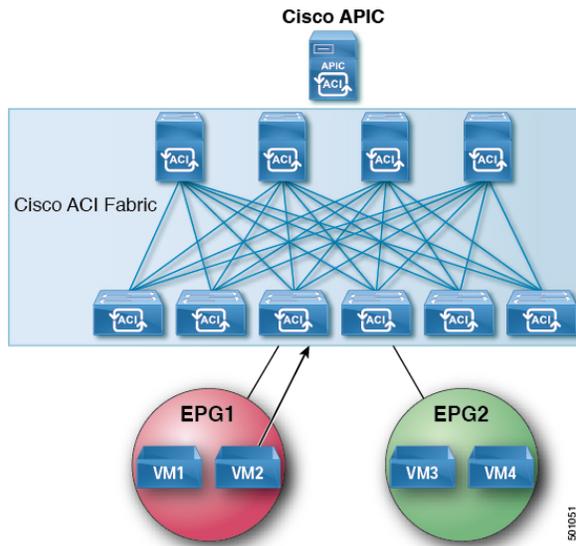


表 10: ARP 表の説明

デバイス	状態
VM1	IP = VM2 IP; MAC = ?
ACI ファブリック	IP = VM1 IP; MAC = VM1 MAC
VM2	IP = VM1 IP; MAC = BD MAC

5. VM2 が学習されます。

図 39: VM2 が学習されます

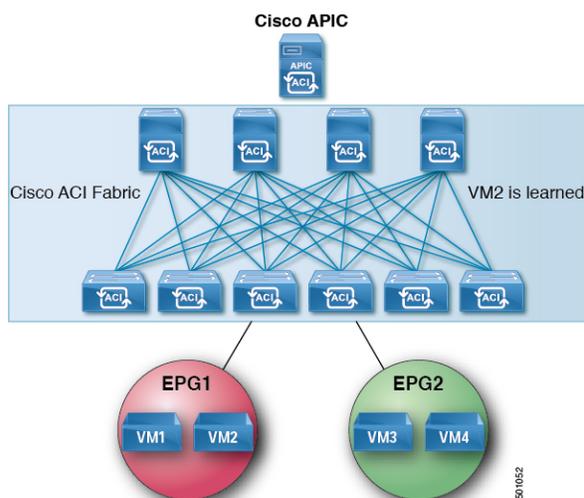


表 11: ARP 表の説明

デバイス	状態
VM1	IP = VM2 IP; MAC = ?
ACI ファブリック	IP = VM1 IP; MAC = VM1 MAC IP = VM2 IP; MAC = VM2 MAC
VM2	IP = VM1 IP; MAC = BD MAC

- 6. VM1 は、ブロードキャスト MAC アドレスとともに ARP 要求を VM2 に送信します。

図 40: VM1 はブロードキャスト MAC アドレスとともに ARP 要求を VM2 に送信します

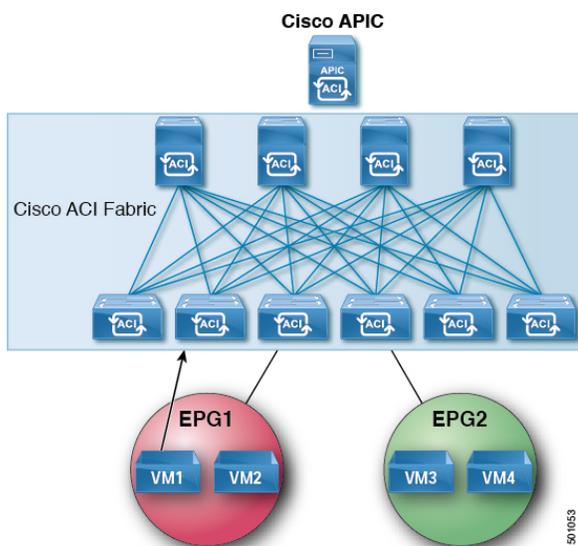


表 12: ARP 表の説明

デバイス	状態
VM1	IP = VM2 IP; MAC = ?
ACI ファブリック	IP = VM1 IP; MAC = VM1 MAC IP = VM2 IP; MAC = VM2 MAC
VM2	IP = VM1 IP; MAC = BD MAC

- 7. ACI ファブリックは、プロキシ ARP VM1 への応答を送信します。

図 41: ACI ファブリック VM1 にプロキシ ARP 応答を送信します。

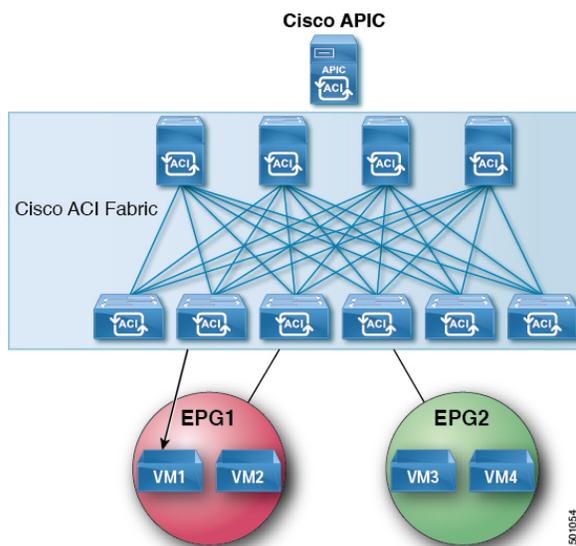


表 13: ARP 表の説明

デバイス	状態
VM1	IP = VM2 IP; MAC = BD MAC
ACI ファブリック	IP = VM1 IP; MAC = VM1 MAC IP = VM2 IP; MAC = VM2 MAC
VM2	IP = VM1 IP; MAC = BD MAC

注意事項と制約事項

プロキシ ARP を使用すると、次のガイドラインと制限事項を考慮してください。

- プロキシ ARP は、隔離 Epg でのみサポートされます。EPG が隔離ではない場合、障害が発生します。プロキシ ARP が有効になっていると隔離 Epg 内で発生する通信では、uSeg Epg を設定する必要があります。たとえば、隔離の EPG 内で別の IP アドレスを持つ複数の Vm がある可能性があり、これらの Vm の IP address range(IP アドレス範囲、IP アドレスの範囲) に一致する IP の属性を持つ uSeg EPG を設定することができます。
- 隔離されたエンドポイントを通常のエンドポイントと、定期的なエンドポイントを隔離のエンドポイントからの ARP 要求には、プロキシ ARP は使用しないでください。このような場合は、エンドポイントは、接続先の Vm の実際の MAC アドレスを使用して通信します。

プロキシ ARP がサポートされている組み合わせ

次のプロキシ ARP 表では、サポートされている組み合わせを示します。

ARP 送信元/宛先	定期的な EPG	プロキシ ARP に適用される EPG の隔離
定期的な EPG	ARP	ARP
プロキシ ARP に適用される EPG の隔離	ARP	プロキシ ARP

拡張 GUI を使用したプロキシ ARP の設定

始める前に

- 適切なテナント、VRF、ブリッジドメイン、アプリケーションプロファイルおよび EPG を作成する必要があります。
- プロキシ ARP が有効にするのが EPG で内通 EPG の分離を有効にする必要があります。

手順

- ステップ 1 メニューバーで、**Tenant > Tenant_name** をクリックします。
- ステップ 2 ナビゲーション] ペインで、展開、**Tenant_name > アプリケーション プロファイル > Application_Profile_name > アプリケーション Epg**、右クリックして **アプリケーション EPG の作成** を実行するダイアログボックス、次のアクションに、**アプリケーション EPG の作成** ダイアログボックス:
 - a) **Name** フィールドに EPG 名を追加します。
- ステップ 3 **Intra EPG Isolation** フィールドで、**Enforced** を選択します。
内通 EPG 分離が適用されるときに、**転送制御** フィールドは使用可能になります。
- ステップ 4 **Forwarding Control** フィールドで、**proxy-arp** チェック ボックスをオンにします。
proxy-arp が有効になります。
- ステップ 5 **Bridge Domain** フィールドで、ドロップダウン リストから、関連付ける適切なブリッジドメインを選択します。
- ステップ 6 必要に応じて、ダイアログボックスの残りのフィールドを選択し、をクリックして **終了**。

プロキシ ARP は、Cisco NX-OS スタイル CLI を使用しての設定

始める前に

- 適切なテナント、VRF、ブリッジドメイン、アプリケーションプロファイルおよび EPG を作成する必要があります。
- プロキシ ARP が有効にするのが EPG で内通 EPG の分離を有効にする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure 例： apicl# configure	コンフィギュレーションモードに入ります。
ステップ 2	tenant tenant-name 例： apicl(config)# tenant Tenant1	テナント コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	application application-profile-name 例： apicl(config-tenant)# application Tenant1-App	アプリケーションプロファイルを作成し、アプリケーションモードを開始します。
ステップ 4	epg application-profile-EPG-name 例： apicl(config-tenant-app)# epg Tenant1-epg1	EPGを作成し、EPGモードに入ります。
ステップ 5	proxy-arp enable 例： apicl(config-tenant-app-epg)# proxy-arp enable	プロキシ ARP を有効にします。 (注) プロキシ arp をディセーブルにできます、 no プロキシ arp コマンド。
ステップ 6	exit 例： apicl(config-tenant-app-epg)# exit	ポート アプリケーションモードに戻ります。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 7	exit 例： apicl(config-tenant-app)# exit	テナント コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 8	exit 例： apicl(config-tenant)# exit	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。

例

次に、プロキシ ARP を設定する例を示します。

```

apicl# conf t
apicl(config)# tenant Tenant1
apicl(config-tenant)# application Tenant1-App
apicl(config-tenant-app)# epg Tenant1-epg1
apicl(config-tenant-app-epg)# proxy-arp enable
apicl(config-tenant-app-epg)#
apicl(config-tenant)#
    
```

■ プロキシ ARP は、Cisco NX-OS スタイル CLI を使用しての設定



第 14 章

トラフィック ストーム制御

この章は、次の項で構成されています。

- [トラフィック ストーム制御について \(271 ページ\)](#)
- [ストーム制御の注意事項と制約事項 \(272 ページ\)](#)
- [GUI を使用したトラフィック ストーム制御ポリシーの設定 \(275 ページ\)](#)
- [NX-OS スタイルの CLI を使用したトラフィック ストーム制御ポリシーの設定 \(277 ページ\)](#)
- [ストーム制御 SNMP トラップの設定 \(278 ページ\)](#)

トラフィック ストーム制御について

トラフィック ストームは、パケットが LAN でフラッディングする場合に発生するもので、過剰なトラフィックを生成し、ネットワークのパフォーマンスを低下させます。トラフィック ストーム制御ポリシーを使用すると、物理インターフェイス上におけるブロードキャスト、未知のマルチキャスト、または未知のユニキャストのトラフィック ストームによって、レイヤ 2 ポート経由の通信が妨害されるのを防ぐことができます。

デフォルトでは、ストーム制御は ACI ファブリックでは有効になっていません。ACI ブリッジドメイン (BD) レイヤ 2 の未知のユニキャストのフラッディングは BD 内でデフォルトで有効になっていますが、管理者が無効にすることができます。その場合、ストーム制御ポリシーはブロードキャストと未知のマルチキャストのトラフィックにのみ適用されます。レイヤ 2 の未知のユニキャストのフラッディングが BD で有効になっている場合、ストーム制御ポリシーは、ブロードキャストと未知のマルチキャストのトラフィックに加えて、レイヤ 2 の未知のユニキャストのフラッディングに適用されます。

トラフィック ストーム制御 (トラフィック抑制ともいいます) を使用すると、着信するブロードキャスト、マルチキャスト、未知のユニキャストのトラフィックのレベルを 1 秒間隔でモニタできます。この間に、トラフィック レベル (ポートで使用可能な合計帯域幅のパーセンテージ、または特定のポートで許可される 1 秒あたりの最大パケット数として表されます) が、設定したトラフィック ストーム制御レベルと比較されます。入力トラフィックが、ポートに設定したトラフィック ストーム制御レベルに到達すると、トラフィック ストーム制御機能によってそのインターバルが終了するまでトラフィックがドロップされます。管理者は、ストーム制御しきい値を超えたときにエラーを発生させるようにモニタリングポリシーを設定できます。

ストーム制御の注意事項と制約事項

以下のガイドラインと制約事項に従って、トラフィック ストーム制御レベルを設定してください。

- 通常、ファブリック管理者は以下のインターフェイスのファブリック アクセス ポリシーでストーム制御を設定します。
 - 標準トランク インターフェイス。
 - 単一リーフ スイッチ上のダイレクト ポート チャネル。
 - バーチャル ポート チャネル (2つのリーフ スイッチ上のポート チャネル)。
- リリース 4.2(1)以降では、ストーム制御のしきい値に達した場合に、次の制約事項に従って、SNMP トラップをCisco Application Centric Infrastructure (ACI) からトリガーできるようになりました。
 - ストーム制御に関連するアクションには、ドロップとシャットダウンの2つがあります。シャットダウンアクションでは、インターフェイス トラップが発生しますが、ストームがアクティブまたはクリアであることを示すためのストーム制御トラップは、シャットダウンアクションによっては決定されません。したがって、ポリシーでシャットダウンアクションが設定されているストーム制御トラップは無視する必要があります。
 - ストーム制御ポリシーがオンの状態でポートがフラップすると、統計情報の収集時にクリア トラップとアクティブ トラップが一緒に表示されます。通常、クリア トラップとアクティブ トラップは一緒に表示されませんが、この場合は予期される動作です。
- ポート チャネルおよびバーチャル ポート チャネルでは、ストーム制御値 (1秒あたりのパケット数またはパーセンテージ) はポートチャネルのすべての個別メンバーに適用されます。



- (注) Cisco Application Policy Infrastructure Controller (APIC) リリース 1.3(1)およびスイッチリリース 11.3(1)以降のスイッチハードウェアの場合、ポートチャネル設では、集約ポートのトラフィック抑制は設定値の最大2倍になることがあります。新しいハードウェアポートは slice-0 と slice-1 の2つのグループに内部的にさらに分割されています。スライスマップを確認するには、vsh_lc コマンドの `show platform internal hal l2 port gpd` を使用して、s1 カラムで slice 0 または slice 1 を探します。ポートチャネルメンバーがスライス 0 とスライス 1 の両方に該当する場合、式は各スライスに基づいて計算されるため、許可されるストーム制御トラフィックが設定値の2倍になることがあります。

- 使用可能な帯域幅のパーセンテージで設定する場合、値 100 はトラフィック ストーム制御を行わないことを意味し、値 0.01 はすべてのトラフィックを抑制します。
- ハードウェアの制限およびさまざまなサイズのパケットのカウント方式が原因で、レベルのパーセンテージは概数になります。着信トラフィックを構成するフレームのサイズに応じて、実際に適用されるパーセンテージ レベルと設定したパーセンテージ レベルの間には、数パーセントの誤差がある可能性があります。1 秒あたりのパケット数 (PPS) の値は、256 バイトに基づいてパーセンテージに変換されます。
- 最大バーストは、通過するトラフィックがないときに許可されるレートでの最大累積です。トラフィックが開始されると、最初の間隔では累積レートまでのすべてのトラフィックが許可されます。後続の間隔では、トラフィックは設定されたレートまでのみ許可されません。サポートされる最大数は 65535 KB です。設定されたレートがこの値を超えると、PPS とパーセンテージの両方についてこの値で制限されます。
- 累積可能な最大バーストは 512 MB です。
- 最適化されたマルチキャストフラディング (OMF) モードの出力リーフスイッチでは、トラフィック ストーム制御は適用されません。
- OMF モードではない出力リーフスイッチでは、トラフィック ストーム制御が適用されません。
- FEX のリーフスイッチでは、ホスト側インターフェイスにはトラフィック ストーム制御を使用できません。
- Cisco Nexus C93128TX、C9396PX、C9396TX、C93120TX、C9332PQ、C9372PX、C9372TX、C9372PX-E、C9372TX-E の各スイッチでは、トラフィック ストーム制御のユニキャスト/マルチキャストの差別化がサポートされていません。
- Cisco Nexus C93128TX、C9396PX、C9396TX、C93120TX、C9332PQ、C9372PX、C9372TX、C9372PX-E、C9372TX-E の各スイッチでは、トラフィック ストーム制御の SNMP トラップがサポートされていません。
- Cisco Nexus C93128TX、C9396PX、C9396TX、C93120TX、C9332PQ、C9372PX、C9372TX、C9372PX-E、C9372TX-E の各スイッチでは、トラフィック ストーム制御トラップがサポートされていません。
- ストーム制御アクションは、物理イーサネット インターフェイスおよびポート チャネル インターフェイスでのみサポートされます。

リリース 4.1(1)以降では、ストーム制御シャットダウン オプションがサポートされています。デフォルトの Soak Instance Count を持つインターフェイスに対してシャットダウンアクションが選択されると、しきい値を超えるパケットは 3 秒間ドロップされ、ポートは 3 秒間シャットダウンされます。デフォルトのアクションは、ドロップです。シャットダウンアクションを選択すると、ユーザーはソーキング間隔を指定するオプションを使用できます。デフォルトのソーキング間隔は 3 秒です。設定可能な範囲は 3 ~ 10 秒です。
- インターフェイスに設定されたデータプレーンポリシング (DPP) ポリサーの値がストームポリサーの値よりも低い場合、DPP ポリサーが優先されます。DPP ポリサーとストーム

ポリサーの間に設定されている低い方の値が、設定されたインターフェイスで適用されます。

- リリース 4.2(6) 以降、ストーム ポリサーは、DHCP、ARP、ND、HSRP、PIM、IGMP、および EIGRP プロトコルに対応する、リーフ スイッチのすべての転送制御トラフィックに強制されます。このことは、ブリッジドメインが **BD でのフラッディング** または **カプセル化でのフラッディング** のどちらに設定されているかには関係しません。この動作の変更は、EX 以降のリーフスイッチにのみ適用されます。
 - EX スイッチでは、プロトコルの 1 つに対し、スーパーバイザ ポリサーとストーム ポリサーの両方を設定できます。この場合、サーバーが設定されたスーパーバイザポリサー レート（制御プレーン ポリシング、CoPP）よりも高いレートでトラフィックを送信すると、ストーム ポリサーはストーム ポリサー レートとして設定されているよりも多くのトラフィックを許可します。着信トラフィック レートがスーパーバイザポリサー レート以下の場合、ストーム ポリサーは設定されたストーム トラフィック レートを正しく許可します。この動作は、設定されたスーパーバイザポリサーおよびストーム ポリサーのレートに関係なく適用されます。
 - ストーム ポリサーが、指定されたプロトコルのリーフ スイッチで転送されるすべての制御トラフィックに適用されるようになった結果、リーフ スイッチで転送される制御トラフィックがストーム ポリサー ドロップの対象になります。以前のリリースでは、この動作の変更の影響を受けるプロトコルでは、このようなストームポリサーのドロップは発生しません。
- トラフィック ストーム制御は、PIM が有効になっているブリッジドメインまたは VRF インスタンスのマルチキャスト トラフィックをポリシングできません。
- ストーム コントロール ポリサーがポートチャネル インターフェイスに適用されている場合、許可されるレートが設定されているレートを超えることがあります。ポートチャネルのメンバーリンクが複数のスライスにまたがる場合、許可されるトラフィック レートは、構成されたレートにメンバーリンクがまたがるスライスの数を掛けたものに等しくなります。

ポートからスライスへのマッピングは、スイッチ モデルによって異なります。

例として、ストーム ポリサー レートが 10Mbps のメンバー リンク port1、port2、および port3 を持つポートチャネルがあるとします。

- port1、port2、port3 が slice1 に属している場合、トラフィックは 10Mbps にポリシングされます。
- port1 と port2 が slice1 に属し、port3 が slice2 に属している場合、トラフィックは 20Mbps にポリシングされます。
- port1 が slice1 に属し、port2 が slice2 に属し、port3 が slice3 に属している場合、トラフィックは 30Mbps にポリシングされます。

GUIを使用したトラフィック ストーム制御ポリシーの設定

手順

- ステップ1 メニューバーで、[Fabric] をクリックします。
- ステップ2 サブメニューバーで、[Access Policies] をクリックします。
- ステップ3 **Navigation** ウィンドウで **Policies** を展開します。
- ステップ4 **Interface** を展開します。
- ステップ5 [Storm Control] を右クリックし、[Create Storm Control Interface Policy] を選択します。
- ステップ6 [Create Storm Control Interface Policy] ダイアログボックスで、[Name] フィールドにポリシーの名前を入力します。
- ステップ7 **Configure Storm Control** フィールドで、**All Types** または **Unicast, Broadcast, Multicast** のいずれかのオプション ボタンをクリックします。

(注) **Unicast, Broadcast, Multicast** オプションボタンを選択すると、それぞれのトラフィック タイプで個別にストーム制御を設定することができます。
- ステップ8 [Specify Policy In] フィールドで、[Percentage] または [Packets Per Second] いずれかのオプション ボタンをクリックします。
- ステップ9 [Percentage] を選択した場合は、次の手順を実行します。
 - a) [Rate] フィールドに、トラフィック レートのパーセンテージを入力します。

ポートで使用可能な合計帯域幅のパーセンテージを指定する 0 ~ 100 の数値を入力します。1 秒の間隔中に入力トラフィックがこのレベルに達するか、それを超えると、トラフィック ストーム制御により、その間隔の残りのトラフィックはドロップされます。値 100 は、トラフィック ストーム制御を行わないことを意味します。値 0 の場合、すべてのトラフィックが抑制されます。
 - b) [Max Burst Rate] フィールドに、バースト トラフィック レートのパーセンテージを入力します。

ポートで使用可能な合計帯域幅のパーセンテージを指定する 0 ~ 100 の数値を入力します。入力トラフィックがこれ以上になると、トラフィック ストーム制御が開始してトラフィックをドロップされるようになります。

(注) **Max Burst Rate** は、**Rate** の値以上でなければなりません。
- ステップ10 [Packets Per Second] を選択した場合は、次の手順を実行します。
 - a) [Rate] フィールドに、トラフィック レートを 1 秒あたりのパケット数で入力します。

この間、トラフィック レベル（1 秒あたりにポートを通過するパケット数として表される）が、設定したトラフィック ストーム制御レベルと比較されます。入力トラフィックが、ポートに設定したトラフィック ストーム制御レベルに達するかそれを超えると、トラフィック ストーム制御機能によってそのインターバルが終了するまでトラフィックがドロップされます。

- b) **[Max Burst Rate]** フィールドに、バースト トラフィック レートを 1 秒あたりのパケット数で入力します。

この間、トラフィック レベル（1 秒あたりにポートを通過するパケット数として表される）が、設定したバースト トラフィック ストーム制御レベルと比較されます。入力トラフィックが、ポートに設定したトラフィック ストーム制御レベルに達するかそれを超えると、トラフィック ストーム制御機能によってそのインターバルが終了するまでトラフィックがドロップされます。

- ステップ 11** **[Storm Control Action]** で **[shutdown]** を選択し、**[Storm Control Soak Count]** フィールドでデフォルトを調整することで、ポリシー アクションをデフォルトから変更できます。

(注) デフォルトの **Soak Instance Count** を持つインターフェイスに対して **シャットダウン** アクションが選択されると、しきい値を超えるパケットは 3 秒間ドロップされ、ポートは 3 秒間シャットダウンされます。

- ステップ 12** **[Submit]** をクリックします。

- ステップ 13** ストーム制御インターフェイス ポリシーをインターフェイス ポートに適用します。

- a) メニュー バーで、**[Fabric]** をクリックします。
- b) サブメニュー バーで、**[Access Policies]** をクリックします。
- c) **Navigation** ウィンドウで **Interfaces** を展開します。
- d) **Leaf Interfaces** を展開します。
- e) **Policy Groups** を展開します。
- f) **Leaf Policy Groups** を選択します。

(注) APIC バージョンが 2.x よりも前の場合は、**[Policy Groups]** を選択します。

- g) リーフアクセスポートポリシーグループ、PC インターフェイスポリシーグループ、vPC インターフェイス ポリシー グループ、またはストーム制御ポリシーを適用する PC/vPC オーバーライドポリシー グループを選択します。
- h) **[Work]** ペインで、**[Storm Control Interface Policy]** のドロップダウンをクリックし、作成したトラフィック ストーム制御ポリシーを選択します。
- i) **[Submit]** をクリックします。

NX-OS スタイルの CLI を使用したトラフィック ストーム制御ポリシーの設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>次のコマンドを入力して PPS ポリシーを作成します。</p> <p>例 :</p> <pre>(config)# template policy-group pg1 (config-pol-grp-if)# storm-control pps 10000 burst-rate 10000</pre>	
ステップ 2	<p>次のコマンドを入力してパーセント ポリシーを作成します。</p> <p>例 :</p> <pre>(config)# template policy-group pg2 (config-pol-grp-if)# storm-control level 50 burst-rate 60</pre>	
ステップ 3	<p>物理ポート、ポート チャネルまたは仮想ポート チャネルでストーム制御を設定します。</p> <p>例 :</p> <pre>[no] storm-control [unicast multicast broadcast] level <percentage> [burst-rate <percentage>] [no] storm-control [unicast multicast broadcast] pps <packet-per-second> [burst-rate <packet-per-second>] sd-tb2-ifc1# configure terminal sd-tb2-ifc1(config)# leaf 102 sd-tb2-ifc1(config-leaf)# interface ethernet 1/19 sd-tb2-ifc1(config-leaf-if)# storm-control unicast level 35 burst-rate 45 sd-tb2-ifc1(config-leaf-if)# storm-control broadcast level 36 burst-rate 36 sd-tb2-ifc1(config-leaf-if)# storm-control broadcast level 37 burst-rate 38 sd-tb2-ifc1(config-leaf-if)# sd-tb2-ifc1# configure terminal</pre>	

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre>sd-tb2-ifc1(config)# leaf 102 sd-tb2-ifc1(config-leaf)# interface ethernet 1/19 sd-tb2-ifc1(config-leaf-if)# storm-control broadcast pps 5000 burst-rate 6000 sd-tb2-ifc1(config-leaf-if)# storm-control unicast pps 7000 burst-rate 7000 sd-tb2-ifc1(config-leaf-if)# storm-control unicast pps 8000 burst-rate 10000 sd-tb2-ifc1(config-leaf-if)#</pre>	
ステップ 4	<p>ポリシー アクションを変更するには、次の手順を実行します。</p> <p>例 :</p> <pre>apic1(config-leaf-if)# storm-control action ? drop drop shutdown shutdown</pre>	
ステップ 5	<p>ポート シャットダウン アクションにのみ適用される soak-instance カウントを設定します。</p> <p>例 :</p> <pre>apic-ifc1(config-leaf)# int eth 1/27 apic-ifc1(config-leaf-if)# storm-control soak-instance-count ? <3-10> Storm Control SI-Count Instances</pre>	

ストーム制御 SNMP トラップの設定

ここでは、リーフ スイッチでトラフィック ストーム制御 SNMP トラップを設定する方法について説明します。

MIB 定義のトラップ名を使用して、SNMP トラップのストーム制御を設定することができます。インターフェイスの MIB イベントと、いつストームが検出されてクリアされたかにより、同じリーフのトラップをフィルタリングして、ストームを設定します。ストームは次の2つの方法で設定できます。

- 詳細な設定：ユニキャスト、マルチキャスト、ブロードキャストなどのトラフィックのタイプを設定します。
- 詳細でない設定：すべてのタイプのトラフィックを設定します。

ストーム制御のしきい値に達した場合に Cisco ACI から SNMP トラップをトリガーする際の制限の詳細については、[ストーム制御の注意事項と制約事項 \(272 ページ\)](#) を参照してください。

トラフィックストーム制御トラップでサポートされていない Cisco Nexus スイッチの詳細については、ストーム制御のガイドラインを参照してください。

ストームトラップ

ストームトラップは、イベントが発生し、ストームがアクティブまたはクリアされるたびにトリガーされます。

```
cpscEventRev1 NOTIFICATION-TYPE
  OBJECTS { cpscStatus }
  STATUS current
  DESCRIPTION
```

実装では、特定のトラフィックタイプに関してインターフェイスでストームイベントが発生したときに、この通知を送信することになります。

ストームステータスは、それぞれブロードキャスト、ユニキャスト、マルチキャスト、および非詳細ラフィックタイプのフィールドである [bcDropIncreased]、[uucDropIncreased]、[mcDropIncreased]、および [dropIncreased] で更新されます。これらは dbgIfStorm MO のフィールドです。詳細設定と非詳細設定では、フラグを使用してストームを設定します。ストームがアクティブな場合、フラグは 1 に設定され、ストームがクリアされると、フラグは 2 に設定されます。次のコマンドのフラグにより、SNMP トラップトリガーに必要なイベントが生成されます。

```
cat / mit / sys / phys-\ [eth--1 \] / dbgIfStorm / summary

# Interface Storm Drop Couters
bcDropBytes :0
bcDropIncreased :2
childAction :
dn :sys/phys-[eth/1]/dbgIfStorm
dropBytes :0
dropIncreased :2
mcDropBytes :0
mcDropIncreased :2
modTs :never
monPoIDn :uni/infra/moninfra-default
m :dbgIfStorm
status :
uucDropBytes :0
uucDropIncreased :2
```




第 15 章

MACsec

この章は、次の内容で構成されています。

- [MACsec について \(281 ページ\)](#)
- [スイッチ プロファイルの注意事項および制約事項 \(283 ページ\)](#)
- [GUI を使用したファブリック リンクの MACsec の設定 \(286 ページ\)](#)
- [GUI を使用したアクセス リンクの MACsec の設定 \(287 ページ\)](#)
- [APIC GUI を使用した MACsec パラメータの設定 \(287 ページ\)](#)
- [GUI を使用した MACsec キーチェーン ポリシーの設定 \(288 ページ\)](#)
- [NX-OS スタイルの CLI を使用した MACsec の設定 \(289 ページ\)](#)

MACsec について

MACsec は、IEEE 802.1AE 規格ベースのレイヤ 2 ホップバイホップ暗号化であり、これにより、メディア アクセス非依存プロトコルに対してデータの機密性と完全性を確保できます。

MACsec は、暗号化キーにアウトオブバンド方式を使用して、有線ネットワーク上で MAC レイヤの暗号化を提供します。MACsec Key Agreement (MKA) プロトコルでは、必要なセッション キーを提供し、必要な暗号化キーを管理します。

802.1 ae MKA と暗号化はリンク、つまり、リンク (ネットワーク アクセス デバイスと、PC か IP 電話機などのエンドポイント デバイス間のリンク) が直面しているホストのすべてのタイプでサポートされます。また、リンクが接続されている他のスイッチまたはルータ。

MACsec は、イーサネット パケットの送信元および宛先 MAC アドレスを除くすべてのデータを暗号化します。ユーザは、送信元と宛先の MAC アドレスの後に最大 50 バイトの暗号化をスキップするオプションもあります。

WAN またはメトロイーサネット上に MACsec サービスを提供するために、サービス プロバイダーは、Ethernet over Multiprotocol Label Switching (EoMPLS) および L2TPv3 などのさまざまなトランスポート レイヤ プロトコルを使用して、E-Line や E-LAN などのレイヤ 2 透過 サービスを提供しています。

EAP-over-LAN (EAPOL) プロトコルデータ ユニット (PDU) のパケット本体は、MACsec Key Agreement PDU (MKPDU) と呼ばれます。3 回のハートビート後 (各ハートビートは 2 秒) に参加者から MKPDU を受信しなかった場合、ピアはライブ ピア リストから削除されます。た

たとえば、クライアントが接続を解除した場合、スイッチ上の参加者はクライアントから最後の MKPDU を受信した後、3 回のハートビートが経過するまで MKA の動作を続けます。

APIC ファブリック MACsec

APIC はまたは責任を負う MACsec キーチェーン ディストリビューションのポッド内のすべてのノードに特定のポートのノードになります。サポートされている MACsec キーチェーンし、apic 内でサポートされている MACsec ポリシー ディストリビューションのとおりです。

- 単一ユーザ提供キーチェーンと 1 ポッドあたりポリシー
- ユーザが提供されるキーチェーンとファブリックインターフェイスごとのユーザが提供されるポリシー
- 自動生成されたキーチェーンおよび 1 ポッドあたりのユーザが提供されるポリシー

ノードは、複数のポリシーは、複数のファブリックリンクの導入を持つことができます。これが発生すると、ファブリックインターフェイスごとキーチェーンおよびポリシーが優先して指定の影響を受けるインターフェイス。自動生成されたキーチェーンと関連付けられている MACsec ポリシーでは、最も優先度から提供されます。

APIC MACsec では、2 つのセキュリティモードをサポートしています。MACsec **セキュリティで保護する必要があります** 中に、リンクの暗号化されたトラフィックのみを許可する **セキュリティで保護する必要があります** により、両方のクリアし、リンク上のトラフィックを暗号化します。MACsec を展開する前に **セキュリティで保護する必要があります** モードでのキーチェーンは影響を受けるリンクで展開する必要がありますまたはリンクがダウンします。たとえば、ポートをオンにできますで MACsec **セキュリティで保護する必要があります** モードがピアがしているリンクでのキーチェーンを受信する前にします。MACsec を導入することが推奨されて、この問題に対処する **セキュリティで保護する必要があります** モードとリンクの 1 回すべてにセキュリティモードを変更 **セキュリティで保護する必要があります** 。



(注) MACsec インターフェイスの設定変更は、パケットのドロップになります。

MACsec ポリシー定義のキーチェーンの定義に固有の設定と機能の機能に関連する設定で構成されています。キーチェーン定義と機能の機能の定義は、別のポリシーに配置されます。MACsec 1 ポッドあたりまたはインターフェイスごとの有効化には、キーチェーン ポリシーおよび MACsec 機能のポリシーを組み合わせることが含まれます。



(注) 内部を使用して生成キーチェーンは、ユーザのキーチェーンを指定する必要はありません。

APIC アクセス MACsec

MACsec はリーフ スイッチ L3out インターフェイスと外部のデバイス間のリンクを保護するために使用します。APIC GUI および CLI のユーザを許可するで、MACsec キーとファブリック L3Out インターフェイスの設定を MacSec をプログラムを提供する物理/pc/vpc インターフェイ

スごと。ピアの外部デバイスが正しい MacSec 情報を使用してプログラムすることを確認するには、ユーザの責任です。

スイッチ プロファイルの注意事項および制約事項

MACsec は次のスイッチでサポートされます。

- N9K-C93108TC-FX3P
- N9K-C93108TC-FX
- N9K-C93180YC-FX3
- N9K-C93180YC-FX
- N9K-C93216TC-FX2
- N9K-C93240YC-FX2
- N9K-C9332C
- N9K-C93360YC-FX2
- N9K-C9336C-FX2
- N9K-C9348GC-FXP、10G +のみ
- N9K-C9364C
- N9K-C9332D-GX2B (5.2(3) リリース以降)

MACsec は次のライン カードでサポートされます。

- N9K-X9716D-GX (5.2(2) リリース以降)
- N9K-X9736C-FX

次の注意事項および制約事項に従って、スイッチで MACsec を設定します。

- MACsec は10G QSA モジュールではサポートされていません。
- MACsec は Cisco ACI リーフ スイッチの 1G の速度ではサポートされていません。
- MACsec は、L3Out が有効になっているリーフ スイッチ ポートでのみサポートされます。たとえば、Cisco ACI リーフ スイッチとコンピュータ ホスト間の MACsec はサポートされていません。スイッチ間モードのみがサポートされます。
- 銅線ポートを使用する場合、銅線ケーブルは 10G モードでピア デバイス (スタンドアロン N9k) に直接接続する必要があります。
- ピアの 10G 銅線 SFP モジュールはサポートされません。
- Cisco Application Policy Infrastructure Controller (APIC) リリース 4.0 以降では、MACsec はリモート リーフ スイッチでサポートされています。

- FEX ポートは MACsec ではサポートされません。
- **must-secure** モードは、ポッド レベルではサポートされていません。
- 「default」という名前の MACsec ポリシーはサポートされていません。
- 自動キー生成は、ファブリック ポートのポッド レベルでのみサポートされます。
- そのノードのファブリック ポートが **[必須セキュア]** モードの MACsec で実行されている場合、ノードの再起動をクリアしないでください。
- MACsec を実行しているポッドに新しいノードを追加する、またはポッド内のノードのステートレス リブートを行うには、ノードをポッドに参加させるために、**must-secure** モードを **should-secure** に変更する必要があります。
- ファブリック リンクが **should-secure** モードである場合にのみ、アップグレードまたはダウングレードを開始します。アップグレードまたはダウングレードが完了したら、モードを **must-secure** に変更できます。**must-secure** モードでアップグレードまたはダウングレードすると、ノードがファブリックへの接続を失います。失われた接続を回復するには、**should-secure** モードで、Cisco APIC に表示されるノードのファブリック リンクを設定する必要があります。ファブリックが MACsec をサポートしていないバージョンにダウングレードされた場合、ファブリック外のノードがクリーンリブートされる必要があります。
- PC または vPC インターフェイスの場合、MACsec は PC または vPC インターフェイスごとのポリシーグループを使用して展開できます。ポートセクタは、特定のポートのセットにポリシーを展開するために使用されます。したがって、L3Out インターフェイスに対応する正しいポート セクタを作成する必要があります。
- 設定をエクスポートする前に、**should-secure** モードで MACsec ポリシーを設定することを推奨します。
- スパインスイッチ上のすべてのリンクは、ファブリックリンクと見なされます。ただし、スパインスイッチ リンクを IPN 接続のために使用している場合、そのリンクはアクセスリンクとして扱われます。これらのリンクで MACsec を展開するには、MACsec アクセスポリシーを使用する必要があります。
- リモートリーフ ファブリック リンクを IPN 接続に使用する場合、そのリンクはアクセスリンクとして扱われます。これらのリンクで MACsec を展開するには、MACsec アクセスポリシーを使用する必要があります。
- リモートリーフ スイッチのファブリック リンクに **must-secure** モードを不適切に導入すると、ファブリックへの接続が失われる可能性があります。こうした問題を防ぐため、「[must-secure モードの展開 \(285 ページ\)](#)」で説明している手順に従ってください。
- 新しいキーが空のキーチェーンに追加されるか、アクティブなキーがキーチェーンから削除された場合、MACsec セッションの形成または切断に最大で 1 分かかります。
- スパインスイッチのラインカードまたはファブリックモジュールをリロードする前に、すべての **must-secure** リンクを **should-secure** モードに変更する必要があります。リロードが完了し、セッションが **should-secure** モードになったら、モードを **must-secure** に変更します。

- 暗号スイート AES 128 または Extended Packet Numbering (XPN) のない AES 256 を選択する場合は、Security Association Key (SAK) の有効期限を明示的に指定する必要があります。SAK の有効期限値をデフォルト (「無効」) のままにすると、インターフェイスがランダムにアウトオブサービスになる可能性があります。
- フレームの順序が変更されるプロバイダーネットワーク上で MACsec の使用をサポートするには、リプレイウィンドウが必要です。ウィンドウ内のフレームは順不同で受信できますが、リプレイ保護されません。デフォルトのウィンドウサイズは 64 です。Cisco APIC GUI または CLI を使用する場合、リプレイ ウィンドウのサイズは、 $0 \sim 2^{32}-1$ の範囲で設定できます。XPN 暗号スイートの場合、最大リプレイ ウィンドウサイズは $2^{30}-1$ です。これより大きなウィンドウサイズを設定しても、ウィンドウサイズは $2^{30}-1$ に制限されません。暗号スイートを非 XPN 暗号スイートに変更した場合、制限はなく、設定されたウィンドウサイズが使用されます。
- 5.2(2) リリース以降で Cisco N9K-X9716D-GX ラインカードファブリック ポートで MACsec を使用していて、それを 5.2(2) より前のリリースにダウングレードした場合、そのような以前のリリースではこのラインカードで MACsec はサポートされません。ただし、MACsec がサポートされていないことによる障害は発生しません。このシナリオでは、ピアリーフスイッチが MACsec をサポートしている場合、セッションはセキュアな状態で起動します。ただし、スパイン側では、セッションが保留中として表示されます。
- リンクレベルフロー制御 (LLFC) およびプライオリティフロー制御 (PFC) は、MACsec ではサポートされません。

must-secure モードの展開

must-secure モードに設定されているポリシーを誤って展開すると、接続が失われる可能性があります。そのような問題を避けるため次の手順に従う必要があります。

- MACsec **must-secure** モードを有効にする前に、各リンク ペアにキーチェーンがあることを確認する必要があります。確実を期すため、ポリシーを **should-secure** モードで展開し、MACsec セッションが想定されるリンクでアクティブになったら、モードを **must-secure** に変更することをお勧めします。
- **[必須セキュア]** に設定されている MACsec ポリシーでキーチェーンの交換を試行すると、リンクがダウンする原因となる可能性があります。この場合は、次の手順に従います。
 1. 新しいキーチェーンを使用している MACsec ポリシーを **[should-secure]** モードに変更します。
 2. 影響を受けるインターフェイスが **[should-secure]** モードを使用しているか確認します。
 3. 新しいキーチェーンを使用するように MACsec ポリシーを更新します。
 4. アクティブな MACsec セッションと関連するインターフェイスが新しいキーチェーンを使用していることを確認します。
 5. MACsec ポリシーを **[必須セキュア]** モードに変更します。

- **must-secure** モードで展開された MACsec ポリシーを無効化/削除するには、次の手順を実行します。
 1. MACsec ポリシーを [**should-secure**] に変更します。
 2. 影響を受けるインターフェイスが [**should-secure**] モードを使用しているか確認します。
 3. MACsec ポリシーを無効/削除します。

キーチェーンの定義

- 開始時刻が **現在** のキーチェーンに 1 個のキーが存在します。 **must-secure** を、即座にアクティブになるキーを持たないキーチェーンで展開した場合、キーの時刻が来て MACsec セッションが開始されるまで、トラフィックはリンク上でブロックされます。 **should-secure** モードが使用されている場合、キーが現在になり、MACsec セッションが開始されるまでトラフィックが暗号化されます。
- 終了時刻が **infinite** のキーチェーンに 1 個のキーが存在する必要があります。キーチェーンの期限が切れると、 **must-secure** モードに設定されている影響を受けるインターフェイスでトラフィックがブロックされます。設定されたインターフェイスは **セキュア** モード暗号化されていないトラフィック送信します。
- 終了時刻のオーバーラップし、キーの間に移行すると、MACsec セッションを順番に使用されるキーの開始時刻が残っています。

GUI を使用したファブリック リンクの MACsec の設定

手順

- ステップ 1** メニューバーで、 **Fabric > Fabric Policies > Policies > MACsec > Interfaces** をクリックします。 **Navigation** ウィンドウで、 **Interfaces** を右クリックして **Create MACsec Fabric Interface Policy** を開き、次の手順を実行します:
- a) **Name** フィールドに、MACsec ファブリック インターフェイス ポリシーの名前を入力します。
 - b) **MACsec Parameters** フィールドで、以前に設定した MACsec パラメータ ポリシーを選択するか、新しいものを作成します。
 - c) **MACsec Keychain Policy** フィールドで、以前に設定した MACsec パラメータ ポリシーを選択するか、新しいものを作成して、 **Submit** を作成します。

MACsec Keychain Policy を作成するには、 [GUI を使用した MACsec キーチェーン ポリシーの設定 \(288 ページ\)](#) を参照してください。

- ステップ 2 **MACsec Fabric Interface Policy** をファブリック リーフまたはスパイン ポート ポリシー グループに適用するには、**Interfaces > Leaf/Spine Interfaces > Policy Groups > Spine/Leaf Port Policy Group_name** をクリックします。Work ウィンドウで、今作成した **MACsec Fabric Interface Policy** を選択します。
- ステップ 3 **MACsec Fabric Interface Policy** をポッド ポリシー グループに適用するには、ナビゲーション ウィンドウで **Pods > Policy Groups > Pod Policy Group_name** をクリックします。Work ウィンドウで、今作成した **MACsec Fabric Interface Policy** を選択します。

GUI を使用したアクセス リンクの MACsec の設定

手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[ファブリック]>[外部アクセス ポリシー] をクリックします。Navigation ウィンドウで、**Policies > Interface > MACsec > Interfaces** をクリックし、**Interfaces** を右クリックして **Create MACsec Fabric Interface Policy** を開き、次の手順を実行します:
- Name** フィールドに、MACsec アクセス インターフェイス ポリシーの名前を入力します。
 - MACsec Parameters** フィールドで、以前に設定した MACsec パラメータ ポリシーを選択するか、新しいものを作成します。
 - MACsec Keychain Policy** フィールドで、以前に設定した MACsec パラメータ ポリシーを選択するか、新しいものを作成して、**Submit** を作成します。

MACsec Keychain Policy を作成するには、[GUI を使用した MACsec キーチェーン ポリシー の設定 \(288 ページ\)](#) を参照してください。

- ステップ 2 **MACsec Access Interface Policy** をファブリック リーフまたはスパイン ポート ポリシー グループに適用するには、**Interfaces > Leaf/Spine Interfaces > Policy Groups > Spine/Leaf Policy Group_name** をクリックします。Work ウィンドウで、今作成した **MACsec Fabric Interface Policy** を選択します。

APIC GUI を使用した MACsec パラメータの設定

手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[Fabric]>[Access Policies] の順にクリックします。ナビゲーション] ペインで、[をクリックする インターフェイス ポリシー > ポリシー] を右クリックし、**MACsec ポリシー** を開く **MACsec アクセス パラメータ ポリシー** の作成 し、次のアクションを実行します。

- a) **Name** フィールドに、MACsec アクセス パラメータ ポリシーの名前を入力します。
- b) **セキュリティ ポリシー** フィールドで、暗号化されたトラフィックのモードを選択し、をクリックして **Submit**。

(注) MACsec を展開する前に **セキュア モードをする必要があります** キーチェーンは、影響を受けるインターフェイスに導入する必要があります、またはインターフェイスがダウンします。

ステップ 2 適用する、**MACsec アクセス パラメータ ポリシー** リーフまたはナビゲーション ペインで、スパインポートのポリシー グループをクリックして **インターフェイス ポリシー > ポリシー グループ > スパイン リーフ/ポリシー Group_ 名** 。作業] ペインで、[、**MACsec アクセス インターフェイス ポリシー** だけを作成します。

GUI を使用した MACsec キーチェーン ポリシーの設定

手順

- ステップ 1** メニュー バーで **Fabric > Fabric Policies > Policies > MACsec > KeyChains** をクリックします。**Navigation** ウィンドウで、**KeyChains** を右クリックして **Create MACsec Keychain Policy** を開き、次の手順を実行します:
- a) **Name** フィールドに、MACsec ファブリック インターフェイス ポリシーの名前を入力します。
 - b) **MACsec キー ポリシー** テーブルを展開して、キー ポリシーを作成します。
- ステップ 2** **MACsec Policy** ダイアログボックスで次の操作を実行します。
- a) **Name** フィールドに、MACsec キー ポリシーの名前を入力します。
 - b) **Key Name** フィールドにキーの名前を入力します (64 文字までの 16 進数)。

(注) キーチェーンあたり最大 64 のキーがサポートされています。
 - c) **Pre-shared Key** フィールドに、事前共有キーの情報を入力します。

(注)

 - 128 ビットの暗号スイートでは、32 文字の PSK だけが許可されます。
 - 256 ビットの暗号スイートでは、64 文字の PSK だけが許可されます。
 - d) **Start Time** フィールドで、キーが有効になる日付を選択します。
 - e) **End Time** フィールドで、キーの有効期限が切れる日付を選択します。 **Ok** と **Submit** をクリックします。

- (注) キーチェーンで複数のキーを定義する場合には、古いキーから新しいキーへのスムーズな移行を確実にするために、キーの有効期間をオーバーラップさせて定義する必要があります。古いキーの `endTime` と新しいキーの `startTime` をオーバーラップさせてください。

アクセスポリシーでキーチェーンポリシーを設定するには、メニューバーで **Fabric > External Access Policies** をクリックします。Navigation ウィンドウで **Policies > Interface > MACsec > MACsec KeyChain Policies** をクリックし、**Create MACsec Keychain Policy** を右クリックして開き、上記の手順を実行します。

NX-OS スタイルの CLI を使用した MACsec の設定

手順

ステップ 1 アクセス インターフェイスの MACsec セキュリティ ポリシーの設定

例 :

```
apicl# configure
apicl(config)# template macsec access security-policy accmacsecpol1
apicl(config-macsec-param)# cipher-suite gcm-aes-128
apicl(config-macsec-param)# conf-offset offset-30
apicl(config-macsec-param)# description 'description for mac sec parameters'
apicl(config-macsec-param)# key-server-priority 1
apicl(config-macsec-param)# sak-expiry-time 110
apicl(config-macsec-param)# security-mode must-secure
aapicl(config-macsec-param)# window-size 1
apicl(config-macsec-param)# exit
apicl(config)#
```

ステップ 2 アクセス インターフェイスの MACsec キー チェーンを設定します。

PSK は、2 通りの方法で設定できます:

- (注)
- 下のキー 12ab に示すように、**psk-string** コマンドを使用してインラインで設定します。PSK は、ログに記録され、公開されるため、安全ではありません。
 - キー ab12 で示すように、新しいコマンド **Enter PSK string** を **psk-string** コマンドの後で使用し、個別に入力して設定します。ローカルにエコーされるだけで、ログには記録されないため、PSK は安全です。

例 :

```
apicl# configure
apicl(config)# template macsec access keychain acckeychainpol1
apicl(config-macsec-keychain)# description 'macsec key chain kc1'
apicl(config-macsec-keychain)# key 12ab
apicl(config-macsec-keychain-key)# life-time start 2017-09-19T12:03:15 end
2017-12-19T12:03:15
```

```

apic1(config-macsec-keychain-key)#      psk-string 123456789a223456789a323456789abc
apic1(config-macsec-keychain-key)#      exit
apic1(config-macsec-keychain)#          key ab12
apic1(config-macsec-keychain-key)#      life-time start now end infinite
apic1(config-macsec-keychain-key)#      life-time start now end infinite
apic1(config-macsec-keychain-key)#      psk-string
Enter PSK string: 123456789a223456789a323456789abc
apic1(config-macsec-keychain-key)#      exit
apic1(config-macsec-keychain)#          exit
apic1(config)#

```

ステップ 3 アクセス インターフェイスの MACsec インターフェイス ポリシーを設定します:

例:

```

apic1# configure
apic1(config)#  template macsec access interface-policy accmacsecifpoll
apic1(config-macsec-if-policy)#  inherit macsec security-policy accmacsecpoll keychain
  acckeychainpoll
apic1(config-macsec-if-policy)#  exit
apic1(config)#

```

ステップ 4 MACsec インターフェイス ポリシーをリーフ (またはスパイン) 上のアクセス インターフェイスに関連付けます:

例:

```

apic1# configure
apic1(config)#  template macsec access interface-policy accmacsecifpoll
apic1(config-macsec-if-policy)#  inherit macsec security-policy accmacsecpoll keychain
  acckeychainpoll
apic1(config-macsec-if-policy)#  exit
apic1(config)#

```

ステップ 5 ファブリック インターフェイス用に MACsec セキュリティ ポリシーを設定します:

例:

```

apic1# configure
apic1(config)#  template macsec fabric security-policy fabmacsecpoll
apic1(config-macsec-param)#  cipher-suite gcm-aes-xpn-128
apic1(config-macsec-param)#  description 'description for mac sec parameters'
apic1(config-macsec-param)#  window-size 1
apic1(config-macsec-param)#  sak-expiry-time 100
apic1(config-macsec-param)#  security-mode must-secure
apic1(config-macsec-param)#  exit
apic1(config)#

```

ステップ 6 ファブリック インターフェイス用に MACsec キー チェーンを設定します:

PSK は、2 通りの方法で設定できます:

- (注)
- 下のキー 12ab に示すように、**psk-string** コマンドを使用してインラインで設定します。PSK は、ログに記録され、公開されるため、安全ではありません。
 - キー ab12 で示すように、新しいコマンド **Enter PSK string** を **psk-string** コマンドの後で使用し、個別に入力して設定します。ローカルにエコーされるだけで、ログには記録されないため、PSK は安全です。

例:

```
apicl# configure
apicl(config)# template macsec fabric security-policy fabmacsecpol1
apicl(config-macsec-param)# cipher-suite gcm-aes-xpn-128
apicl(config-macsec-param)# description 'description for mac sec parameters'
apicl(config-macsec-param)# window-size 1
apicl(config-macsec-param)# sak-expiry-time 100
apicl(config-macsec-param)# security-mode must-secure
apicl(config-macsec-param)# exit
apicl(config)# template macsec fabric keychain fabkeychainpol1
apicl(config-macsec-keychain)# description 'macsec key chain kcl1'
apicl(config-macsec-keychain)# key 12ab
apicl(config-macsec-keychain-key)# psk-string 123456789a223456789a323456789abc
apicl(config-macsec-keychain-key)# life-time start 2016-09-19T12:03:15 end
2017-09-19T12:03:15
apicl(config-macsec-keychain-key)# exit
apicl(config-macsec-keychain)# key cd78
apicl(config-macsec-keychain-key)# psk-string
Enter PSK string: 123456789a223456789a323456789abc
apicl(config-macsec-keychain-key)# life-time start now end infinite
apicl(config-macsec-keychain-key)# exit
apicl(config-macsec-keychain)# exit
apicl(config)#
```

ステップ7 MACsec インターフェイス ポリシーをリーフ (またはスパイン) 上のファブリック インターフェイスに関連付けます:

例:

```
apicl# configure
apicl(config)# leaf 101
apicl(config-leaf)# fabric-interface ethernet 1/52-53
apicl(config-leaf-if)# inherit macsec interface-policy fabmacsecifpol2
apicl(config-leaf-if)# exit
apicl(config-leaf)#
```




第 16 章

ファブリック ポート トラッキング

- [ファブリック ポート トラッキングについて \(293 ページ\)](#)
- [GUI を使用したファブリック ポート トラッキングの設定 \(294 ページ\)](#)

ファブリック ポート トラッキングについて

ポート トラッキング機能は、ファブリック ポートのステータスに基づいて、各リーフ ノードのダウンリンクポートのステータスを管理します。ファブリック ポートはリーフとスパイン ノード間のリンクです。多層トポロジ内の階層 1 と階層 2 のリーフ ノード間のリンク、およびリモートリーフ ノード間のリンク（バックツーバック リンク）も、ファブリック リンクと見なされます。

この機能が有効にされていて、特定のリーフ ノードで動作しているファブリック ポートの数が設定されたしきい値以下になると、外部ノードが他の正常なリーフ ノードにスイッチ オーバーできるように、リーフ ノードのダウンリンク ポートはダウンにされます。動作中のファブリック ポートの数が設定されたしきい値を超えて回復すると、ダウンリンク ポートは回復します。この時点で、ダウンリンク ポートの起動を遅延させるための待機時間が設定されています。リーフ ノードが vPC ピアの一部であり、インフラ ISIS の隣接関係がない場合（ノードが他の vPC ピアリーフ ノードと通信できない場合）、すべてのファブリック ポートがダウンした場合など、ポート トラッキングがトリガーされた場合、ステータスの復元後に vPC ダウンリンク ポートが起動するまでの時間は、vPC 遅延タイマーまたはポート トラッキングで設定された遅延のいずれか長い方になります。非 vPC ダウンリンクポートは、常にポート トラッキングで設定された遅延タイマーに従います。

Cisco Application Centric Infrastructure (ACI) スイッチ リリース 14.2(1) 以降、ファブリック インフラ ISIS 隣接のステータス (aggFabAdjOperSt で表されます。これは管理対象オブジェクト クラス isisDom の属性 です) も、ダウンリンク ポートのシャットダウンをトリガーするための代替条件としてチェックされます。このチェックは、特定のリーフ スイッチのファブリック ポートがアップしているものが、別の理由でリーフ ノードが他の Cisco ACI ノードへの到達可能性を失った場合を考慮に入れて、行われます。この条件は、動作可能なファブリック ポートの最小数などの他のパラメータに関係なく、機能が有効になっている場合は常にチェックされます。ただし、これはリモートリーフ ノードには適用できません。そのようなノードはファブリック インフラの到達可能性について ISIS に依存していないためです。

Cisco ACI スイッチ リリース 15.0(1) 以降、[APIC ポートを含める (Include APIC ports)] オプションがサポートされています。このオプションは、デフォルトで無効です。このオプションが無効になっている場合、ポート トラッキングは、ユーザー トラフィック用に設定されたダウンリンク ポート（つまり、EPG または L3Out によって使用されているポート）のみをダウン状態にしますが、Cisco Application Policy Infrastructure Controller (APIC) に接続されているダウンリンク ポートまたは未使用のポートはダウン状態にしません。このオプションを有効にすると、ポート トラッキングによってリーフ ノードのすべてのダウンリンク ポートがダウン状態にされます。リリース 15.0(1) より前のリリースでは、ユーザー トラフィック用に構成されたダウンリンク ポートは、Cisco APIC に接続されたポートがダウン状態になっていなかったときにダウン状態にされます。ポート トラッキングを構成して、Cisco APIC に接続されたポートをダウン状態にすることはできませんでした。



(注) ポート トラッキングは、各リーフノードでポートを停止または起動する条件をチェックします。

FEX ファブリック ポート (FEX と FEX の親リーフノードを接続するネットワーク インターフェイス、NIF) は、ポート トラッキングの影響を受けません。

GUI を使用したファブリック ポート トラッキングの設定

この手順では、Cisco Application Policy Infrastructure Controller (APIC) GUIを使用してポートトラック機能を設定します。

手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[システム (System)] > [システム設定 (System Settings)] の順に選択します。
- ステップ 2 [ナビゲーション (Navigation)] ペインで、[ポート トラッキング (Port Tracking)] を選択します。
- ステップ 3 [ポート トラッキングの状態 (Port tracking state)] パラメータで [on] を選択して、ファブリック ポート トラッキングを有効にします。
- ステップ 4 [遅延復元タイマー (Delay restore timer)] パラメータには、時間を秒単位で指定します。
このパラメータは、ファブリック ポートの状態とインフラ ISIS 隣接関係が復元された後、リーフノードがダウンリンク ポートを起動するまでの時間を決定します。
- ステップ 5 [ポート トラッキングをトリガーするアクティブなファブリック ポートの数 (Number of active fabric ports that triggers port tracking)] パラメータを設定します。
リーフ ノード上の動作可能なファブリック ポートの数が設定された数以下になると、リーフ ノードはダウンリンク ポートをダウンさせます。
- ステップ 6 (任意) [Include APIC ports when port tracking is trigger] チェックボックスをオンにします。

このパラメータを有効にすると、ポート トラッキングがトリガーされたときに Cisco APIC に接続されているダウンリンク ポートとユーザー トラフィックのダウンリンク ポートがダウンします。このオプションは、Cisco APIC が高可用性のために 2 つの異なるリーフ ノードに接続されている場合を除き、オンにしないでください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。